

平成 26 年度 事故やけがなどに関する調査

報 告 書

平成 27 年 3 月

鹿児島市

目 次

第1章	調査の概要	1
第2章	乳幼児	3
第3章	小中学生	55
第4章	一般	79
第5章	高齢者	165
第6章	総括	219
第7章	調査票	247

1 調査の目的

セーフコミュニティ活動による認識や行動に関する変化を確認する基礎となる取組当初のデータや分野ごとの取組を進める上で必要なデータを取得すること。

2 調査の地域

鹿児島市全域

3 調査方法

	全体	乳幼児	小中学生	一般	高齢者
対象者			0歳～6歳 で未就学児 の男女	小学生、中 学生の男女	16歳～64 歳の男女
回答者		保護者回答	保護者回答 (一部設問につ いては、子ども と一緒に保護者 が回答)	本人回答 (できない場合 は、家族などが 可能な範囲で聞 き取り等を行い 回答)	本人回答 (できない場合 は、家族などが 可能な範囲で聞 き取り等を行い 回答)
調査方法		市内に居住する市民を無作為に抽出し、郵送による 発送・回収			
配布数	8,000人	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人
有効回答数	3,635人	951人	841人	717人	1,126人
有効回答率	45.4%	47.6%	42.1%	35.9%	56.3%

4 調査期間

平成26年11月4日(火)～平成26年11月20日(木)

5 調査の基準日

平成26年10月1日(水)

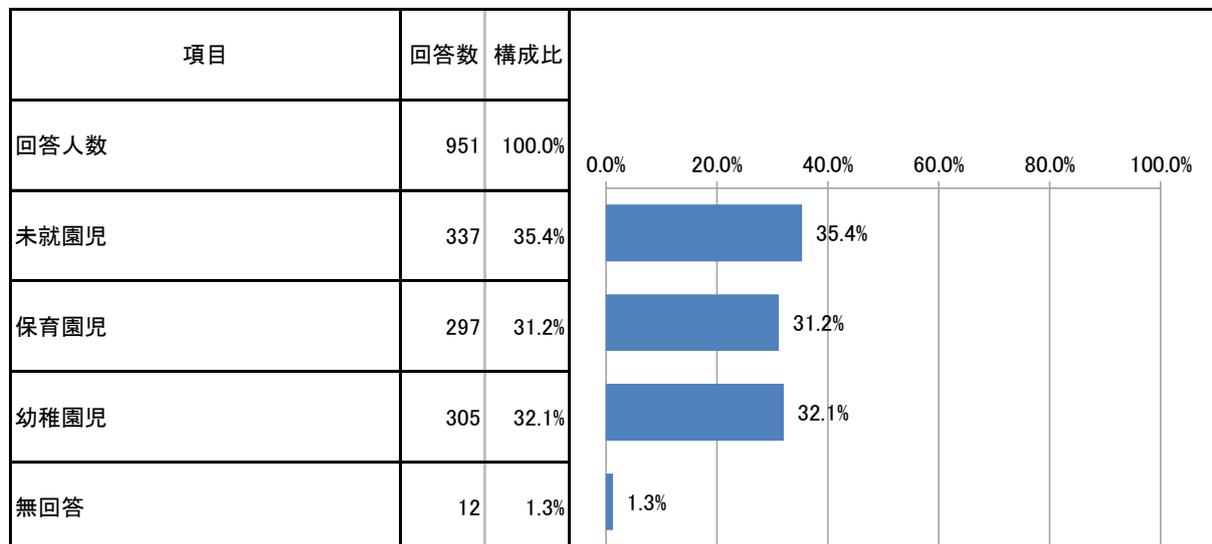
6 調査結果利用上の注意

- ①割合は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある。
- ②割合は、回答人数を分母として算出している。

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

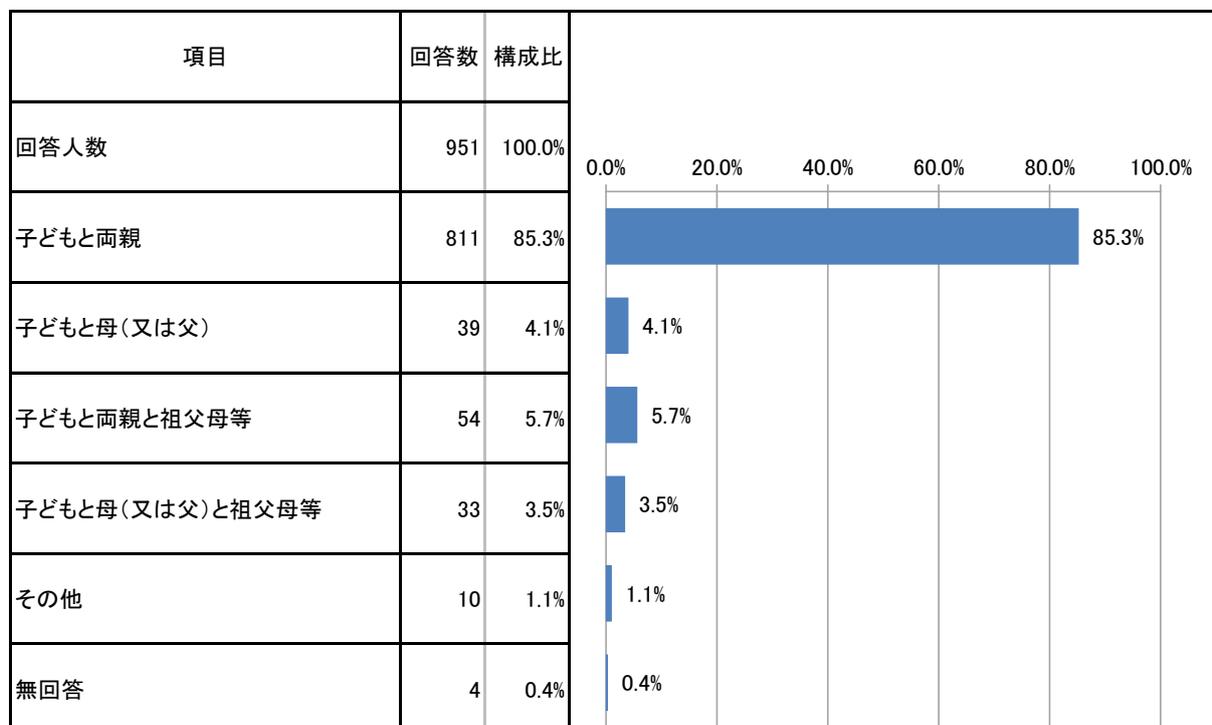
(2) 対象（封書の宛名）のお子さんの就園（平成26年10月1日現在）

就園状況については、「未就園児」が35.4%と最も高く、次いで「幼稚園児」が32.1%、「保育園児」が31.2%となっている。



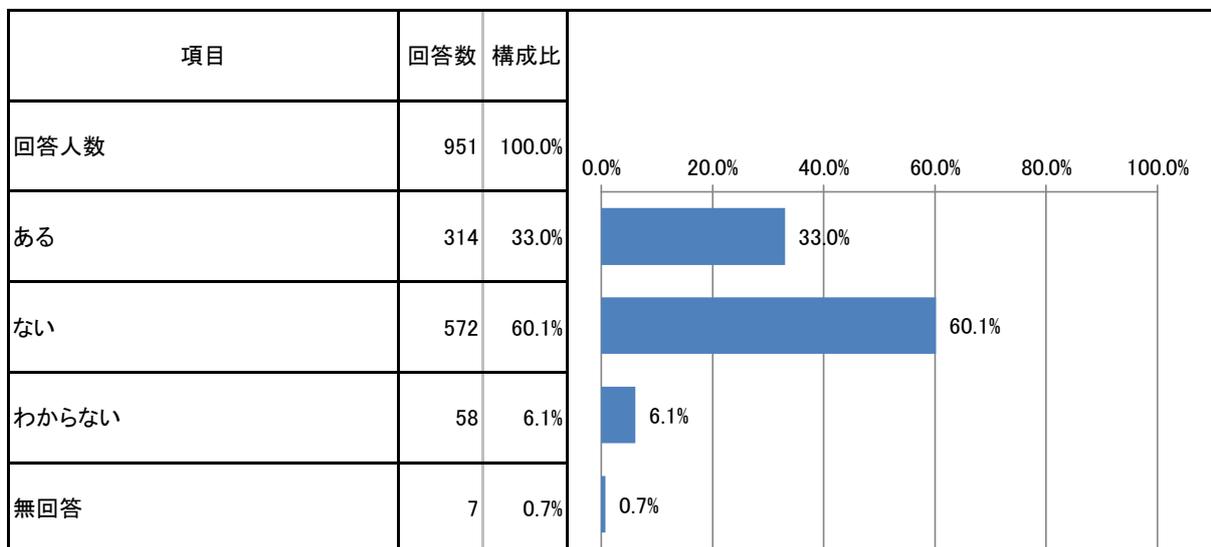
(3) 家族構成

家族構成については、「子どもと両親」が85.3%と最も高く、次いで「子どもと両親と祖父母等」が5.7%、「子どもと母（又は父）」が4.1%となっている。



問3 対象のお子さんは、この1年間（平成25年10月から平成26年9月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ひとつに○）

この1年間の子どもの交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「ない」が60.1%と最も高く、次いで「ある」が33.0%で、「わからない」は6.1%とほとんどない。



【属性別特徴】

年齢別では、0歳から3歳は「ない」が高く、4歳以降は「ある」が高くなっている。

就園状況別では、幼稚園児は「ある」が66.9%で、未就園児は「ない」が97.3%と高い割合を占めており、未就園児は、参加する機会が少ないことがわかる。

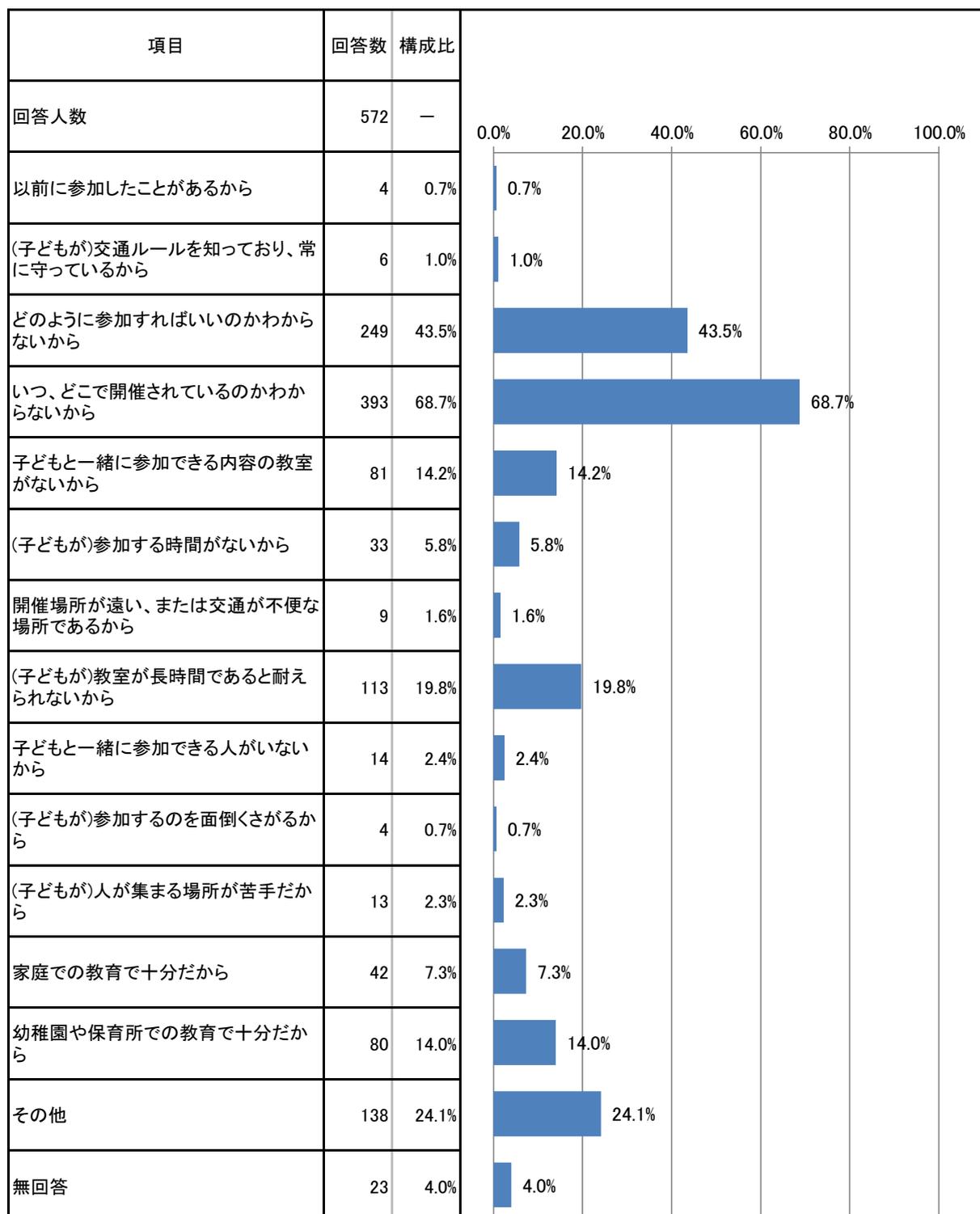
項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	144	100.0%	135	100.0%	142	100.0%	129	100.0%	153	100.0%	162	100.0%	84	100.0%	2	100.0%
ある	314	33.0%	0	0.0%	6	4.4%	19	13.4%	46	35.7%	85	55.6%	105	64.8%	52	61.9%	1	50.0%
ない	572	60.1%	140	97.2%	124	91.9%	115	81.0%	70	54.3%	54	35.3%	46	28.4%	22	26.2%	1	50.0%
わからない	58	6.1%	0	0.0%	4	3.0%	8	5.6%	13	10.1%	14	9.2%	11	6.8%	8	9.5%	0	0.0%
無回答	7	0.7%	4	2.8%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%	0	0.0%

項目	回答人数		就園状況別							
			未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	337	100.0%	297	100.0%	305	100.0%	12	100.0%
ある	314	33.0%	5	1.5%	104	35.0%	204	66.9%	1	8.3%
ない	572	60.1%	328	97.3%	154	51.9%	81	26.6%	9	75.0%
わからない	58	6.1%	0	0.0%	37	12.5%	20	6.6%	1	8.3%
無回答	7	0.7%	4	1.2%	2	0.7%	0	0.0%	1	8.3%

※問3で『②ない』とご回答された方にお聞きします。

問3-1 対象のお子さんが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

子どもが交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由については、「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が68.7%と最も高く、次いで「どのように参加すればいいのかわからないから」が43.5%、「（子どもが）教室が長時間であると耐えられないから」が19.8%となっている。



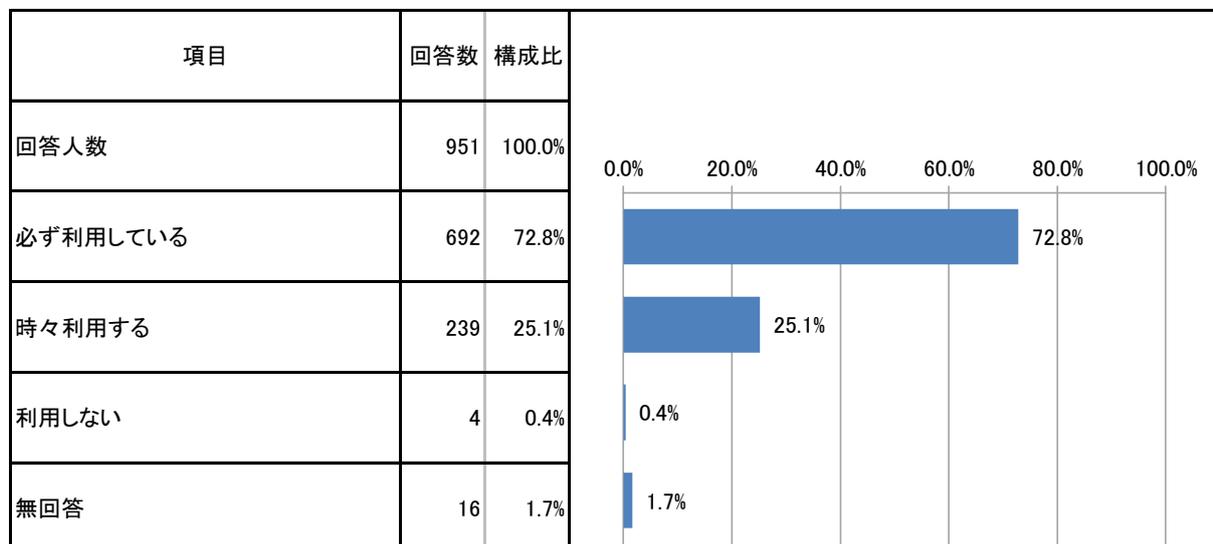
【属性別特徴】

就園状況別では、未就園児、保育園児、幼稚園児ともに「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が最も高く、次いで「どのように参加したらいいのかわからないから」となっており、交通安全教室の広報周知が不足していることがわかる。

項目	回答人数		就園状況別							
			未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	572	—	328	—	154	—	81	—	9	—
以前に参加したことがあるから	4	0.7%	0	0.0%	2	1.3%	2	2.5%	0	0.0%
(子どもが)交通ルールを知っており、常に守っているから	6	1.0%	1	0.3%	1	0.6%	4	4.9%	0	0.0%
どのように参加すればいいのかわからないから	249	43.5%	134	40.9%	62	40.3%	47	58.0%	6	66.7%
いつ、どこで開催されているのかわからないから	393	68.7%	210	64.0%	107	69.5%	71	87.7%	5	55.6%
子どもと一緒に参加したい内容の教室がないから	81	14.2%	53	16.2%	18	11.7%	8	9.9%	2	22.2%
(子どもが)参加する時間がないから	33	5.8%	7	2.1%	20	13.0%	6	7.4%	0	0.0%
開催場所が遠い、または交通が不便な場所であるから	9	1.6%	5	1.5%	2	1.3%	2	2.5%	0	0.0%
(子ども)教室が長時間であると耐えられないから	113	19.8%	77	23.5%	27	17.5%	8	9.9%	1	11.1%
子どもと一緒に参加できる人がいないから	14	2.4%	5	1.5%	8	5.2%	1	1.2%	0	0.0%
(子どもが)参加するのを面倒くさがるから	4	0.7%	1	0.3%	1	0.6%	2	2.5%	0	0.0%
(子どもが)人が集まる場所が苦手だから	13	2.3%	7	2.1%	3	1.9%	2	2.5%	1	11.1%
家庭での教育で十分だから	42	7.3%	12	3.7%	12	7.8%	18	22.2%	0	0.0%
幼稚園や保育所での教育で十分だから	80	14.0%	6	1.8%	41	26.6%	33	40.7%	0	0.0%
その他	138	24.1%	105	32.0%	28	18.2%	2	2.5%	3	33.3%
無回答	23	4.0%	14	4.3%	7	4.5%	2	2.5%	0	0.0%

問4 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。（ひとつに○）

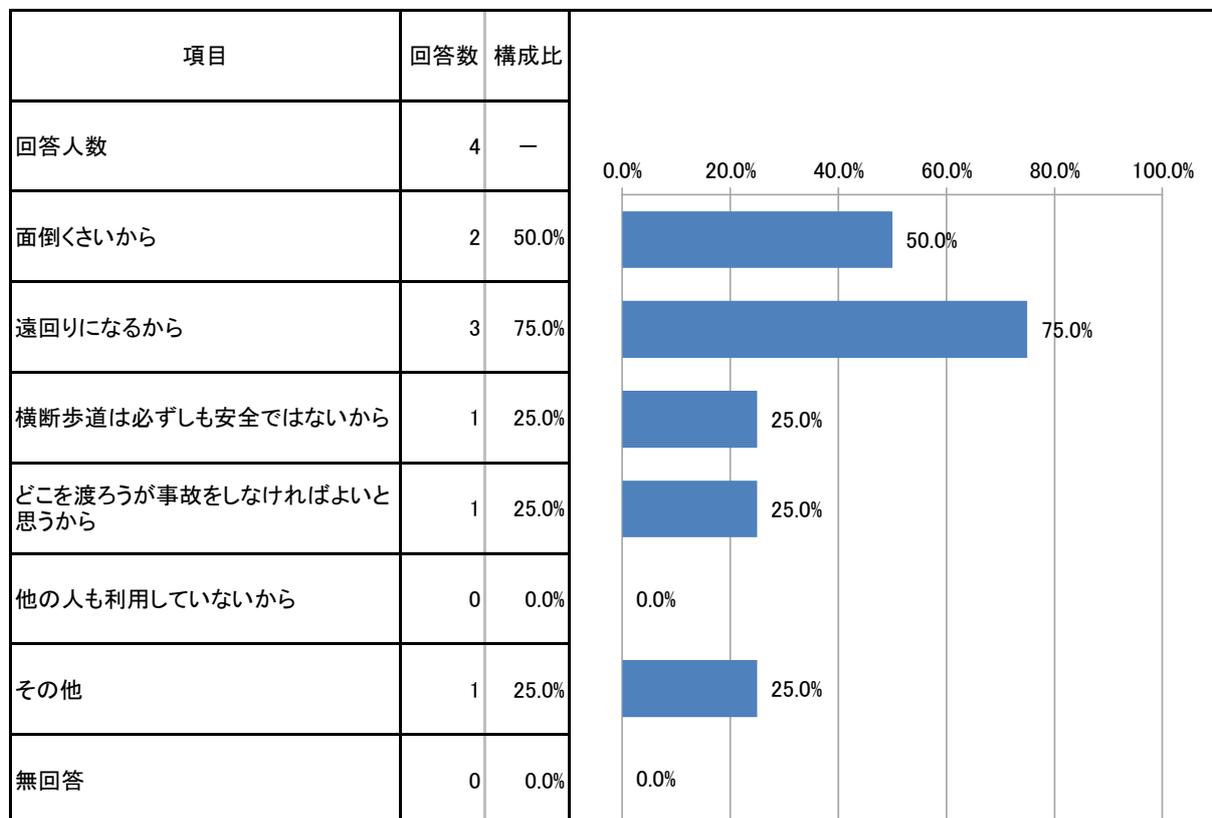
保護者が歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合の利用については、「必ず利用している」が72.8%と最も高く、次いで「時々利用する」が25.1%、「利用しない」は0.4%とほとんどない。



※問4で『③利用しない』にご回答された方にお聞きします。

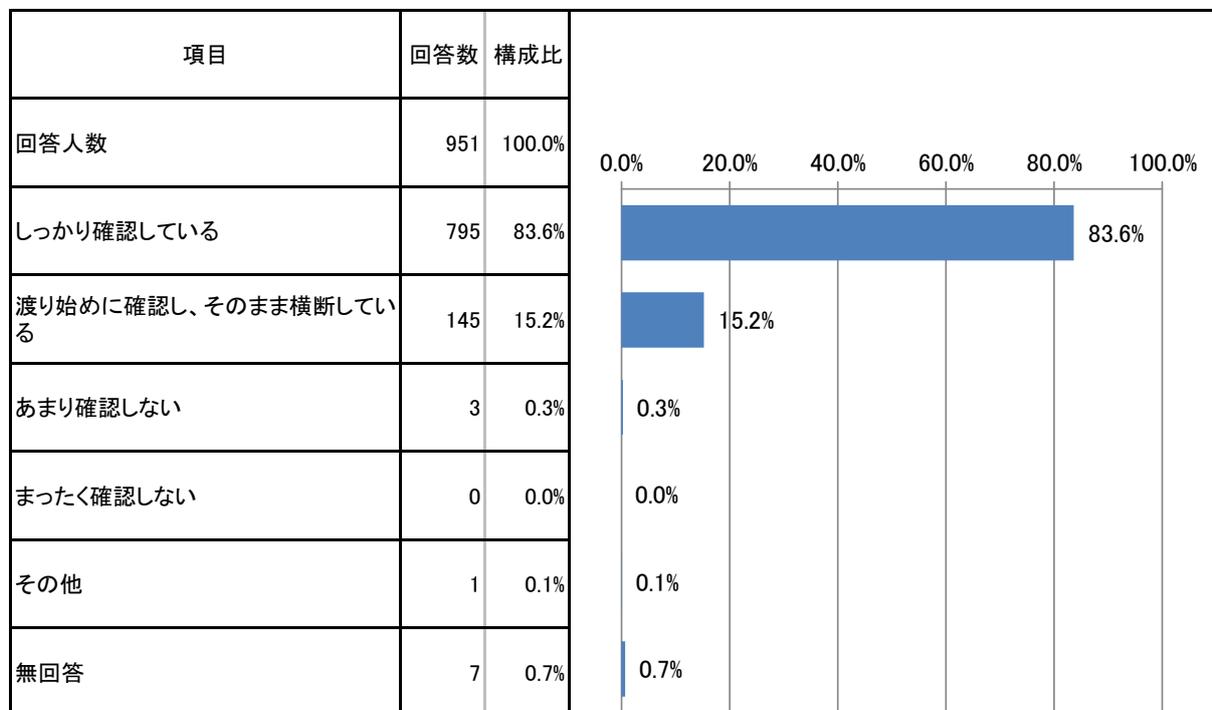
問4-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

保護者が横断歩道を利用しない理由については、「遠回りになるから」が75.0%と最も高く、次いで「面倒くさいから」が50.0%、「横断歩道は必ずしも安全ではないから」「どこを渡ろうが事故をしなければよいと思うから」が25.0%となっている。



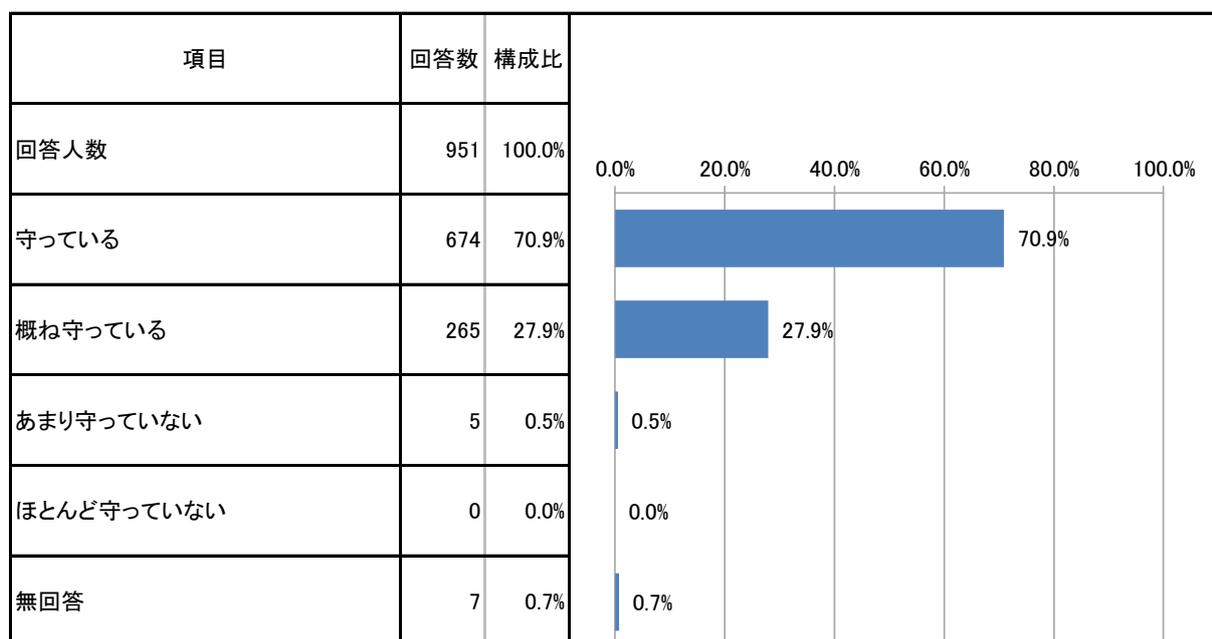
問5 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。（ひとつに○）

保護者が歩行中に道路を横断する際の安全確認については、「しっかり確認している」が83.6%と大半を占め、次いで「渡り始めに確認し、そのまま横断している」が15.2%で、「あまり確認しない」は0.3%とほとんどない。



問6 あなた（保護者）は、歩行中に信号機のない横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っていますか。（ひとつに○）

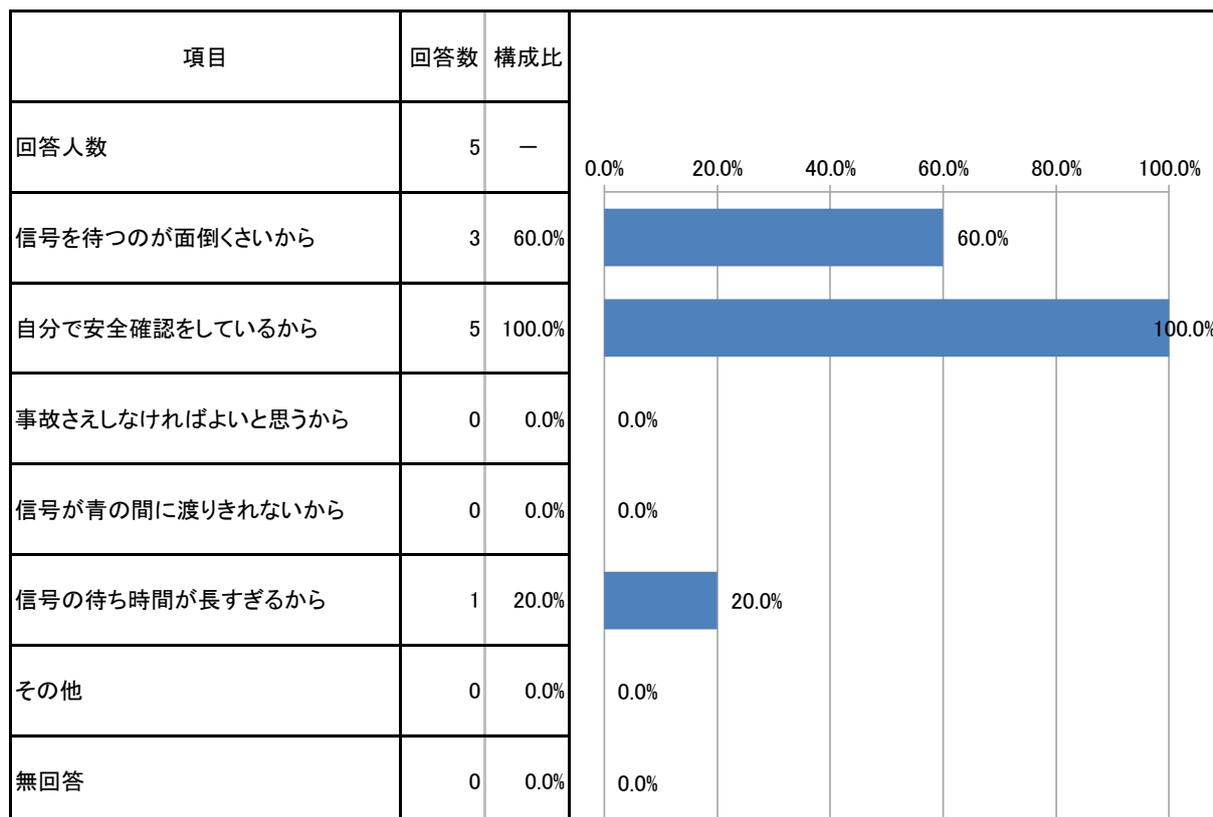
保護者が歩行中に信号機のない横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っているかについては、「守っている」が70.9%と最も高く、次いで「概ね守っている」が27.9%で、「あまり守っていない」は0.5%とほとんどない。



※問6で『③あまり守っていない』『④ほとんど守っていない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

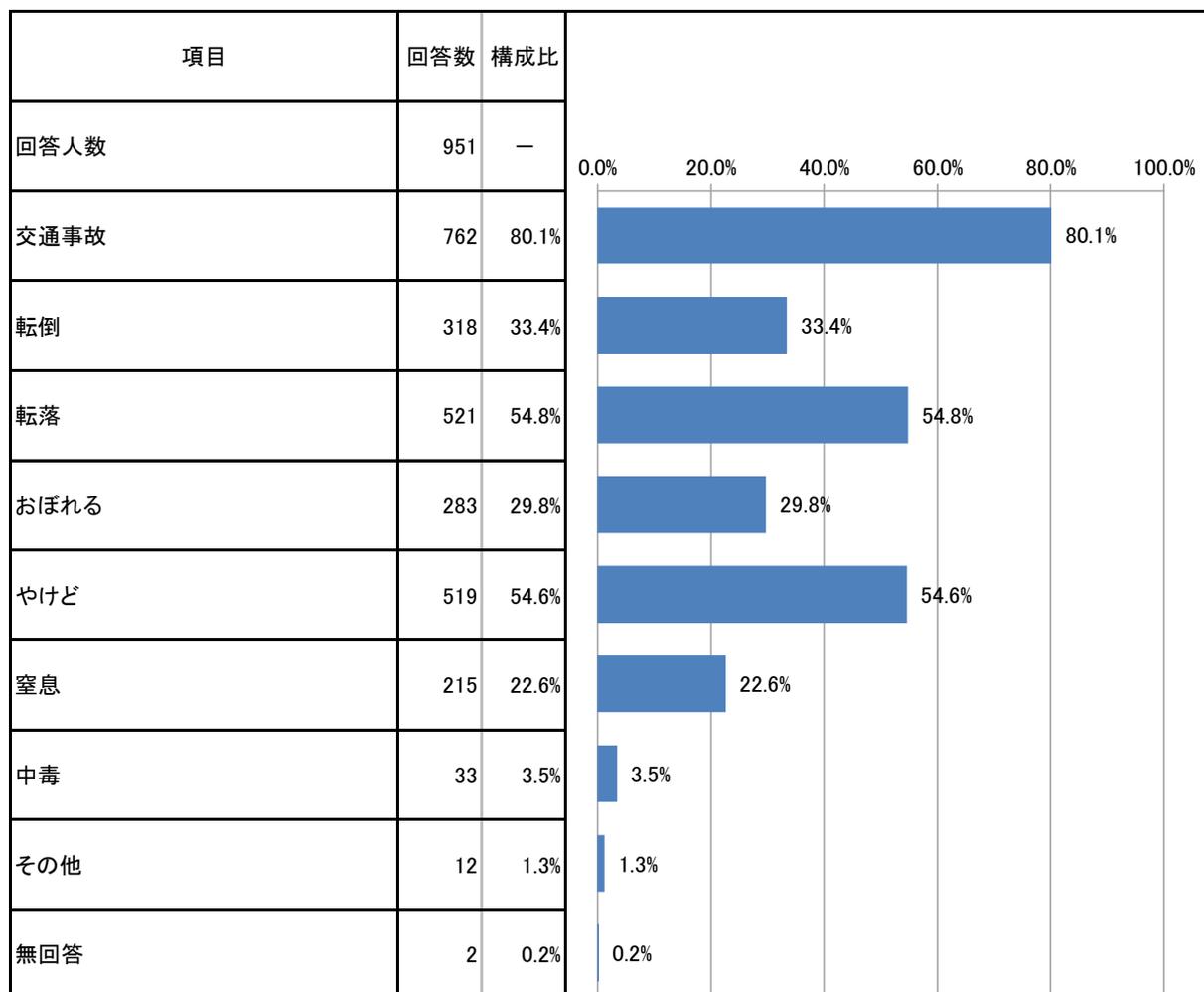
問6-1 ルール（信号）を守っていないことがある理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

保護者がルール（信号）を守っていないことがある理由については、すべての人が「自分で安全確認をしているから」としており、「信号を待つのが面倒くさいから」も60.0%となっている。



問7 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれる、やけど、窒息、中毒などをいいますが、対象のお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。（3つまで○）

特に注意している不慮の事故については、「交通事故」が80.1%と最も高く、次いで「転落」が54.8%、「やけど」が54.6%となっている。



【属性別特徴】

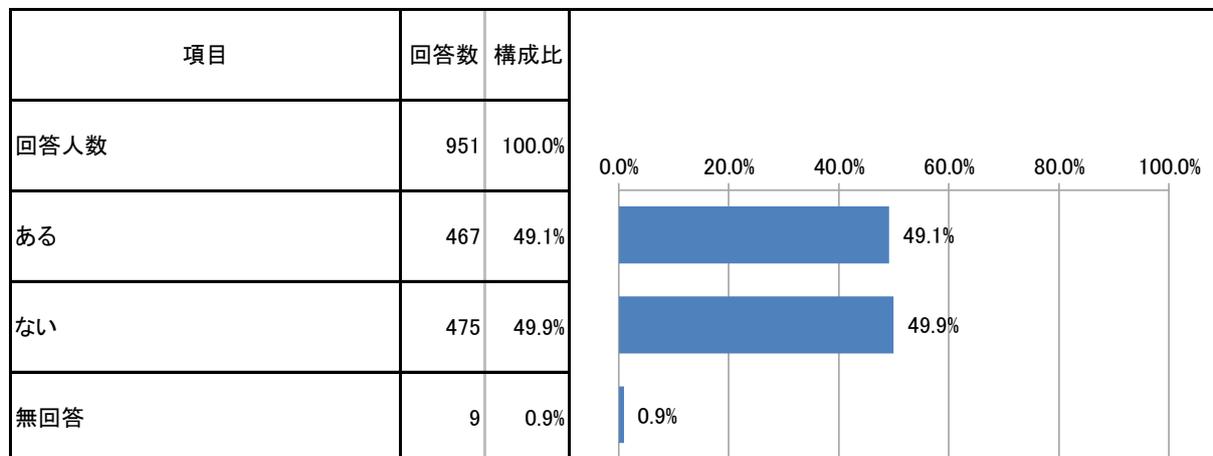
性別では、女の「やけど」が61.4%で、男の47.9%に比べて高くなっている。

年齢別では、3歳以上の「交通事故」が95.6%で、2歳以下の60.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	—	484	—	461	—	6	—	421	—	528	—	2	—
交通事故	762	80.1%	383	79.1%	374	81.1%	5	83.3%	255	60.6%	505	95.6%	2	100.0%
転倒	318	33.4%	160	33.1%	157	34.1%	1	16.7%	177	42.0%	140	26.5%	1	50.0%
転落	521	54.8%	278	57.4%	239	51.8%	4	66.7%	275	65.3%	245	46.4%	1	50.0%
おぼれる	283	29.8%	153	31.6%	128	27.8%	2	33.3%	120	28.5%	163	30.9%	0	0.0%
やけど	519	54.6%	232	47.9%	283	61.4%	4	66.7%	214	50.8%	304	57.6%	1	50.0%
窒息	215	22.6%	122	25.2%	91	19.7%	2	33.3%	148	35.2%	67	12.7%	0	0.0%
中毒	33	3.5%	16	3.3%	17	3.7%	0	0.0%	10	2.4%	23	4.4%	0	0.0%
その他	12	1.3%	7	1.4%	5	1.1%	0	0.0%	6	1.4%	6	1.1%	0	0.0%
無回答	2	0.2%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%

問8 対象のお子さんが、この1年間にもう少して「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。(ひとつに○)

子どもがこの1年間にもう少して「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとした経験については、「ある」が49.1%、「ない」が49.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、1歳の「ある」が68.1%と最も高く、次いで2歳が59.9%となっており、0歳を除けば年齢が高くなるにつれ、割合が低くなっている。

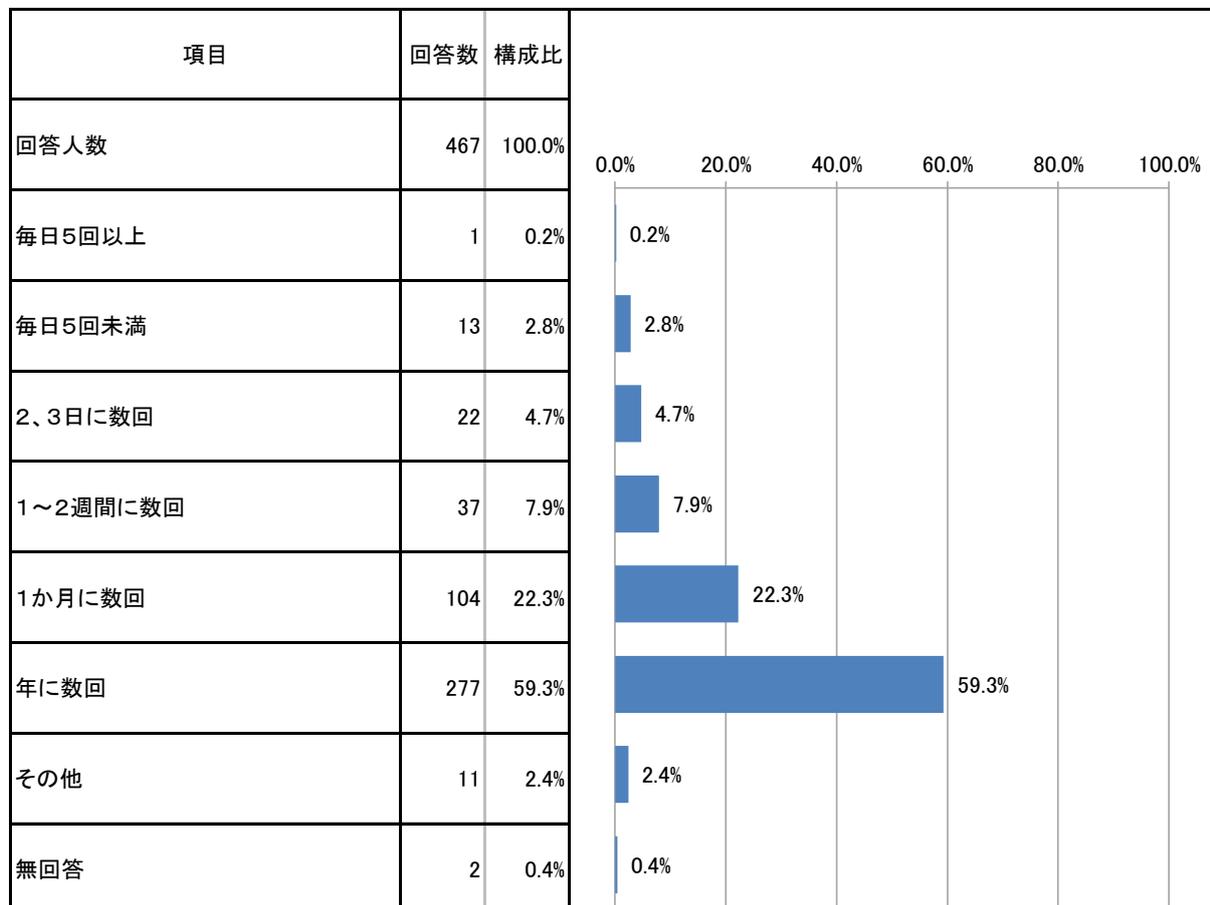
項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	484	100.0%	461	100.0%	6	100.0%
ある	467	49.1%	243	50.2%	219	47.5%	5	83.3%
ない	475	49.9%	236	48.8%	238	51.6%	1	16.7%
無回答	9	0.9%	5	1.0%	4	0.9%	0	0.0%

項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	144	100.0%	135	100.0%	142	100.0%	129	100.0%	153	100.0%	162	100.0%	84	100.0%	2	100.0%
ある	467	49.1%	51	35.4%	92	68.1%	85	59.9%	67	51.9%	64	41.8%	73	45.1%	34	40.5%	1	50.0%
ない	475	49.9%	89	61.8%	43	31.9%	56	39.4%	61	47.3%	88	57.5%	88	54.3%	49	58.3%	1	50.0%
無回答	9	0.9%	4	2.8%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.8%	1	0.7%	1	0.6%	1	1.2%	0	0.0%

※問8で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

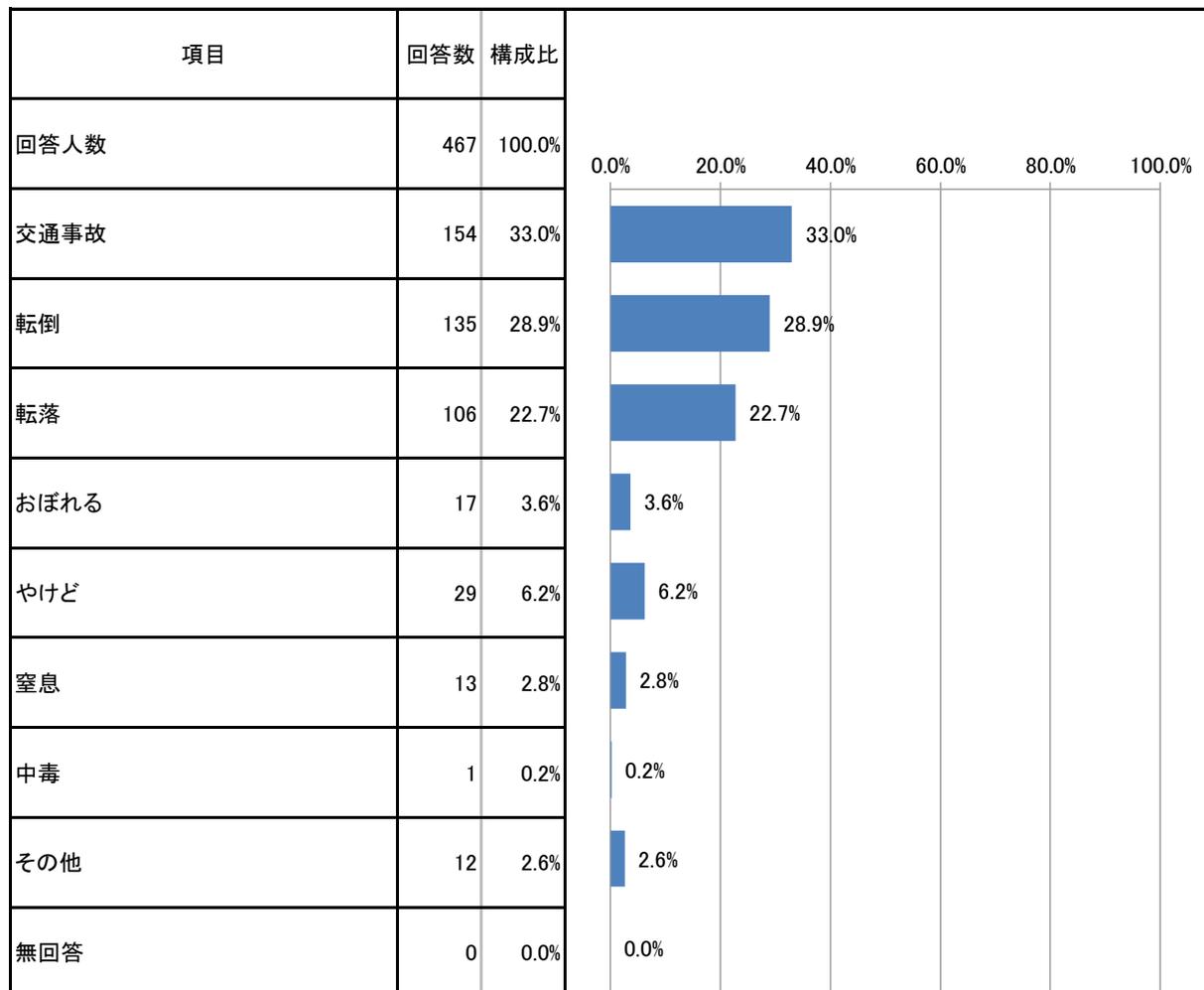
**問8-1 この1年間に対象のお子さんで、ヒヤリとしたことは、どのくらいの頻度
でありますか。(一番近いものひとつに○)**

この1年間に子どもでヒヤリとした頻度については、「年に数回」が59.3%と最も高く、次いで「1か月に数回」が22.3%、「1～2週間に数回」が7.9%となっている。



問8-2 この1年間に対象のお子さんで、一番多くヒヤリとした体験は何ですか。
(ひとつに〇)

この1年間に子どもで一番多くヒヤリとした体験については、「交通事故」が33.0%と最も高く、次いで「転倒」が28.9%、「転落」が22.7%となっている。



【属性別特徴】

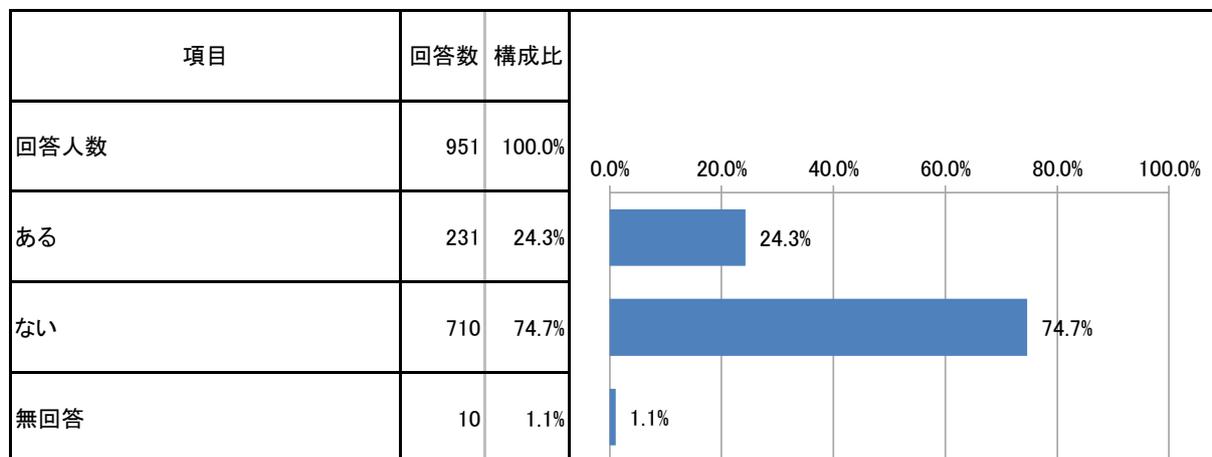
年齢別では、0歳、1歳は「転落」の割合が最も高く、2歳は「転倒」、3歳以降は「交通事故」が高くなっている。

項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	467	100.0%	51	100.0%	92	100.0%	85	100.0%	67	100.0%	64	100.0%	73	100.0%	34	100.0%	1	100.0%
交通事故	154	33.0%	0	0.0%	7	7.6%	22	25.9%	31	46.3%	28	43.8%	43	58.9%	23	67.6%	0	0.0%
転倒	135	28.9%	13	25.5%	31	33.7%	35	41.2%	19	28.4%	20	31.3%	13	17.8%	4	11.8%	0	0.0%
転落	106	22.7%	28	54.9%	32	34.8%	15	17.6%	8	11.9%	6	9.4%	11	15.1%	5	14.7%	1	100.0%
おぼれる	17	3.6%	2	3.9%	7	7.6%	3	3.5%	2	3.0%	2	3.1%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
やけど	29	6.2%	1	2.0%	9	9.8%	7	8.2%	2	3.0%	6	9.4%	3	4.1%	1	2.9%	0	0.0%
窒息	13	2.8%	5	9.8%	2	2.2%	1	1.2%	3	4.5%	1	1.6%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
中毒	1	0.2%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	12	2.6%	2	3.9%	3	3.3%	2	2.4%	2	3.0%	1	1.6%	1	1.4%	1	2.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【乳幼児】

問9 対象のお子さんは、この1年間に「事故やけが」の経験がありますか。(ひとつに〇)

子どもがこの1年間に「事故やけが」の経験があるかについては、「ある」が24.3%、「ない」が74.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

年齢別では、2歳以下の「ある」が27.1%で、3歳以上の22.0%に比べてやや高くなっている。

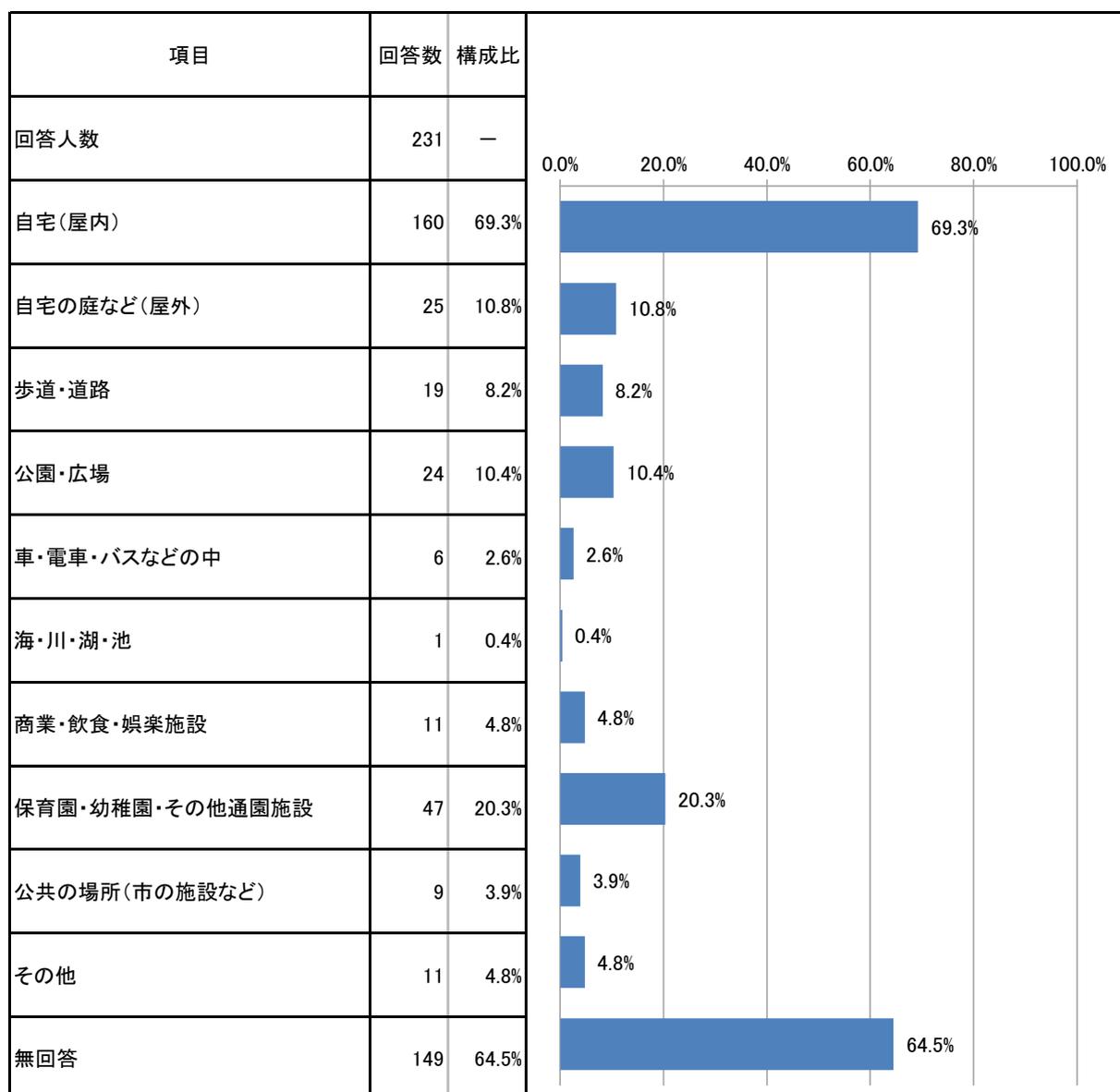
項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	484	100.0%	461	100.0%	6	100.0%	421	100.0%	528	100.0%	2	100.0%
ある	231	24.3%	125	25.8%	101	21.9%	5	83.3%	114	27.1%	116	22.0%	1	50.0%
ない	710	74.7%	356	73.6%	353	76.6%	1	16.7%	303	72.0%	406	76.9%	1	50.0%
無回答	10	1.1%	3	0.6%	7	1.5%	0	0.0%	4	1.0%	6	1.1%	0	0.0%

※問9で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問10 対象のお子さんのこの1年間（平成25年10月～平成26年9月）にあった事故やけがについて、ア：場所、イ：種類、ウ：医療機関の受診の状況、エ：その事故やけがを未然に防ぐことができた可能性を、それぞれ1つずつ、該当する番号でご回答ください。事故やけがの経験が複数ある場合は、最大2件までご回答ください。

ア 事故やけがをした場所

事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が69.3%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・その他通園施設」が20.3%、「自宅の庭など（屋外）」が10.8%、「公園・広場」が10.4%となっている。



【乳幼児】

【属性別特徴】

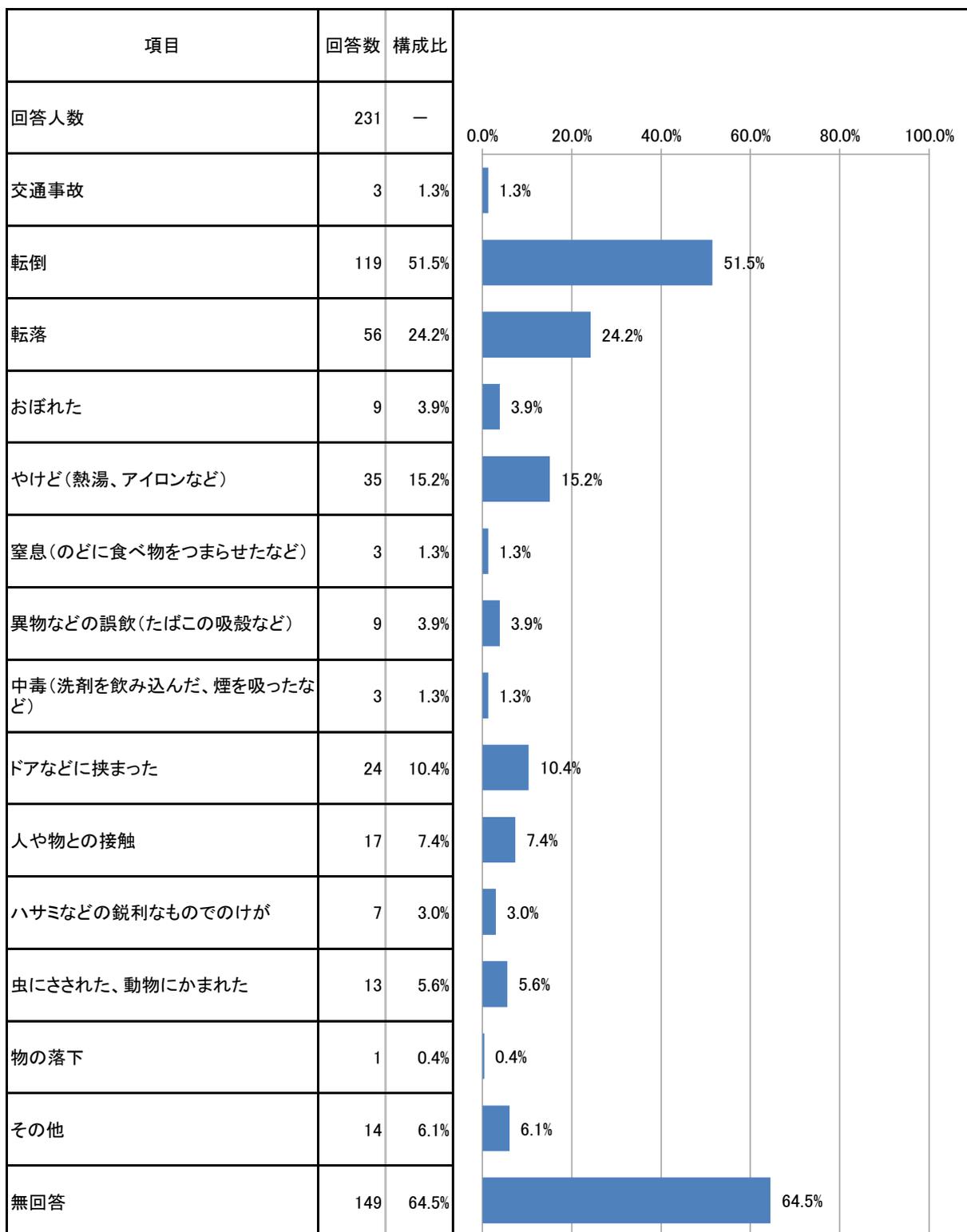
年齢別では、2歳以下の「自宅（屋内）」が93.9%で、3歳以上の45.7%に比べて高くなっている。

就園状況別では、未就園児の「自宅（屋内）」が86.6%と最も高く、次いで保育園児が62.5%、幼稚園児が52.5%となっている。

項目	回答人数		年齢別						就園状況別							
			2歳以下		3歳以上		無回答		未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	231	—	114	—	116	—	1	—	82	—	88	—	59	19.3%	2	—
自宅（屋内）	160	69.3%	107	93.9%	53	45.7%	0	0.0%	71	86.6%	55	62.5%	31	52.5%	3	150.0%
自宅の庭など（屋外）	25	10.8%	12	10.5%	13	11.2%	0	0.0%	10	12.2%	12	13.6%	3	5.1%	0	0.0%
歩道・道路	19	8.2%	4	3.5%	15	12.9%	0	0.0%	5	6.1%	11	12.5%	3	5.1%	0	0.0%
公園・広場	24	10.4%	6	5.3%	18	15.5%	0	0.0%	6	7.3%	8	9.1%	10	16.9%	0	0.0%
車・電車・バスなどの中	6	2.6%	3	2.6%	3	2.6%	0	0.0%	3	3.7%	2	2.3%	1	1.7%	0	0.0%
海・川・湖・池	1	0.4%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
商業・飲食・娯楽施設	11	4.8%	5	4.4%	6	5.2%	0	0.0%	3	3.7%	5	5.7%	3	5.1%	0	0.0%
保育園・幼稚園・その他通園施設	47	20.3%	9	7.9%	37	31.9%	1	100.0%	4	4.9%	26	29.5%	17	28.8%	0	0.0%
公共の場所（市の施設など）	9	3.9%	4	3.5%	5	4.3%	0	0.0%	7	8.5%	1	1.1%	1	1.7%	0	0.0%
その他	11	4.8%	5	4.4%	6	5.2%	0	0.0%	3	3.7%	2	2.3%	6	10.2%	0	0.0%
無回答	149	64.5%	73	64.0%	75	64.7%	1	100.0%	52	63.4%	53	60.2%	43	72.9%	1	50.0%

イ 事故やけがの種類

事故やけがの種類については、「転倒」が51.5%と最も高く、次いで「転落」が24.2%、「やけど（熱湯、アイロンなど）」が15.2%、「ドアなどに挟まった」が10.4%となっている。



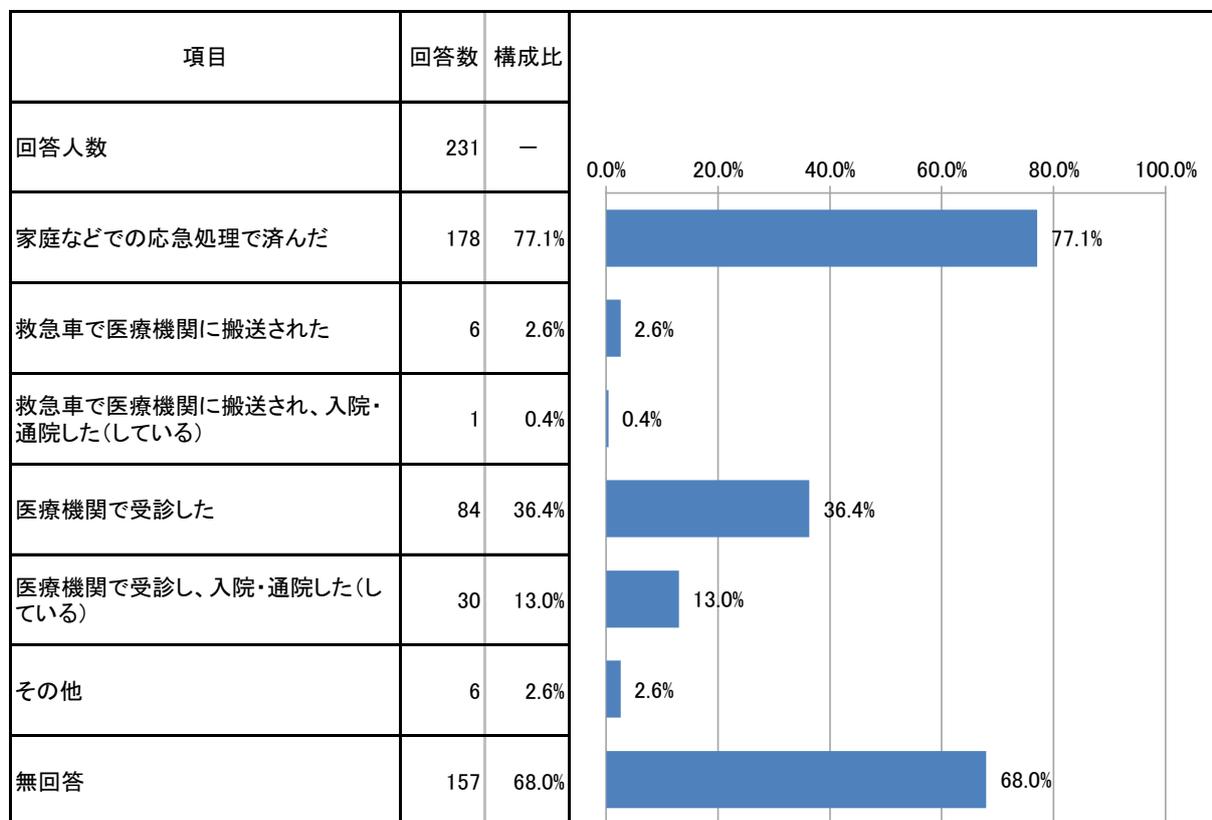
【属性別特徴】

年齢別では、0歳は「転落」の割合が最も高く、1歳以降は「転倒」が高くなっている。

項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	231	—	17	—	46	—	51	—	34	—	29	—	38	—	15	—	1	—
交通事故	3	1.3%	0	0.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	13.3%	0	0.0%
転倒	119	51.5%	5	29.4%	25	54.3%	25	49.0%	18	52.9%	19	65.5%	20	52.6%	6	40.0%	1	100.0%
転落	56	24.2%	9	52.9%	16	34.8%	7	13.7%	9	26.5%	5	17.2%	10	26.3%	0	0.0%	0	0.0%
おぼれた	9	3.9%	0	0.0%	2	4.3%	4	7.8%	3	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
やけど(熱湯、アイロンなど)	35	15.2%	1	5.9%	6	13.0%	13	25.5%	3	8.8%	5	17.2%	6	15.8%	1	6.7%	0	0.0%
窒息(のどに食べ物をつまらせたなど)	3	1.3%	0	0.0%	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
異物などの誤飲(たばこの吸殻など)	9	3.9%	2	11.8%	5	10.9%	2	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中毒(洗剤を飲み込んだ、煙を吸ったなど)	3	1.3%	2	11.8%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ドアなどに挟まった	24	10.4%	0	0.0%	2	4.3%	9	17.6%	4	11.8%	3	10.3%	5	13.2%	1	6.7%	0	0.0%
人や物との接触	17	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.9%	5	14.7%	4	13.8%	3	7.9%	3	20.0%	0	0.0%
ハサミなどの鋭利なものでのけが	7	3.0%	0	0.0%	1	2.2%	2	3.9%	2	5.9%	1	3.4%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
虫にさされた、動物にかまれた	13	5.6%	1	5.9%	2	4.3%	3	5.9%	0	0.0%	2	6.9%	5	13.2%	0	0.0%	0	0.0%
物の落下	1	0.4%	0	0.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	14	6.1%	1	5.9%	1	2.2%	1	2.0%	6	17.6%	2	6.9%	1	2.6%	1	6.7%	1	100.0%
無回答	149	64.5%	11	64.7%	28	60.9%	33	64.7%	18	52.9%	17	58.6%	24	63.2%	16	106.7%	2	200.0%

ウ 医療機関の受診

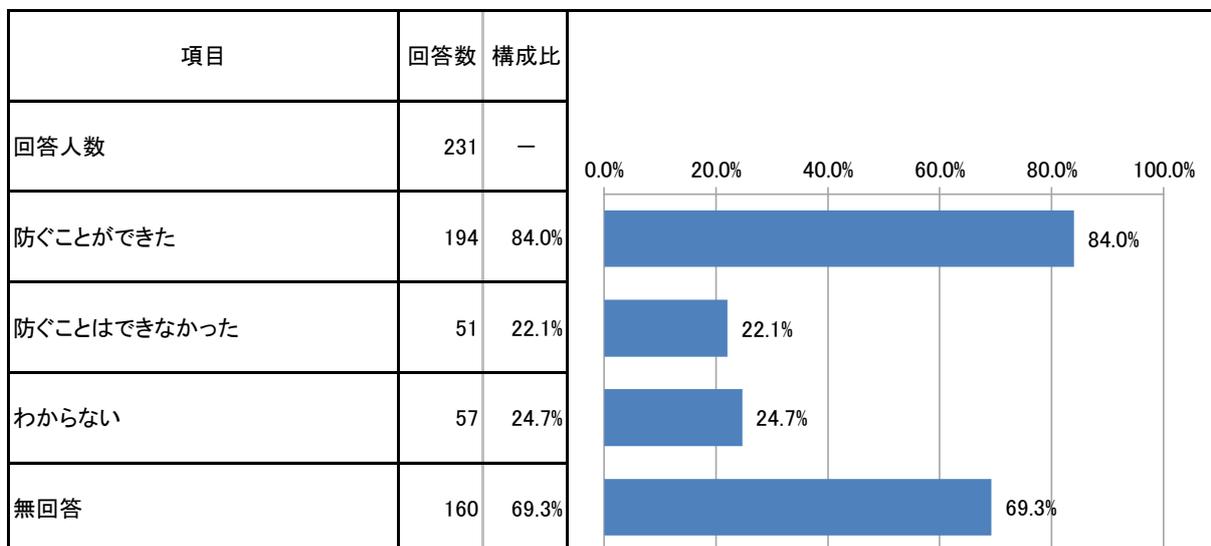
医療機関の受診については、「家庭などでの応急処理で済んだ」が 77.1%と最も高く、次いで「医療機関で受診した」が 36.4%、「医療機関で受診し、入院・通院した（している）」が 13.0%となっている。



【乳幼児】

エ 未然に防ぐことができた可能性

未然に防ぐことができた可能性については、「防ぐことができた」が84.0%と最も高く、次いで「わからない」が24.7%、「防ぐことはできなかった」が22.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「防ぐことはできなかった」が27.7%で、男の16.8%に比べて高くなっている。

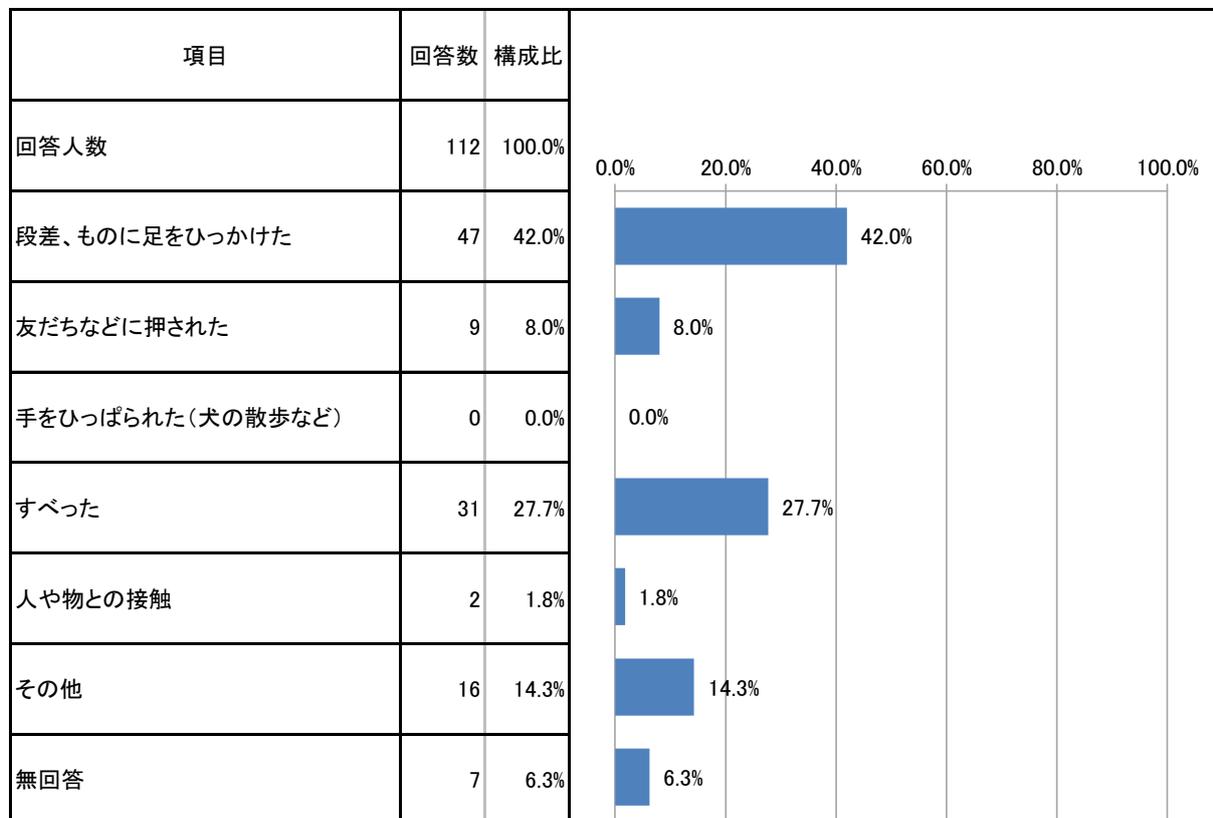
年齢別では、2歳以下の「防ぐことができた」が97.4%で、3歳以上の70.7%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	231	—	125	—	101	—	5	—	114	—	116	—	1	—
防ぐことができた	194	84.0%	105	84.0%	86	85.1%	3	60.0%	111	97.4%	82	70.7%	1	100.0%
防ぐことはできなかった	51	22.1%	21	16.8%	28	27.7%	2	40.0%	15	13.2%	36	31.0%	0	0.0%
わからない	57	24.7%	36	28.8%	19	18.8%	2	40.0%	25	21.9%	32	27.6%	0	0.0%
無回答	160	69.3%	88	70.4%	69	68.3%	3	60.0%	77	67.5%	82	70.7%	1	100.0%

※問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『②転倒』とご回答された方にお聞きします。

問 10-1 転倒の原因 (ひとつに○)

転倒の原因については、「段差、ものに足をひっかけた」が 42.0%と最も高く、次いで「すべった」が 27.7%、「その他」が 14.3%、「友だちなどに押された」が 8.0%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「すべった」が40.7%で、女の16.1%と比べて高くなっている。

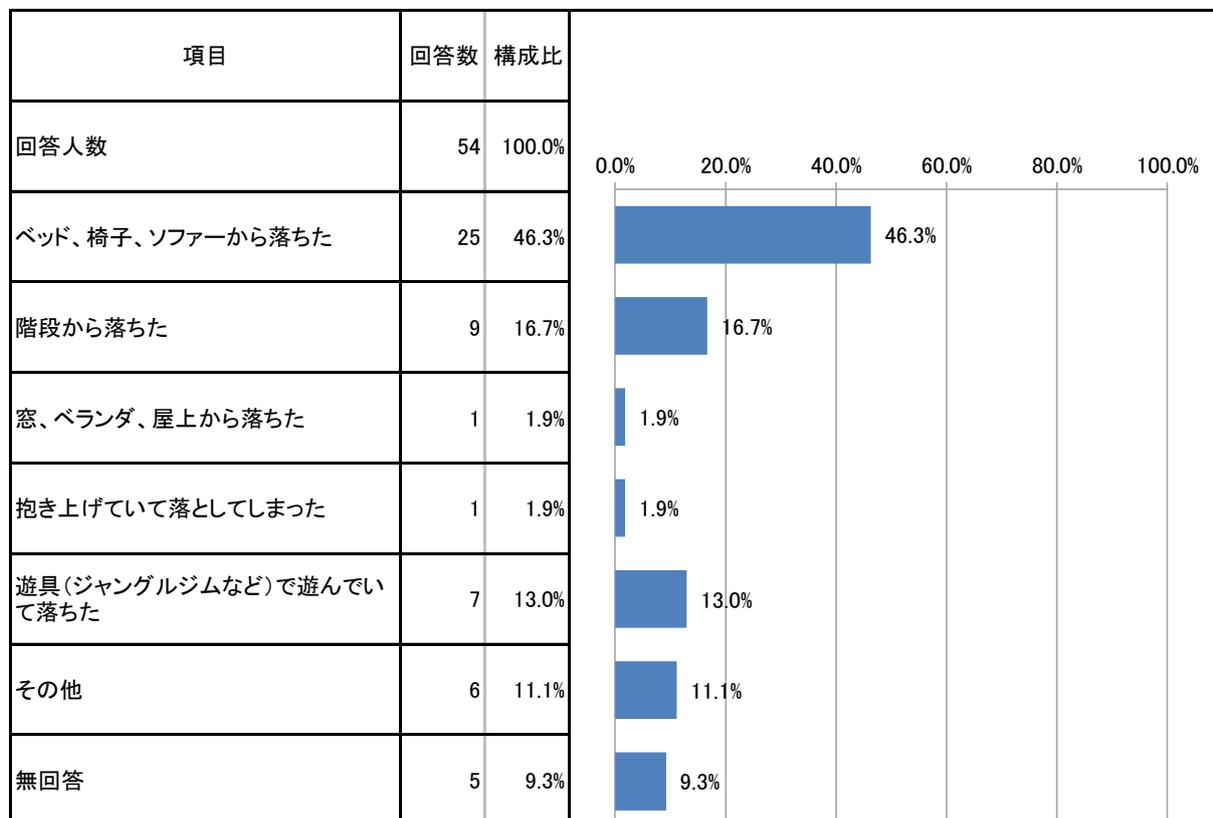
年齢別では、2歳以下の「すべった」が36.5%で、3歳以上の20.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		2歳以下		3歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	112	100.0%	54	100.0%	56	100.0%	2	100.0%	52	100.0%	59	100.0%	1	100.0%
段差、ものに足をひっかけた	47	42.0%	16	29.6%	29	51.8%	2	100.0%	21	40.4%	25	42.4%	1	100.0%
友だちなどに押された	9	8.0%	5	9.3%	4	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	9	15.3%	0	0.0%
手をひっぱられた(犬の散歩など)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
すべった	31	27.7%	22	40.7%	9	16.1%	0	0.0%	19	36.5%	12	20.3%	0	0.0%
人や物との接触	2	1.8%	1	1.9%	1	1.8%	0	0.0%	1	1.9%	1	1.7%	0	0.0%
その他	16	14.3%	7	13.0%	9	16.1%	0	0.0%	8	15.4%	8	13.6%	0	0.0%
無回答	7	6.3%	3	5.6%	4	7.1%	0	0.0%	3	5.8%	4	6.8%	0	0.0%

※問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『③転落』とご回答された方にお聞きします。

問 10-2 転落の原因（ひとつに○）

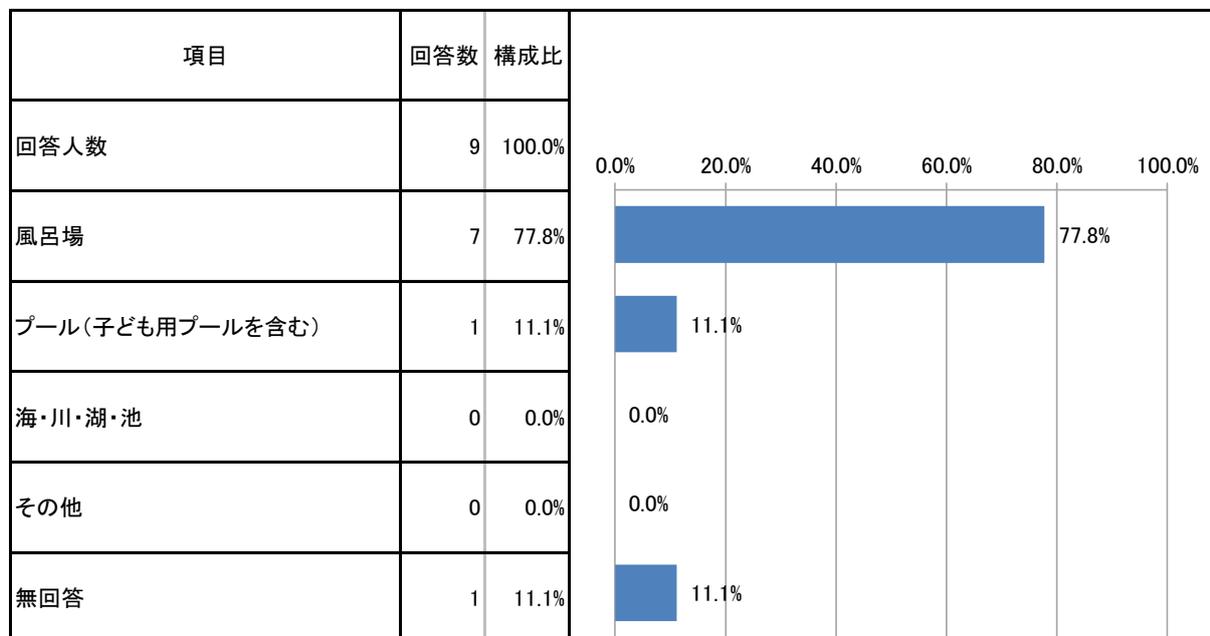
転落の原因については、「ベッド、椅子、ソファから落ちた」が 46.3%と最も高く、次いで「階段から落ちた」が 16.7%、「遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた」が 13.0%となっている。



※問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『④おぼれた』とご回答された方にお聞きします。

問 10-3 おぼれた場所（ひとつに○）

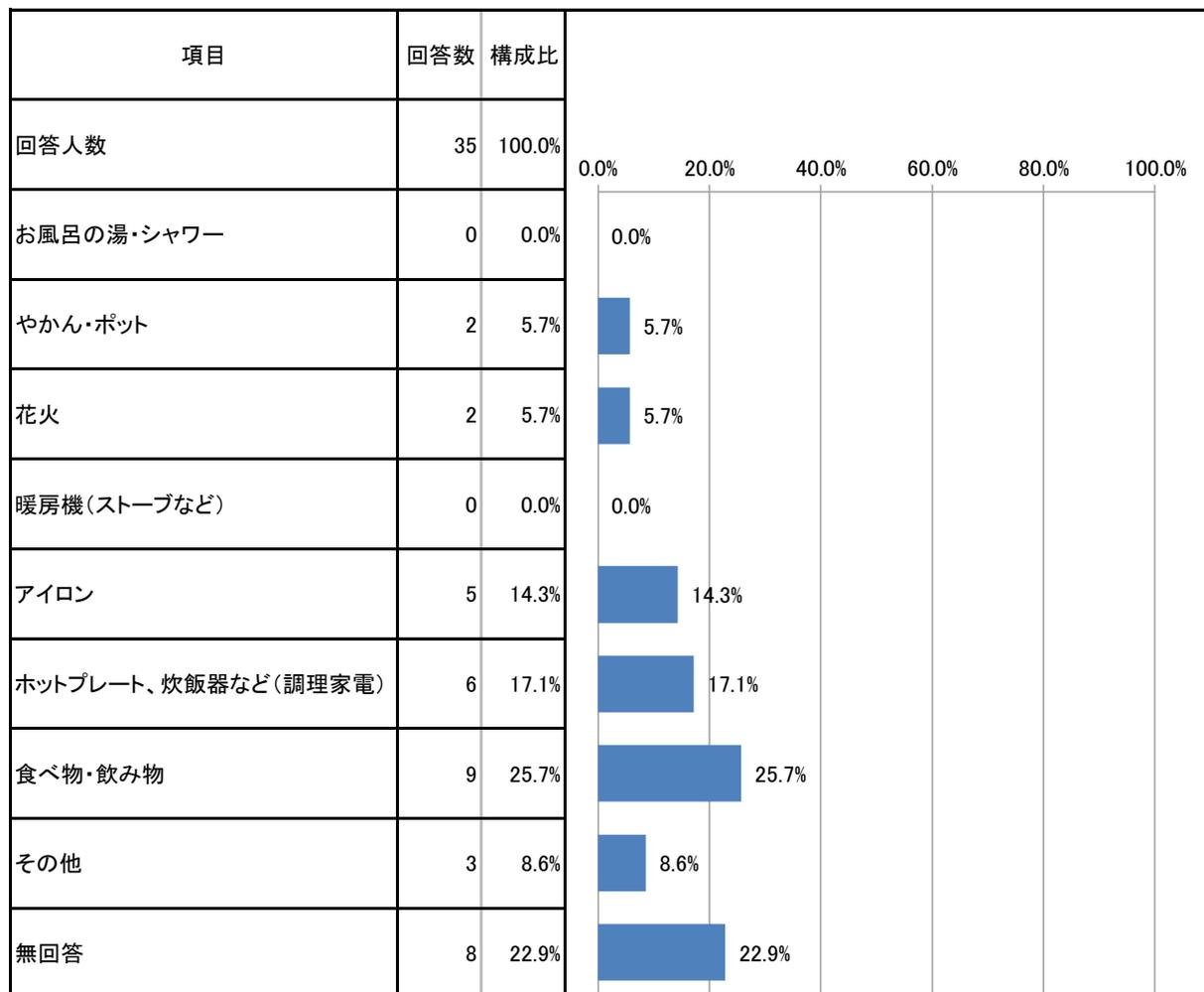
おぼれた場所については、「風呂場」が 77.8%と最も高く、次いで「プール（子ども用プールを含む）」が 11.1%となっている。



※問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『⑤やけど』とご回答された方にお聞きします。

問 10-4 やけどの原因（ひとつに○）

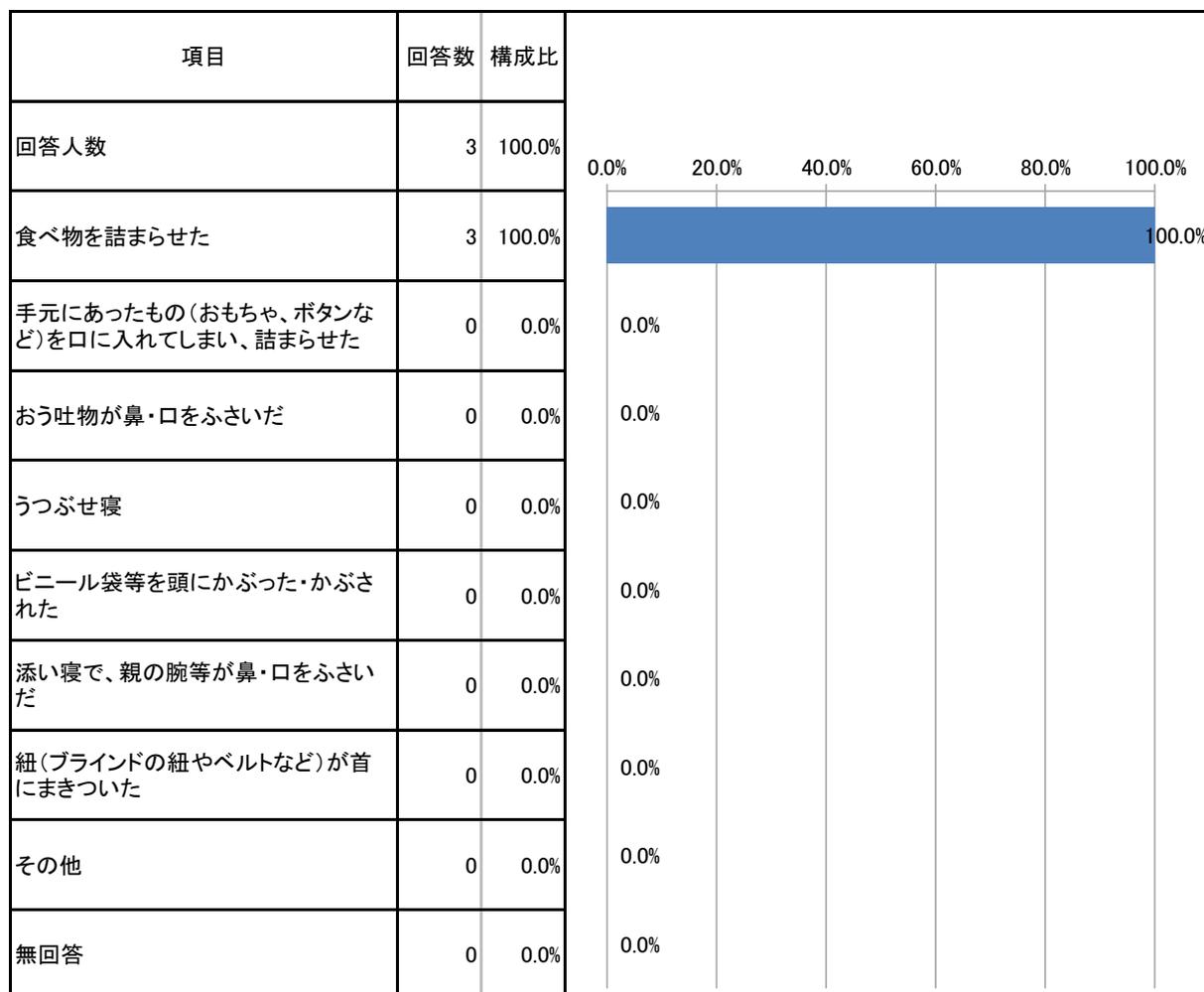
やけどの原因については、「食べ物・飲み物」が 25.7%と最も高く、次いで「ホットプレート、炊飯器など（調理家電）」が 17.1%、「アイロン」が 14.3%となっている。



※問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『⑥窒息』とご回答された方にお聞きします。

問 10-5 窒息の原因・状況（ひとつに○）

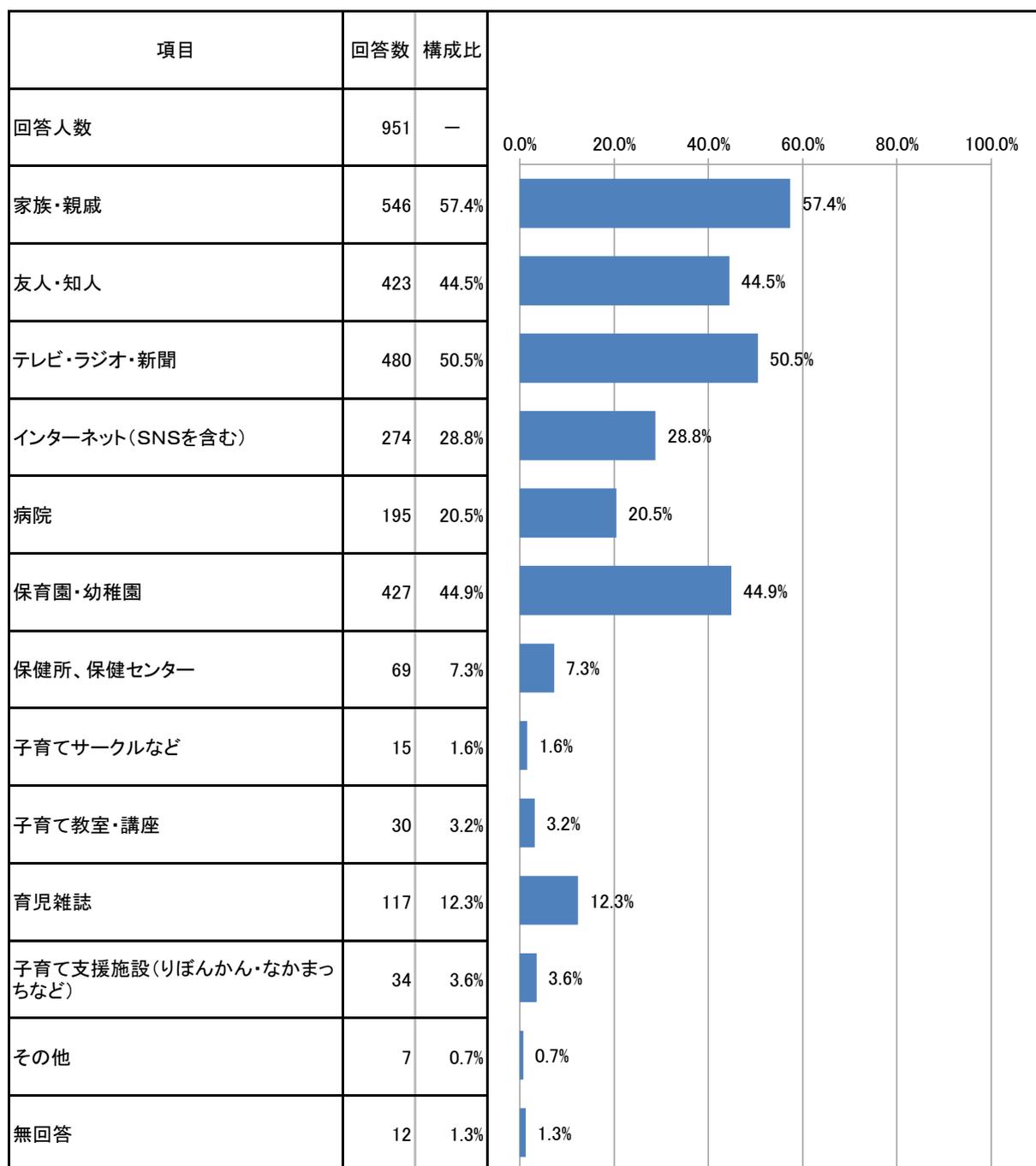
窒息の原因・状況については、「食べ物を詰ませた」が 100.0%と最も高くなっている。



問 11 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに(どこ)から得ていますか。
 また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、なに(どこ)ですか。(3つまで○)

(現在、得ている)

子どもの事故やけがの予防に関する情報源については、「家族・親戚」が 57.4%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞」が 50.5%、「保育園・幼稚園」が 44.9%、「友人・知人」が 44.5%となっている。



【属性別特徴】

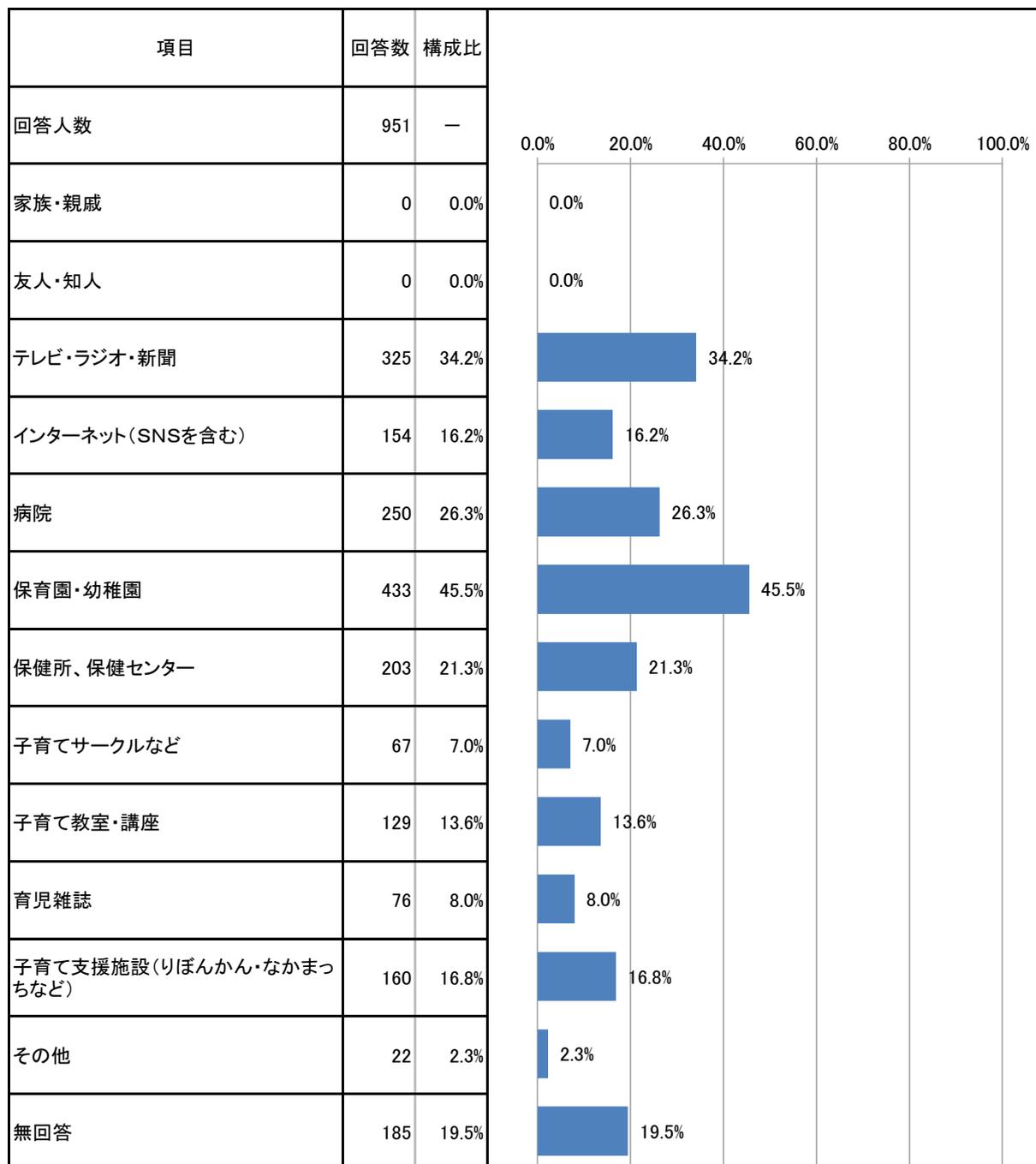
年齢別では、3歳以上の「保育園・幼稚園」が63.4%で、2歳以下の21.4%に比べて高くなっている。

就園状況別では、未就園児は「家族・親戚」が61.7%と最も高く、保育園児、幼稚園児は「保育園・幼稚園」がそれぞれ70.4%、65.2%と最も高くなっている。

項目	回答人数		年齢別						就園状況別							
			2歳以下		3歳以上		無回答		未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	—	421	—	528	—	2	—	337	—	297	—	305	—	12	—
家族・親戚	546	57.4%	257	61.0%	287	54.4%	2	100.0%	208	61.7%	170	57.2%	161	52.8%	7	58.3%
友人・知人	423	44.5%	175	41.6%	248	47.0%	0	0.0%	161	47.8%	103	34.7%	152	49.8%	7	58.3%
テレビ・ラジオ・新聞	480	50.5%	189	44.9%	290	54.9%	1	50.0%	150	44.5%	144	48.5%	180	59.0%	6	50.0%
インターネット(SNSを含む)	274	28.8%	135	32.1%	139	26.3%	0	0.0%	116	34.4%	74	24.9%	82	26.9%	2	16.7%
病院	195	20.5%	109	25.9%	86	16.3%	0	0.0%	95	28.2%	61	20.5%	39	12.8%	0	0.0%
保育園・幼稚園	427	44.9%	90	21.4%	335	63.4%	2	100.0%	19	5.6%	209	70.4%	199	65.2%	0	0.0%
保健所、保健センター	69	7.3%	48	11.4%	21	4.0%	0	0.0%	41	12.2%	16	5.4%	11	3.6%	1	8.3%
子育てサークルなど	15	1.6%	11	2.6%	4	0.8%	0	0.0%	11	3.3%	2	0.7%	2	0.7%	0	0.0%
子育て教室・講座	30	3.2%	18	4.3%	12	2.3%	0	0.0%	16	4.7%	4	1.3%	10	3.3%	0	0.0%
育児雑誌	117	12.3%	76	18.1%	41	7.8%	0	0.0%	74	22.0%	19	6.4%	22	7.2%	2	16.7%
子育て支援施設(りぼんかん・なかまっちなど)	34	3.6%	26	6.2%	8	1.5%	0	0.0%	21	6.2%	8	2.7%	4	1.3%	1	8.3%
その他	7	0.7%	5	1.2%	2	0.4%	0	0.0%	5	1.5%	1	0.3%	1	0.3%	0	0.0%
無回答	12	1.3%	8	1.9%	4	0.8%	0	0.0%	5	1.5%	5	1.7%	1	0.3%	1	8.3%

(充実して欲しい)

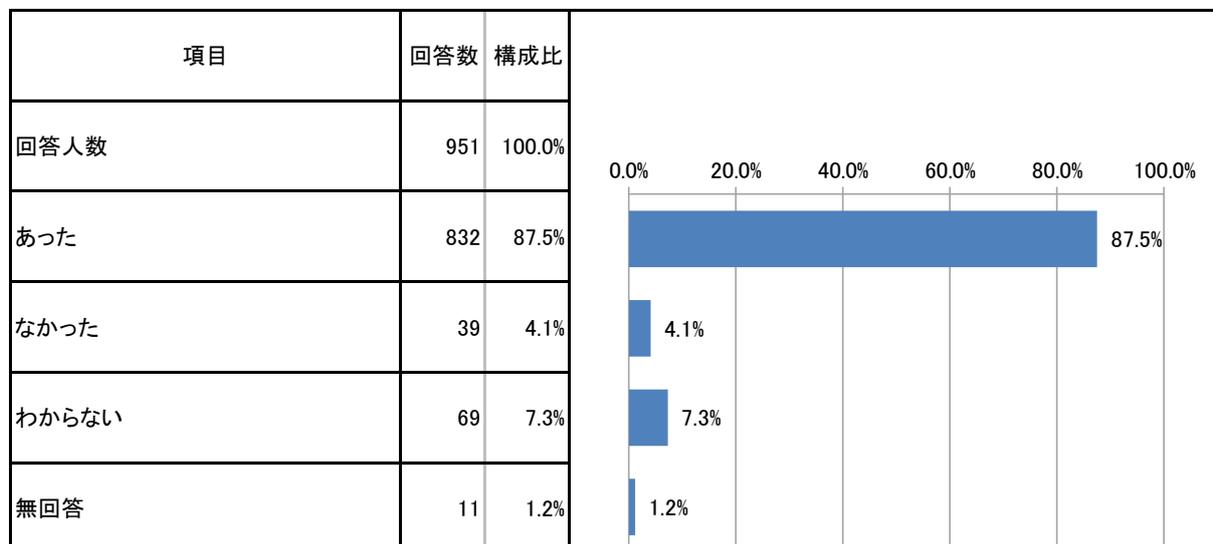
子どもの事故やけがの予防のために充実して欲しい情報源については、「保育園・幼稚園」が45.5%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞」が34.2%、「病院」が26.3%、「保健所・保健センター」が21.3%となっている。



問 12 問 11 の情報を収集した後、事故やけがに関して、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ひとつに○）

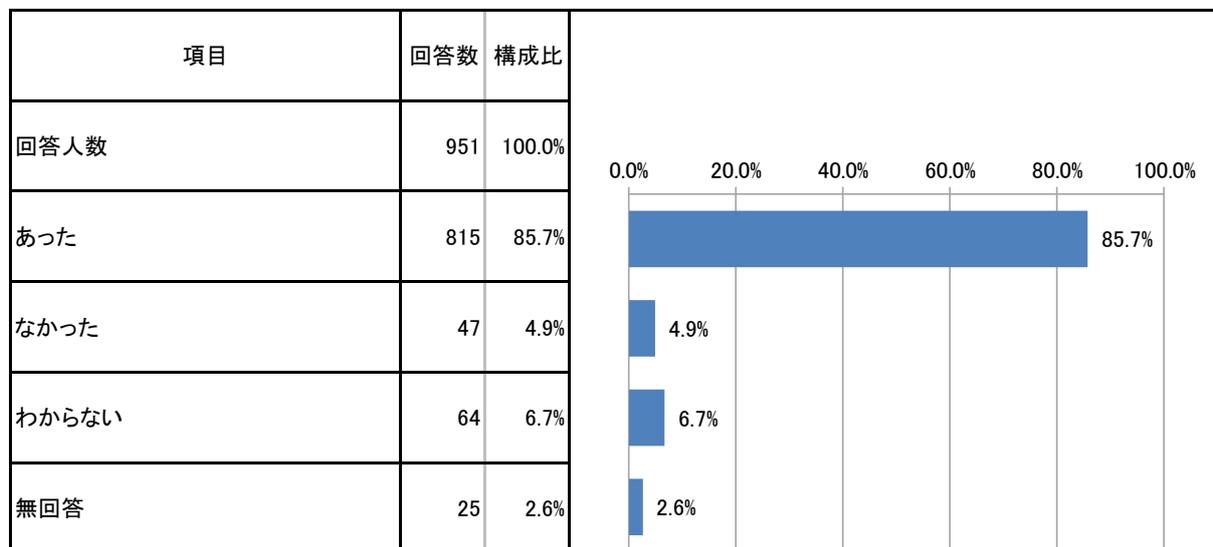
A 考え方の変化

情報収集後、子どもの事故やけがに関する保護者の考え方の変化については、「あった」が 87.5%と最も高く、次いで「わからない」が 7.3%、「なかった」が 4.1%となっている。



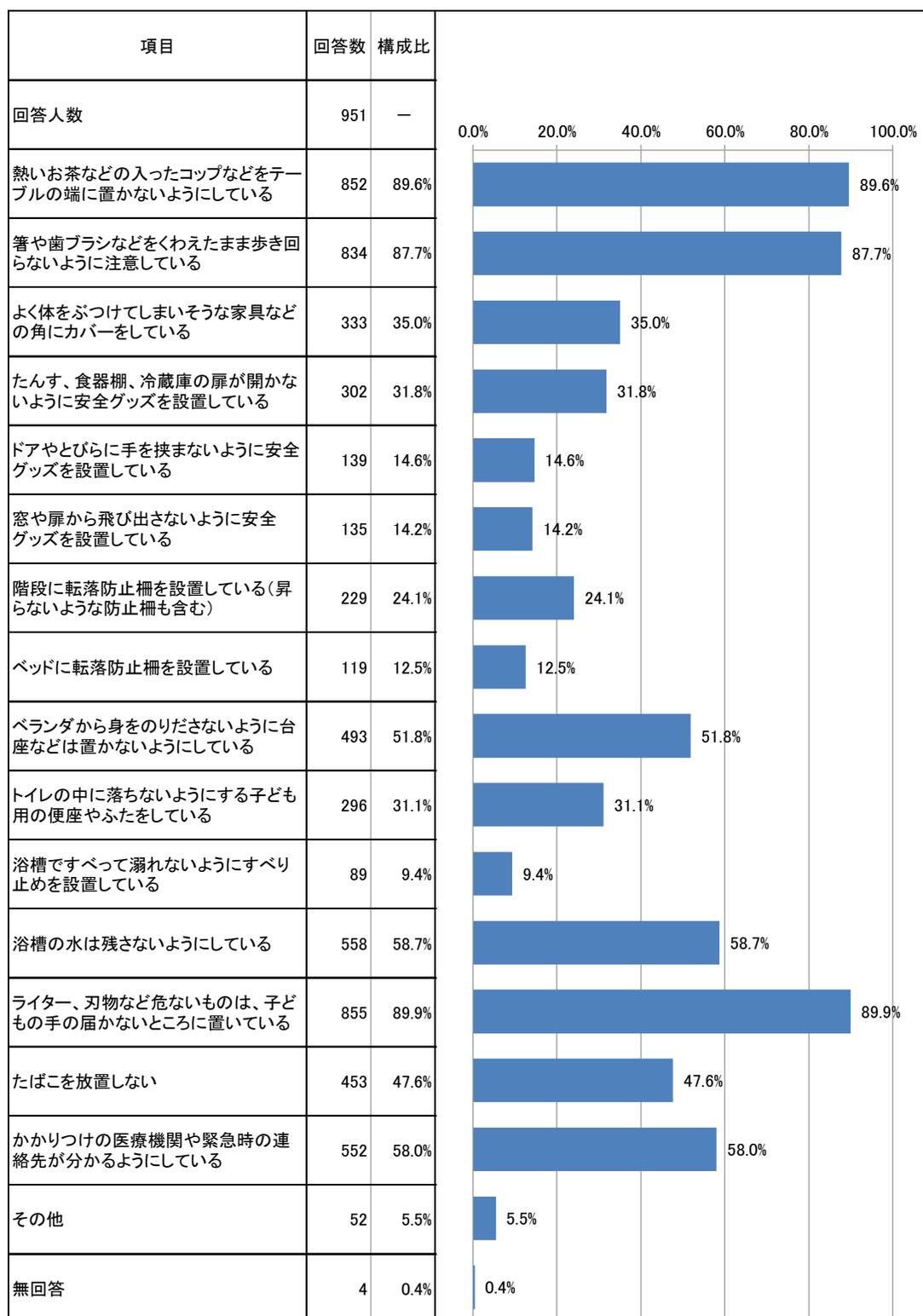
B 行動の変化

情報収集後、子どもの事故やけがに関する保護者の行動の変化については、「あった」が 85.7%と最も高く、次いで「わからない」が 6.7%、「なかった」が 4.9%となっている。



問 13 あなた(保護者)は、日頃からどのような子どもの安全対策をとっていますか。過去にとった対策についても、○をつけてください。

子どもの安全対策については、「ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている」が 89.9%と最も高く、次いで「熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている」が 89.6%、「箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している」が 87.7%となっている。



【属性別特徴】

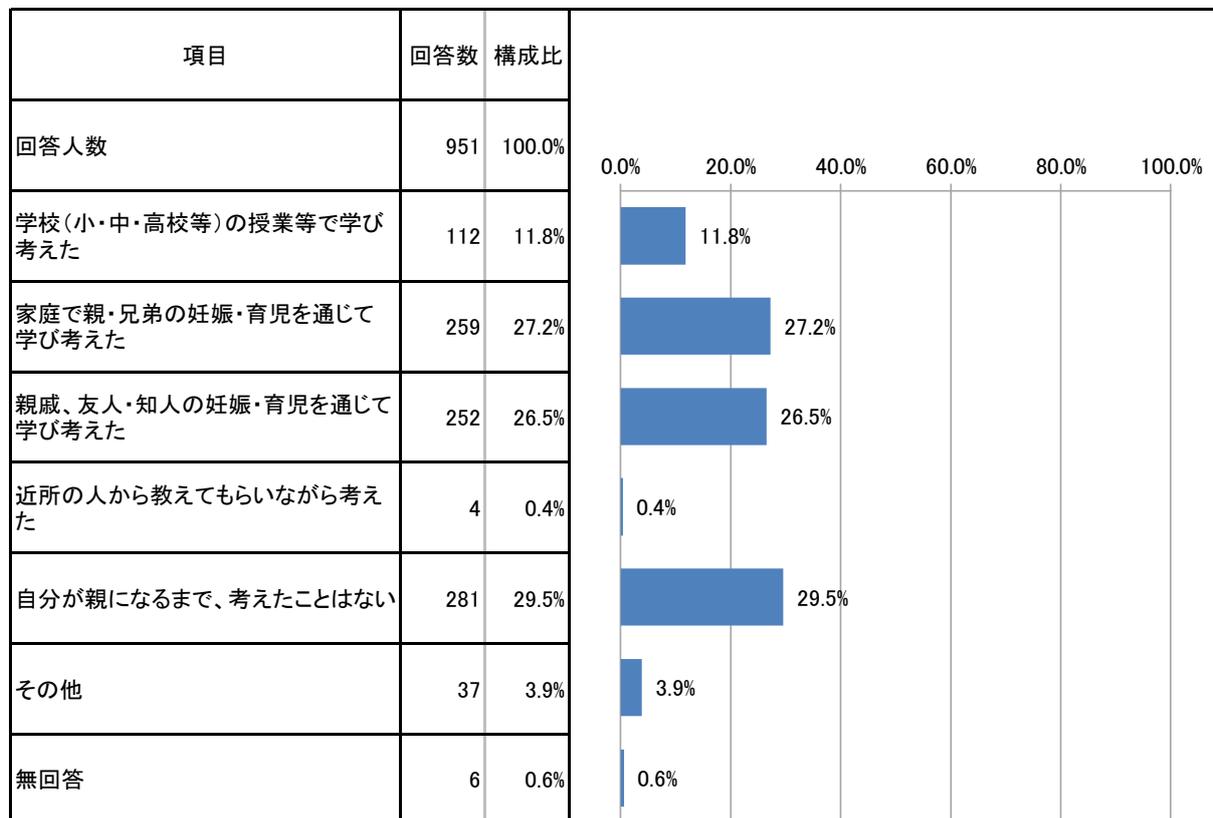
年齢別では、0歳は「熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている」の割合が、1歳は「ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている」の割合が最も高くなっている。

2歳以降は「箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している」が高くなっている。

項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	—	144	—	135	—	142	—	129	—	153	—	162	—	84	—	2	—
熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている	852	89.6%	128	88.9%	126	93.3%	130	91.5%	119	92.2%	135	88.2%	143	88.3%	70	83.3%	1	50.0%
箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している	834	87.7%	78	54.2%	114	84.4%	136	95.8%	125	96.9%	145	94.8%	157	96.9%	77	91.7%	2	100.0%
よく体をぶつけてしまいそうな家具などの角にカバーをしている	333	35.0%	44	30.6%	50	37.0%	59	41.5%	43	33.3%	57	37.3%	56	34.6%	24	28.6%	0	0.0%
たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している	302	31.8%	32	22.2%	68	50.4%	67	47.2%	37	28.7%	43	28.1%	38	23.5%	17	20.2%	0	0.0%
ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している	139	14.6%	18	12.5%	24	17.8%	26	18.3%	21	16.3%	23	15.0%	20	12.3%	7	8.3%	0	0.0%
窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している	135	14.2%	13	9.0%	27	20.0%	33	23.2%	18	14.0%	22	14.4%	14	8.6%	8	9.5%	0	0.0%
階段に転落防止柵を設置している（昇らないような防止柵も含む）	229	24.1%	26	18.1%	45	33.3%	34	23.9%	32	24.8%	41	26.8%	31	19.1%	20	23.8%	0	0.0%
ベッドに転落防止柵を設置している	119	12.5%	32	22.2%	18	13.3%	10	7.0%	12	9.3%	21	13.7%	18	11.1%	8	9.5%	0	0.0%
ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている	493	51.8%	41	28.5%	65	48.1%	78	54.9%	78	60.5%	94	61.4%	94	58.0%	42	50.0%	1	50.0%
トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている	296	31.1%	38	26.4%	46	34.1%	61	43.0%	52	40.3%	39	25.5%	43	26.5%	17	20.2%	0	0.0%
浴槽ですべて濡れないようにすべり止めを設置している	89	9.4%	10	6.9%	23	17.0%	17	12.0%	8	6.2%	12	7.8%	13	8.0%	6	7.1%	0	0.0%
浴槽の水は残さないようにしている	558	58.7%	64	44.4%	91	67.4%	95	66.9%	88	68.2%	93	60.8%	87	53.7%	39	46.4%	1	50.0%
ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている	855	89.9%	126	87.5%	129	95.6%	127	89.4%	120	93.0%	139	90.8%	141	87.0%	71	84.5%	2	100.0%
たばこを放置しない	453	47.6%	68	47.2%	66	48.9%	72	50.7%	60	46.5%	75	49.0%	76	46.9%	34	40.5%	2	100.0%
かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている	552	58.0%	90	62.5%	89	65.9%	88	62.0%	73	56.6%	84	54.9%	87	53.7%	40	47.6%	1	50.0%
その他	52	5.5%	12	8.3%	9	6.7%	5	3.5%	6	4.7%	8	5.2%	10	6.2%	2	2.4%	0	0.0%
無回答	4	0.4%	2	1.4%	1	0.7%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

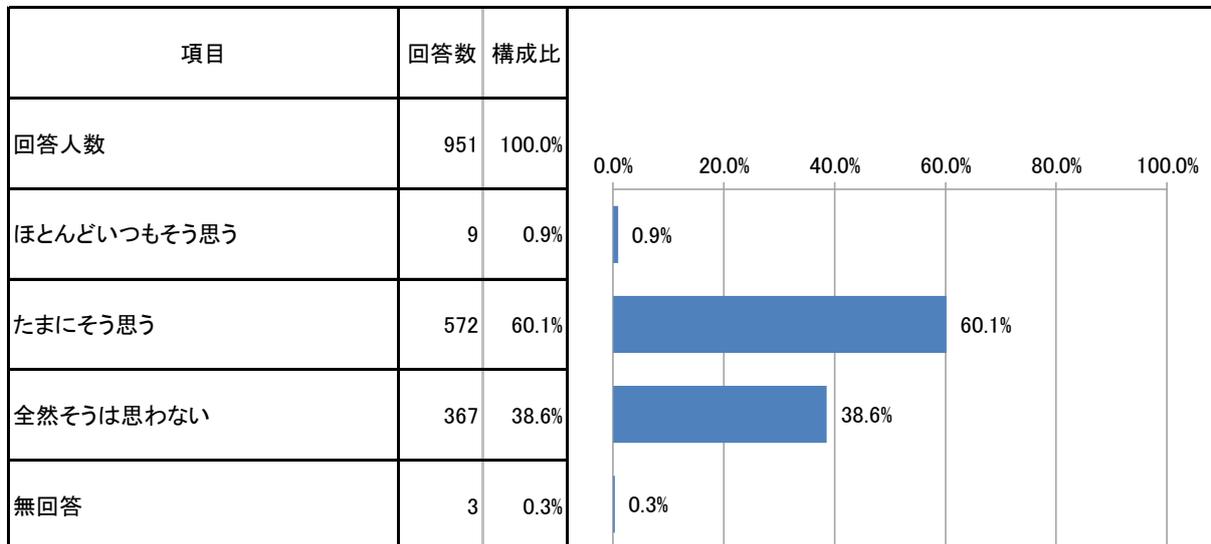
問 14 あなた（保護者）は、自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会がありましたか。ひとつに○)

保護者が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会があったかについては、「自分が親になるまで、考えたことはない」が 29.5%と最も高く、次いで「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が 27.2%、「親戚、友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた」が 26.5%となっている。



問 15 あなた（保護者）は、子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがありますか。（ひとつに○）

保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「たまにそう思う」が 60.1%と最も高く、次いで「全然そうは思わない」が 38.6%、「ほとんどいつもそう思う」が 0.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

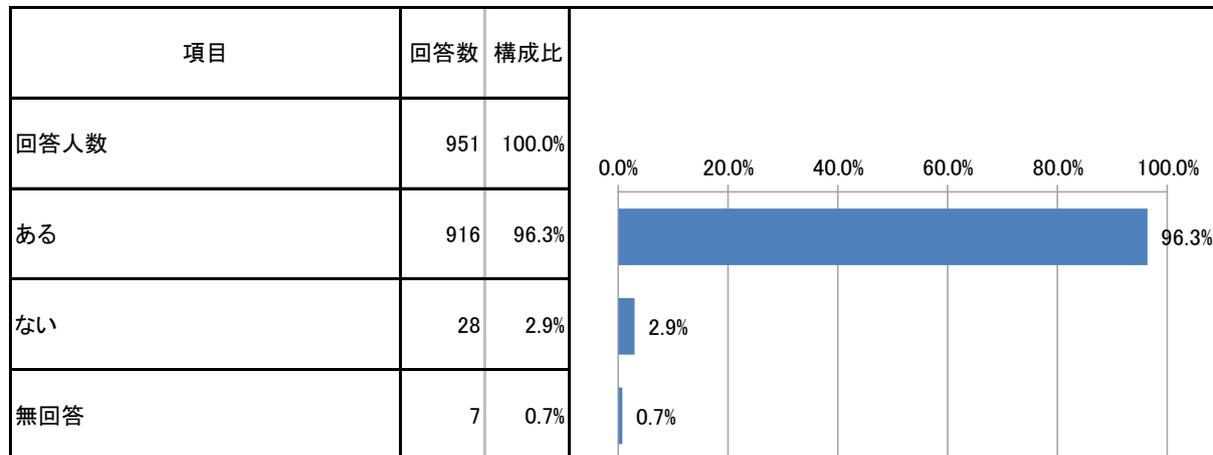
年齢別では、0歳は「全然そうは思わない」が66.7%と最も高く、1歳は「たまにそう思う」が48.9%、「全然そうは思わない」が48.1%と同程度であり、2歳以降は、「たまにそう思う」が最も高く、6割から7割を占めている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	484	100.0%	461	100.0%	6	100.0%
ほとんどいつもそう思う	9	0.9%	5	1.0%	4	0.9%	0	0.0%
たまにそう思う	572	60.1%	299	61.8%	269	58.4%	4	66.7%
全然そうは思わない	367	38.6%	178	36.8%	187	40.6%	2	33.3%
無回答	3	0.3%	2	0.4%	1	0.2%	0	0.0%

項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	100.0%	144	100.0%	135	100.0%	142	100.0%	129	100.0%	153	100.0%	162	100.0%	84	100.0%	2	100.0%
ほとんどいつもそう思う	9	0.9%	0	0.0%	3	2.2%	1	0.7%	1	0.8%	0	0.0%	4	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
たまにそう思う	572	60.1%	48	33.3%	66	48.9%	100	70.4%	83	64.3%	102	66.7%	119	73.5%	53	63.1%	1	50.0%
全然そうは思わない	367	38.6%	96	66.7%	65	48.1%	41	28.9%	45	34.9%	50	32.7%	39	24.1%	30	35.7%	1	50.0%
無回答	3	0.3%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%

問 16 あなた（保護者）は、子育てで困ったときに相談する人や施設がありますか。
（ひとつに○）

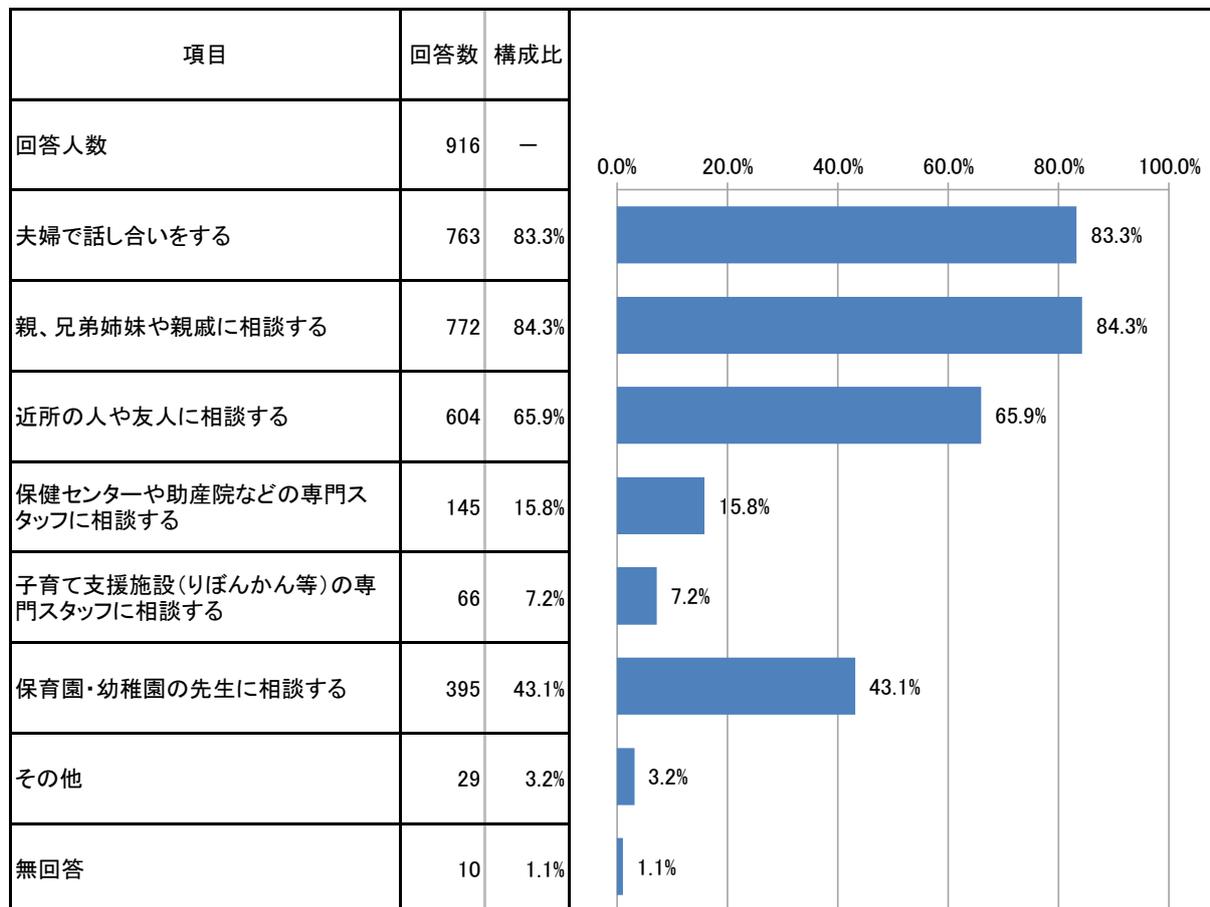
保護者が子育てで困ったときの相談先については、「ある」が 96.3%、「ない」が 2.9%となっている。



※問 16 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 17 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

保護者が子育てで困ったときの相談先については、「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が 84.3%と最も高く、次いで「夫婦で話し合いをする」が 83.3%、「近所の人や友人に相談する」が 65.9%となっている。



【乳幼児】

【属性別特徴】

年齢別では、全年齢において「夫婦で話し合いをする」「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」の割合が7割から9割と高くなっている。

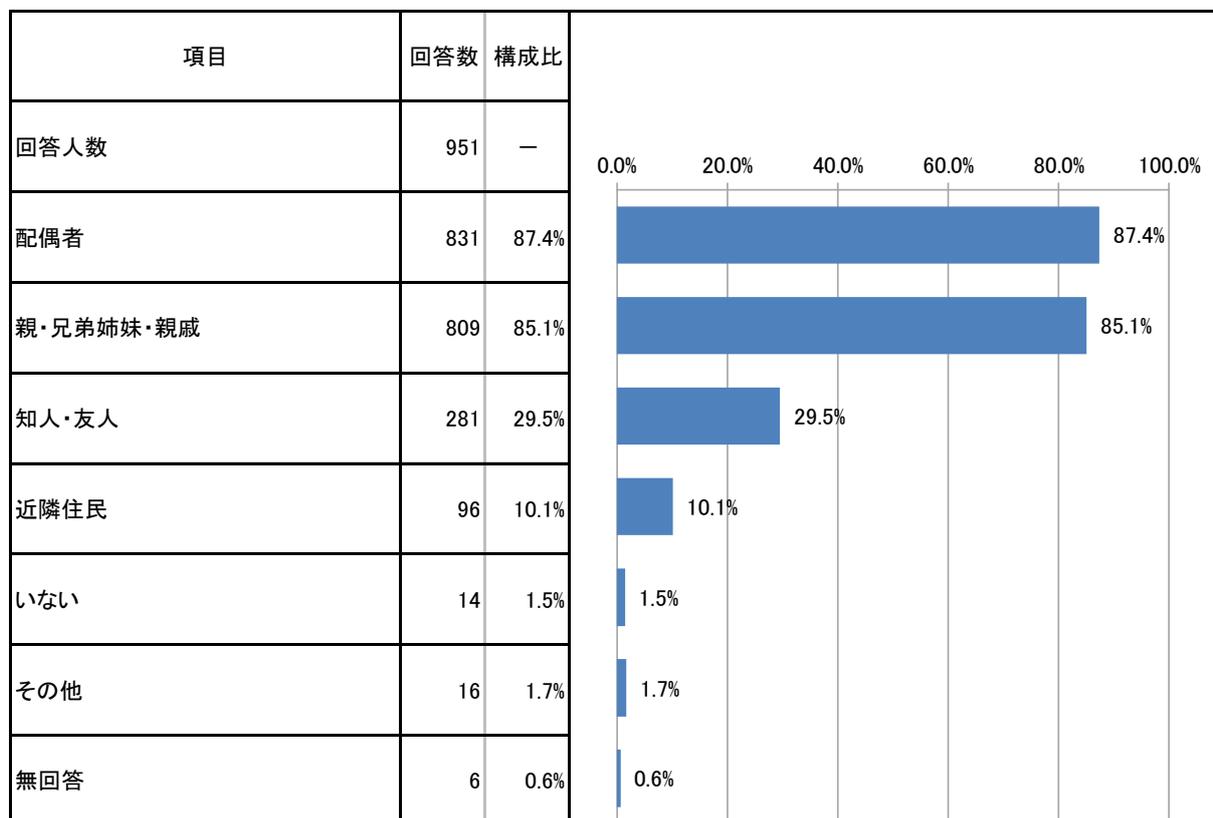
また、年齢が高くなるにつれて、「保育園・幼稚園の先生に相談する」の割合が高くなる傾向にある。

項目	回答人数		年齢別															
			0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	916	—	138	—	133	—	136	—	123	—	147	—	156	—	81	—	2	—
夫婦で話し合いをする	763	83.3%	125	90.6%	112	84.2%	116	85.3%	104	84.6%	120	81.6%	122	78.2%	62	76.5%	2	100.0%
親、兄弟姉妹や親戚に相談する	772	84.3%	124	89.9%	122	91.7%	114	83.8%	103	83.7%	112	76.2%	130	83.3%	65	80.2%	2	100.0%
近所の人や友人に相談する	604	65.9%	88	63.8%	93	69.9%	89	65.4%	77	62.6%	98	66.7%	99	63.5%	60	74.1%	0	0.0%
保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	145	15.8%	37	26.8%	31	23.3%	17	12.5%	15	12.2%	25	17.0%	14	9.0%	6	7.4%	0	0.0%
子育て支援施設(りぼんかん等)の専門スタッフに相談する	66	7.2%	18	13.0%	13	9.8%	13	9.6%	10	8.1%	6	4.1%	3	1.9%	3	3.7%	0	0.0%
保育園・幼稚園の先生に相談する	395	43.1%	24	17.4%	34	25.6%	50	36.8%	64	52.0%	80	54.4%	91	58.3%	50	61.7%	2	100.0%
その他	29	3.2%	2	1.4%	7	5.3%	5	3.7%	1	0.8%	2	1.4%	11	7.1%	1	1.2%	0	0.0%
無回答	10	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.4%	2	1.4%	3	1.9%	2	2.5%	0	0.0%

問 18 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 18-1 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

保護者の子育てを手伝ってくれる人については、「配偶者」が 87.4%と最も高く、次いで「親・兄弟姉妹・親戚」が 85.1%、「知人・友人」が 29.5%となっている。



【乳幼児】

【属性別特徴】

年齢別では、3歳以上の「知人・友人」が33.9%で、2歳以下の24.2%に比べてやや高くなっている。

就園状況別では、幼稚園児の「知人・友人」が40.0%で、未就園児の26.7%、保育園児の22.9%に比べて高くなっている。

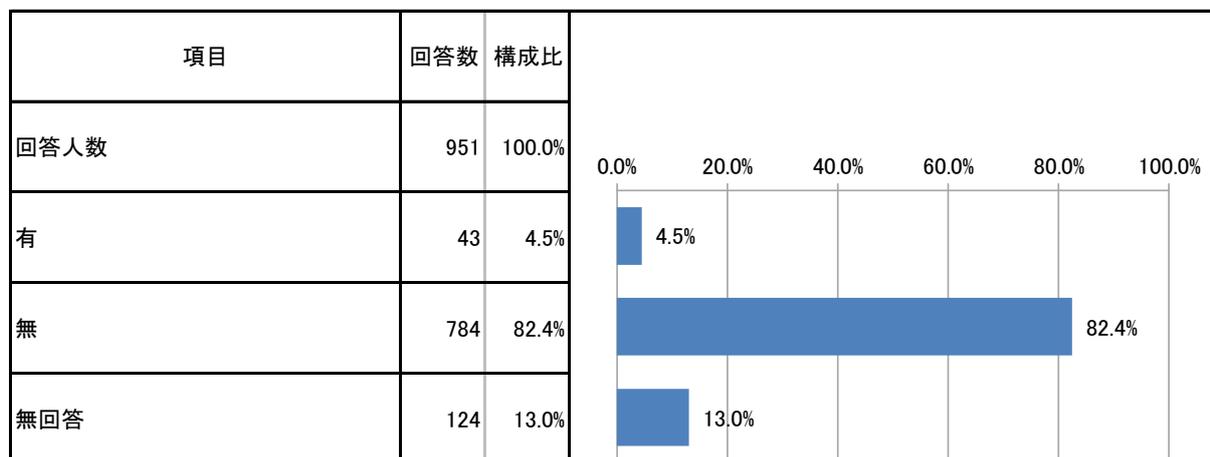
項目	回答人数		年齢別						就園状況別							
			2歳以下		3歳以上		無回答		未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	—	421	—	528	—	2	—	337	—	297	—	305	—	12	—
配偶者	831	87.4%	380	90.3%	449	85.0%	2	100.0%	307	91.1%	236	79.5%	276	90.5%	12	100.0%
親・兄弟姉妹・親戚	809	85.1%	362	86.0%	445	84.3%	2	100.0%	291	86.4%	256	86.2%	251	82.3%	11	91.7%
知人・友人	281	29.5%	102	24.2%	179	33.9%	0	0.0%	90	26.7%	68	22.9%	122	40.0%	1	8.3%
近隣住民	96	10.1%	23	5.5%	73	13.8%	0	0.0%	21	6.2%	26	8.8%	48	15.7%	1	8.3%
いない	14	1.5%	6	1.4%	8	1.5%	0	0.0%	5	1.5%	8	2.7%	1	0.3%	0	0.0%
その他	16	1.7%	7	1.7%	9	1.7%	0	0.0%	6	1.8%	4	1.3%	5	1.6%	1	8.3%
無回答	6	0.6%	3	0.7%	3	0.6%	0	0.0%	1	0.3%	3	1.0%	2	0.7%	0	0.0%

問 18-2 あなた（保護者）は、子どもの一時預かりの施設等を利用したことがありますか。（AからDの項目ごとにひとつに○）

A ファミリー・サポート・センターの育児支援

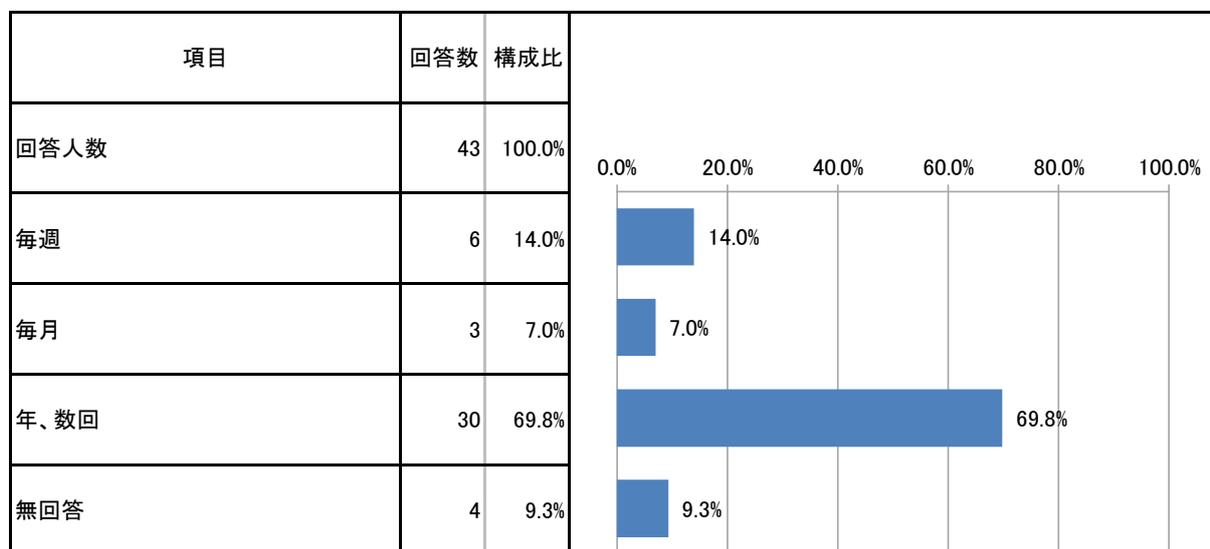
(1) 利用の有無

ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用の有無については、「有」が4.5%、「無」が82.4%となっている。



(2) 利用頻度

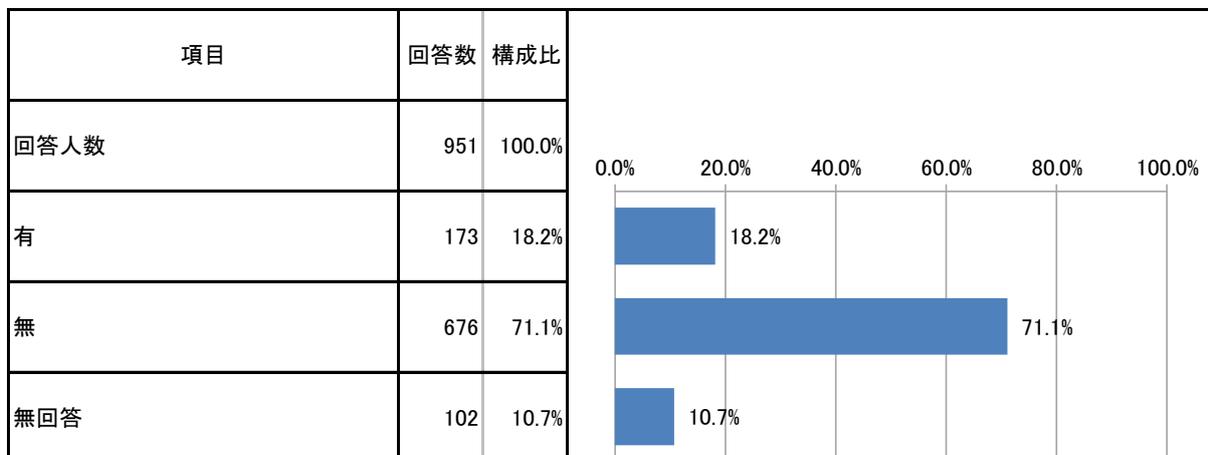
ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用頻度については、「年、数回」が69.8%と最も高く、次いで「毎週」が14.0%、「毎月」が7.0%となっている。



B 保育園の一時預かり

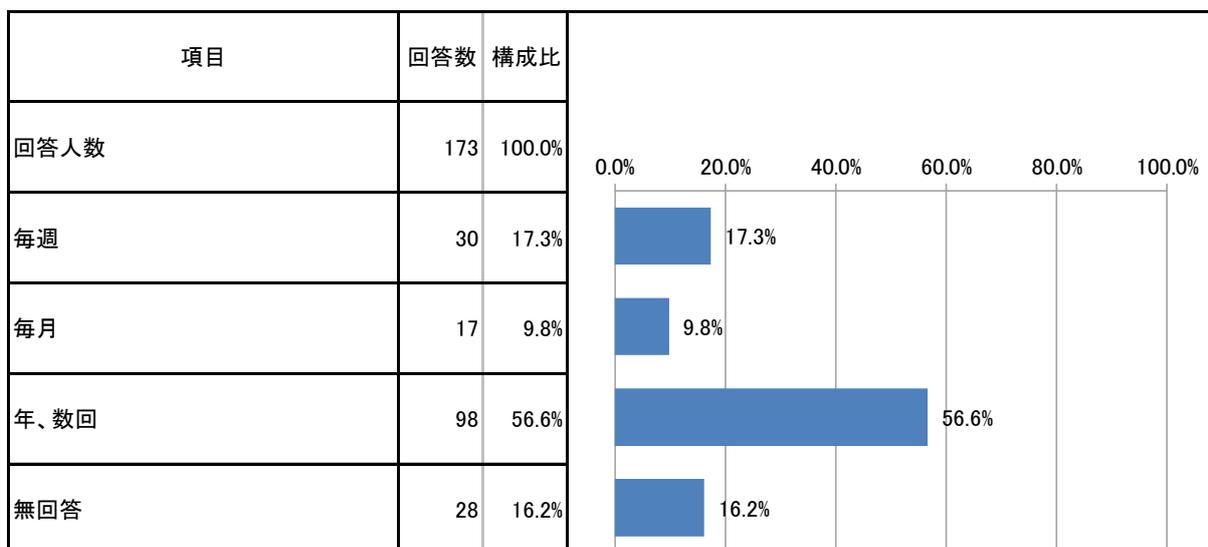
(1) 利用の有無

保育園の一時預かりの利用の有無については、「有」が18.2%、「無」が71.1%となっている。



(2) 利用頻度

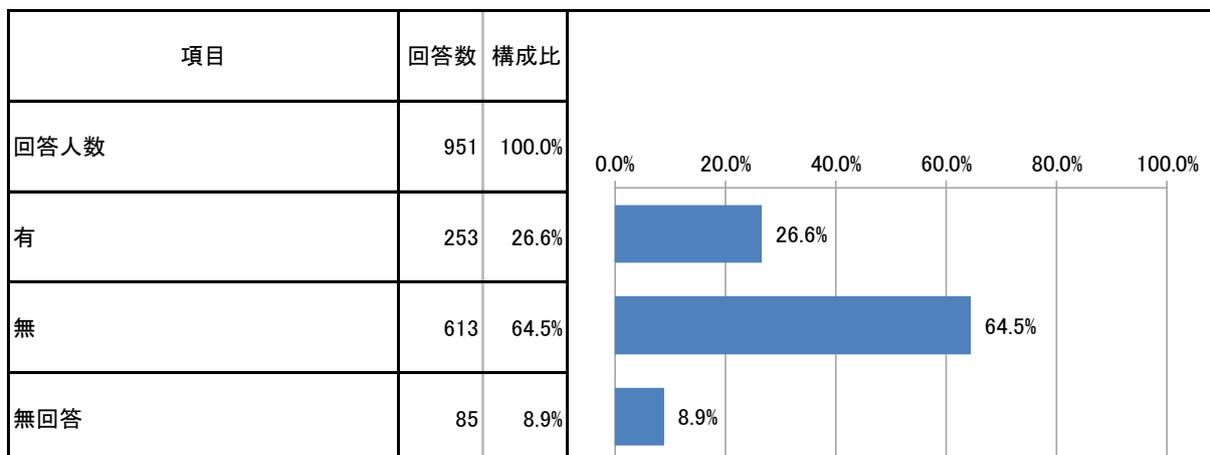
保育園の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が56.6%と最も高く、次いで「毎週」が17.3%、「毎月」が9.8%となっている。



C 幼稚園の預かり保育

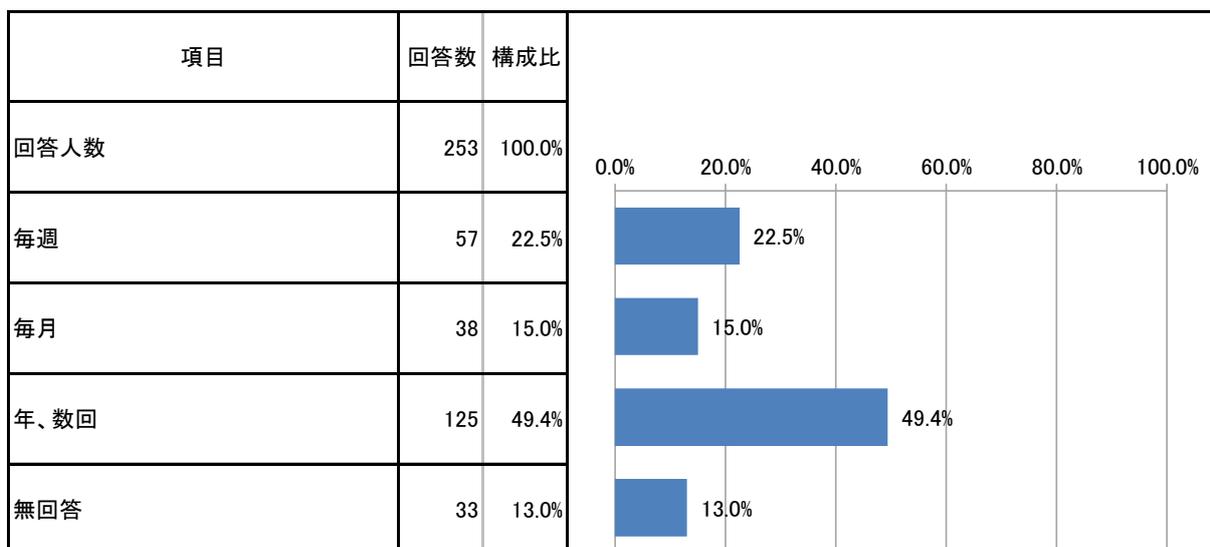
(1) 利用の有無

幼稚園の預かり保育の利用の有無については、「有」が26.6%、「無」が64.5%となっている。



(2) 利用頻度

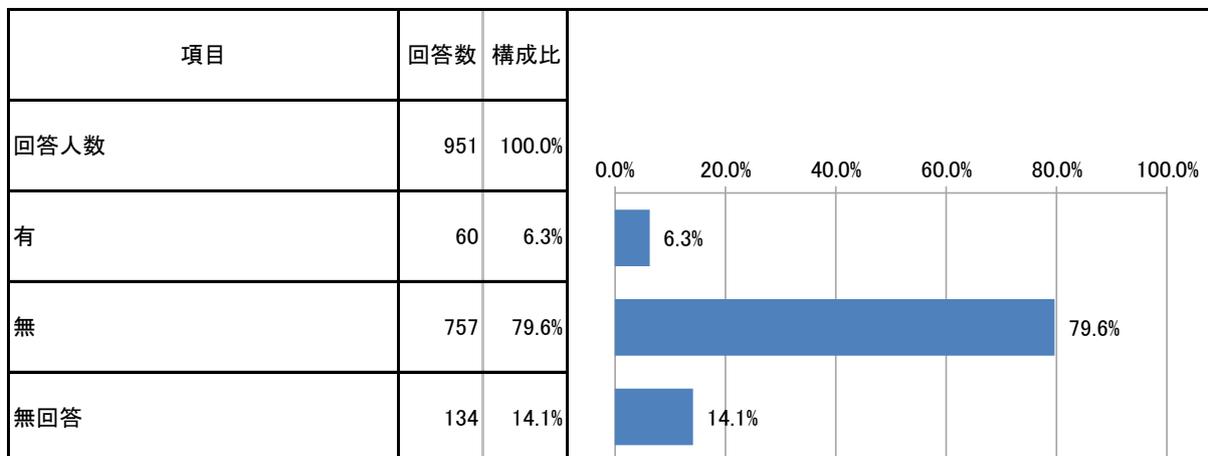
幼稚園の預かり保育の利用頻度については、「年、数回」が49.4%と最も高く、次いで「毎週」が22.5%、「毎月」が15.0%となっている。



D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かり

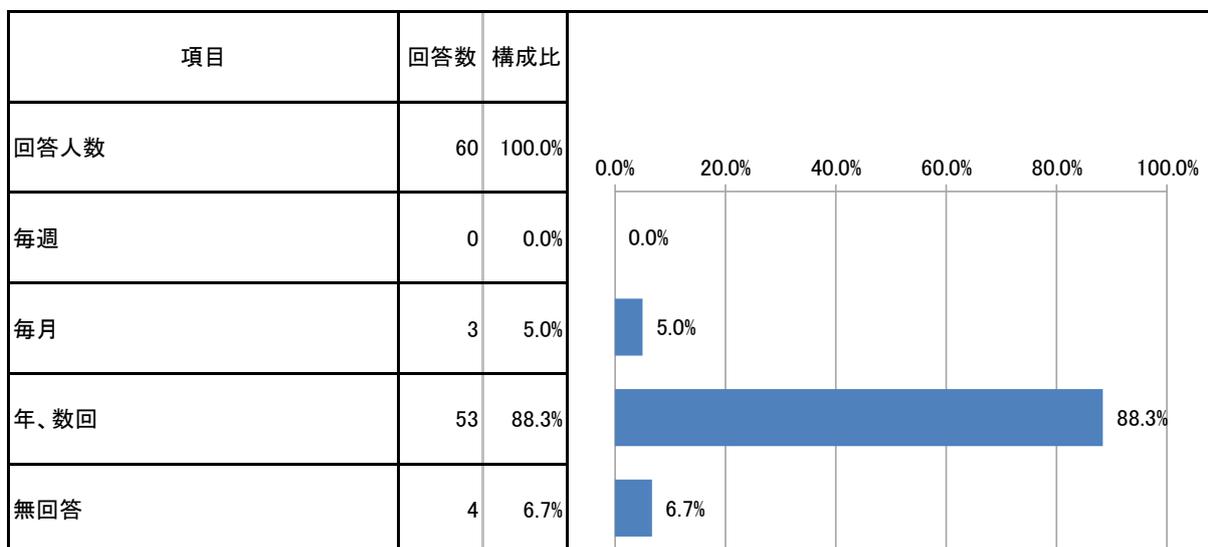
(1) 利用の有無

すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用の有無については、「有」が6.3%、「無」が79.6%となっている。



(2) 利用頻度

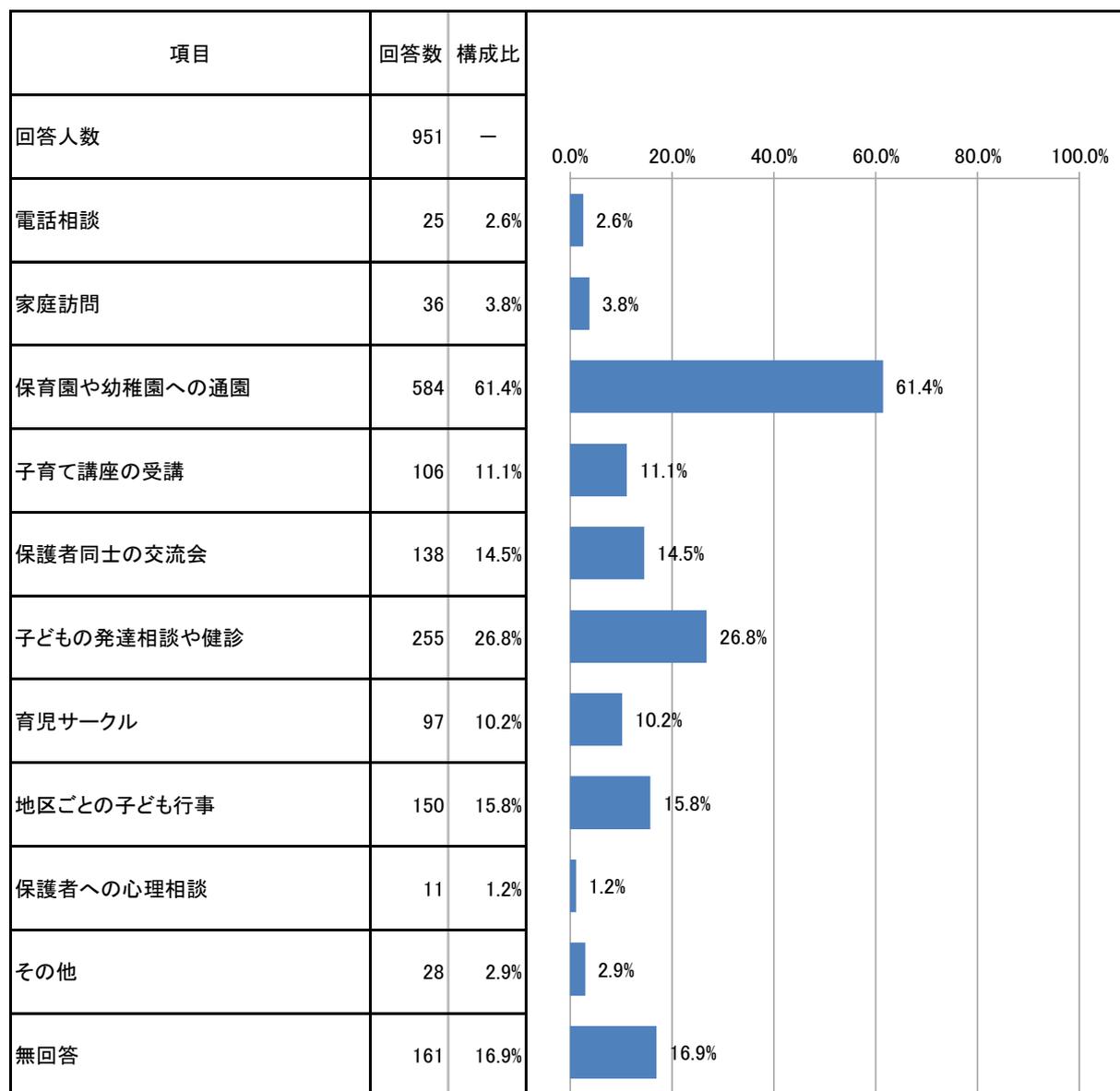
すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が88.3%、「毎月」が5.0%となっている。



問19 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

（現在活用している）

保護者の子育て支援の活用状況については、「保育園や幼稚園への通園」が61.4%と最も高く、次いで「子どもの発達相談や健診」が26.8%、「地区ごとの子ども行事」が15.8%、「保護者同士の交流会」が14.5%となっている。



【属性別特徴】

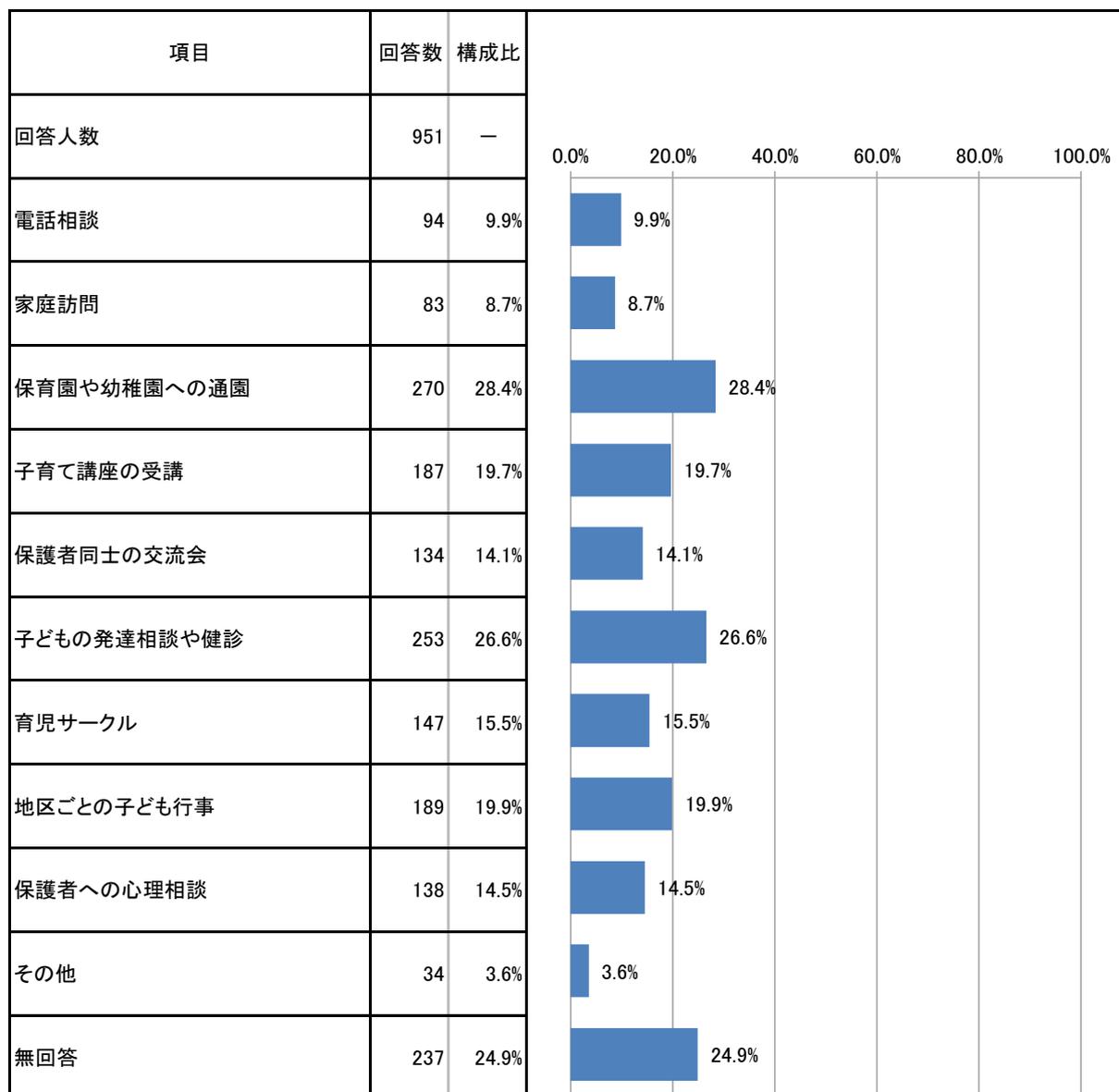
年齢別では、3歳以上の「保育園や幼稚園への通園」が82.4%で、2歳以下の35.2%に比べて高くなっている。

就園状況別では、未就園児の「子育て講座の受講」「子どもの発達相談や健診」「育児サークル」の割合が、保育園児、幼稚園児に比べて高くなっている。

項目	回答人数		年齢別						就園状況別							
			2歳以下		3歳以上		無回答		未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	—	421	—	528	—	2	—	337	—	297	—	305	—	12	—
電話相談	25	2.6%	16	3.8%	9	1.7%	0	0.0%	13	3.9%	5	1.7%	6	2.0%	1	8.3%
家庭訪問	36	3.8%	23	5.5%	13	2.5%	0	0.0%	23	6.8%	5	1.7%	7	2.3%	1	8.3%
保育園や幼稚園への通園	584	61.4%	148	35.2%	435	82.4%	1	50.0%	51	15.1%	261	87.9%	269	88.2%	3	25.0%
子育て講座の受講	106	11.1%	69	16.4%	37	7.0%	0	0.0%	60	17.8%	19	6.4%	26	8.5%	1	8.3%
保護者同士の交流会	138	14.5%	41	9.7%	97	18.4%	0	0.0%	34	10.1%	29	9.8%	75	24.6%	0	0.0%
子どもの発達相談や健診	255	26.8%	140	33.3%	115	21.8%	0	0.0%	115	34.1%	76	25.6%	62	20.3%	2	16.7%
育児サークル	97	10.2%	66	15.7%	31	5.9%	0	0.0%	66	19.6%	11	3.7%	20	6.6%	0	0.0%
地区ごとの子ども行事	150	15.8%	38	9.0%	112	21.2%	0	0.0%	33	9.8%	42	14.1%	74	24.3%	1	8.3%
保護者への心理相談	11	1.2%	4	1.0%	7	1.3%	0	0.0%	4	1.2%	4	1.3%	3	1.0%	0	0.0%
その他	28	2.9%	15	3.6%	13	2.5%	0	0.0%	16	4.7%	4	1.3%	8	2.6%	0	0.0%
無回答	161	16.9%	108	25.7%	52	9.8%	1	50.0%	110	32.6%	27	9.1%	16	5.2%	8	66.7%

(充実して欲しい)

充実して欲しい子育て支援については、「保育園や幼稚園への通園」が 28.4%と最も高く、次いで「子どもの発達相談や健診」が 26.6%、「地区ごとの子ども行事」が 19.9%、「子育て講座の受講」が 19.7%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、2歳以下の「子どもの発達相談や健診」が29.9%で、3歳以上の23.3%に比べてやや高くなっている。

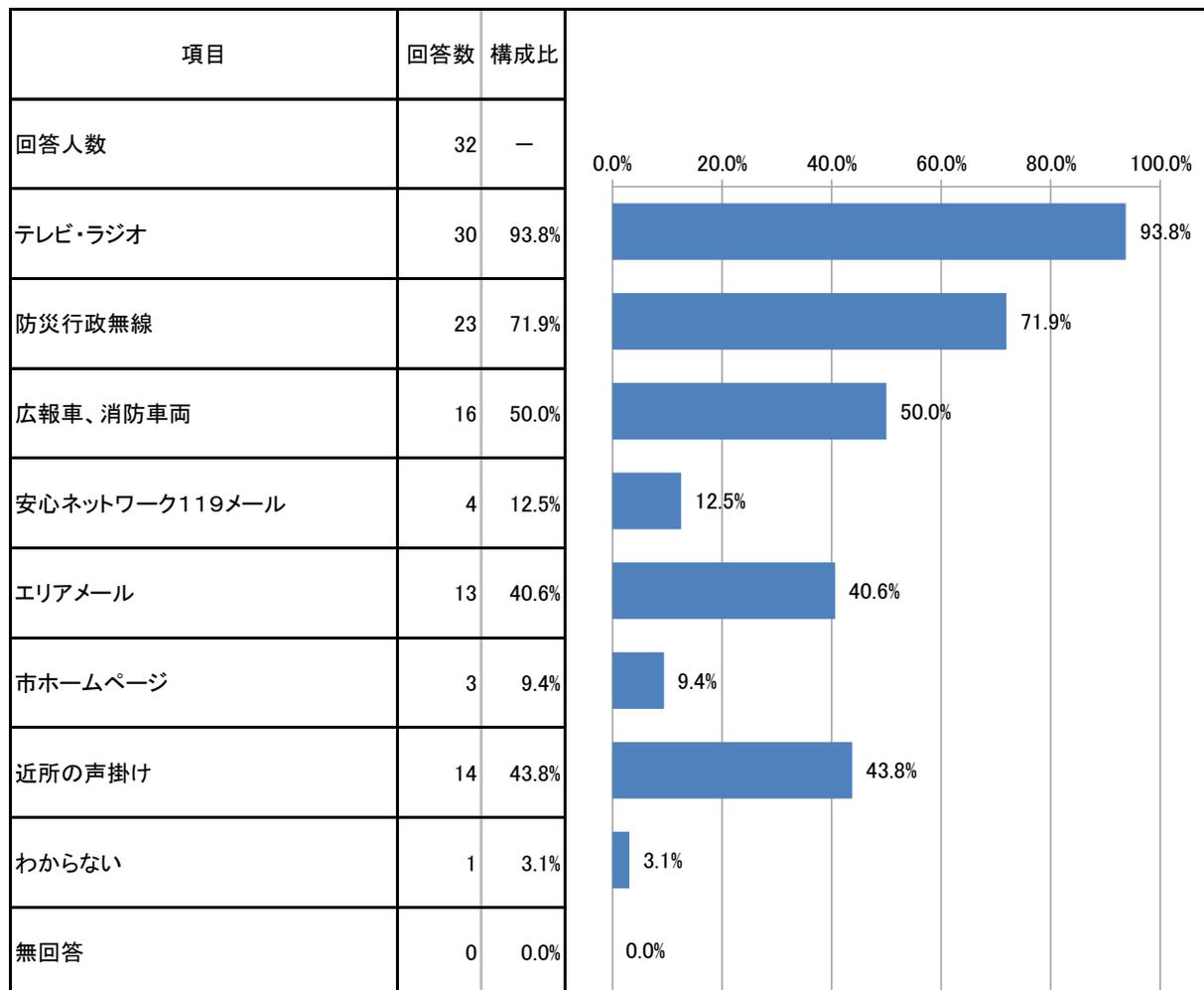
就園状況別では、未就園児、保育園児、幼稚園児の「保育園や幼稚園への通園」が、それぞれ28.5%、28.3%、29.2%と、いずれの就園状況においても高い割合を示している。

項目	回答人数		年齢別						就園状況別							
			2歳以下		3歳以上		無回答		未就園児		保育園児		幼稚園児		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	951	—	421	—	528	—	2	—	337	—	297	—	305	—	12	—
電話相談	94	9.9%	46	10.9%	48	9.1%	0	0.0%	28	8.3%	23	7.7%	43	14.1%	0	0.0%
家庭訪問	83	8.7%	45	10.7%	38	7.2%	0	0.0%	43	12.8%	17	5.7%	21	6.9%	2	16.7%
保育園や幼稚園への通園	270	28.4%	134	31.8%	135	25.6%	1	50.0%	96	28.5%	84	28.3%	89	29.2%	1	8.3%
子育て講座の受講	187	19.7%	97	23.0%	89	16.9%	1	50.0%	78	23.1%	50	16.8%	58	19.0%	1	8.3%
保護者同士の交流会	134	14.1%	71	16.9%	62	11.7%	1	50.0%	41	12.2%	52	17.5%	40	13.1%	1	8.3%
子どもの発達相談や健診	253	26.6%	126	29.9%	123	23.3%	4	200.0%	98	29.1%	81	27.3%	74	24.3%	0	0.0%
育児サークル	147	15.5%	75	17.8%	70	13.3%	2	100.0%	73	21.7%	35	11.8%	36	11.8%	3	25.0%
地区ごとの子ども行事	189	19.9%	96	22.8%	93	17.6%	0	0.0%	69	20.5%	56	18.9%	63	20.7%	1	8.3%
保護者への心理相談	138	14.5%	68	16.2%	67	12.7%	3	150.0%	41	12.2%	44	14.8%	52	17.0%	1	8.3%
その他	34	3.6%	14	3.3%	20	3.8%	0	0.0%	13	3.9%	8	2.7%	13	4.3%	0	0.0%
無回答	237	24.9%	121	28.7%	114	21.6%	2	100.0%	80	23.7%	80	26.9%	71	23.3%	6	50.0%

※問 20～22 は桜島にお住まいの方（保護者）への質問です。

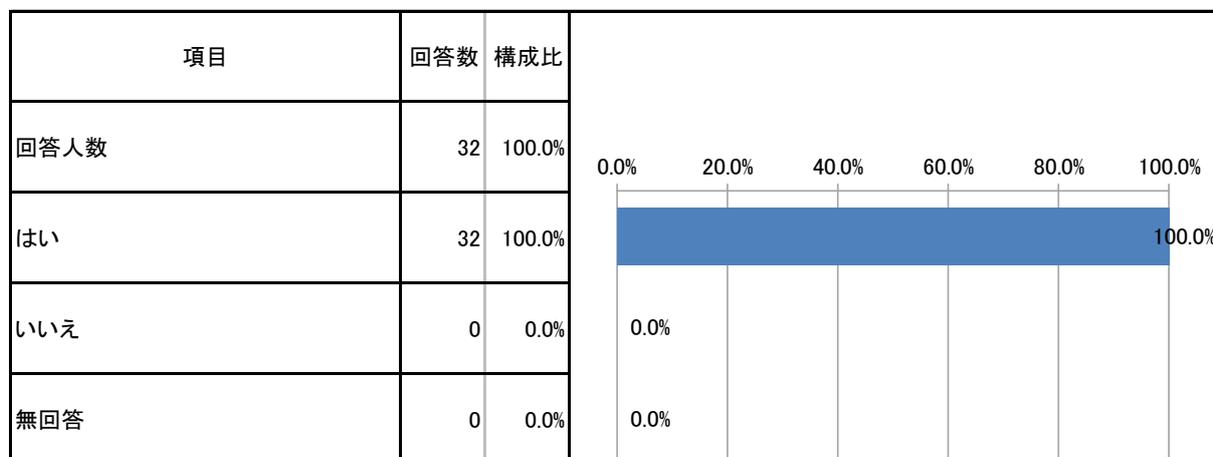
問 20 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。避難情報などの情報は何で収集しますか。（あてはまるものすべてに○）

避難情報などの情報収集方法については、「テレビ・ラジオ」が93.8%と最も高く、次いで「防災行政無線」が71.9%、「広報車、消防車両」が50.0%となっている。



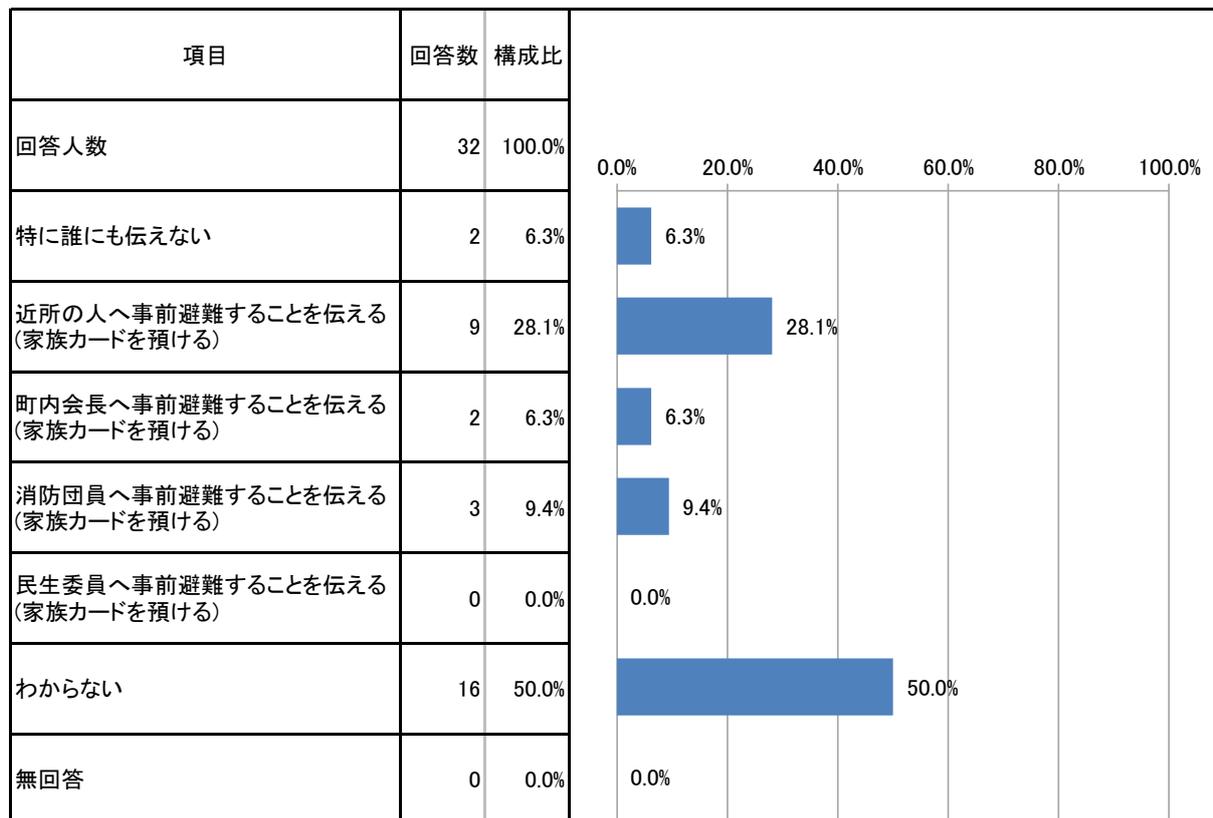
問 21 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール(安心ネットワーク119メール)を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。(ひとつに○)

携帯電話を持っているかについては、「はい」が100.0%となっている。



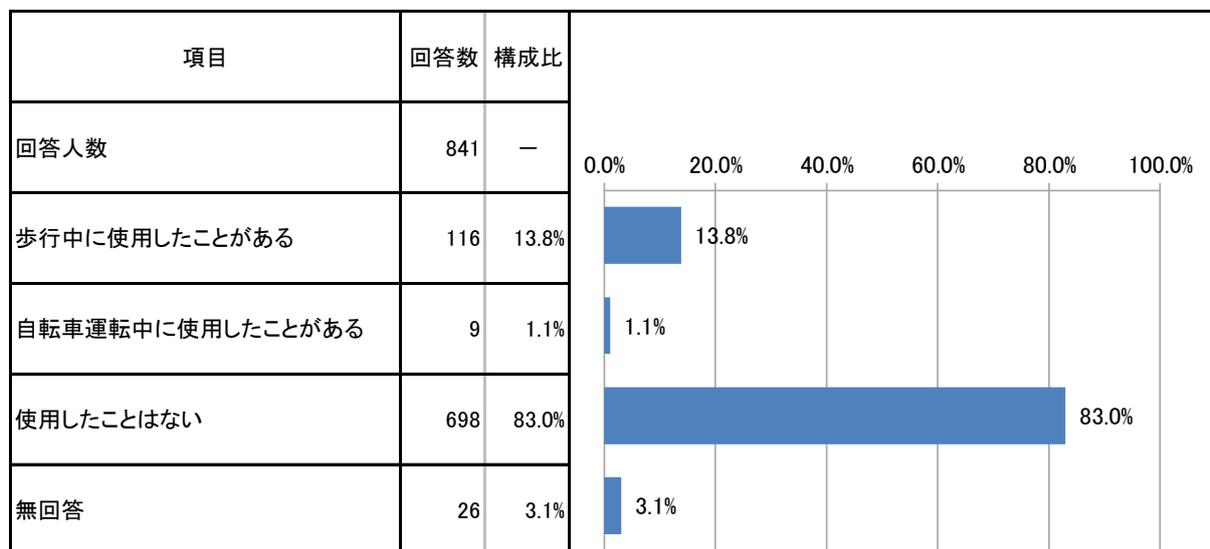
問 22 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することとなっていますが、「避難勧告」が出される前に自主的に避難する場合、避難したことを地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。(ひとつに○)

「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことの周囲への伝達方法については、「わからない」が50.0%と最も高く、次いで「近所の人へ事前避難することを伝える(家族カードを預ける)」が28.1%、「消防団員へ事前避難することを伝える(家族カードを預ける)」が9.4%となっている。



問3 近年、歩行中にスマートフォンを使用する「歩きスマホ」が社会問題となっていますが、対象のお子さんは、歩行中や自転車運転中に、携帯電話（スマートフォンを含む）を使用したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

歩行中や自転車運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用については、「使用したことはない」が83.0%と最も高く、次いで「歩行中に使用したことがある」が13.8%で、「自転車運転中に使用したことがある」は1.1%とほとんどない。



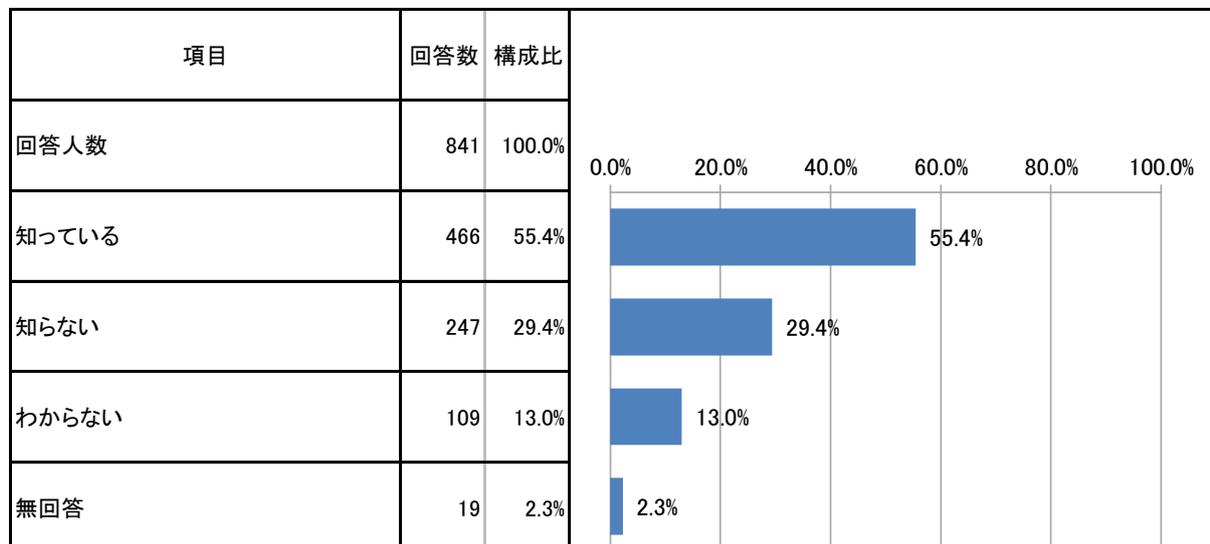
【属性別特徴】

就学状況別では、すべての属性で「使用したことはない」が最も高く、8割程度を占めているが、「歩行中に使用したことがある」は、中学生が最も高く、20.1%、次いで小学校高学年が14.3%、小学校低学年が5.6%となっており、学年が低くなるほどその割合は低くなっている。

項目	回答人数		就学状況別							
			小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	841	—	266	—	265	—	308	—	2	—
歩行中に使用したことがある	116	13.8%	15	5.6%	38	14.3%	62	20.1%	1	50.0%
自転車運転中に使用したことがある	9	1.1%	1	0.4%	0	0.0%	8	2.6%	0	0.0%
使用したことはない	698	83.0%	237	89.1%	220	83.0%	240	77.9%	1	50.0%
無回答	26	3.1%	13	4.9%	7	2.6%	6	1.9%	0	0.0%

問4 対象のお子さんは、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることを知っていますか。（ひとつに○）

自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることの認知度については、「知っている」が55.4%と最も高く、次いで「知らない」が29.4%、「わからない」が13.0%となっている。



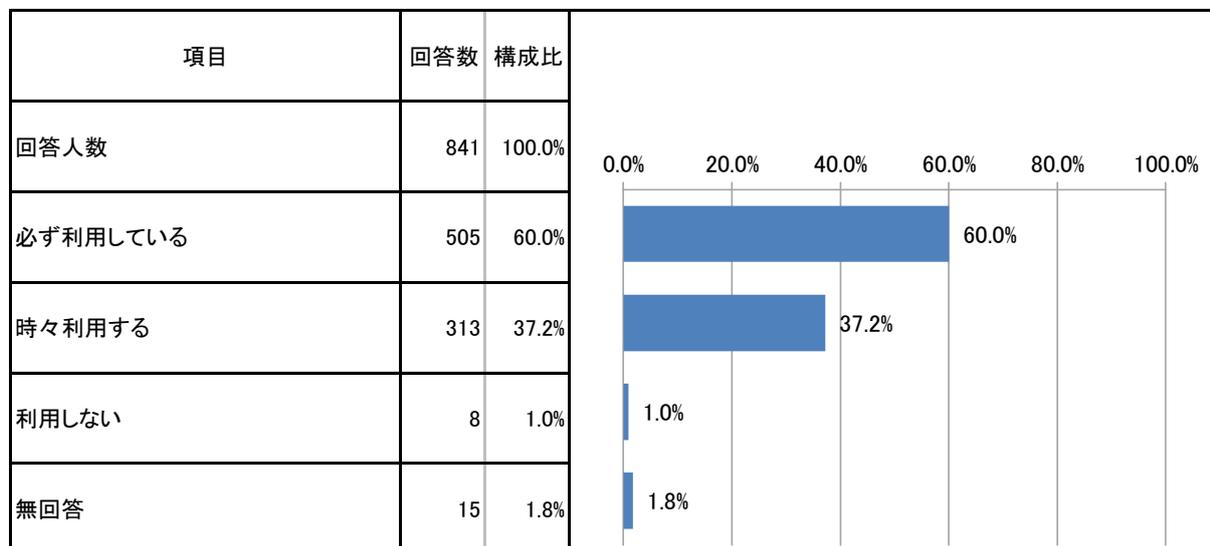
【属性別特徴】

就学状況別では、小学校低学年の「知っている」が37.6%と最も低く、次いで、小学校高学年で58.1%、中学生で68.2%と、学年が上がるほど認知度が高くなっている。

項目	回答人数		就学状況別							
			小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	841	100.0%	266	100.0%	265	100.0%	308	100.0%	2	100.0%
知っている	466	55.4%	100	37.6%	154	58.1%	210	68.2%	2	100.0%
知らない	247	29.4%	108	40.6%	72	27.2%	67	21.8%	0	0.0%
わからない	109	13.0%	55	20.7%	29	10.9%	25	8.1%	0	0.0%
無回答	19	2.3%	3	1.1%	10	3.8%	6	1.9%	0	0.0%

問5 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。（ひとつに○）

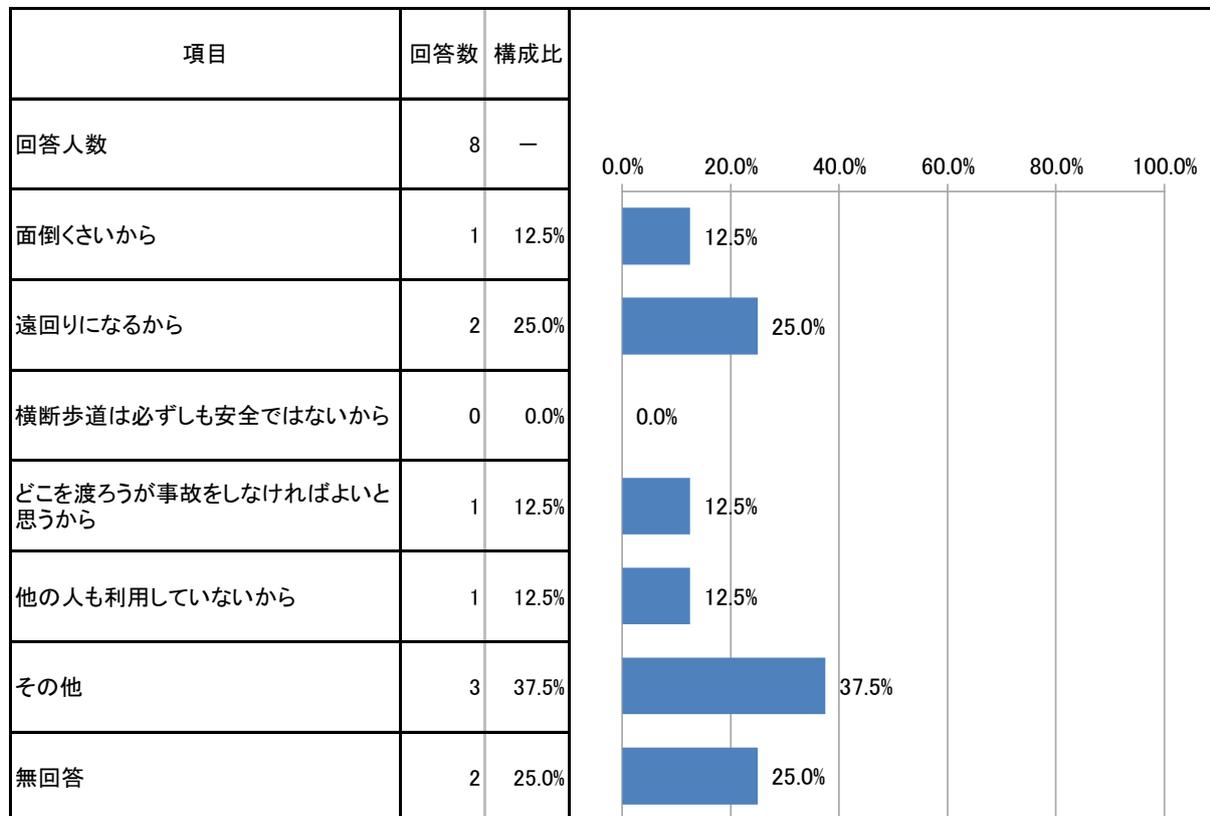
保護者が歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合の利用については、「必ず利用している」が60.0%と最も高く、次いで「時々利用する」が37.2%で、「利用しない」は1.0%とほとんどない。



※問5で『③利用しない』とご回答された方にお聞きします。

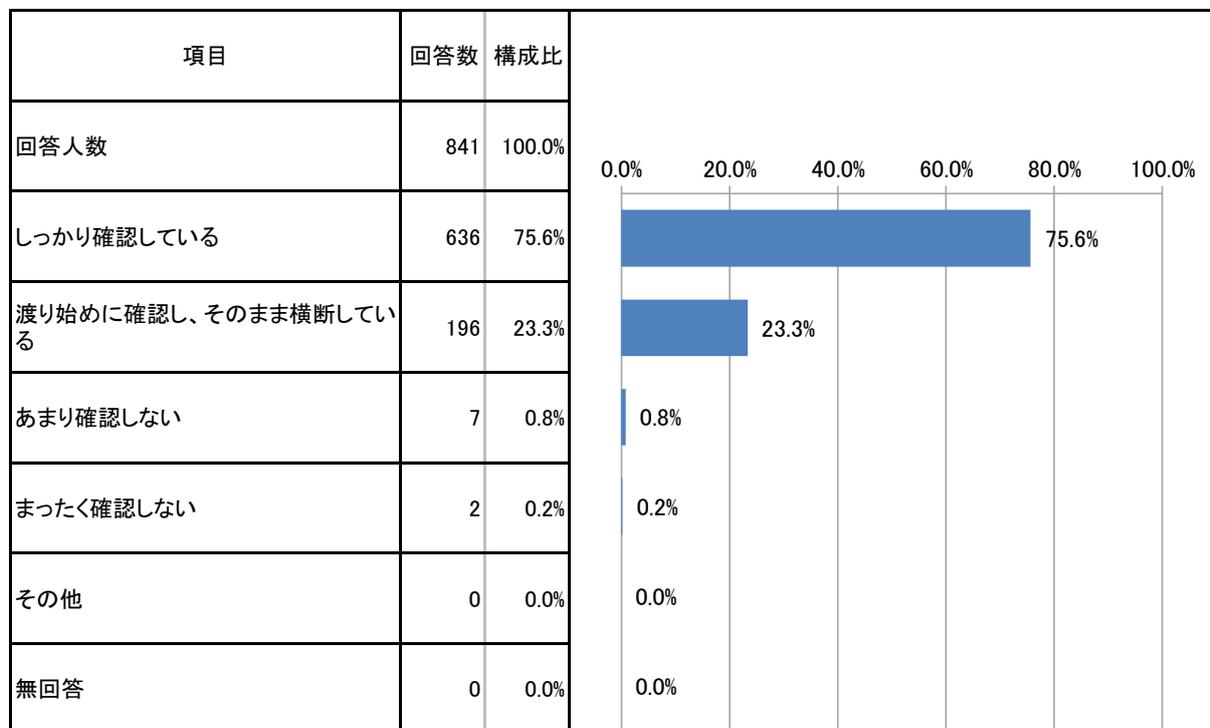
問5-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

保護者が横断歩道を利用しない理由については、「横断歩道が必ずしも安全ではないから」とする回答はなかったものの、他の理由はいずれも同程度であった。



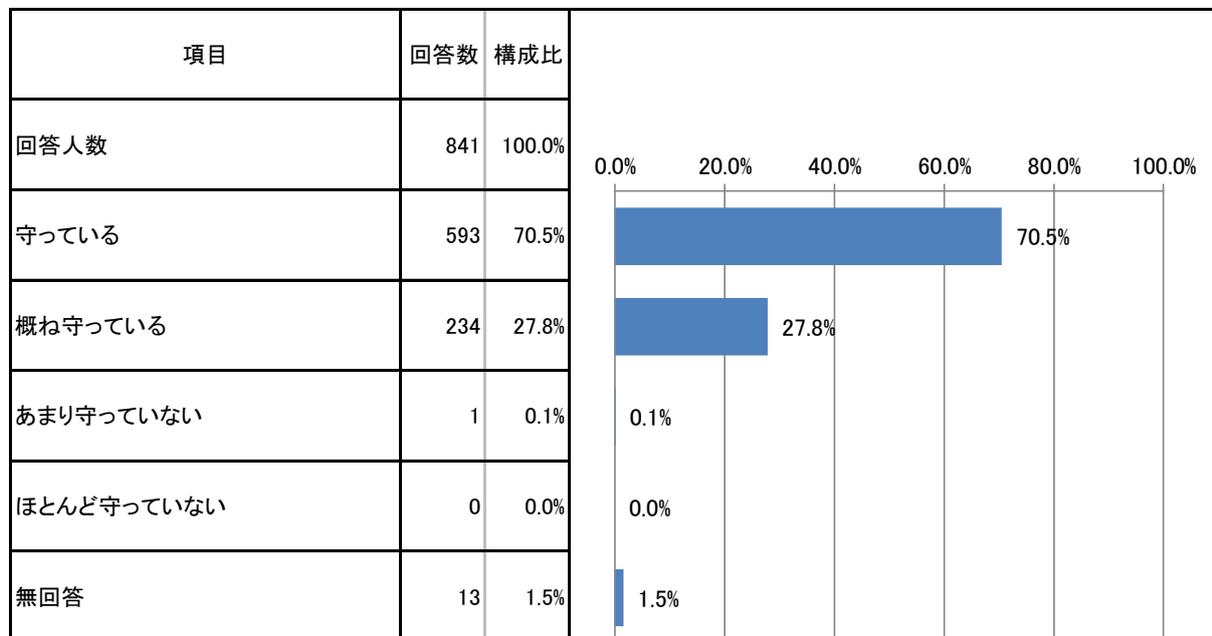
問6 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。（ひとつに○）

保護者が歩行中に道路を横断する際の安全確認については、「しっかり確認している」が75.6%と最も高く、次いで「渡り始めに確認し、そのまま横断している」が23.3%で、「あまり確認しない」「まったく確認しない」はほとんどない。



問7 あなた（保護者）は、歩行中に信号機をついた横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っていますか。（ひとつに○）

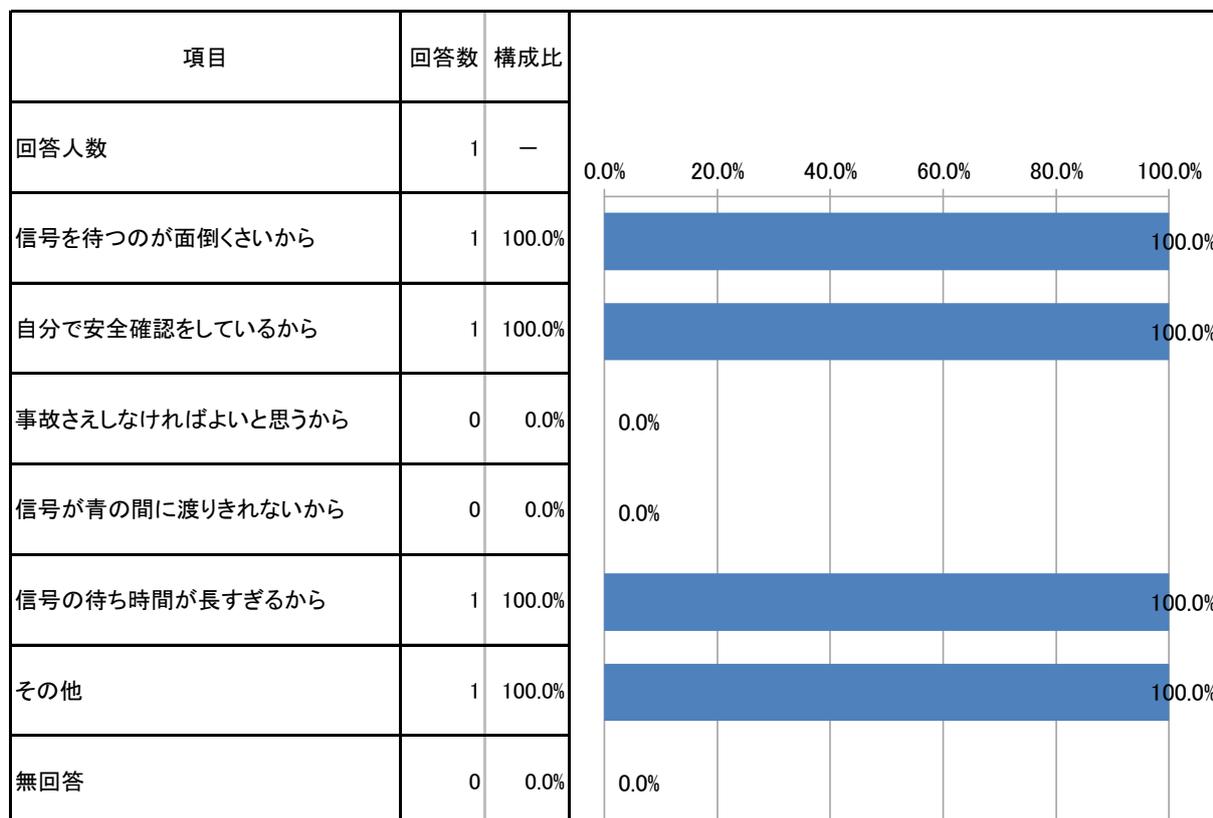
保護者が歩行中に信号機をついた横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っているかについては、「守っている」が70.5%と最も高く、次いで「概ね守っている」が27.8%で、「あまり守っていない」はほとんどない。



※問7で『③あまり守っていない』『④ほとんど守っていない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

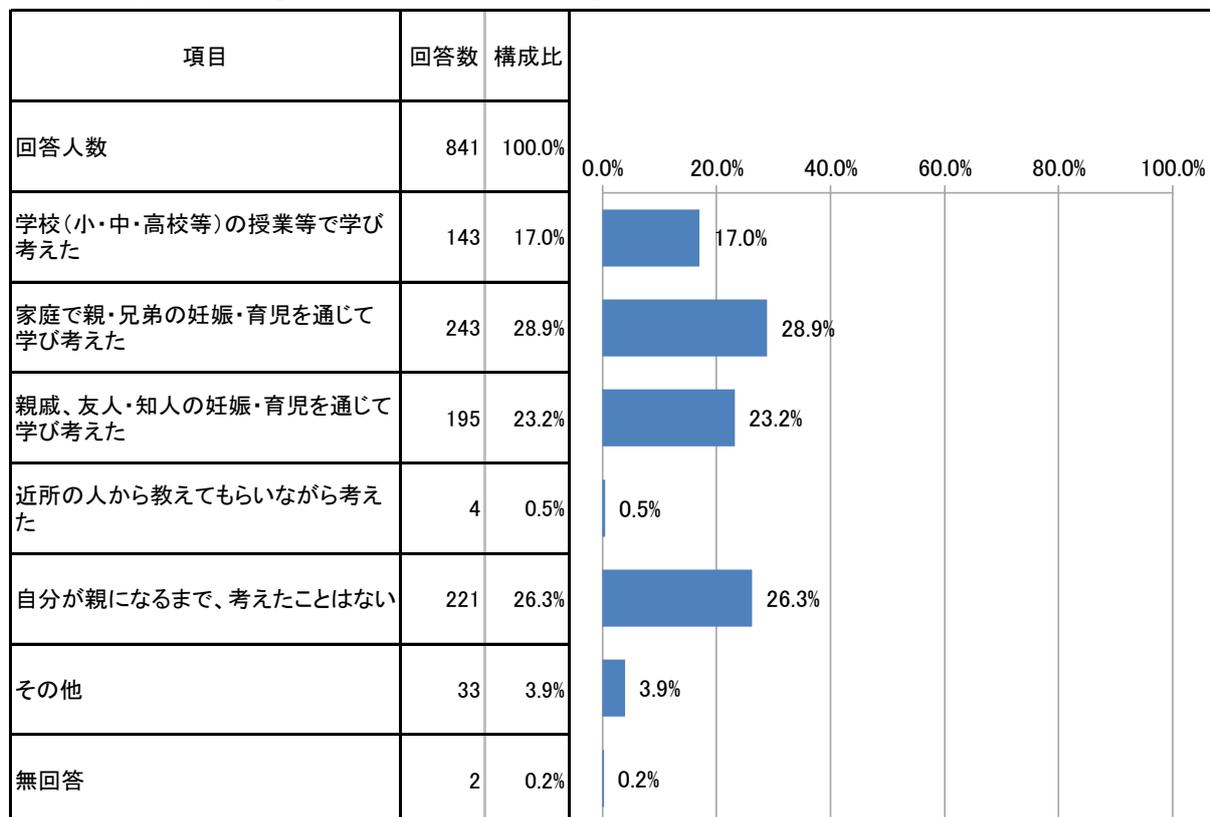
問7-1 ルール（信号）を守っていないことがある理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

ルール（信号）を守っていないことがある理由については、「信号を待つのが面倒くさいから」「自分で安全確認をしているから」「信号の待ち時間が長すぎるから」を選択していた。



問8 あなた（保護者）は、自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会がありましたか。（ひとつに〇）

保護者が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会があったかについては、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が28.9%と最も高く、次いで「自分が親になるまで、考えたことはない」が26.3%、「親戚、友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた」が23.2%となっている。



【属性別特徴】

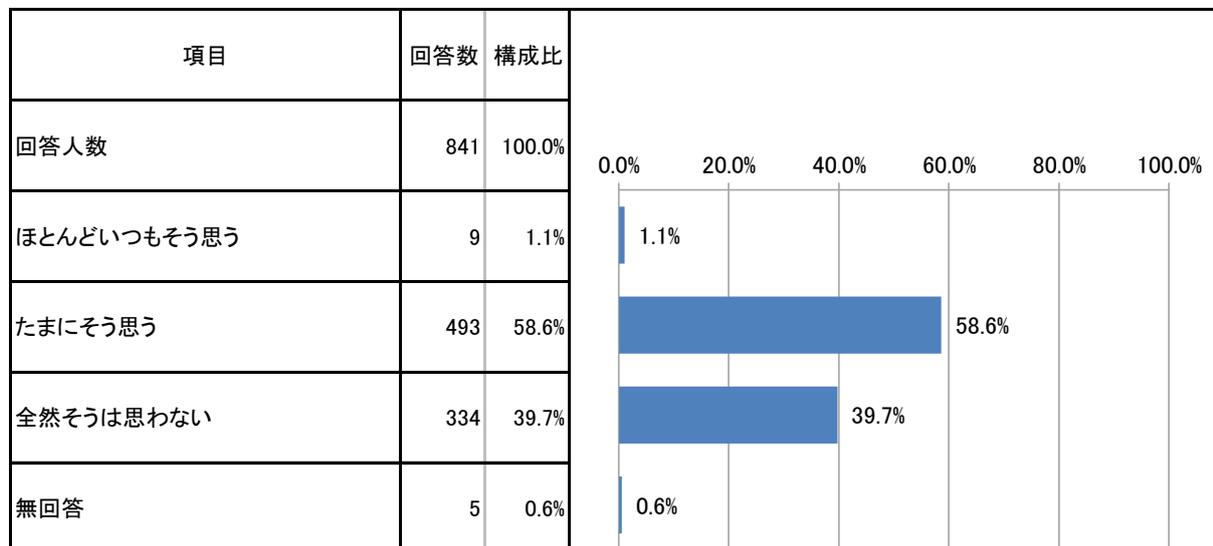
性別では、大きな差異はみられない。

就学状況別では、小学校低学年の「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が35.7%で、小学校高学年の28.7%、中学生の23.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						就学状況別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	841	100.0%	437	100.0%	402	100.0%	2	100.0%	266	100.0%	265	100.0%	308	100.0%	2	100.0%
学校(小・中・高校等)の授業等で学び考えた	143	17.0%	68	15.6%	75	18.7%	0	0.0%	42	15.8%	42	15.8%	59	19.2%	0	0.0%
家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた	243	28.9%	128	29.3%	114	28.4%	1	50.0%	95	35.7%	76	28.7%	72	23.4%	0	0.0%
親戚、友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた	195	23.2%	98	22.4%	97	24.1%	0	0.0%	61	22.9%	62	23.4%	72	23.4%	0	0.0%
近所の人から教えてもらいながら考えた	4	0.5%	3	0.7%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	3	1.0%	0	0.0%
自分が親になるまで、考えたことはない	221	26.3%	125	28.6%	96	23.9%	0	0.0%	58	21.8%	74	27.9%	88	28.6%	1	50.0%
その他	33	3.9%	15	3.4%	18	4.5%	0	0.0%	10	3.8%	10	3.8%	13	4.2%	0	0.0%
無回答	2	0.2%	0	0.0%	1	0.2%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	50.0%

問9 あなた（保護者）は、子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがありますか。（ひとつに○）

保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「たまにそう思う」が 58.6%と最も高く、次いで「全然そうは思わない」が 39.7%、「ほとんどいつもそう思う」が 1.1%となっている。



【属性別特徴】

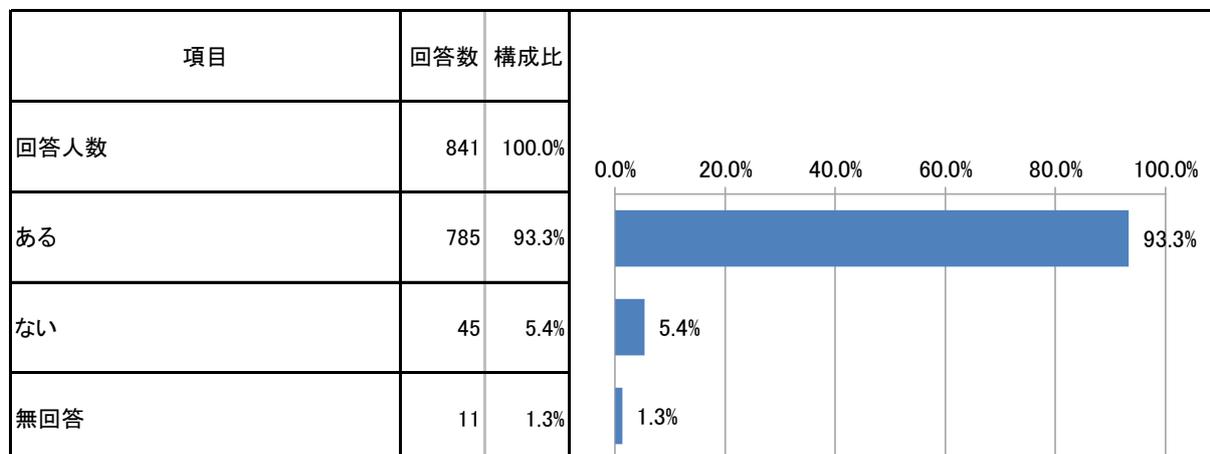
性別では、大きな差異はみられない。

就学状況別では、小学校低学年の「たまにそう思う」が 67.7%で、小学校高学年の 59.6%、中学生の 50.0%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						就学状況別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	841	100.0%	437	100.0%	402	100.0%	2	100.0%	266	100.0%	265	100.0%	308	100.0%	2	100.0%
ほとんどいつもそう思う	9	1.1%	5	1.1%	4	1.0%	0	0.0%	5	1.9%	1	0.4%	3	1.0%	0	0.0%
たまにそう思う	493	58.6%	259	59.3%	233	58.0%	1	50.0%	180	67.7%	158	59.6%	154	50.0%	1	50.0%
全然そうは思わない	334	39.7%	173	39.6%	161	40.0%	0	0.0%	81	30.5%	104	39.2%	149	48.4%	0	0.0%
無回答	5	0.6%	0	0.0%	4	1.0%	1	50.0%	0	0.0%	2	0.8%	2	0.6%	1	50.0%

問 10 あなた（保護者）は、子育てで困ったときに相談する人や施設がありますか。
（ひとつに○）

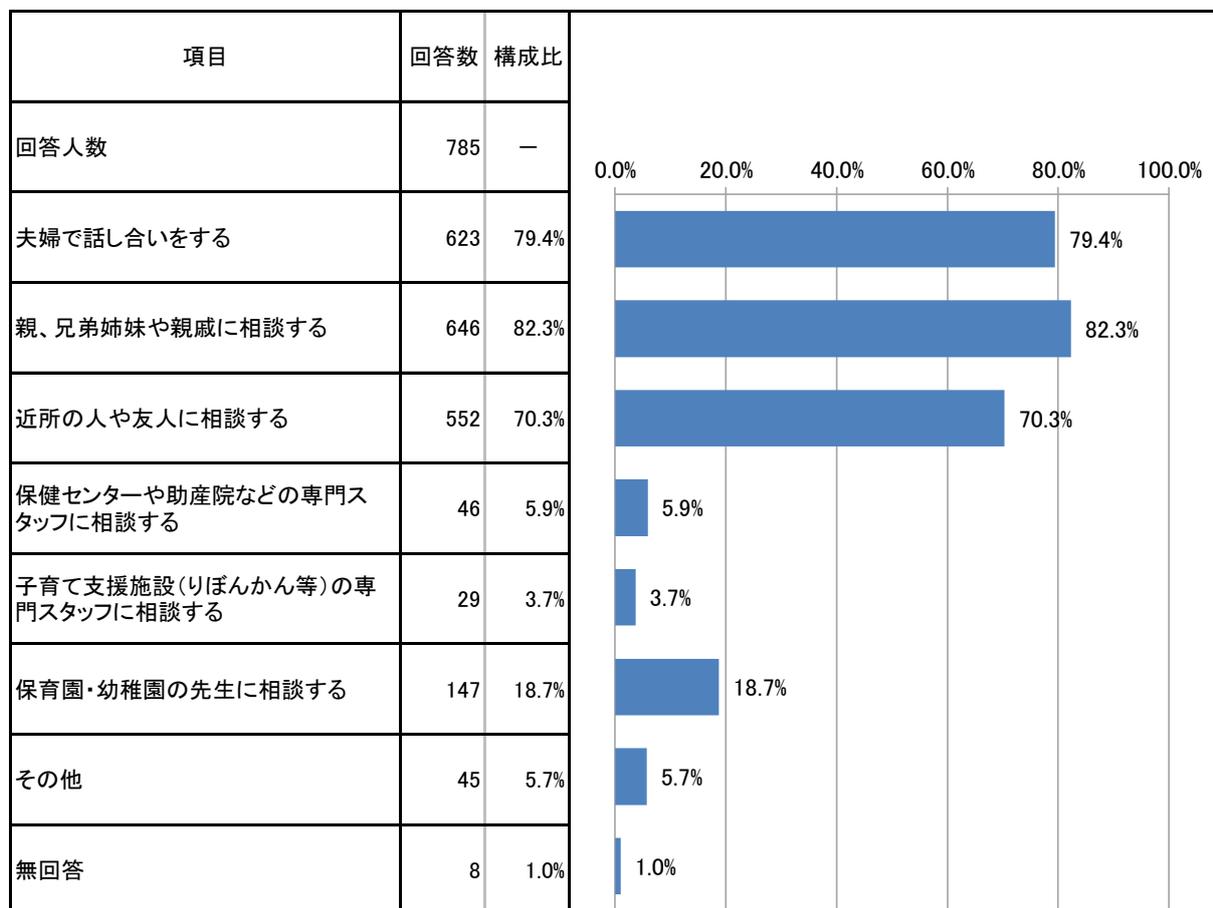
保護者が子育てで困ったときの相談先については、「ある」が 93.3%、「ない」が 5.4%となっている。



※問 10 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 11 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

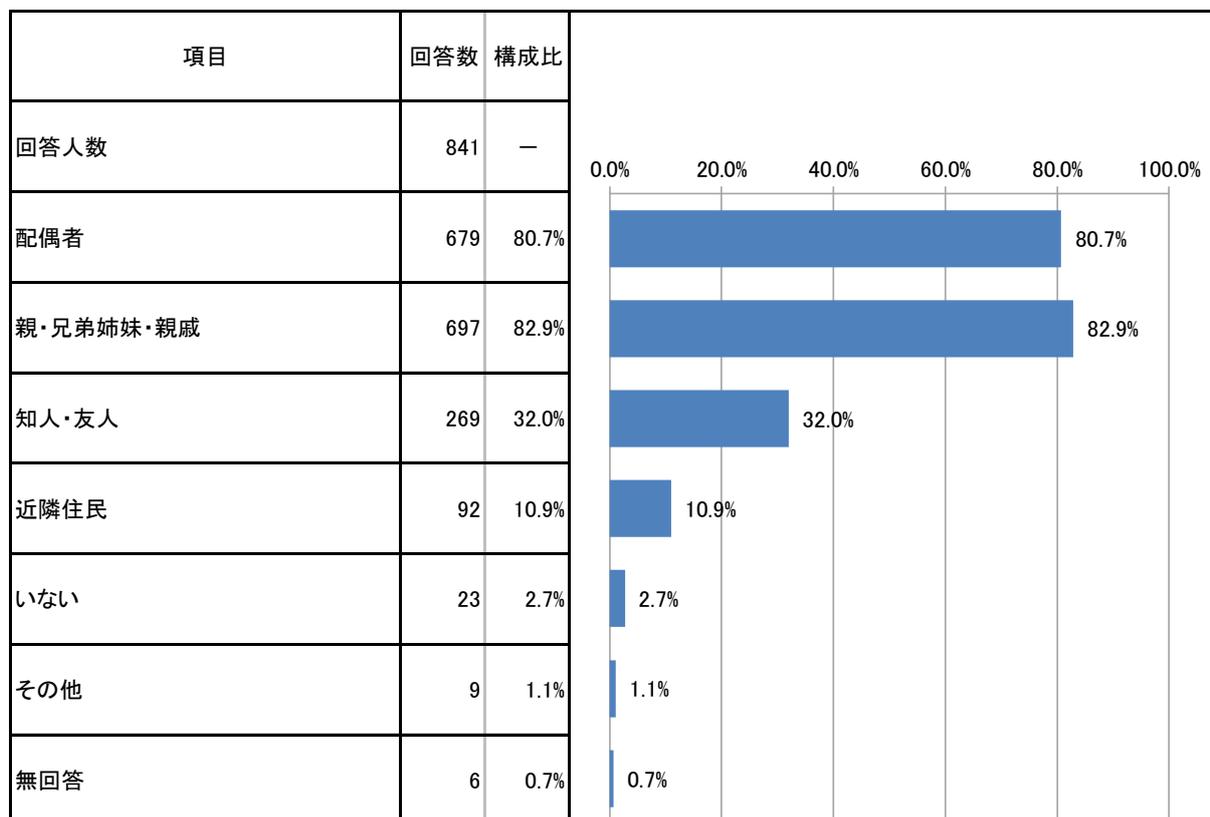
保護者が子育てで困ったときの相談先については、「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が 82.3%と最も高く、次いで「夫婦で話し合いをする」が 79.4%、「近所の人や友人に相談する」が 70.3%となっている。



問 12 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 12-1 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

保護者の子育てを手伝ってくれる人については、「親・兄弟姉妹・親戚」が 82.9%と最も高く、次いで「配偶者」が 80.7%、「知人・友人」が 32.0%となっている。

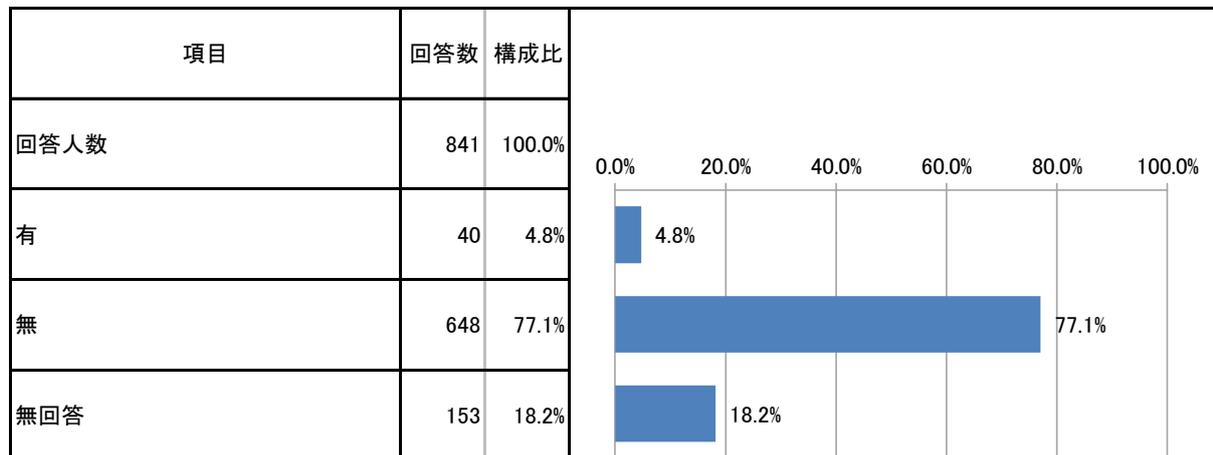


問 12-2 あなた（保護者）は、子どもの一時預かりの施設等を利用したことがありますか。（AからDの項目ごとにひとつに○）

A ファミリー・サポート・センターの育児支援

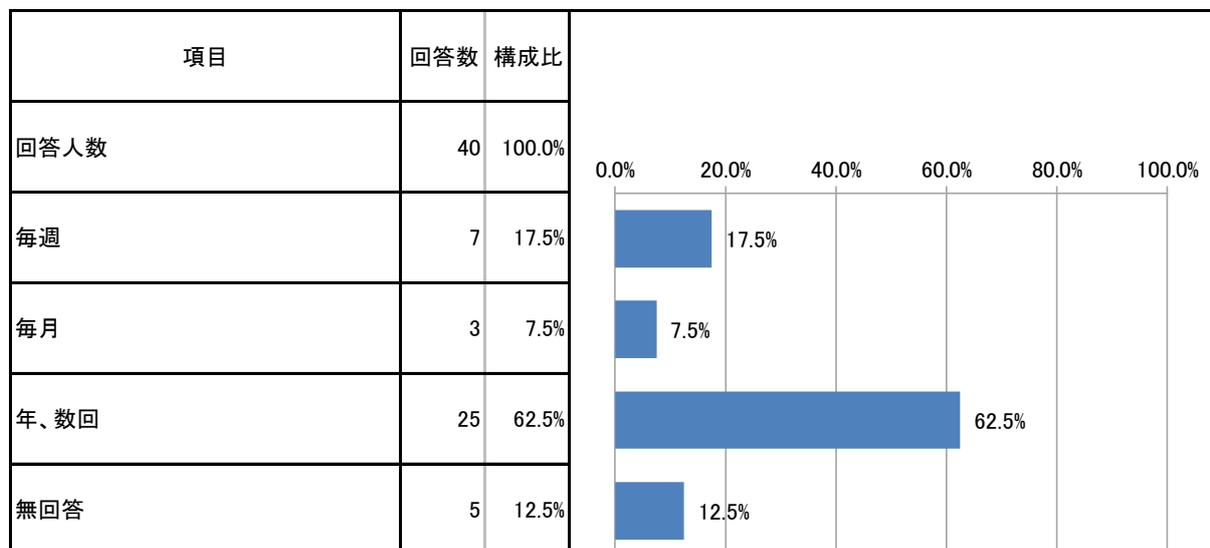
(1) 利用の有無

ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用の有無については、「有」が4.8%、「無」が77.1%となっている。



(2) 利用頻度

ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用頻度については、「年、数回」が62.5%と最も高く、次いで「毎週」が17.5%、「毎月」が7.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「年、数回」が65.2%で、女の58.8%に比べてやや高くなっている。

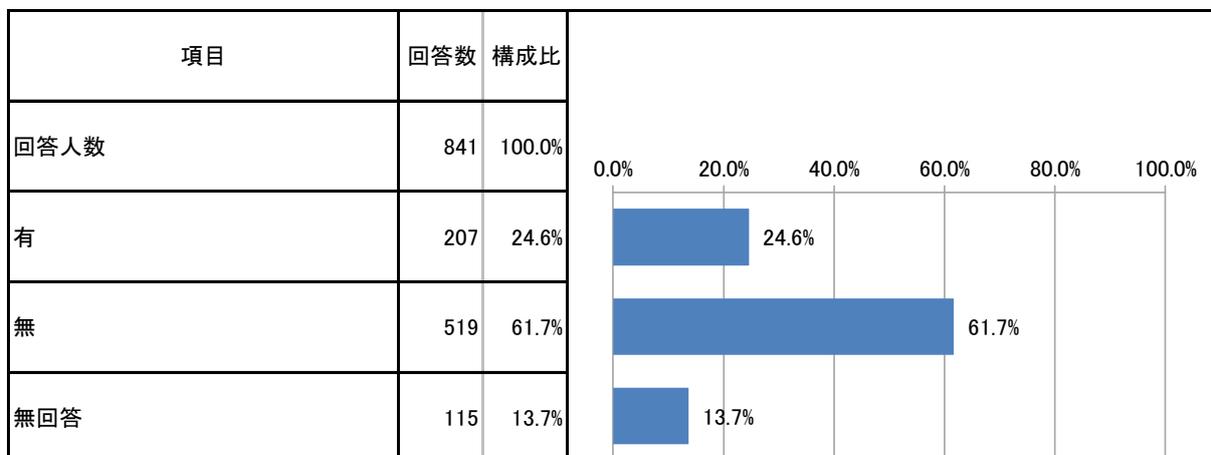
就学状況別では、小学校低学年の「年、数回」が46.7%で、小学校高学年の69.2%、中学生の75.0%に比べて低くなっている。

項目	回答人数		性別						就学状況別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	40	100.0%	23	100.0%	17	100.0%	0	0.0%	15	100.0%	13	100.0%	12	100.0%	0	0.0%
毎週	7	17.5%	4	17.4%	3	17.6%	0	—	5	33.3%	1	7.7%	1	8.3%	0	—
毎月	3	7.5%	2	8.7%	1	5.9%	0	—	0	0.0%	2	15.4%	1	8.3%	0	—
年、数回	25	62.5%	15	65.2%	10	58.8%	0	—	7	46.7%	9	69.2%	9	75.0%	0	—
無回答	5	12.5%	2	8.7%	3	17.6%	0	—	3	20.0%	1	7.7%	1	8.3%	0	—

B 保育園の一時預かり

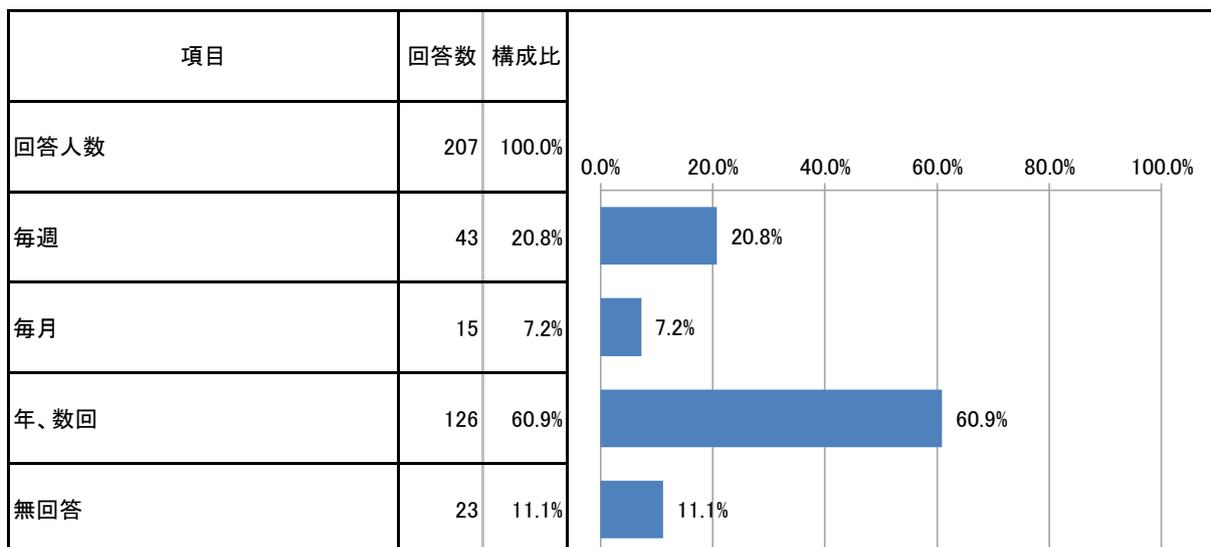
(1) 利用の有無

保育園の一時預かりの利用の有無については、「有」が24.6%、「無」が61.7%となっている。



(2) 利用頻度

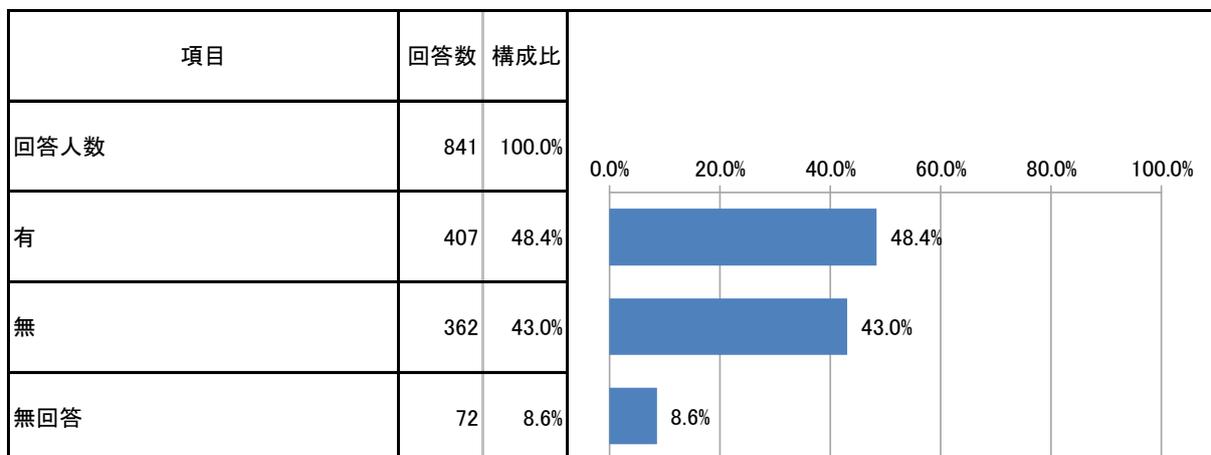
保育園の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が60.9%と最も高く、次いで「毎週」が20.8%、「毎月」が7.2%となっている。



C 幼稚園の預かり保育

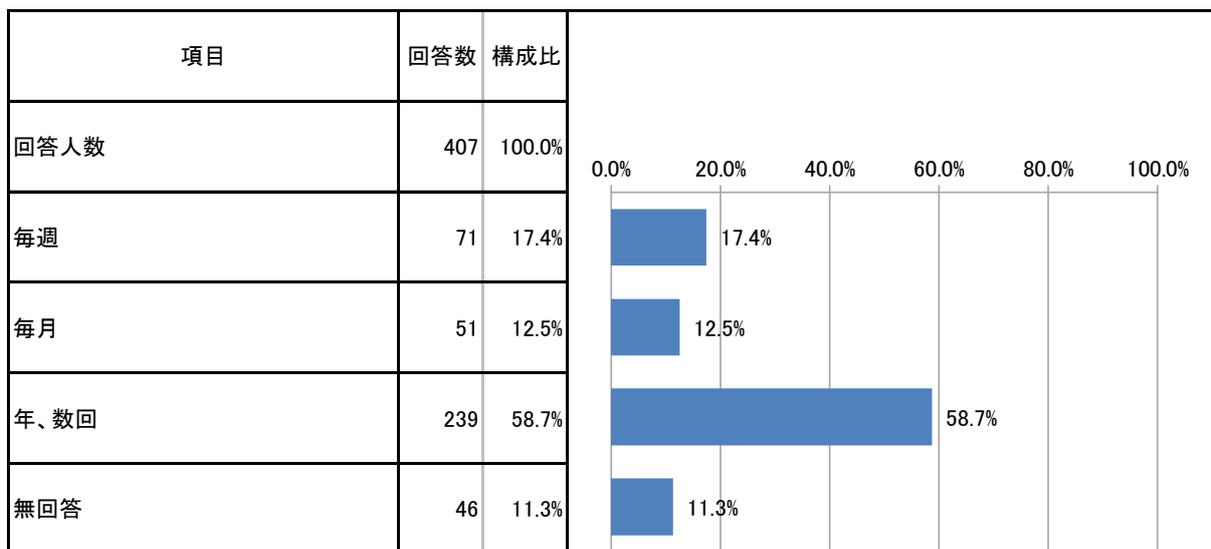
(1) 利用の有無

幼稚園の預かり保育の利用の有無については、「有」が48.4%、「無」が43.0%となっている。



(2) 利用頻度

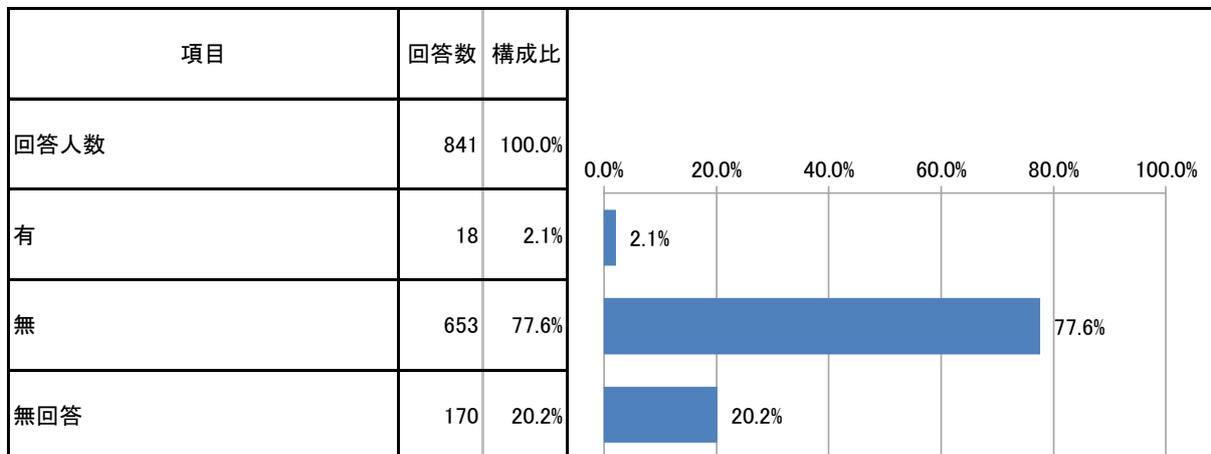
幼稚園の預かり保育の利用頻度については、「年、数回」が58.7%と最も高く、次いで「毎週」が17.4%、「毎月」が12.5%となっている。



D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かり

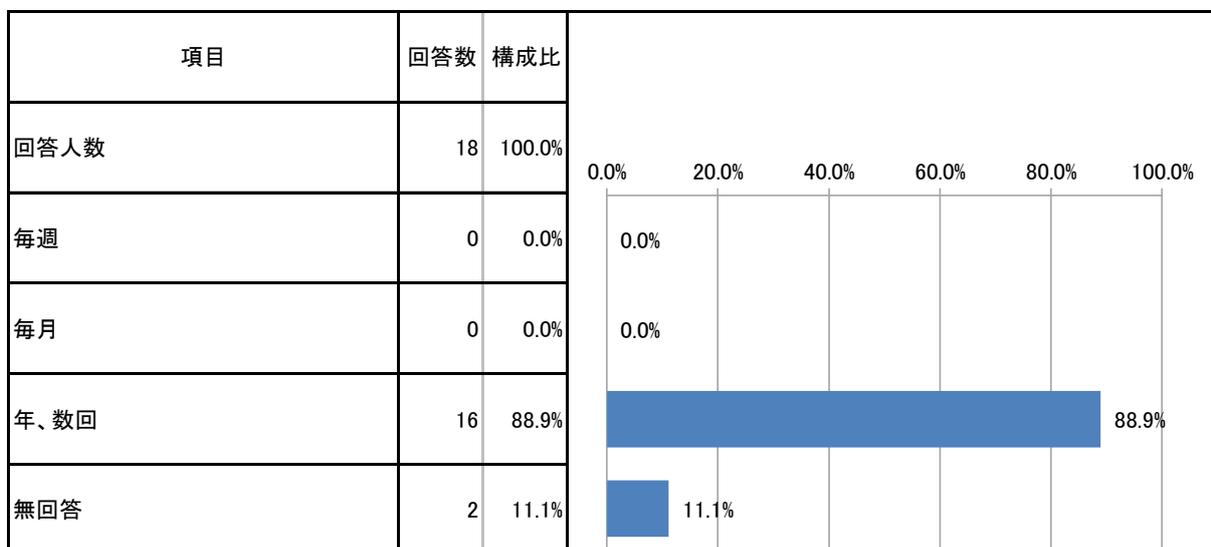
(1) 利用の有無

すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用の有無については、「有」が2.1%、「無」が77.6%となっている。



(2) 利用頻度

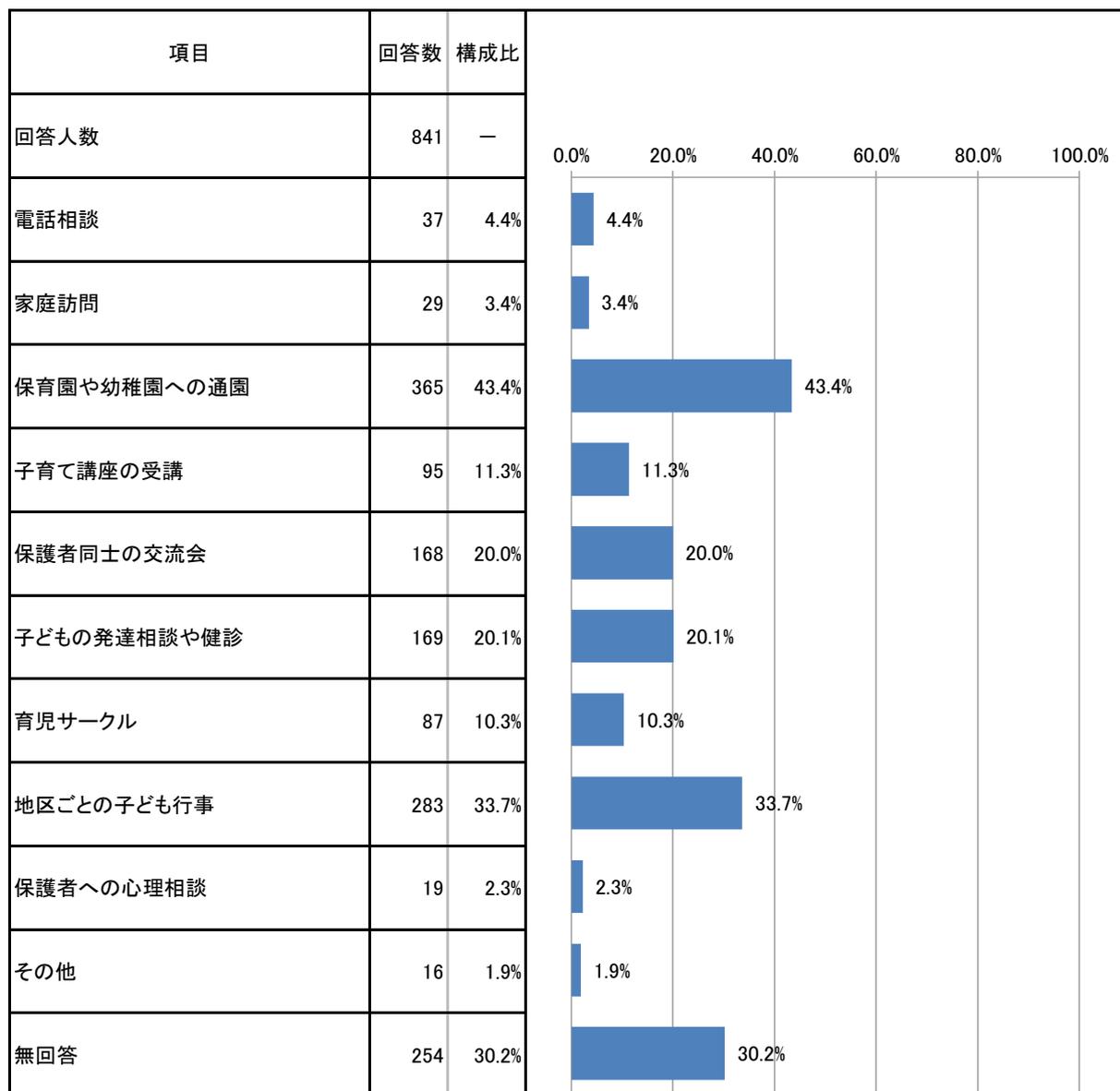
すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が88.9%となっている。



問13 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。（または、活用したことがありますか。）また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

（現在活用している）

保護者の子育て支援の活用状況については、「保育園や幼稚園への通園」が43.4%と最も高く、次いで「地区ごとの子ども行事」が33.7%、「子どもの発達相談や健診」が20.1%、「保護者同士の交流会」が20.0%となっている。



【属性別特徴】

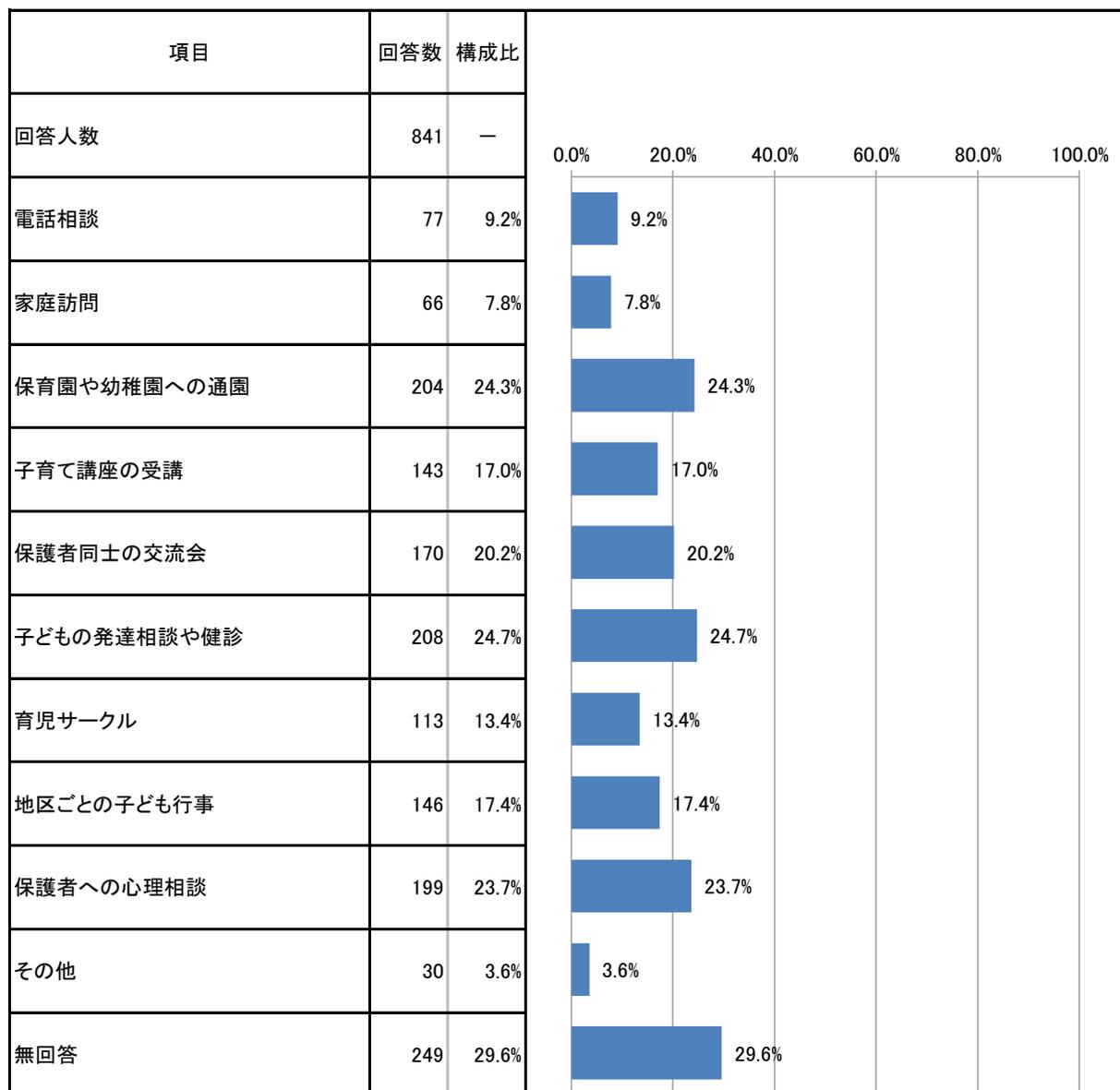
性別では、女の「地区ごとの子ども行事」が36.8%で、男の30.7%に比べてやや高くなっている。

就学状況別では、小学校低学年の「保育園や幼稚園への通園」が59.0%で、小学校高学年の39.6%、中学生の33.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						就学状況別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	841	—	437	—	402	—	2	—	266	—	265	—	308	—	2	—
電話相談	37	4.4%	20	4.6%	17	4.2%	0	0.0%	12	4.5%	14	5.3%	11	3.6%	0	0.0%
家庭訪問	29	3.4%	14	3.2%	15	3.7%	0	0.0%	16	6.0%	10	3.8%	3	1.0%	0	0.0%
保育園や幼稚園への通園	365	43.4%	193	44.2%	171	42.5%	1	50.0%	157	59.0%	105	39.6%	103	33.4%	0	0.0%
子育て講座の受講	95	11.3%	53	12.1%	42	10.4%	0	0.0%	32	12.0%	27	10.2%	36	11.7%	0	0.0%
保護者同士の交流会	168	20.0%	84	19.2%	84	20.9%	0	0.0%	55	20.7%	54	20.4%	59	19.2%	0	0.0%
子どもの発達相談や健診	169	20.1%	99	22.7%	69	17.2%	1	50.0%	59	22.2%	58	21.9%	52	16.9%	0	0.0%
育児サークル	87	10.3%	43	9.8%	44	10.9%	0	0.0%	33	12.4%	27	10.2%	27	8.8%	0	0.0%
地区ごとの子ども行事	283	33.7%	134	30.7%	148	36.8%	1	50.0%	100	37.6%	94	35.5%	89	28.9%	0	0.0%
保護者への心理相談	19	2.3%	9	2.1%	10	2.5%	0	0.0%	8	3.0%	1	0.4%	10	3.2%	0	0.0%
その他	16	1.9%	11	2.5%	5	1.2%	0	0.0%	6	2.3%	7	2.6%	3	1.0%	0	0.0%
無回答	254	30.2%	134	30.7%	119	29.6%	1	50.0%	52	19.5%	79	29.8%	121	39.3%	2	100.0%

(充実して欲しい)

充実して欲しい子育て支援については、「子どもの発達相談や健診」が 24.7%と最も高く、次いで「保育園や幼稚園への通園」が 24.3%、「保護者への心理相談」が 23.7%、「保護者同士の交流会」が 20.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「保護者への心理相談」が26.5%で、女の20.6%に比べてやや高くなっている。

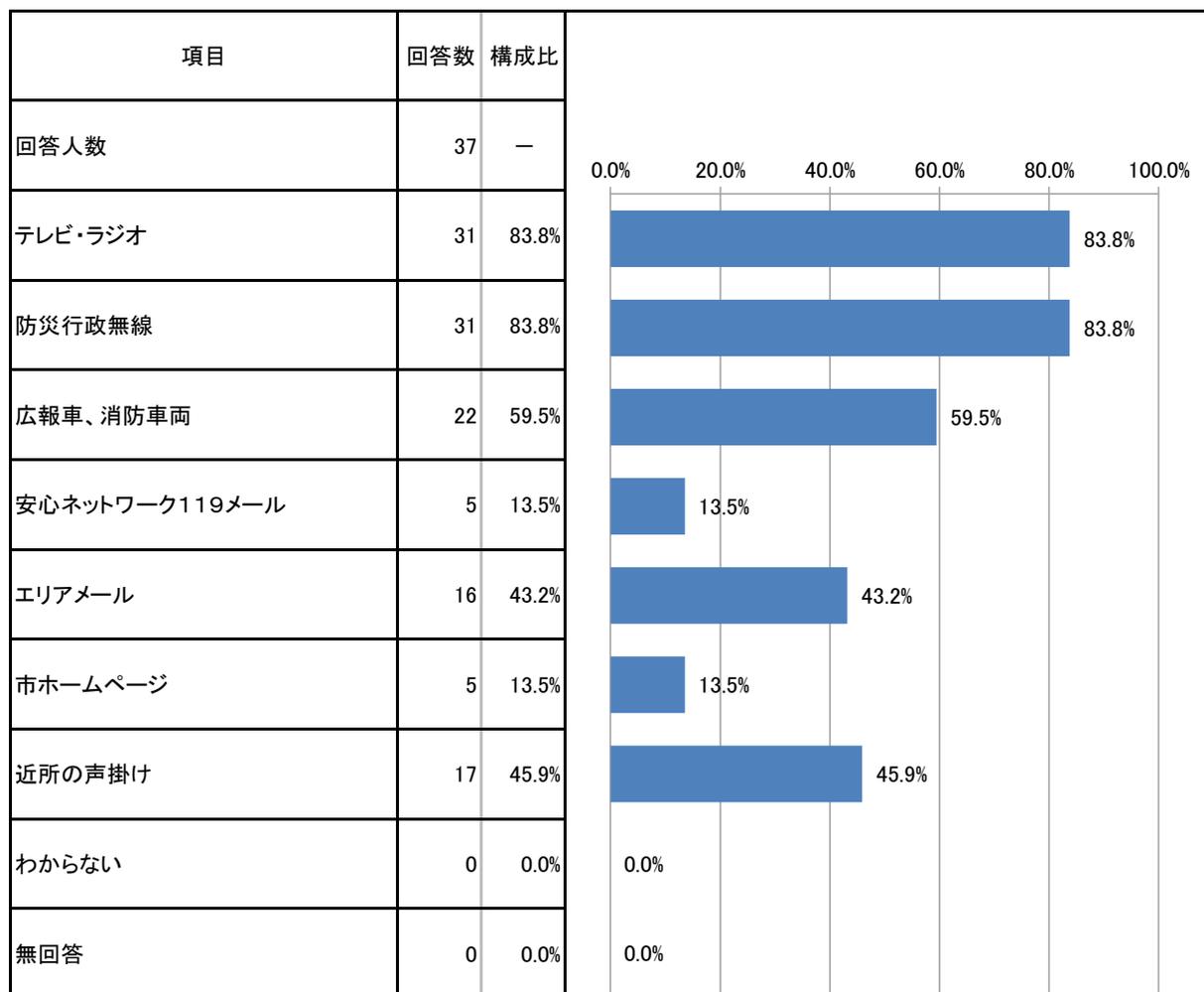
就学状況別では、中学生の「保護者への心理相談」が29.2%で、小学校低学年の17.3%、小学校高学年の23.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						就学状況別							
			男		女		無回答		小学校低学年		小学校高学年		中学生		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	841	—	437	—	402	—	2	—	266	—	265	—	308	—	2	—
電話相談	77	9.2%	47	10.8%	29	7.2%	1	50.0%	20	7.5%	23	8.7%	32	10.4%	2	100.0%
家庭訪問	66	7.8%	33	7.6%	33	8.2%	0	0.0%	23	8.6%	16	6.0%	27	8.8%	0	0.0%
保育園や幼稚園への通園	204	24.3%	110	25.2%	93	23.1%	1	50.0%	68	25.6%	74	27.9%	61	19.8%	1	50.0%
子育て講座の受講	143	17.0%	78	17.8%	65	16.2%	0	0.0%	48	18.0%	40	15.1%	55	17.9%	0	0.0%
保護者同士の交流会	170	20.2%	89	20.4%	81	20.1%	0	0.0%	46	17.3%	50	18.9%	74	24.0%	0	0.0%
子どもの発達相談や健診	208	24.7%	119	27.2%	89	22.1%	0	0.0%	67	25.2%	74	27.9%	66	21.4%	1	50.0%
育児サークル	113	13.4%	47	10.8%	66	16.4%	0	0.0%	39	14.7%	32	12.1%	42	13.6%	0	0.0%
地区ごとの子ども行事	146	17.4%	80	18.3%	66	16.4%	0	0.0%	43	16.2%	49	18.5%	54	17.5%	0	0.0%
保護者への心理相談	199	23.7%	116	26.5%	83	20.6%	0	0.0%	46	17.3%	63	23.8%	90	29.2%	0	0.0%
その他	30	3.6%	18	4.1%	12	3.0%	0	0.0%	12	4.5%	9	3.4%	9	2.9%	0	0.0%
無回答	249	29.6%	115	26.3%	133	33.1%	1	50.0%	82	30.8%	80	30.2%	87	28.2%	0	0.0%

※問 14～16 は桜島にお住まいの方（保護者）への質問です。

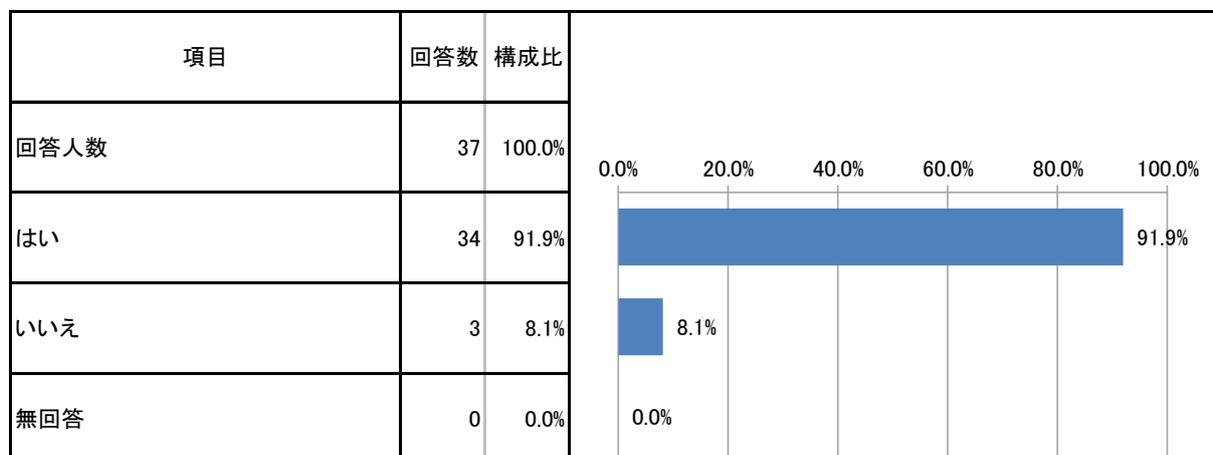
問 14 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。避難情報などの情報は何で収集しますか。（あてはまるものすべてに○）

避難情報などの情報収集方法については、「テレビ・ラジオ」「防災行政無線」が 83.8%と最も高く、次いで「広報車、消防車両」が 59.5%、「近所の声掛け」が 45.9%、「エリアメール」が 43.2%となっている。



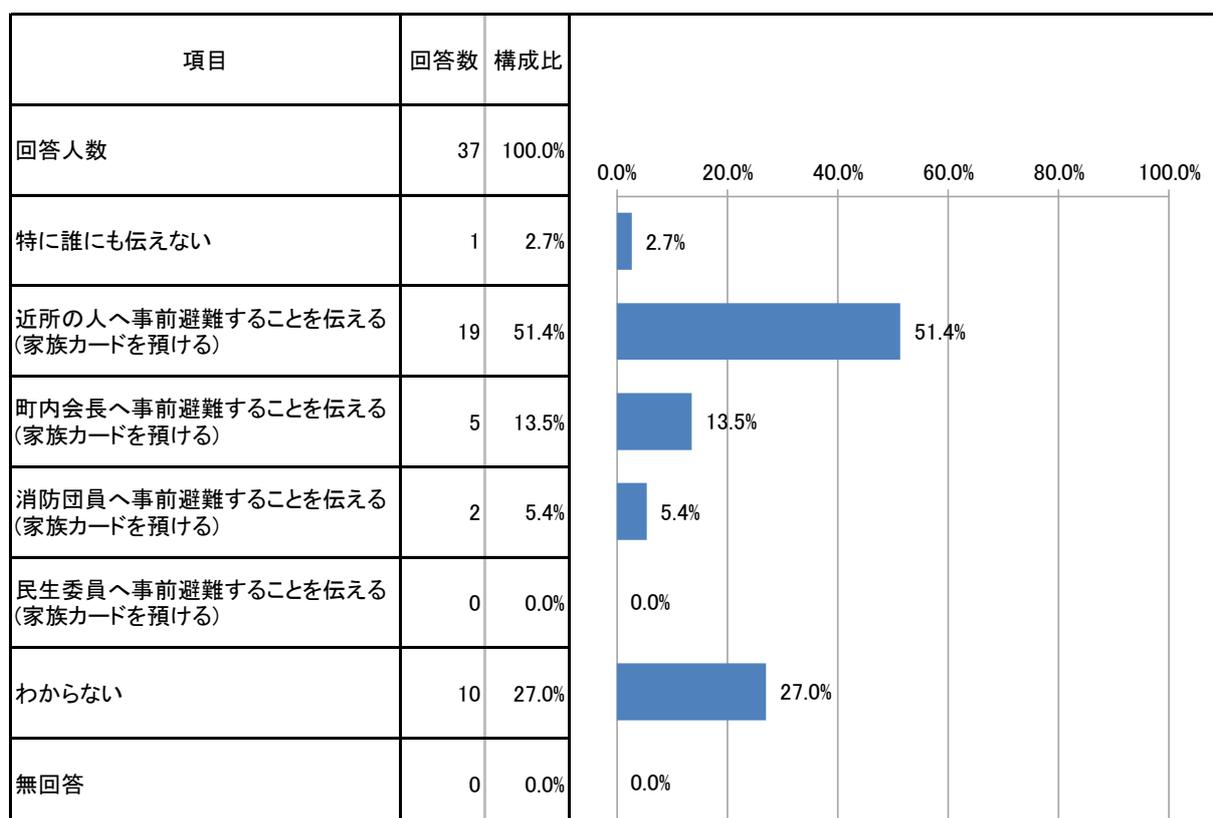
問 15 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール(安心ネットワーク119メール)を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。(ひとつに○)

携帯電話を持っているかについては、「はい」が91.9%、「いいえ」が8.1%となっている。



問 16 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することとなっていますが、「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことを地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。(ひとつに○)

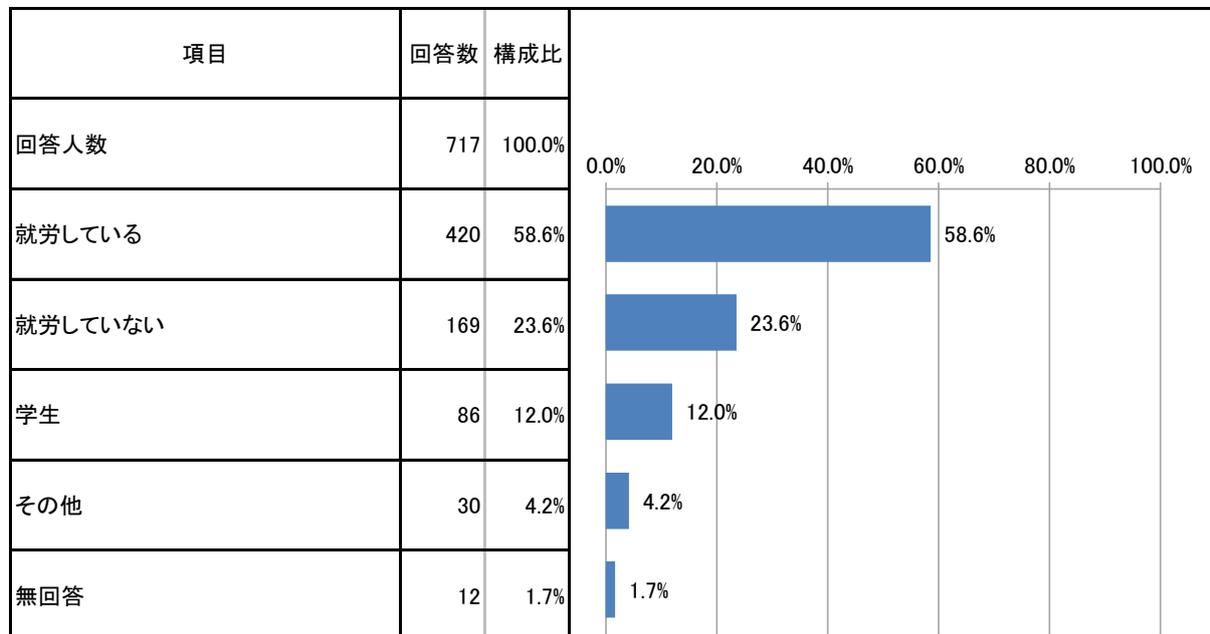
「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことの周囲への伝達方法については、「近所の人へ事前避難することを伝える(家族カードを預ける)」が51.4%と最も高く、次いで「わからない」が27.0%、「町内会長へ事前避難することを伝える(家族カードを預ける)」が13.5%となっている。



問1 あなたの性別などについてお聞きします。

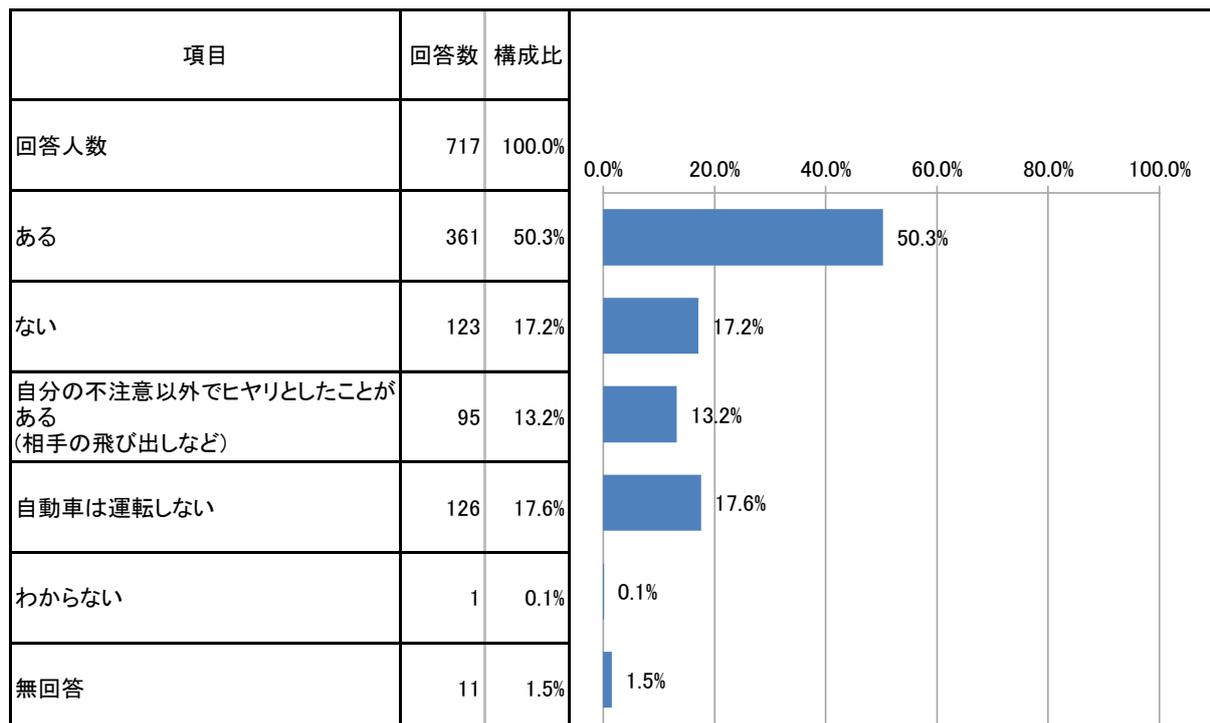
(2) 対象（封書の宛名）の方の就労状況（平成26年10月1日現在）

就労については、「就労している」が58.6%と最も高く、次いで「就労していない」が23.6%、「学生」が12.0%となっている。



問3 あなたは、自動車運転中、自分の不注意で事故に遭いそうになり、ヒヤリとしたことがありますか。（ひとつに○）

自動車運転中、自分の不注意で事故に遭いそうになり、ヒヤリとしたことがあるかについては、「ある」が50.3%と最も高く、次いで「自動車は運転しない」が17.6%、「ない」が17.2%となっている。



【属性別特徴】

年代別では、40代の「ある」が65.4%で、他の年代より高くなっている。

就労状況別では、就労している人の「ある」が59.0%で、就労していない人の46.2%に比べてヒヤリとした経験の割合が高くなっている。

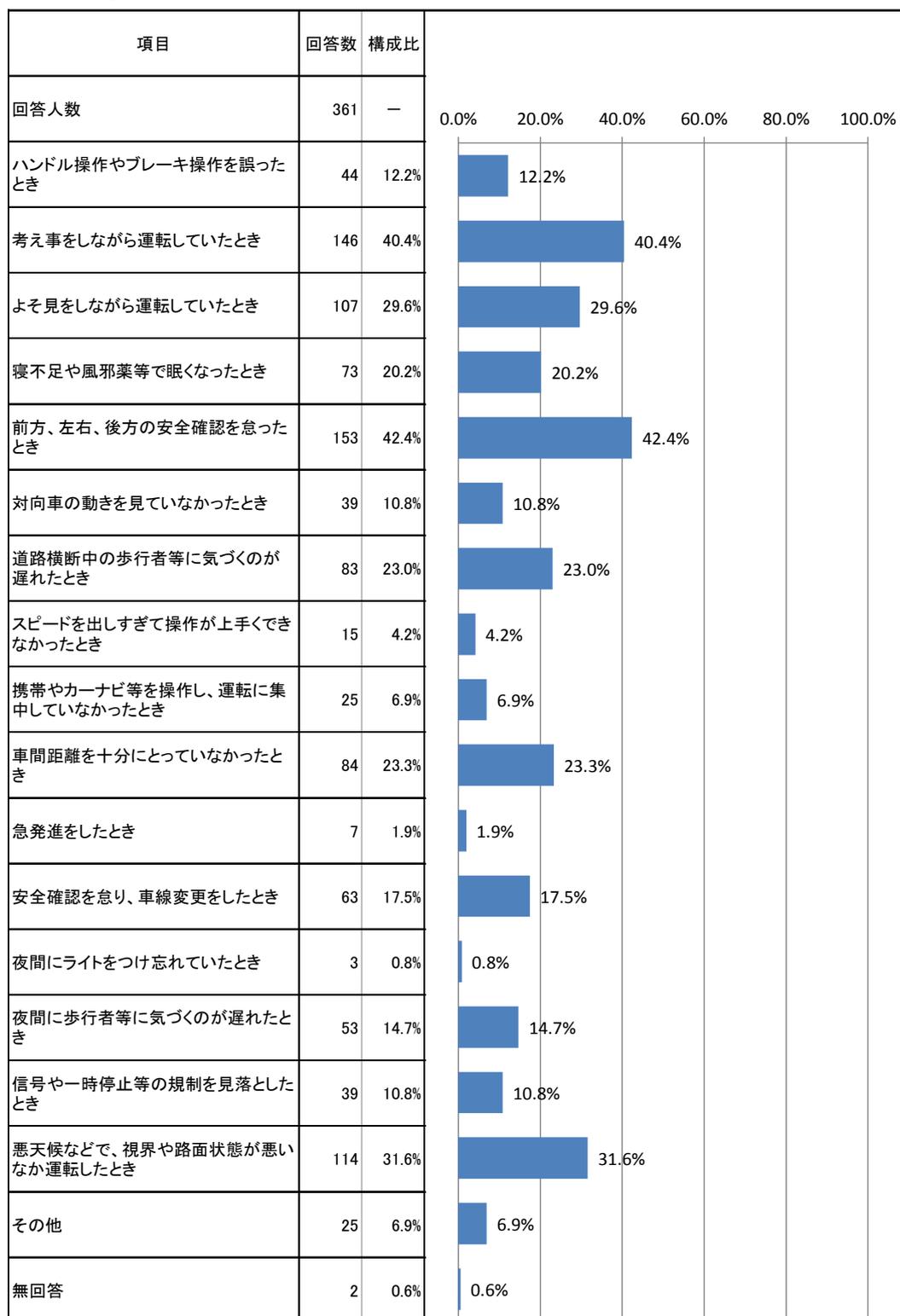
項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
ある	361	50.3%	8	11.4%	50	56.2%	60	56.6%	87	65.4%	80	51.3%	76	47.5%	0	0.0%
ない	123	17.2%	18	25.7%	10	11.2%	17	16.0%	14	10.5%	31	19.9%	31	19.4%	2	66.7%
自分の不注意以外でヒヤリとしたことがある(相手の飛び出しなど)	95	13.2%	2	2.9%	17	19.1%	19	17.9%	20	15.0%	22	14.1%	15	9.4%	0	0.0%
自動車は運転しない	126	17.6%	40	57.1%	11	12.4%	9	8.5%	11	8.3%	19	12.2%	36	22.5%	0	0.0%
わからない	1	0.1%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	1.5%	2	2.9%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.8%	4	2.6%	2	1.3%	1	33.3%

項目	回答人数		就労状況別									
			就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	420	100.0%	169	100.0%	86	100.0%	30	100.0%	12	100.0%
ある	361	50.3%	248	59.0%	78	46.2%	17	19.8%	13	43.3%	5	41.7%
ない	123	17.2%	59	14.0%	36	21.3%	19	22.1%	6	20.0%	3	25.0%
自分の不注意以外でヒヤリとしたことがある(相手の飛び出しなど)	95	13.2%	70	16.7%	15	8.9%	7	8.1%	3	10.0%	0	0.0%
自動車は運転しない	126	17.6%	39	9.3%	36	21.3%	41	47.7%	8	26.7%	2	16.7%
わからない	1	0.1%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	1.5%	3	0.7%	4	2.4%	2	2.3%	0	0.0%	2	16.7%

※問3で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

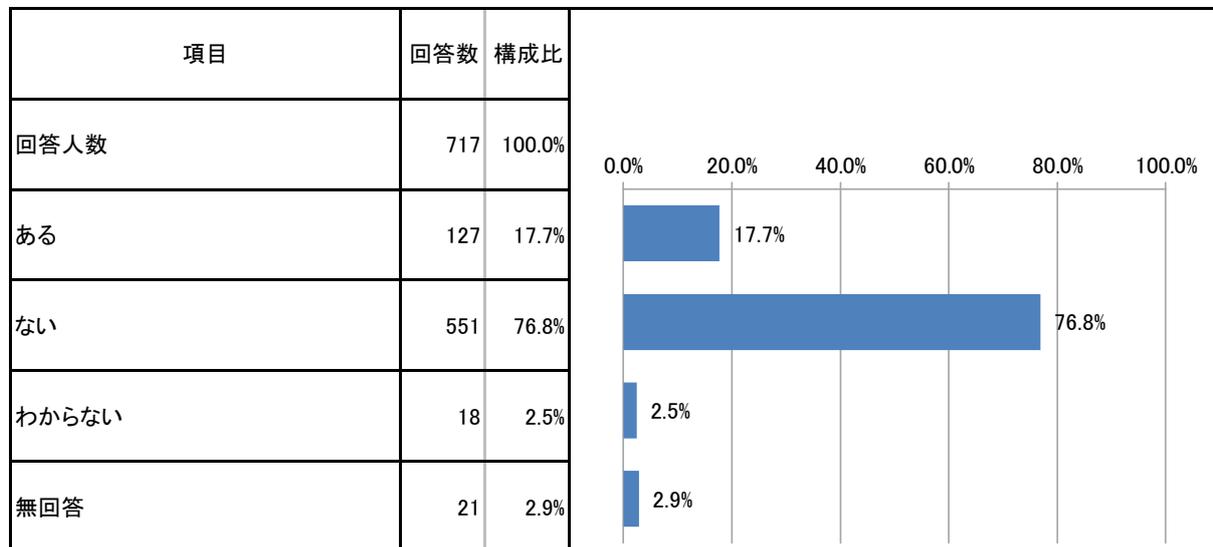
問3-1 あなたは、どのようなときに交通事故に遭いそうになり、ヒヤリとしましたか。(あてはまるものすべてに○)

どのようなときに交通事故に遭いそうになり、ヒヤリとしたかについては、「前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき」が42.4%と最も高く、次いで「考え事をしながら運転していたとき」が40.4%、「悪天候などで、視界や路面状態が悪いなか運転したとき」が31.6%となっている。



問4 あなたは、この1年間（平成25年10月から平成26年9月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ひとつに○）

1年間の交通安全教室（講習会などを含む）への参加状況については、「ない」が76.8%と最も高く、次いで「ある」が17.7%で、「わからない」は2.5%とほとんどない。



【属性別特徴】

年代別では、10代を除くすべての年代において、「ない」が8割程度を占めている。

就労状況別では、学生の「ある」が45.3%で、他の属性に比べて高い割合を占めていることから、学校教育の場で交通安全教室の機会はあるが、卒業後はその機会が少なくなっていることがわかる。

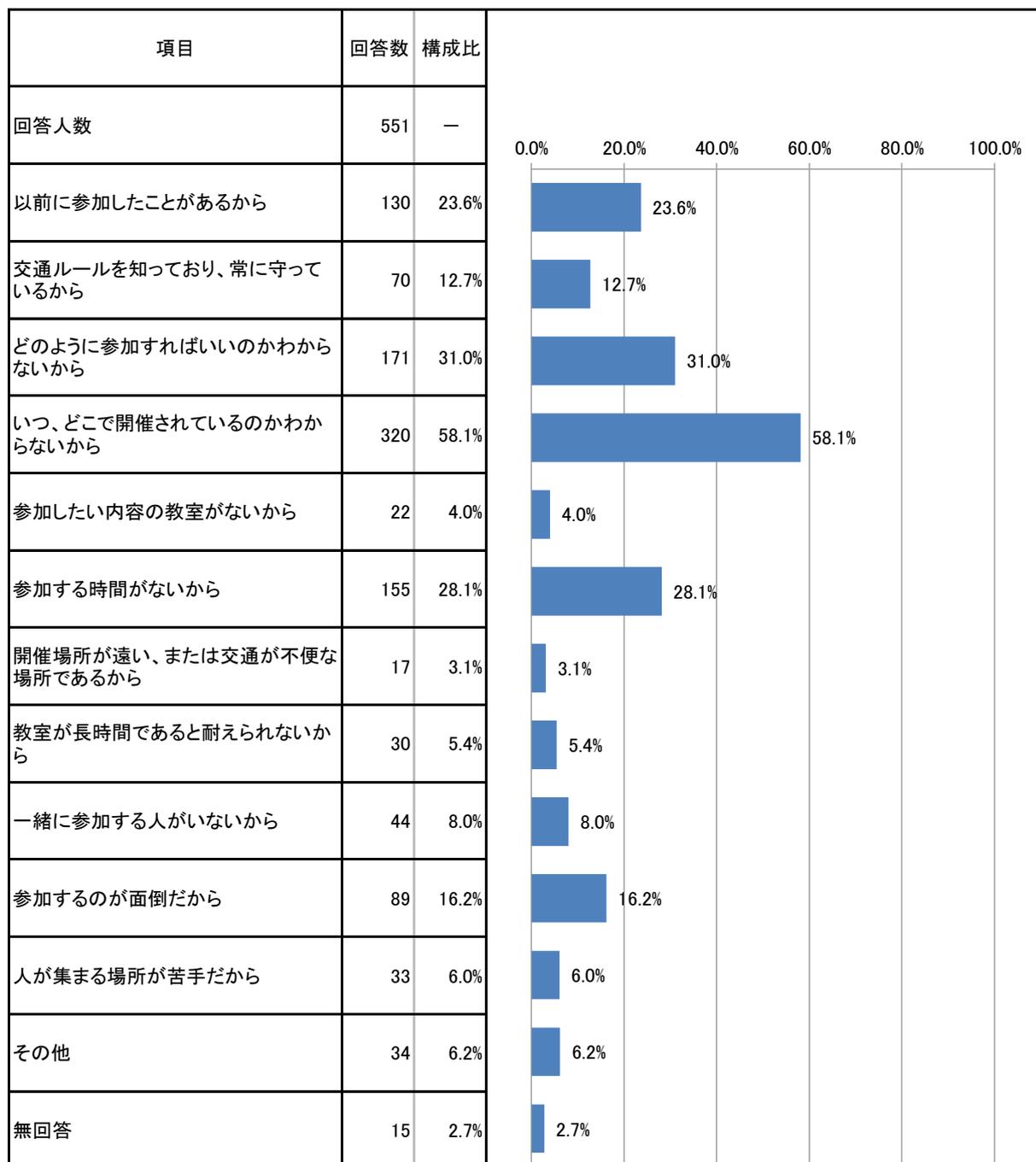
項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
ある	127	17.7%	30	42.9%	15	16.9%	13	12.3%	20	15.0%	27	17.3%	22	13.8%	0	0.0%
ない	551	76.8%	33	47.1%	71	79.8%	85	80.2%	105	78.9%	126	80.8%	129	80.6%	2	66.7%
わからない	18	2.5%	5	7.1%	2	2.2%	3	2.8%	6	4.5%	1	0.6%	1	0.6%	0	0.0%
無回答	21	2.9%	2	2.9%	1	1.1%	5	4.7%	2	1.5%	2	1.3%	8	5.0%	1	33.3%

項目	回答人数		就労状況別									
			就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	420	100.0%	169	100.0%	86	100.0%	30	100.0%	12	100.0%
ある	127	17.7%	63	15.0%	19	11.2%	39	45.3%	4	13.3%	2	16.7%
ない	551	76.8%	337	80.2%	143	84.6%	39	45.3%	24	80.0%	8	66.7%
わからない	18	2.5%	10	2.4%	2	1.2%	6	7.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	21	2.9%	10	2.4%	5	3.0%	2	2.3%	2	6.7%	2	16.7%

※問4で『②ない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 あなたが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由については、「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が58.1%と最も高く、次いで「どのように参加すればいいのかわからないから」が31.0%、「参加する時間がないから」が28.1%となっている。



【属性別特徴】

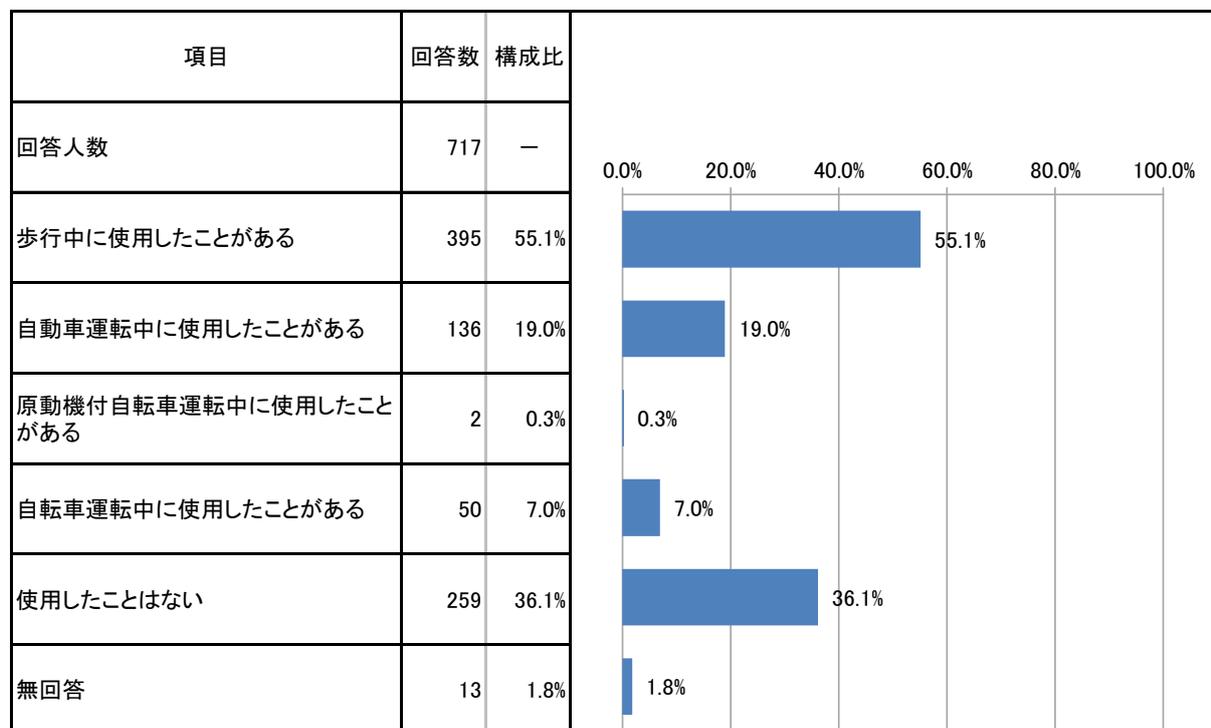
性別では、女の「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が 63.3%で、男の 47.8%に比べて高くなっている。

就労状況別では、いずれの属性でも「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が最も高いが、二番目に高いのは、就労している人では、「参加する時間がないから」が 36.2%で、就労していない人や学生では、「どのように参加すればいいのかわからないから」で、それぞれ 34.3%、41.0%となっている。

項目	回答人数		性別						就労状況別									
			男		女		無回答		就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	551	—	186	—	365	—	0	—	337	—	143	—	39	—	24	—	8	—
以前に参加したことがあるから	130	23.6%	58	31.2%	72	19.7%	0	—	84	24.9%	33	23.1%	6	15.4%	6	25.0%	1	12.5%
交通ルールを知っており、常に守っているから	70	12.7%	30	16.1%	40	11.0%	0	—	42	12.5%	20	14.0%	6	15.4%	2	8.3%	0	0.0%
どのように参加すればいいのかわからないから	171	31.0%	41	22.0%	130	35.6%	0	—	95	28.2%	49	34.3%	16	41.0%	8	33.3%	3	37.5%
いつ、どこで開催されているのかわからないから	320	58.1%	89	47.8%	231	63.3%	0	—	195	57.9%	79	55.2%	30	76.9%	13	54.2%	3	37.5%
参加したい内容の教室がないから	22	4.0%	6	3.2%	16	4.4%	0	—	13	3.9%	5	3.5%	4	10.3%	0	0.0%	0	0.0%
参加する時間がないから	155	28.1%	57	30.6%	98	26.8%	0	—	122	36.2%	14	9.8%	14	35.9%	4	16.7%	1	12.5%
開催場所が遠い、または交通が不便な場所であるから	17	3.1%	5	2.7%	12	3.3%	0	—	11	3.3%	5	3.5%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
教室が長時間であると耐えられないから	30	5.4%	11	5.9%	19	5.2%	0	—	23	6.8%	6	4.2%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
一緒に参加する人がいないから	44	8.0%	5	2.7%	39	10.7%	0	—	18	5.3%	20	14.0%	4	10.3%	2	8.3%	0	0.0%
参加するのが面倒だから	89	16.2%	26	14.0%	63	17.3%	0	—	51	15.1%	27	18.9%	10	25.6%	1	4.2%	0	0.0%
人が集まる場所が苦手だから	33	6.0%	13	7.0%	20	5.5%	0	—	21	6.2%	9	6.3%	1	2.6%	2	8.3%	0	0.0%
その他	34	6.2%	8	4.3%	26	7.1%	0	—	14	4.2%	12	8.4%	1	2.6%	4	16.7%	3	37.5%
無回答	15	2.7%	5	2.7%	10	2.7%	0	—	6	1.8%	7	4.9%	0	0.0%	2	8.3%	0	0.0%

問5 近年、歩行中にスマートフォンを使用する、「歩きスマホ」が社会問題となつていますが、あなたは、歩行中や自動車等運転中に、携帯電話（スマートフォンを含む）を使用したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

歩行中や自動車等運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用については、「歩行中に使用したことがある」が55.1%と最も高く、次いで「使用したことはない」が36.1%、「自動車運転中に使用したことがある」が19.0%となっている。



【属性別特徴】

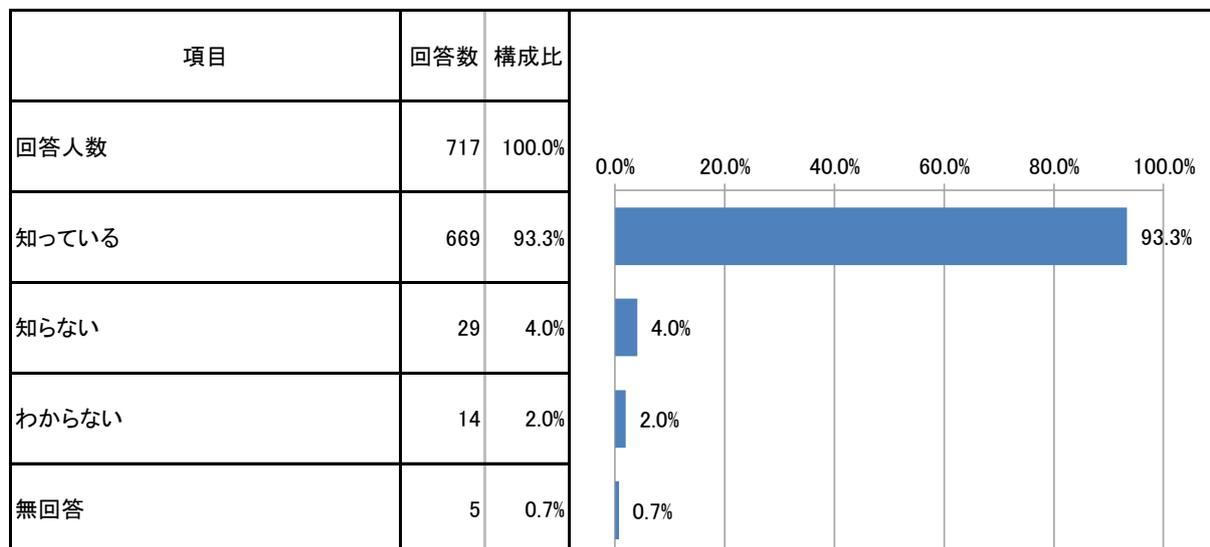
年代別では、「歩行中に使用したことがある」は、20代が84.3%で最も高く、次いで10代が74.3%、30代が72.6%と若い年代で高くなっている。

また、「自動車運転中に使用したことがある」は、40代が32.3%で、「自転車運転中に使用したことがある」は10代が20.0%で、それぞれ最も使用している割合が高くなっている。

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	—	70	—	89	—	106	—	133	—	156	—	160	—	3	—
歩行中に使用したことがある	395	55.1%	52	74.3%	75	84.3%	77	72.6%	74	55.6%	69	44.2%	47	29.4%	1	33.3%
自動車運転中に使用したことがある	136	19.0%	1	1.4%	15	16.9%	26	24.5%	43	32.3%	28	17.9%	23	14.4%	0	0.0%
原動機付自転車運転中に使用したことがある	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自転車運転中に使用したことがある	50	7.0%	14	20.0%	13	14.6%	7	6.6%	6	4.5%	10	6.4%	0	0.0%	0	0.0%
使用したことはない	259	36.1%	16	22.9%	13	14.6%	26	24.5%	40	30.1%	71	45.5%	92	57.5%	1	33.3%
無回答	13	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	2	1.3%	9	5.6%	1	33.3%

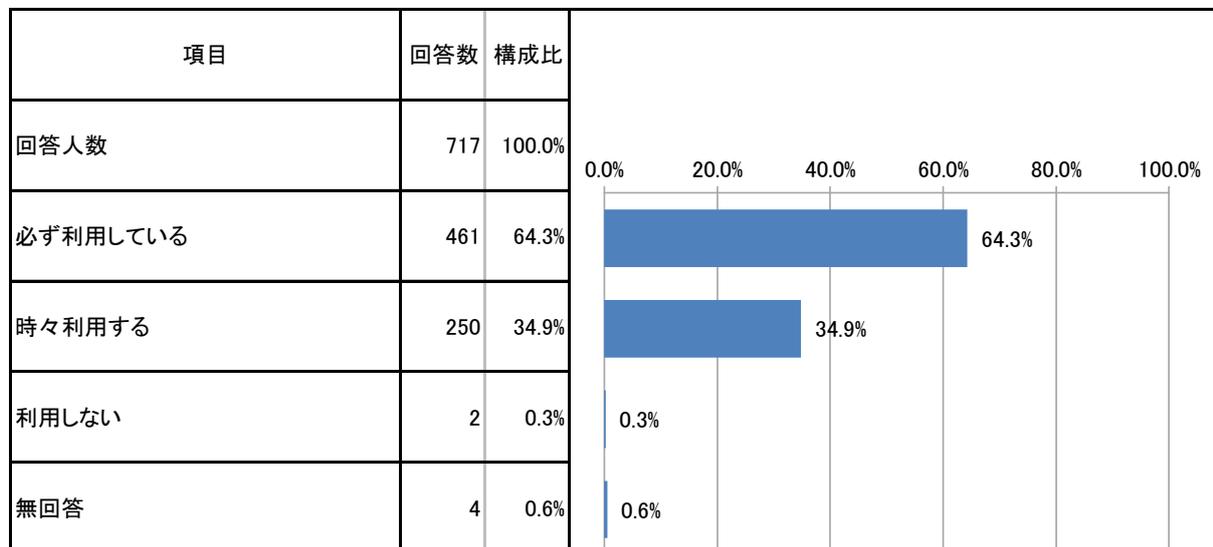
問6 あなたは、自動車や原動機付自転車、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることを知っていますか。（ひとつに○）

自動車や原動機付自転車、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることの認知度については、「知っている」が 93.3%と最も高く、「知らない」「わからない」はほとんどない。



問7 あなたは、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。(ひとつに○)

歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合の利用については、「必ず利用している」が64.3%と最も高く、次いで「時々利用する」が34.9%で、「利用しない」が0.3%とほとんどない。



【属性別特徴】

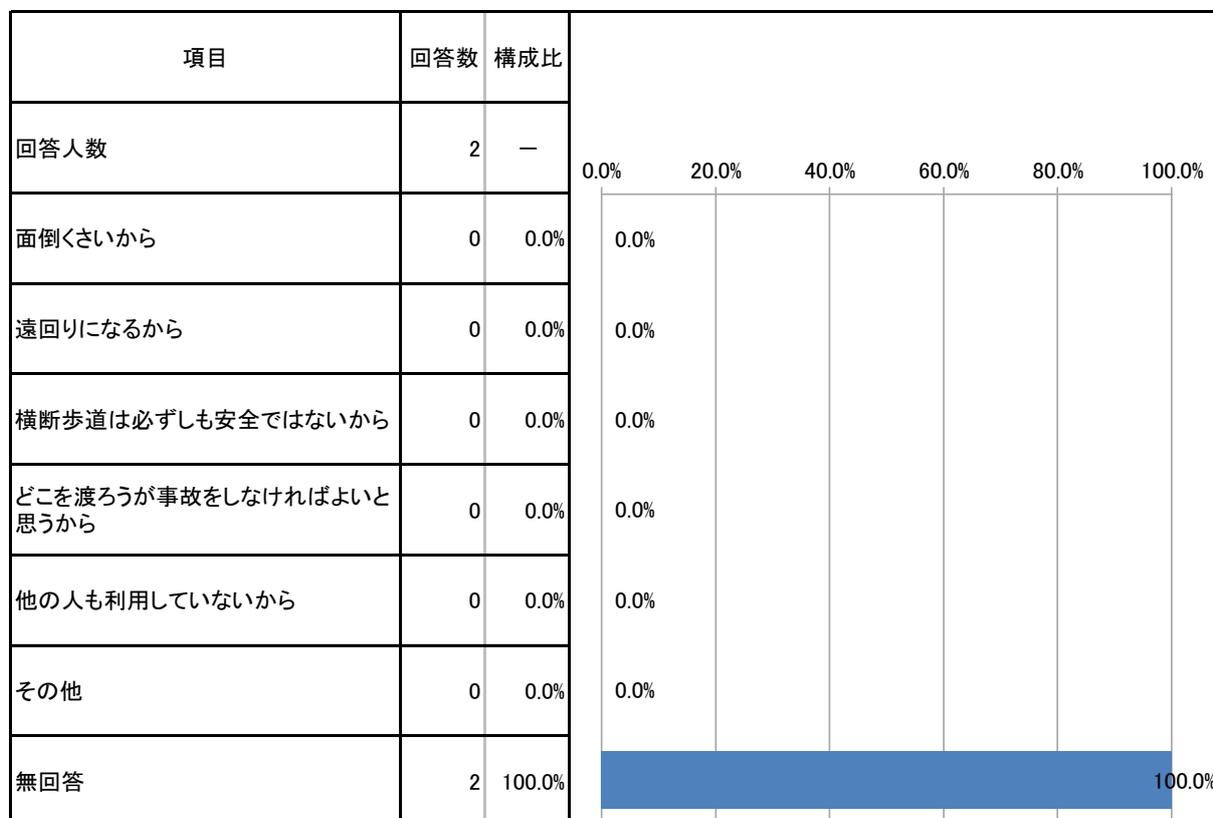
年代別では、「必ず利用している」は、20代が49.4%で最も低く、50代、60代は、いずれも7割程度と高くなっている。

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
必ず利用している	461	64.3%	45	64.3%	44	49.4%	63	59.4%	81	60.9%	107	68.6%	119	74.4%	2	66.7%
時々利用する	250	34.9%	25	35.7%	45	50.6%	43	40.6%	51	38.3%	48	30.8%	38	23.8%	0	0.0%
利用しない	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	0	0.0%
無回答	4	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	2	1.3%	1	33.3%

※問7で『③利用しない』とご回答された方にお聞きします。

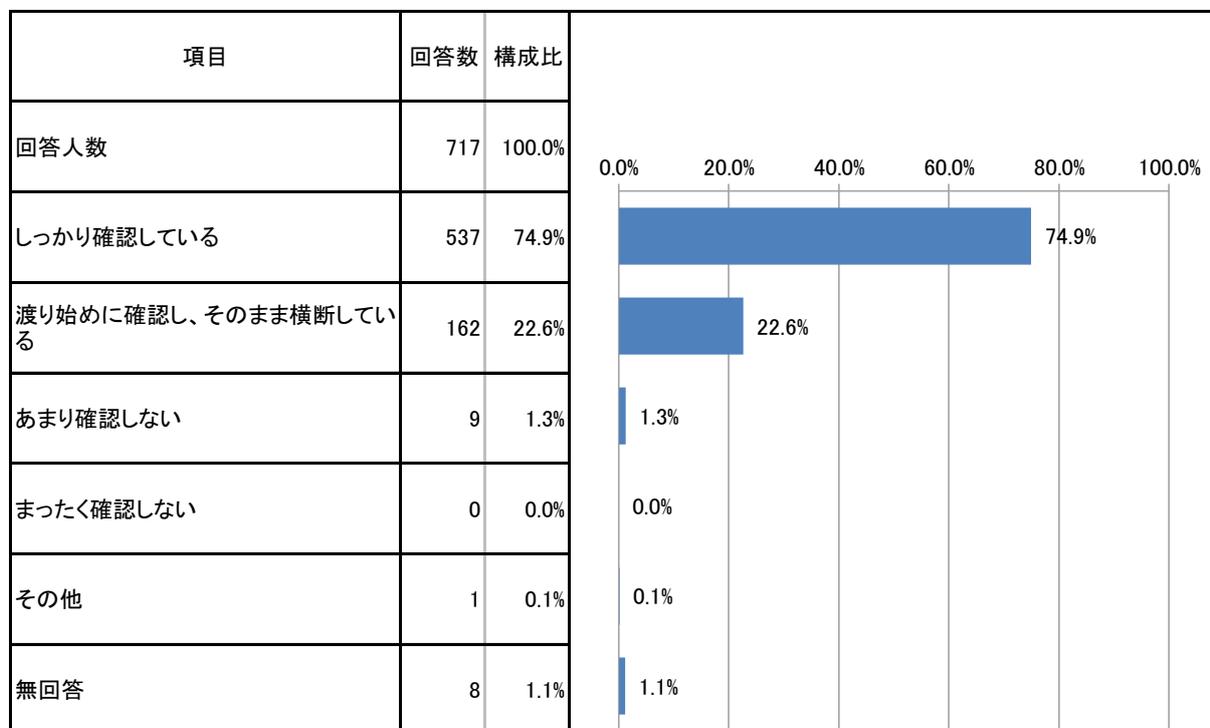
問7-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

横断歩道を利用しない理由については、回答を得られなかった。



問8 あなたは、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。(ひとつに○)

歩行中に道路を横断する際の安全確認については、「しっかり確認している」が74.9%と最も高く、次いで「渡り始めに確認し、そのまま横断している」が22.6%で、「あまり確認しない」が1.3%とほとんどない。



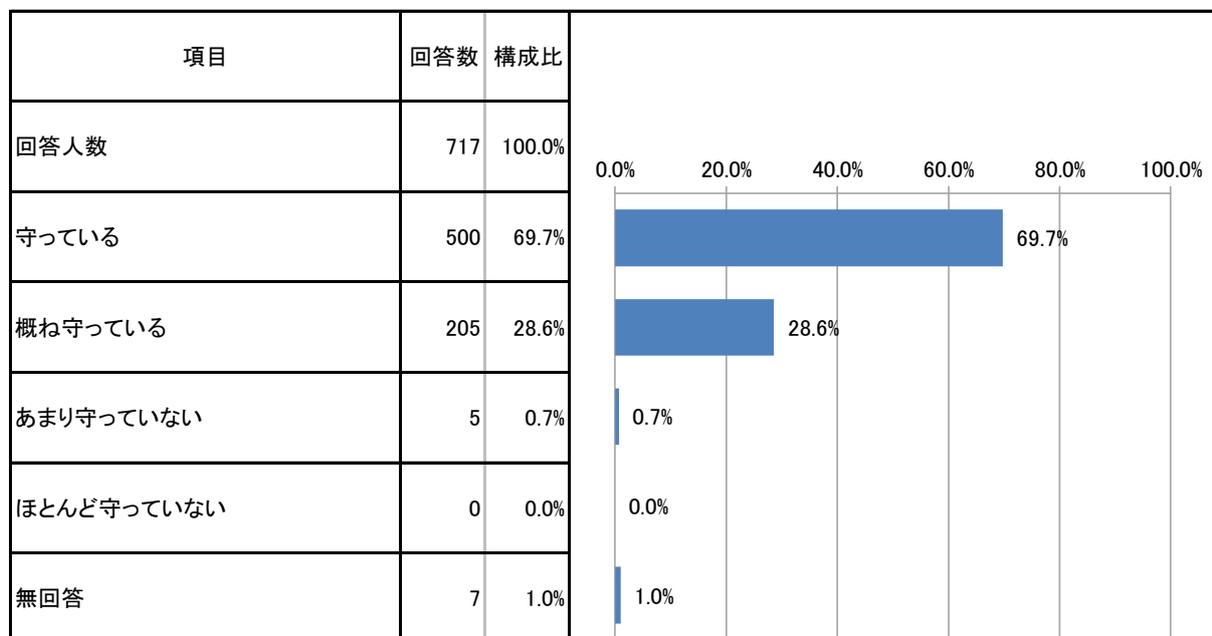
【属性別特徴】

年代別では、10代の「しっかり確認している」が58.6%と最も低く、年代が上がるごとに高くなる傾向にある。

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
しっかり確認している	537	74.9%	41	58.6%	55	61.8%	77	72.6%	106	79.7%	121	77.6%	135	84.4%	2	66.7%
渡り始めに確認し、そのまま横断している	162	22.6%	26	37.1%	29	32.6%	28	26.4%	24	18.0%	32	20.5%	23	14.4%	0	0.0%
あまり確認しない	9	1.3%	3	4.3%	4	4.5%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
まったく確認しない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.1%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	2	1.5%	2	1.3%	2	1.3%	1	33.3%

問9 あなたは、歩行中に信号機のない横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っていますか。（ひとつに○）

歩行中に信号機のない横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っているかについては、「守っている」が69.7%と最も高く、次いで「概ね守っている」が28.6%で、「あまり守っていない」は0.7%とほとんどない。



【属性別特徴】

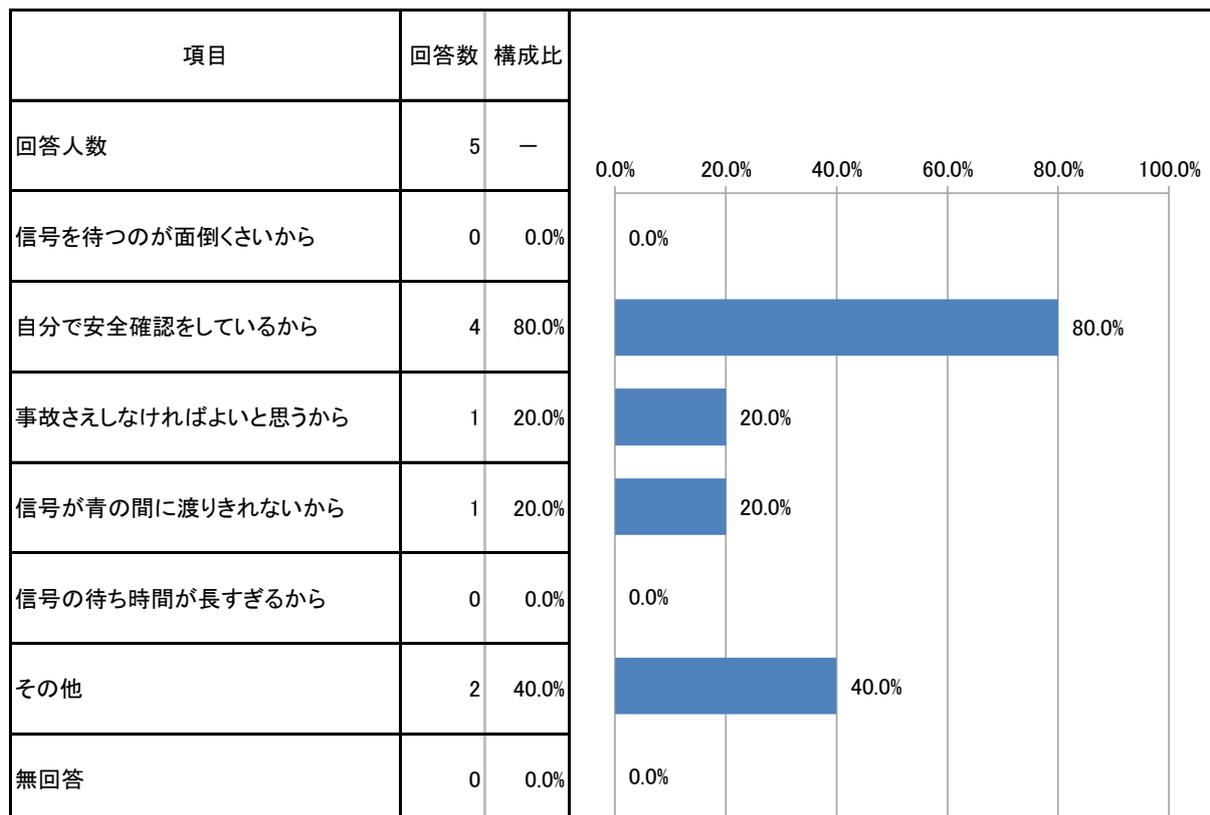
年代別では、20代の「守っている」が55.1%と最も低く、50代、60代は、いずれも8割程度と高くなっている。

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
守っている	500	69.7%	47	67.1%	49	55.1%	61	57.5%	89	66.9%	124	79.5%	128	80.0%	2	66.7%
概ね守っている	205	28.6%	21	30.0%	36	40.4%	44	41.5%	44	33.1%	31	19.9%	29	18.1%	0	0.0%
あまり守っていない	5	0.7%	1	1.4%	3	3.4%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ほとんど守っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	1.0%	1	1.4%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	3	1.9%	1	33.3%

※問9で『③あまり守っていない』『④ほとんど守っていない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問9-1 ルール（信号）を守っていないことがある理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

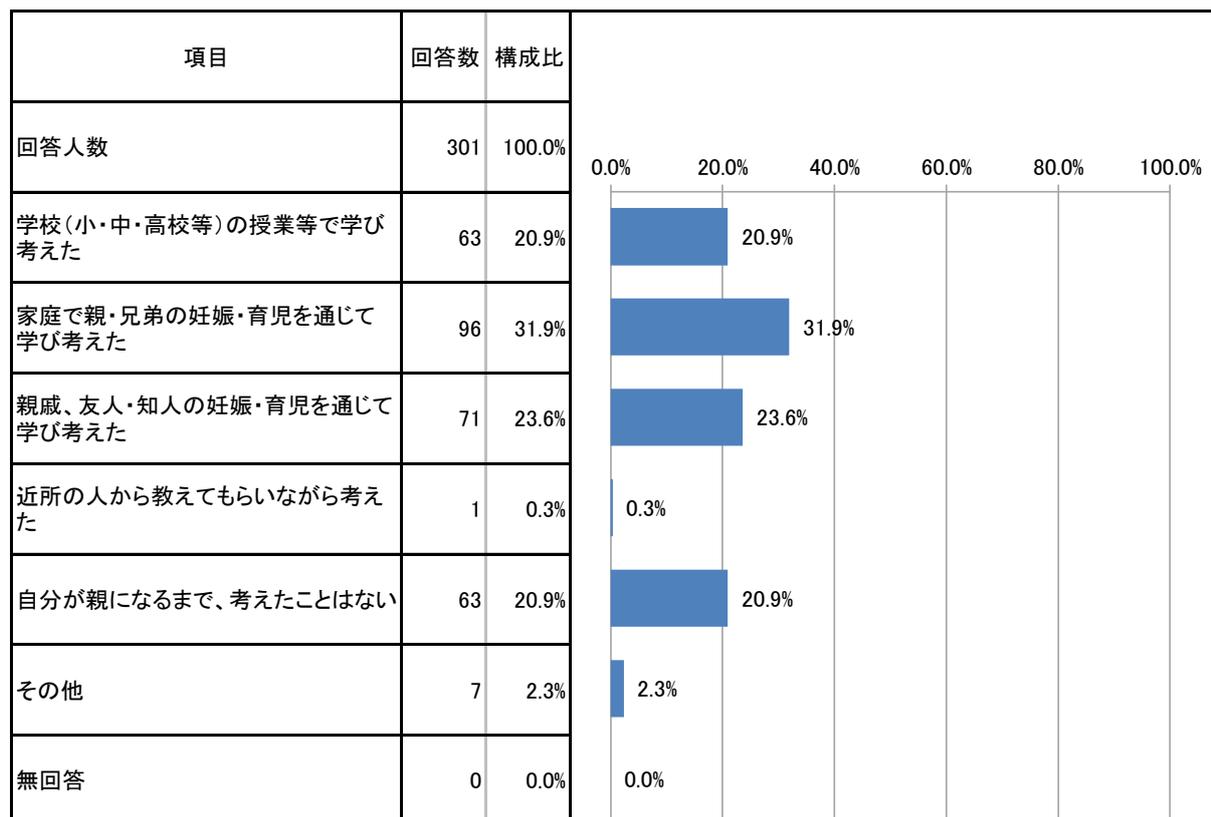
ルール（信号）を守っていないことがある理由については、「自分で安全確認をしているから」が80.0%と最も高く、次いで「事故さえしなければよいと思うから」「信号が青の間に渡りきれないから」が20.0%となっている。



※現在、子育て中の方（18歳以下のお子さんがいらっしゃる方）にお聞きします。

問 10 あなたは、自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会がありましたか。（ひとつに○）

親になる前に、妊娠や子どもを育てるということについて、考える機会があったかについては、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が31.9%と最も高く、次いで「親戚、友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた」が23.6%、「学校（小・中・高校等）の授業等で学び考えた」「自分が親になるまで、考えたことはない」が20.9%となっている。



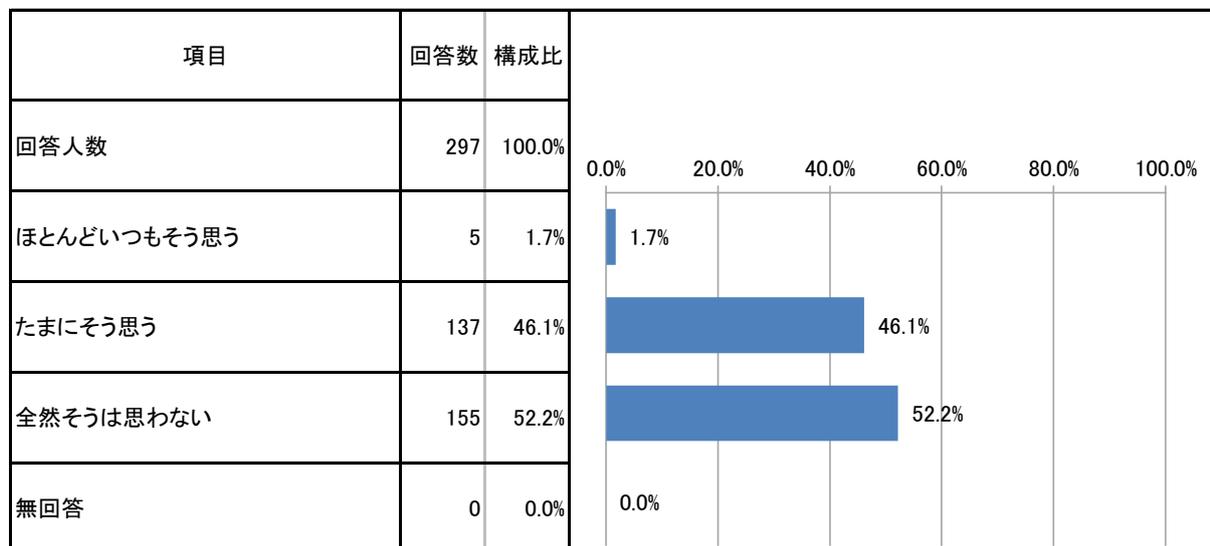
【属性別特徴】

年代別では、10代は「学校（少・中・高校等）の授業等で学び考えた」の83.3%が、20代、30代は、「親戚、友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた」が、それぞれ35.0%、28.4%で最も高く、40代、50代、60代は、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が、それぞれ30.9%、37.8%、37.8%で最も高くなっている。

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
回答人数	301	100.0%	6	100.0%	20	100.0%	67	100.0%	97	100.0%	74	100.0%	37	100.0%	0	0.0%
学校（小・中・高校等）の授業等で学び考えた	63	20.9%	5	83.3%	4	20.0%	12	17.9%	23	23.7%	12	16.2%	7	18.9%	0	—
家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた	96	31.9%	0	0.0%	6	30.0%	18	26.9%	30	30.9%	28	37.8%	14	37.8%	0	—
親戚、友人・知人の妊娠・育児を通じて学び考えた	71	23.6%	0	0.0%	7	35.0%	19	28.4%	18	18.6%	22	29.7%	5	13.5%	0	—
近所の人から教えてもらいながら考えた	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
自分が親になるまで、考えたことはない	63	20.9%	1	16.7%	2	10.0%	18	26.9%	21	21.6%	10	13.5%	11	29.7%	0	—
その他	7	2.3%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	4	4.1%	2	2.7%	0	0.0%	0	—
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

問 11 あなたは、子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがありますか。(ひとつに○)

子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「全然そうは思わない」が 52.2%と最も高く、次いで「たまにそう思う」が 46.1%、「ほとんどいつもそう思う」が 1.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「たまにそう思う」が51.6%で、男の36.9%に比べて高くなっている。

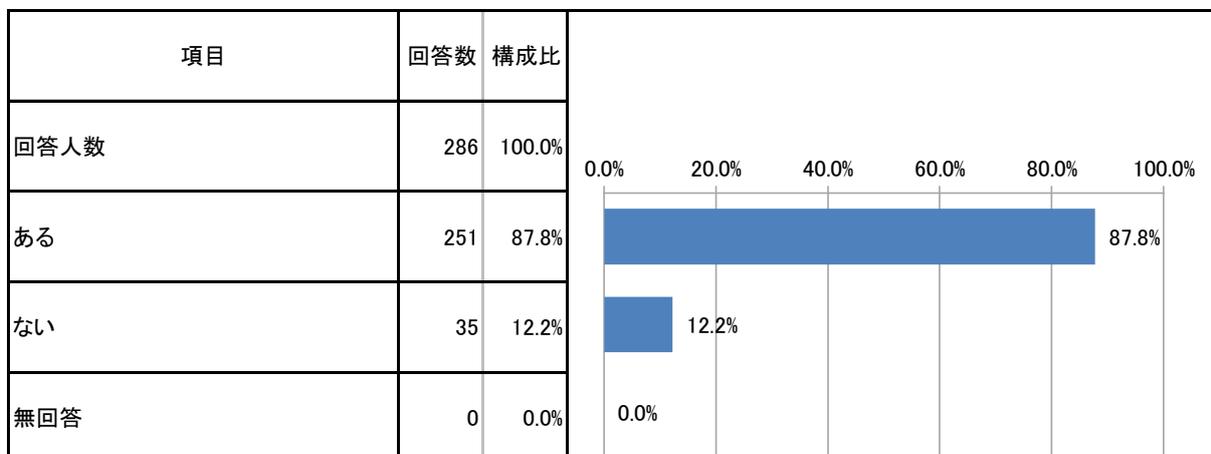
年代別では、「たまにそう思う」の割合が高いのは、30代の56.7%、40代の57.7%で、その他の年代は、「全然そうは思わない」が7割前後で最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	297	100.0%	111	100.0%	186	100.0%	0	0.0%
ほとんどいつもそう思う	5	1.7%	2	1.8%	3	1.6%	0	—
たまにそう思う	137	46.1%	41	36.9%	96	51.6%	0	—
全然そうは思わない	155	52.2%	68	61.3%	87	46.8%	0	—
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	297	100.0%	6	100.0%	20	100.0%	67	100.0%	97	100.0%	72	100.0%	35	100.0%	0	0.0%
ほとんどいつもそう思う	5	1.7%	1	16.7%	0	0.0%	1	1.5%	2	2.1%	1	1.4%	0	0.0%	0	—
たまにそう思う	137	46.1%	1	16.7%	6	30.0%	38	56.7%	56	57.7%	27	37.5%	9	25.7%	0	—
全然そうは思わない	155	52.2%	4	66.7%	14	70.0%	28	41.8%	39	40.2%	44	61.1%	26	74.3%	0	—
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

問 12 あなたは、子育てで困ったときに相談する人や施設がありますか。(ひとつに○)

子育てで困ったときの相談先については、「ある」が87.8%、「ない」が12.2%となっている。



【属性別特徴】

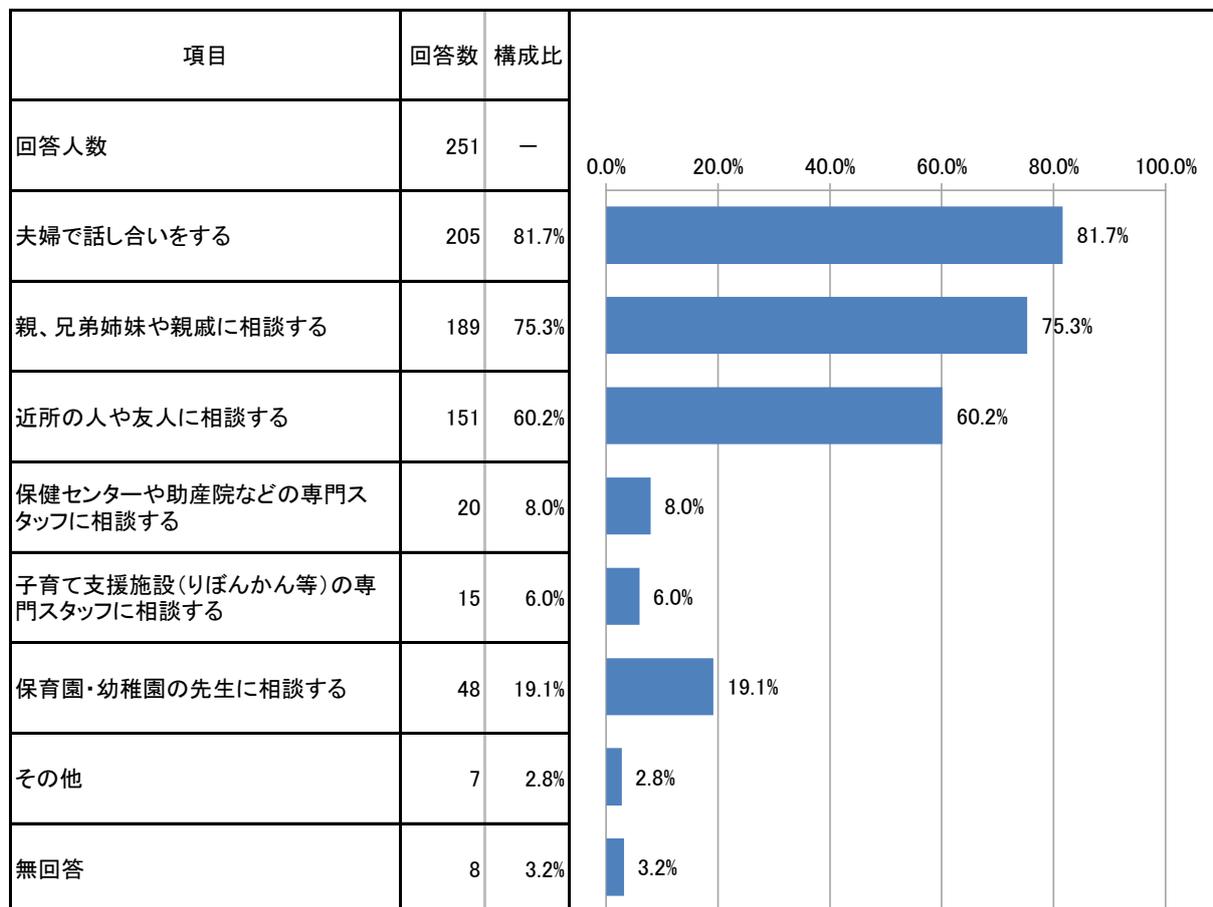
性別では、女の「ある」が94.4%で、男の76.6%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	286	100.0%	107	100.0%	179	100.0%	0	0.0%
ある	251	87.8%	82	76.6%	169	94.4%	0	—
ない	35	12.2%	25	23.4%	10	5.6%	0	—
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

※問 12 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 13 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

子育てで困ったときの相談先については、「夫婦で話し合いをする」が 81.7%と最も高く、次いで「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が 75.3%、「近所の人や友人に相談する」が 60.2%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「近所の人や友人に相談する」が70.4%で、男の39.0%に比べて高くなっている。

年代別では、10代、20代は、「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が最も高く、30代以降は、「夫婦で話し合いをする」が最も高くなっている。

また、10代、20代、30代は、「保育園・幼稚園の先生に相談する」割合も高く、それぞれ50.0%、23.5%、38.3%となっている。

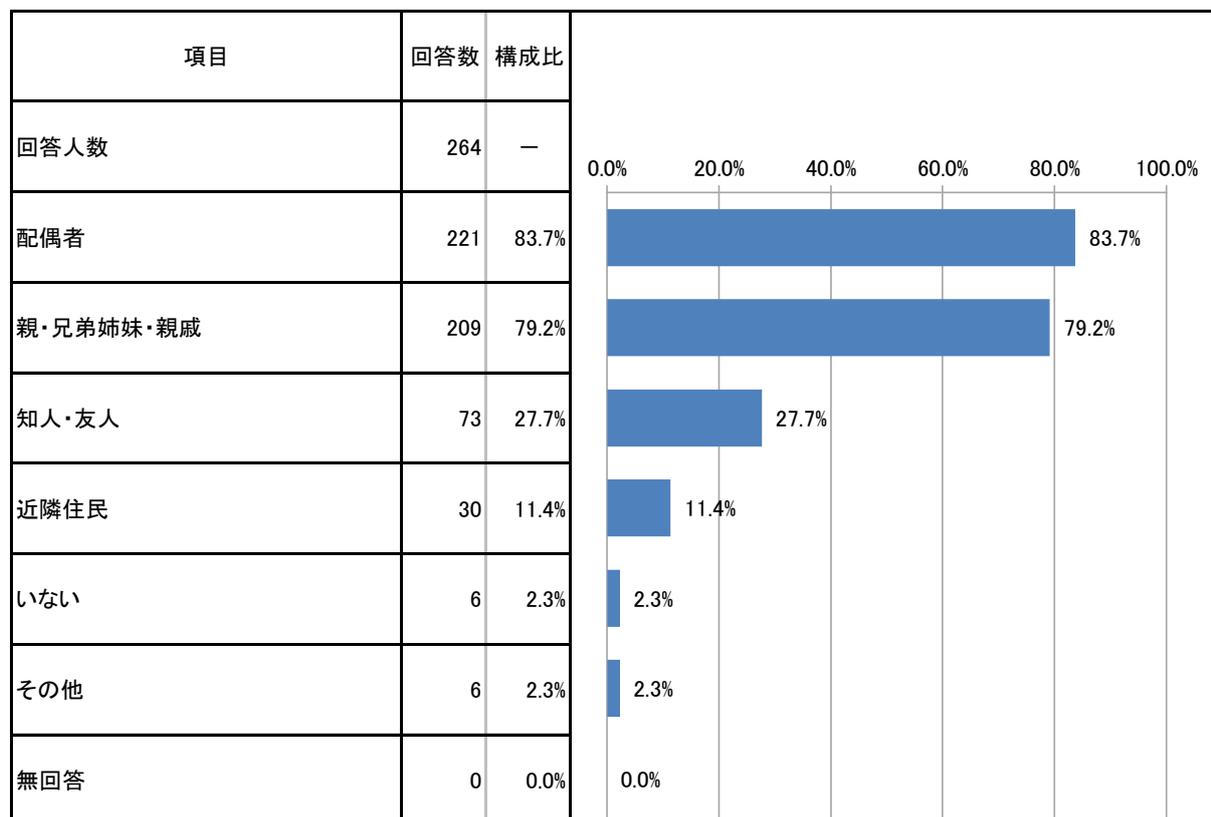
項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	251	—	82	—	169	—	0	—
夫婦で話し合いをする	205	81.7%	76	92.7%	129	76.3%	0	—
親、兄弟姉妹や親戚に相談する	189	75.3%	59	72.0%	130	76.9%	0	—
近所の人や友人に相談する	151	60.2%	32	39.0%	119	70.4%	0	—
保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	20	8.0%	3	3.7%	17	10.1%	0	—
子育て支援施設(りぼんかん等)の専門スタッフに相談する	15	6.0%	2	2.4%	13	7.7%	0	—
保育園・幼稚園の先生に相談する	48	19.1%	11	13.4%	37	21.9%	0	—
その他	7	2.8%	0	0.0%	7	4.1%	0	—
無回答	8	3.2%	0	0.0%	8	4.7%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	251	—	6	—	17	—	60	—	87	—	56	—	25	—	0	—
夫婦で話し合いをする	205	81.7%	2	33.3%	15	88.2%	51	85.0%	71	81.6%	45	80.4%	21	84.0%	0	—
親、兄弟姉妹や親戚に相談する	189	75.3%	5	83.3%	16	94.1%	48	80.0%	63	72.4%	41	73.2%	16	64.0%	0	—
近所の人や友人に相談する	151	60.2%	3	50.0%	9	52.9%	38	63.3%	56	64.4%	32	57.1%	13	52.0%	0	—
保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	20	8.0%	1	16.7%	3	17.6%	7	11.7%	6	6.9%	2	3.6%	1	4.0%	0	—
子育て支援施設(りぼんかん等)の専門スタッフに相談する	15	6.0%	1	16.7%	1	5.9%	6	10.0%	4	4.6%	2	3.6%	1	4.0%	0	—
保育園・幼稚園の先生に相談する	48	19.1%	3	50.0%	4	23.5%	23	38.3%	12	13.8%	4	7.1%	2	8.0%	0	—
その他	7	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	4	4.6%	0	0.0%	2	8.0%	0	—
無回答	8	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	5	8.9%	2	8.0%	0	—

問 14 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 14-1 あなたの子育てを手伝ってくれる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

子育てを手伝ってくれる人については、「配偶者」が83.7%と最も高く、次いで「親・兄弟姉妹・親戚」が79.2%、「知人・友人」が27.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「知人・友人」が33.9%で、男の17.2%に比べて高くなっている。

就労状況別では、いずれも「配偶者」が最も高いが、就労していない人は就労している人より、「親・兄弟姉妹・親戚」や「知人・友人」の割合が高くなっている。

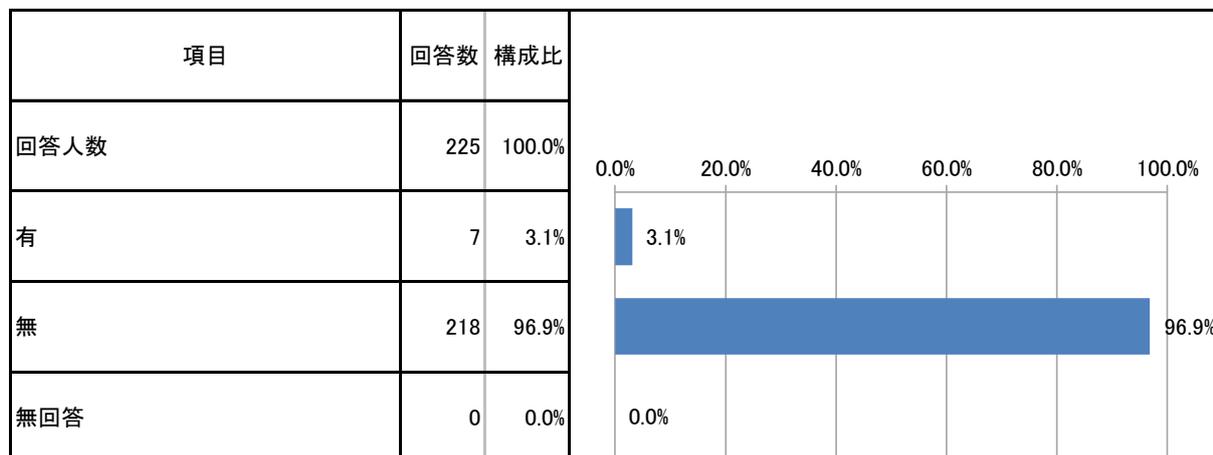
項目	回答人数		性別						就労状況別									
			男		女		無回答		就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	264	—	99	—	165	—	0	—	178	—	62	—	4	—	14	—	6	—
配偶者	221	83.7%	83	83.8%	138	83.6%	0	—	152	85.4%	52	83.9%	3	75.0%	9	64.3%	5	83.3%
親・兄弟姉妹・親戚	209	79.2%	72	72.7%	137	83.0%	0	—	138	77.5%	51	82.3%	4	100.0%	10	71.4%	6	100.0%
知人・友人	73	27.7%	17	17.2%	56	33.9%	0	—	45	25.3%	21	33.9%	1	25.0%	4	28.6%	2	33.3%
近隣住民	30	11.4%	13	13.1%	17	10.3%	0	—	20	11.2%	7	11.3%	0	0.0%	2	14.3%	1	16.7%
いない	6	2.3%	5	5.1%	1	0.6%	0	—	2	1.1%	2	3.2%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%
その他	6	2.3%	0	0.0%	6	3.6%	0	—	3	1.7%	2	3.2%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問 14-2 あなたは、子どもの一時預かりの施設等を利用したことがありますか。(AからDの項目ごとにひとつに○)

A ファミリー・サポート・センターの育児支援

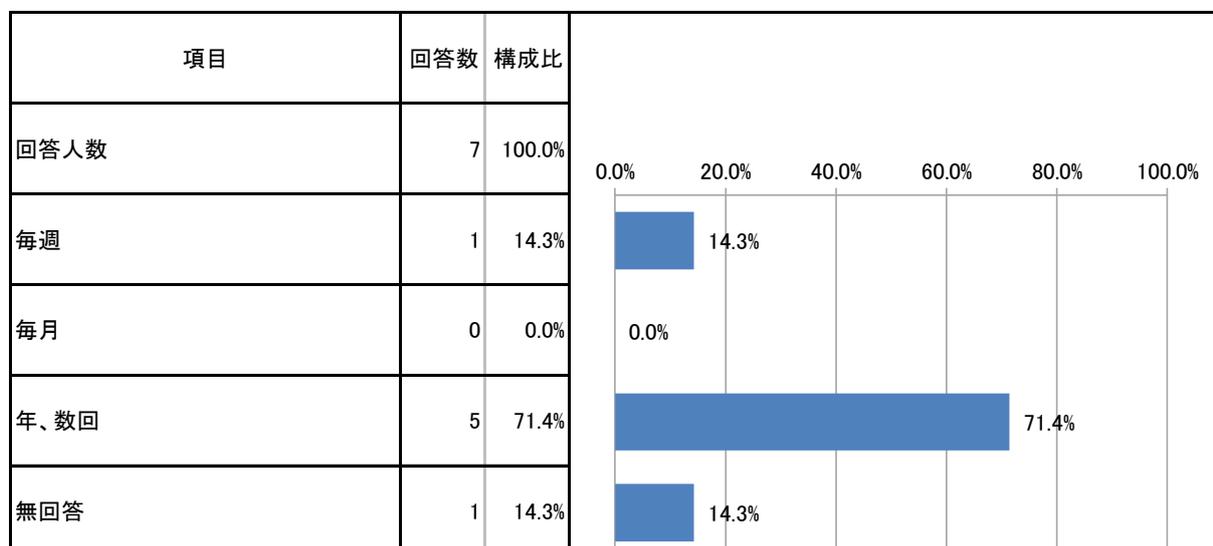
(1) 利用の有無

ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用の有無については、「有」が3.1%「無」が96.9%となっている。



(2) 利用頻度

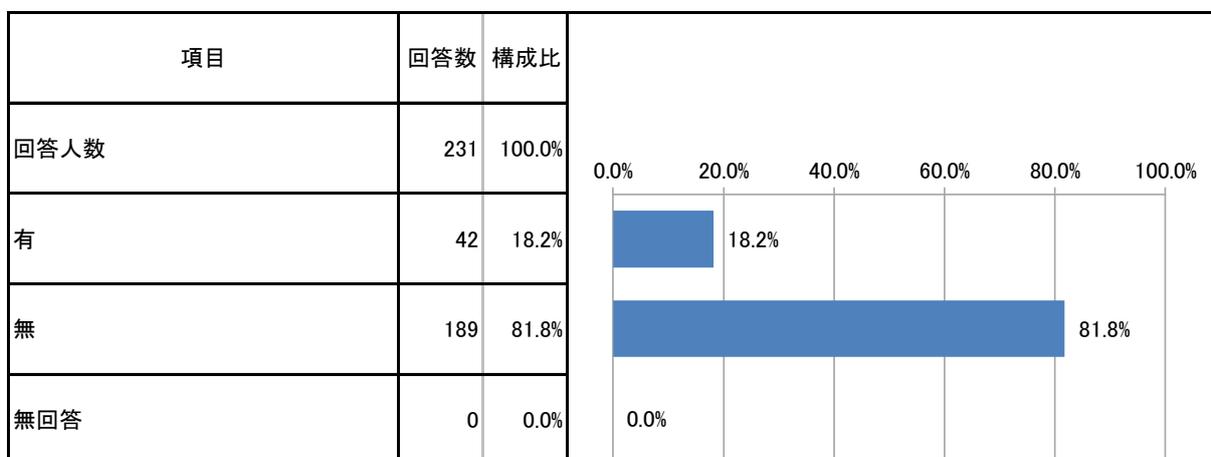
ファミリー・サポート・センターの育児支援の利用頻度については、「年、数回」が71.4%と最も多く、次いで「毎週」が14.3%となっている。



B 保育園の一時預かり

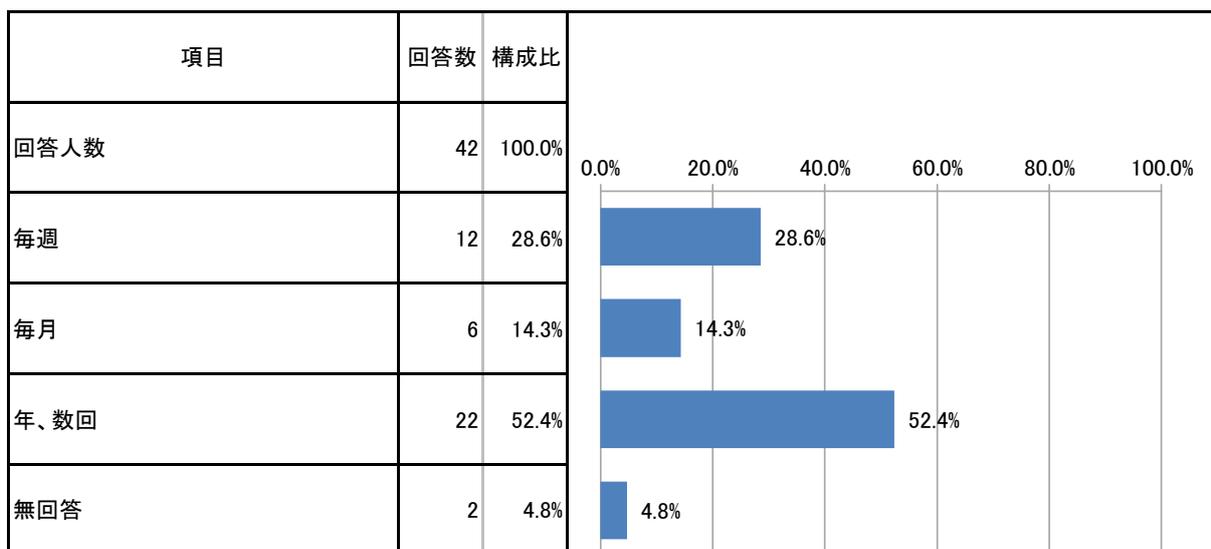
(1) 利用の有無

保育園の一時預かりの利用の有無については、「有」が18.2%、「無」が81.8%となっている。



(2) 利用頻度

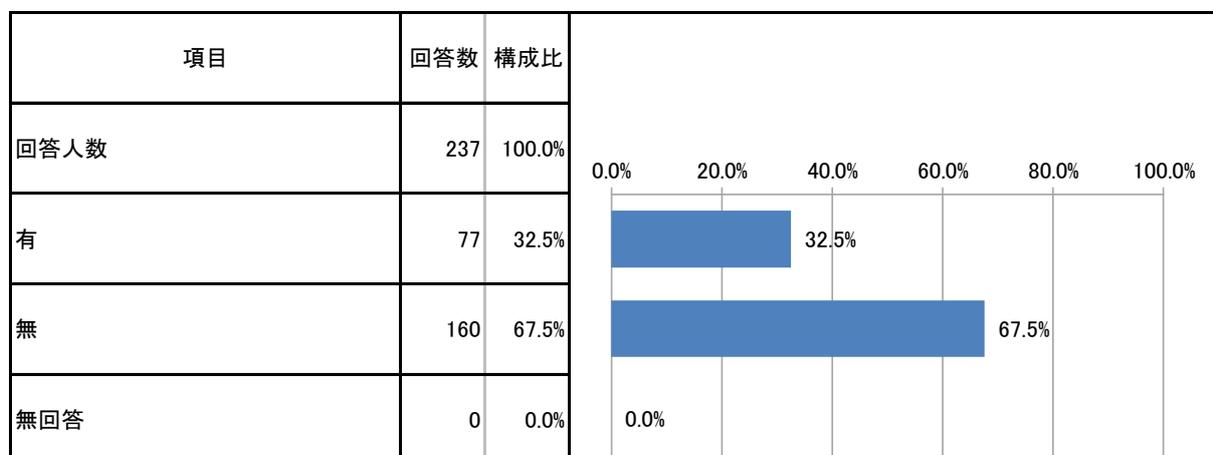
保育園の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が52.4%と最も多く、次いで「毎週」が28.6%、「毎月」が14.3%となっている。



C 幼稚園の預かり保育

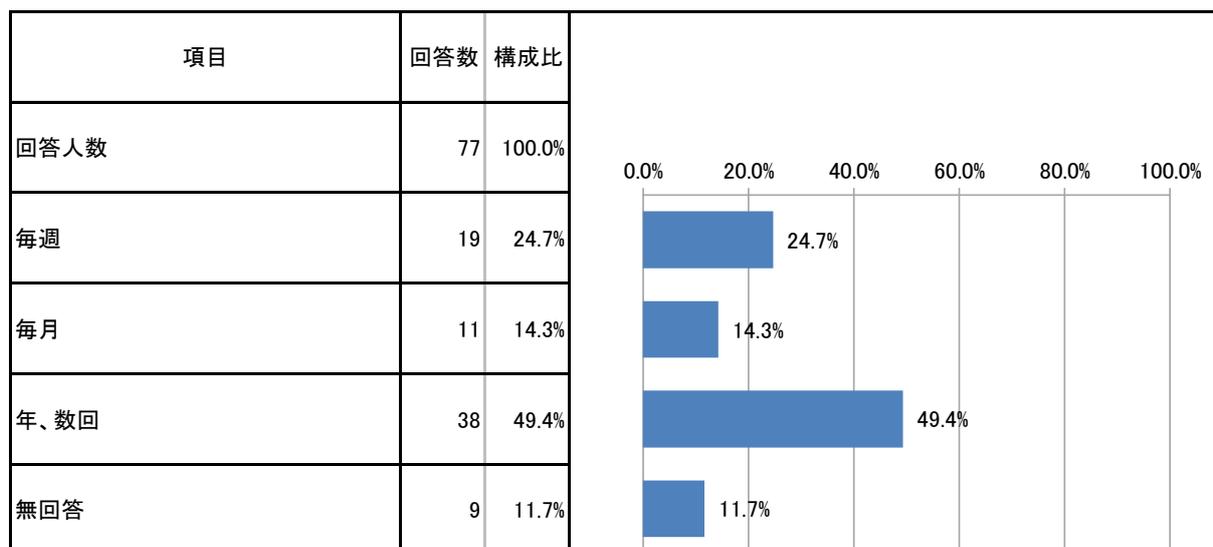
(1) 利用の有無

幼稚園の預かり保育の利用の有無については、「有」が32.5%、「無」が67.5%となっている。



(2) 利用頻度

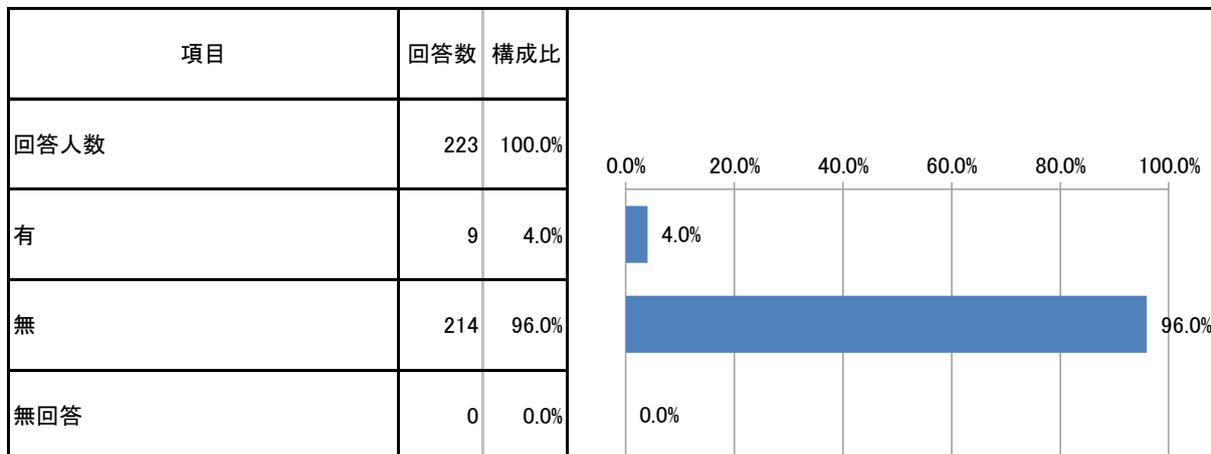
幼稚園の預かり保育の利用頻度については、「年、数回」が49.4%と最も高く、次いで「毎週」が24.7%、「毎月」が14.3%となっている。



D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かり

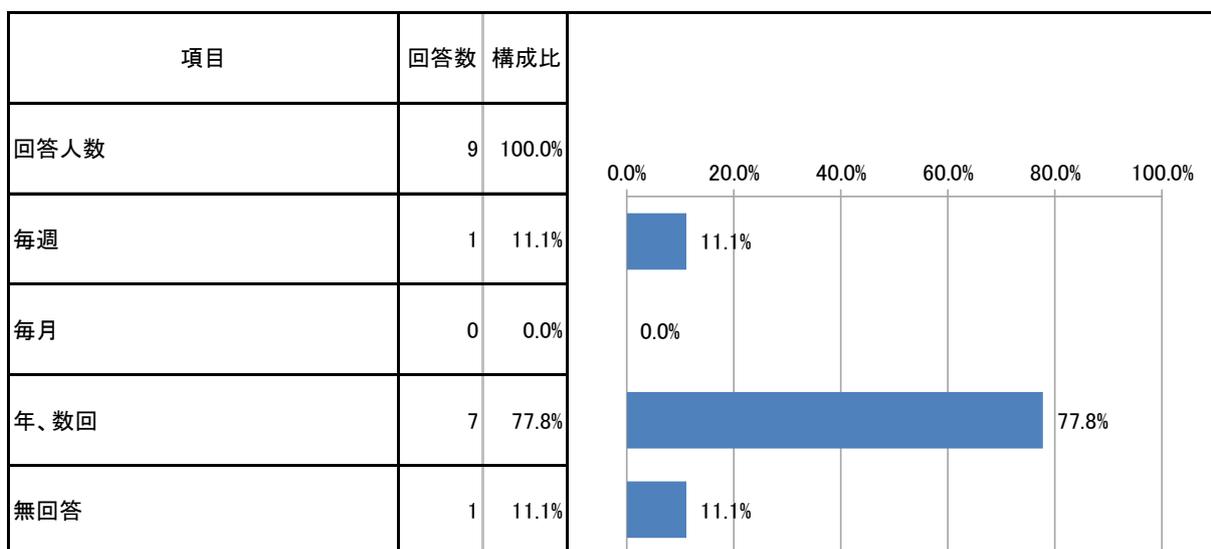
(1) 利用の有無

すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用の有無については、「有」が4.0%「無」が96.0%となっている。



(2) 利用頻度

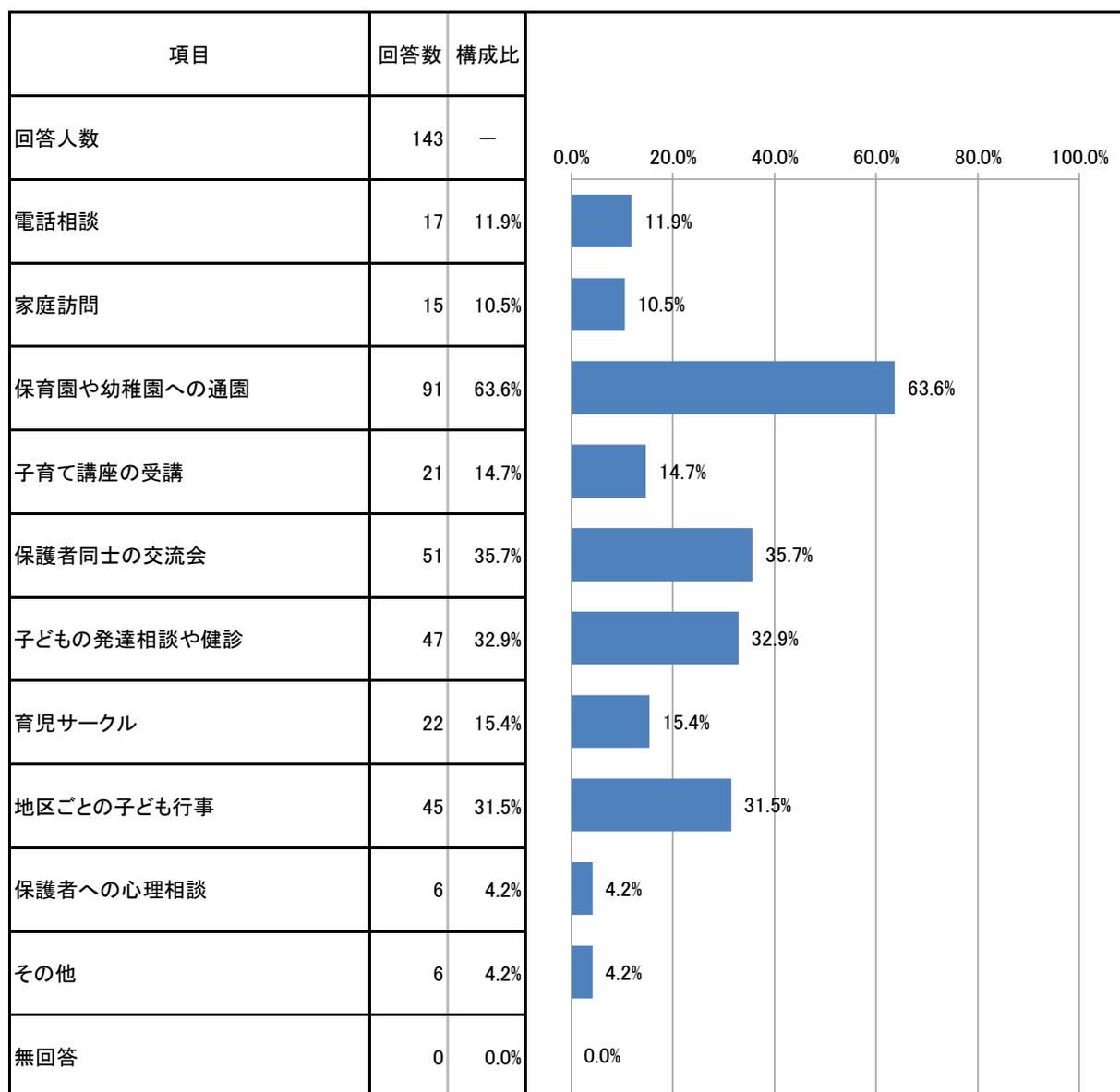
すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かりの利用頻度については、「年、数回」が77.8%と最も高く、次いで「毎週」が11.1%となっている。



問 15 あなたは、どのような子育て支援を活用していますか。（または、活用したことがありますか）また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

（現在活用している）

子育て支援の活用状況については、「保育園や幼稚園への通園」が63.6%と最も高く、次いで「保護者同士の交流会」が35.7%、「子どもの発達相談や健診」が32.9%、「地区ごとの子ども行事」が31.5%となっている。



【属性別特徴】

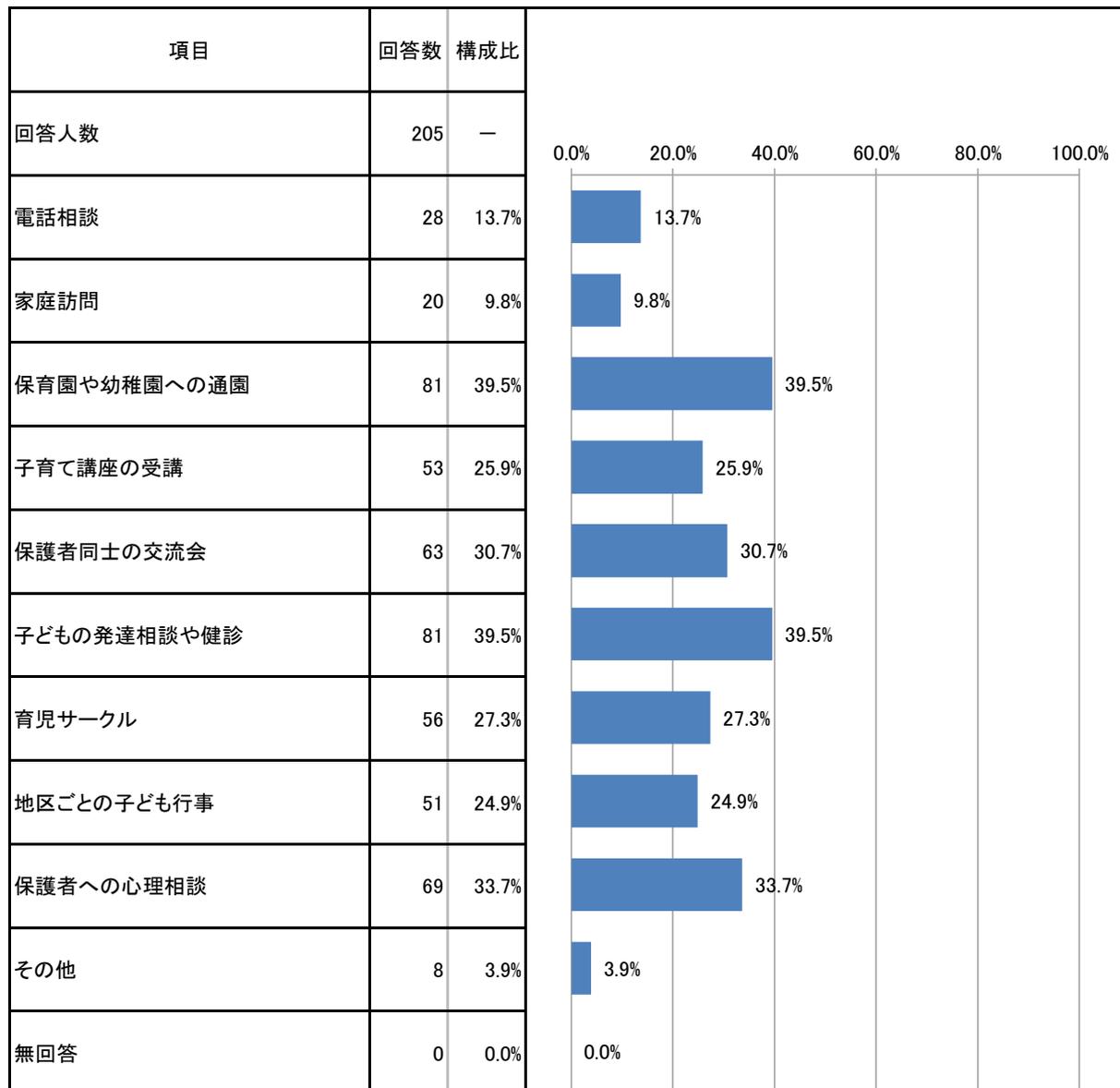
性別では、女の「育児サークル」が19.2%で、男の7.0%に比べて高くなっている。

就労状況別では、就労している人、就労していない人ともに、「保育園や幼稚園への通園」が最も高いが、就労していない人は、「子どもの発達相談や健診」が43.9%で、就労している人の26.7%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						就労状況別									
			男		女		無回答		就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	143	-	43	-	99	-	1	-	86	-	41	-	1	-	10	-	5	-
電話相談	17	11.9%	4	9.3%	12	12.1%	1	100.0%	9	10.5%	5	12.2%	0	0.0%	1	10.0%	2	40.0%
家庭訪問	15	10.5%	7	16.3%	8	8.1%	0	0.0%	7	8.1%	5	12.2%	0	0.0%	1	10.0%	2	40.0%
保育園や幼稚園への通園	91	63.6%	29	67.4%	62	62.6%	0	0.0%	63	73.3%	21	51.2%	0	0.0%	5	50.0%	2	40.0%
子育て講座の受講	21	14.7%	6	14.0%	15	15.2%	0	0.0%	10	11.6%	9	22.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	20.0%
保護者同士の交流会	51	35.7%	12	27.9%	39	39.4%	0	0.0%	30	34.9%	16	39.0%	1	100.0%	3	30.0%	1	20.0%
子どもの発達相談や健診	47	32.9%	14	32.6%	33	33.3%	0	0.0%	23	26.7%	18	43.9%	0	0.0%	3	30.0%	3	60.0%
育児サークル	22	15.4%	3	7.0%	19	19.2%	0	0.0%	10	11.6%	11	26.8%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%
地区ごとの子ども行事	45	31.5%	15	34.9%	30	30.3%	0	0.0%	30	34.9%	12	29.3%	1	100.0%	1	10.0%	1	20.0%
保護者への心理相談	6	4.2%	3	7.0%	3	3.0%	0	0.0%	4	4.7%	1	2.4%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%
その他	6	4.2%	0	0.0%	6	6.1%	0	0.0%	1	1.2%	2	4.9%	0	0.0%	3	30.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

（充実して欲しい）

充実して欲しい子育て支援については、「保育園や幼稚園への通園」「子どもの発達相談や健診」が39.5%と最も高く、次いで「保護者への心理相談」が33.7%、「保護者同士の交流会」が30.7%となっている。



【属性別特徴】

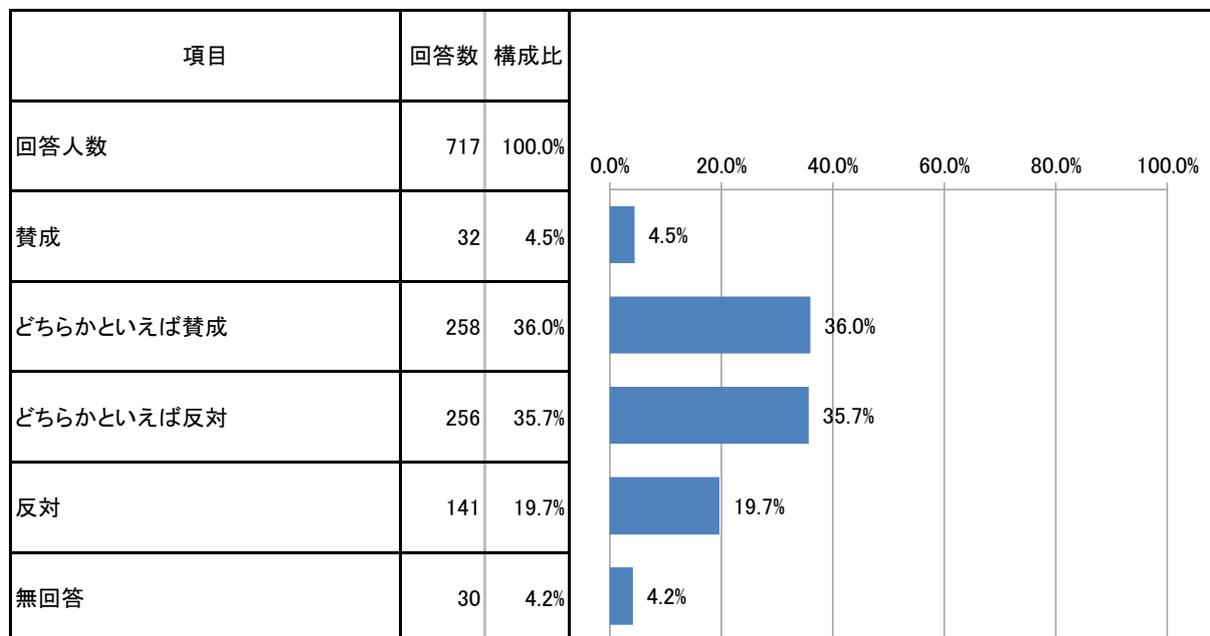
性別では、男の「地区ごとの子ども行事」が30.3%で、女の21.7%に比べてやや高くなっている。

就労状況別では、就労していない人は、いずれも大きな差は見られなかったが、就労している人は、「保育園や幼稚園への通園」が42.1%、「子どもの発達相談や健診」が40.7%と高くなっており、就労している人が利用しにくいと感じている割合が高いものと考えられる。

項目	回答人数		性別						就労状況別									
			男		女		無回答		就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	205	—	76	—	129	—	0	—	140	—	49	—	2	—	10	—	4	—
電話相談	28	13.7%	11	14.5%	17	13.2%	0	—	19	13.6%	6	12.2%	1	50.0%	1	10.0%	1	25.0%
家庭訪問	20	9.8%	9	11.8%	11	8.5%	0	—	11	7.9%	8	16.3%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%
保育園や幼稚園への通園	81	39.5%	32	42.1%	49	38.0%	0	—	59	42.1%	18	36.7%	1	50.0%	2	20.0%	1	25.0%
子育て講座の受講	53	25.9%	22	28.9%	31	24.0%	0	—	34	24.3%	14	28.6%	0	0.0%	5	50.0%	0	0.0%
保護者同士の交流会	63	30.7%	22	28.9%	41	31.8%	0	—	43	30.7%	18	36.7%	1	50.0%	1	10.0%	0	0.0%
子どもの発達相談や健診	81	39.5%	29	38.2%	52	40.3%	0	—	57	40.7%	18	36.7%	1	50.0%	4	40.0%	1	25.0%
育児サークル	56	27.3%	19	25.0%	37	28.7%	0	—	38	27.1%	14	28.6%	1	50.0%	2	20.0%	1	25.0%
地区ごとの子ども行事	51	24.9%	23	30.3%	28	21.7%	0	—	38	27.1%	10	20.4%	0	0.0%	1	10.0%	2	50.0%
保護者への心理相談	69	33.7%	22	28.9%	47	36.4%	0	—	44	31.4%	19	38.8%	1	50.0%	3	30.0%	2	50.0%
その他	8	3.9%	1	1.3%	7	5.4%	0	—	4	2.9%	3	6.1%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問 16 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(ひとつに○)

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、「どちらかといえば賛成」が 36.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が 35.7%、「反対」が 19.7%、「賛成」が 4.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「反対」、「どちらかといえば反対」が59.1%で、男の48.9%に比べて高くなっている。

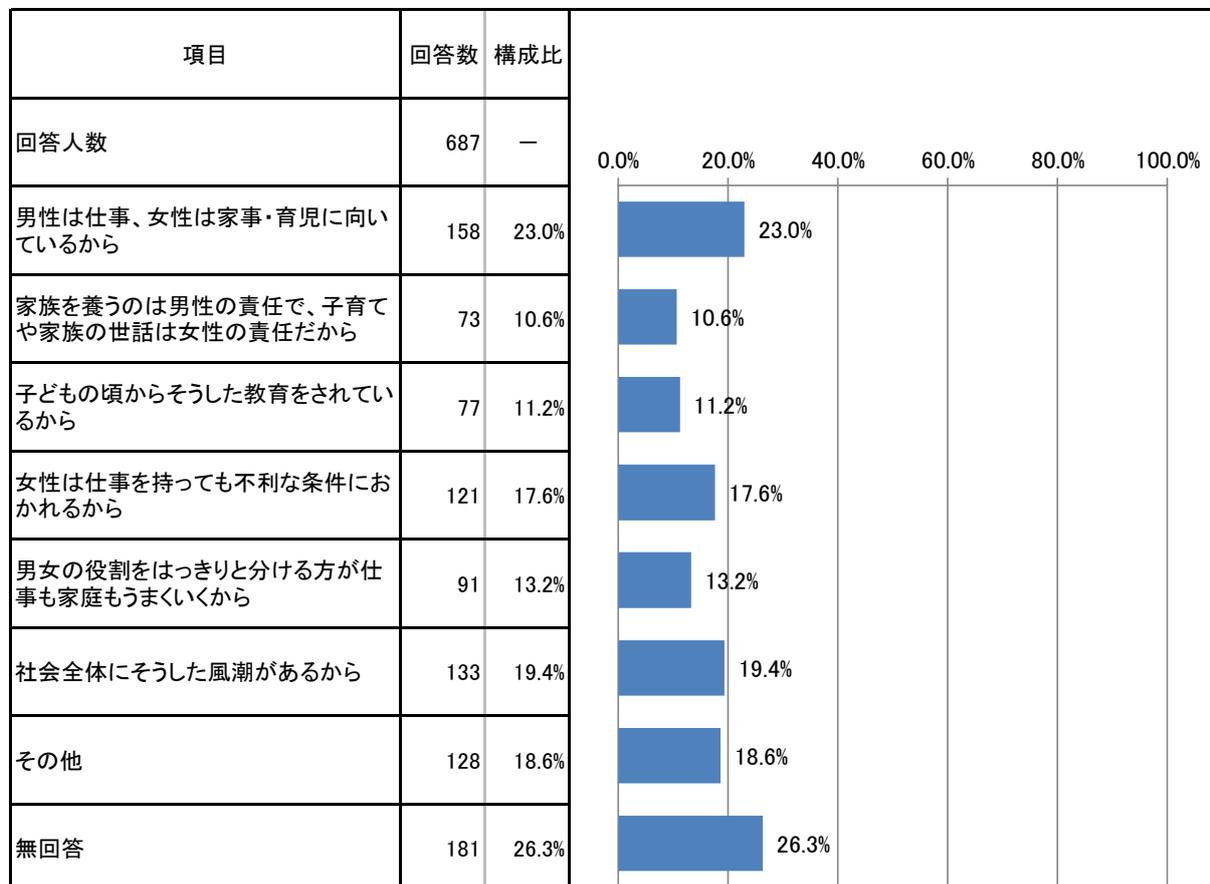
年代別では、「反対」、「どちらかといえば反対」が最も高いのは30代で63.2%、最も低かったのは60代で45.0%となっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
賛成	32	4.5%	16	6.3%	16	3.5%	0	0.0%
どちらかといえば賛成	258	36.0%	104	40.6%	153	33.3%	1	100.0%
どちらかといえば反対	256	35.7%	78	30.5%	178	38.7%	0	0.0%
反対	141	19.7%	47	18.4%	94	20.4%	0	0.0%
無回答	30	4.2%	11	4.3%	19	4.1%	0	0.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
賛成	32	4.5%	3	4.3%	6	6.7%	3	2.8%	1	0.8%	5	3.2%	14	8.8%	0	0.0%
どちらかといえば賛成	258	36.0%	19	27.1%	31	34.8%	35	33.0%	51	38.3%	58	37.2%	62	38.8%	2	66.7%
どちらかといえば反対	256	35.7%	25	35.7%	35	39.3%	46	43.4%	49	36.8%	58	37.2%	43	26.9%	0	0.0%
反対	141	19.7%	17	24.3%	15	16.9%	21	19.8%	30	22.6%	29	18.6%	29	18.1%	0	0.0%
無回答	30	4.2%	6	8.6%	2	2.2%	1	0.9%	2	1.5%	6	3.8%	12	7.5%	1	33.3%

問 16-1 問 16 と答えられた理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

問 16 と答えた理由については、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が 23.0% と最も高く、次いで「社会全体にそうした風潮があるから」が 19.4%、「女性は仕事を持って も不利な条件におかれるから」が 17.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから」が 21.5%で、男の 10.6%に比べて高くなっている。

年代別では、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから」は、年代が高くなるごとに割合が高くなり、「女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから」は、20代の 26.4%、40代の 24.4%が高い。

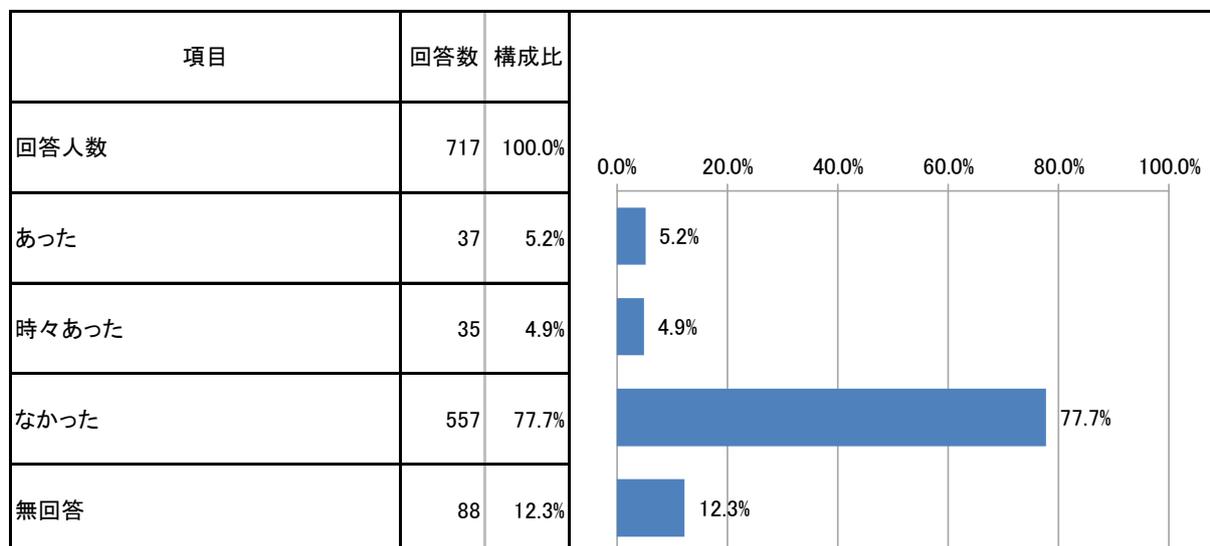
項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	687	—	245	—	441	—	1	—
男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから	158	23.0%	60	24.5%	97	22.0%	1	100.0%
家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	73	10.6%	29	11.8%	44	10.0%	0	0.0%
子どもの頃からそうした教育をされているから	77	11.2%	26	10.6%	51	11.6%	0	0.0%
女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから	121	17.6%	26	10.6%	95	21.5%	0	0.0%
男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから	91	13.2%	39	15.9%	52	11.8%	0	0.0%
社会全体にそうした風潮があるから	133	19.4%	51	20.8%	82	18.6%	0	0.0%
その他	128	18.6%	40	16.3%	88	20.0%	0	0.0%
無回答	181	26.3%	63	25.7%	118	26.8%	0	0.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	687	—	64	—	87	—	105	—	131	—	150	—	148	—	2	—
男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから	158	23.0%	10	15.6%	19	21.8%	30	28.6%	28	21.4%	39	26.0%	31	20.9%	1	50.0%
家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	73	10.6%	2	3.1%	6	6.9%	6	5.7%	12	9.2%	21	14.0%	26	17.6%	0	0.0%
子どもの頃からそうした教育をされているから	77	11.2%	2	3.1%	8	9.2%	12	11.4%	9	6.9%	23	15.3%	23	15.5%	0	0.0%
女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから	121	17.6%	5	7.8%	23	26.4%	19	18.1%	32	24.4%	24	16.0%	18	12.2%	0	0.0%
男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから	91	13.2%	9	14.1%	10	11.5%	11	10.5%	11	8.4%	24	16.0%	25	16.9%	1	50.0%
社会全体にそうした風潮があるから	133	19.4%	19	29.7%	16	18.4%	26	24.8%	17	13.0%	31	20.7%	24	16.2%	0	0.0%
その他	128	18.6%	17	26.6%	24	27.6%	18	17.1%	27	20.6%	17	11.3%	25	16.9%	0	0.0%
無回答	181	26.3%	11	17.2%	15	17.2%	25	23.8%	32	24.4%	50	33.3%	48	32.4%	0	0.0%

問 17 あなたは、現在又はこれまでに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(AからHの項目ごとにひとつに○)

A 殴ったり、殴るふりをする

交際相手に殴ったり、殴るふりをされた経験については、「なかった」が77.7%と最も高く、次いで「あった」が5.2%、「時々あった」が4.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「あった」、「時々あった」が 12.0%で、男の 6.6%に比べてやや高くなっている。

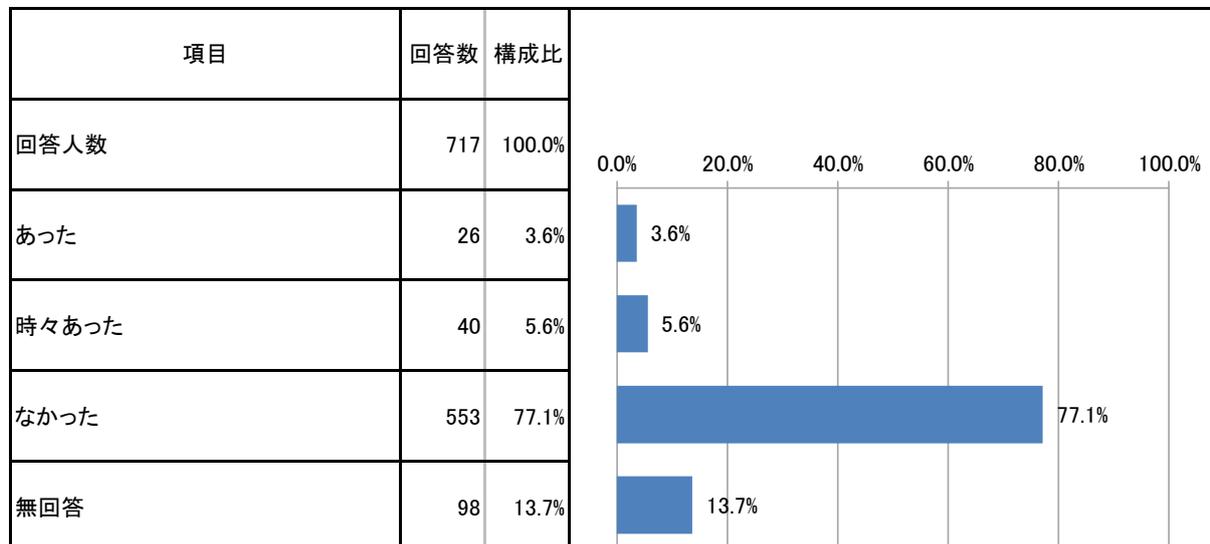
年代別では、40代の「あった」、「時々あった」が 15.0%で、他の年代に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	37	5.2%	8	3.1%	29	6.3%	0	0.0%
時々あった	35	4.9%	9	3.5%	26	5.7%	0	0.0%
なかった	557	77.7%	209	81.6%	347	75.4%	1	100.0%
無回答	88	12.3%	30	11.7%	58	12.6%	0	0.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	37	5.2%	2	2.9%	5	5.6%	4	3.8%	12	9.0%	7	4.5%	7	4.4%	0	0.0%
時々あった	35	4.9%	2	2.9%	3	3.4%	7	6.6%	8	6.0%	9	5.8%	6	3.8%	0	0.0%
なかった	557	77.7%	48	68.6%	75	84.3%	88	83.0%	106	79.7%	125	80.1%	113	70.6%	2	66.7%
無回答	88	12.3%	18	25.7%	6	6.7%	7	6.6%	7	5.3%	15	9.6%	34	21.3%	1	33.3%

B 携帯を勝手にチェックしたり、異性のアドレスを消せと言う

交際相手が携帯を勝手にチェックしたり、異性のアドレスを消せと言われた経験については、「なかった」が77.1%と最も高く、次いで「時々あった」が5.6%、「あった」が3.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

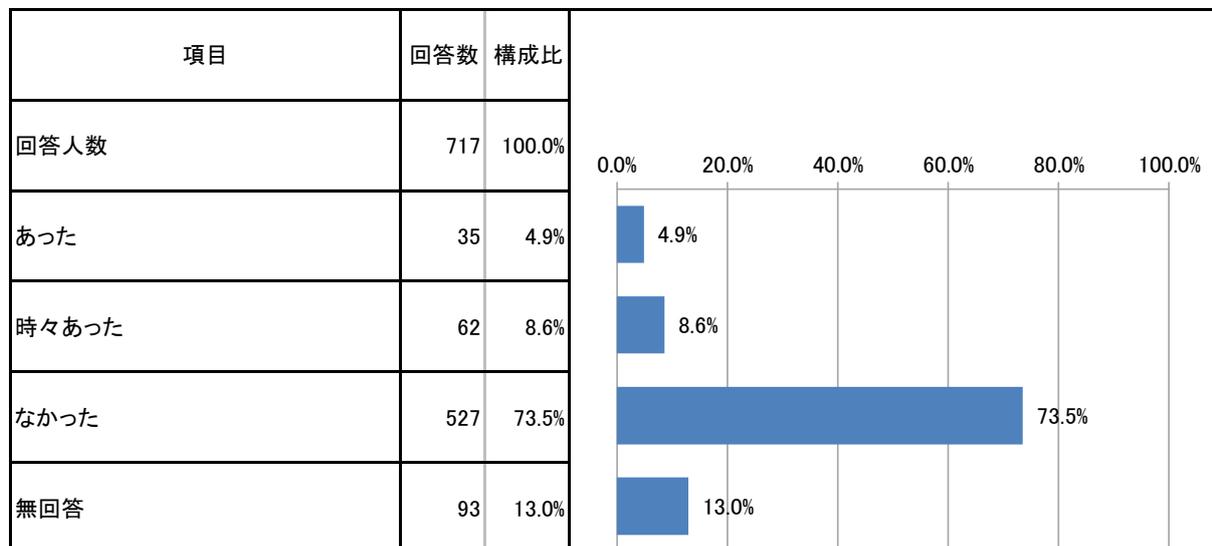
年代別では、20代の「あった」、「時々あった」が21.3%で、他の年代に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	26	3.6%	7	2.7%	19	4.1%	0	0.0%
時々あった	40	5.6%	14	5.5%	26	5.7%	0	0.0%
なかった	553	77.1%	203	79.3%	350	76.1%	0	0.0%
無回答	98	13.7%	32	12.5%	65	14.1%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	26	3.6%	3	4.3%	9	10.1%	5	4.7%	5	3.8%	3	1.9%	1	0.6%	0	0.0%
時々あった	40	5.6%	2	2.9%	10	11.2%	11	10.4%	10	7.5%	7	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
なかった	553	77.1%	47	67.1%	64	71.9%	83	78.3%	108	81.2%	130	83.3%	120	75.0%	1	33.3%
無回答	98	13.7%	18	25.7%	6	6.7%	7	6.6%	10	7.5%	16	10.3%	39	24.4%	2	66.7%

C 異性の話に不機嫌になったり、異性と話すなど言う

交際相手が異性の話に不機嫌になったり、異性と話すなど言われた経験については、「なかった」が73.5%と最も高く、次いで「時々あった」が8.6%、「あった」が4.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

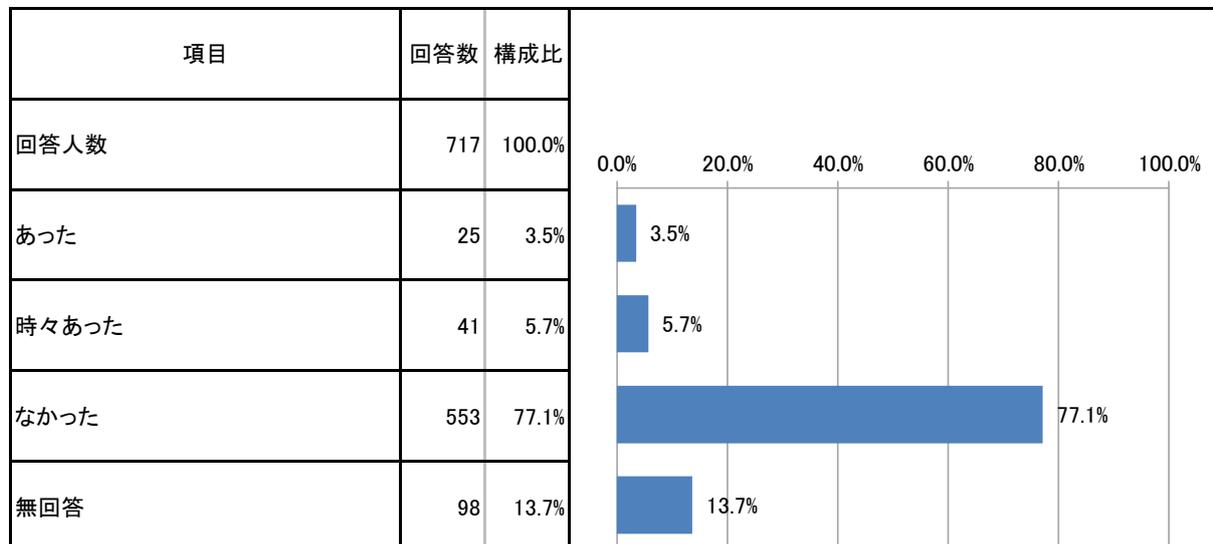
年代別では、「あった」、「時々あった」が30代で22.7%、20代で20.2%と他の年代に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	35	4.9%	9	3.5%	26	5.7%	0	0.0%
時々あった	62	8.6%	21	8.2%	41	8.9%	0	0.0%
なかった	527	73.5%	196	76.6%	331	72.0%	0	0.0%
無回答	93	13.0%	30	11.7%	62	13.5%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	35	4.9%	3	4.3%	10	11.2%	6	5.7%	6	4.5%	5	3.2%	5	3.1%	0	0.0%
時々あった	62	8.6%	1	1.4%	8	9.0%	18	17.0%	14	10.5%	16	10.3%	5	3.1%	0	0.0%
なかった	527	73.5%	48	68.6%	65	73.0%	75	70.8%	103	77.4%	121	77.6%	114	71.3%	1	33.3%
無回答	93	13.0%	18	25.7%	6	6.7%	7	6.6%	10	7.5%	14	9.0%	36	22.5%	2	66.7%

D 頻繁に電話をかけてきたり、メールを送ってきて、すぐに返事をしないと怒る

交際相手が頻繁に電話をかけてきたり、メールを送ってきて、すぐに返事をしないと怒られた経験については、「なかった」が 77.1%と最も高く、次いで「時々あった」が 5.7%、「あった」が 3.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

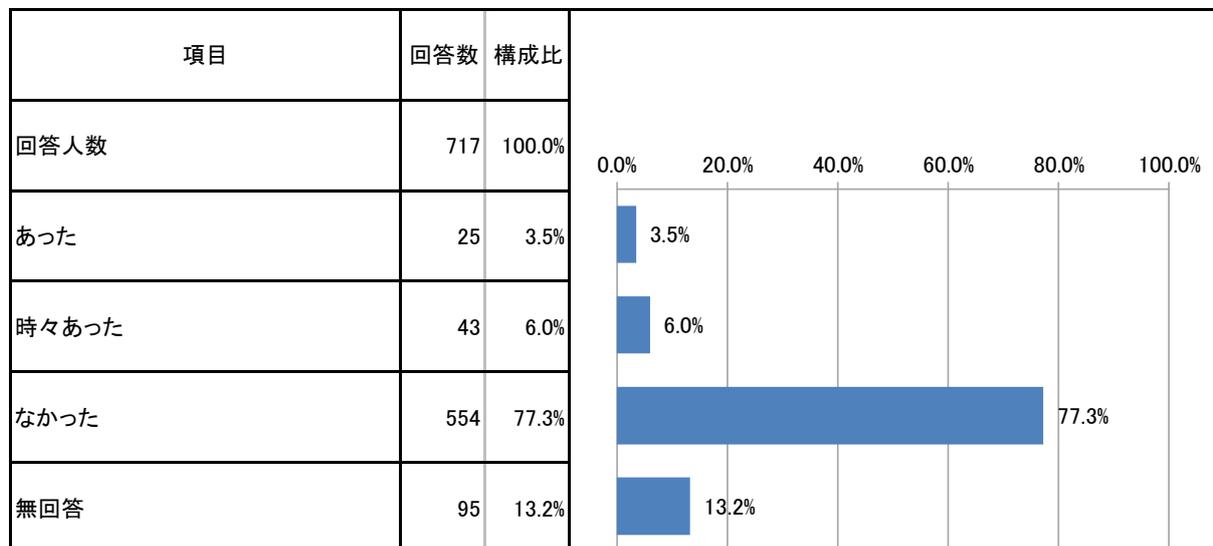
年代別では、20代の「あった」、「時々あった」が21.3%で、他の年代に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	25	3.5%	9	3.5%	16	3.5%	0	0.0%
時々あった	41	5.7%	11	4.3%	30	6.5%	0	0.0%
なかった	553	77.1%	204	79.7%	349	75.9%	0	0.0%
無回答	98	13.7%	32	12.5%	65	14.1%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	25	3.5%	1	1.4%	10	11.2%	3	2.8%	5	3.8%	5	3.2%	1	0.6%	0	0.0%
時々あった	41	5.7%	1	1.4%	9	10.1%	9	8.5%	8	6.0%	8	5.1%	6	3.8%	0	0.0%
なかった	553	77.1%	50	71.4%	64	71.9%	86	81.1%	110	82.7%	127	81.4%	115	71.9%	1	33.3%
無回答	98	13.7%	18	25.7%	6	6.7%	8	7.5%	10	7.5%	16	10.3%	38	23.8%	2	66.7%

E 何事も交際相手を優先しないと不機嫌になる

何事も交際相手を優先しないと不機嫌になる経験については、「なかった」が77.3%と最も高く、次いで「時々あった」が6.0%、「あった」が3.5%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

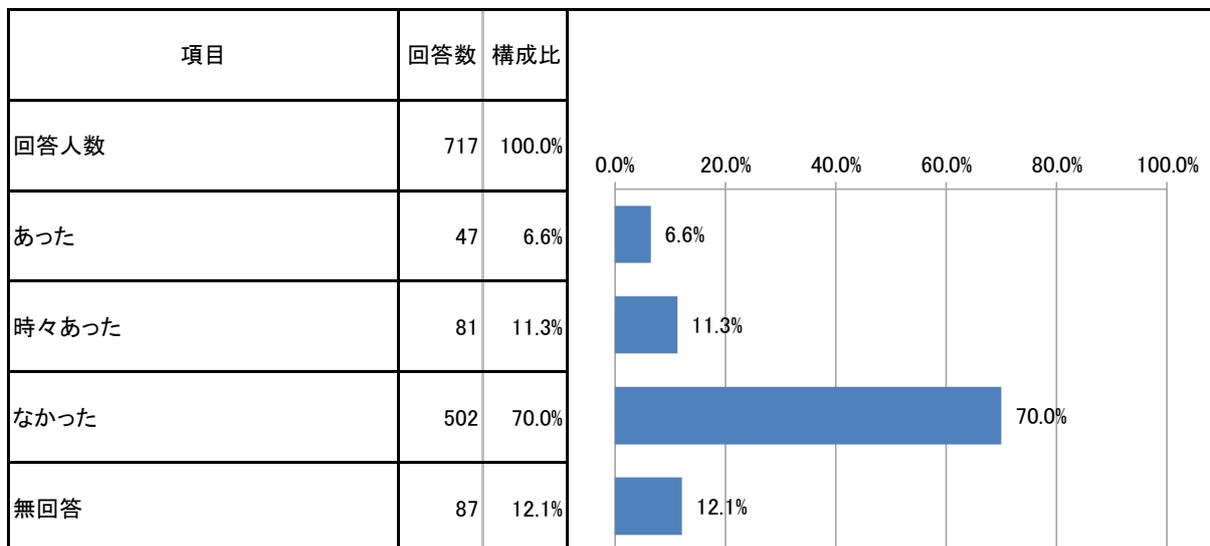
年代別では、20代の「あった」、「時々あった」が18.0%で、他の年代に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	25	3.5%	7	2.7%	18	3.9%	0	0.0%
時々あった	43	6.0%	13	5.1%	30	6.5%	0	0.0%
なかった	554	77.3%	205	80.1%	349	75.9%	0	0.0%
無回答	95	13.2%	31	12.1%	63	13.7%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	25	3.5%	2	2.9%	5	5.6%	3	2.8%	5	3.8%	5	3.2%	5	3.1%	0	0.0%
時々あった	43	6.0%	1	1.4%	11	12.4%	7	6.6%	11	8.3%	10	6.4%	3	1.9%	0	0.0%
なかった	554	77.3%	49	70.0%	67	75.3%	88	83.0%	108	81.2%	125	80.1%	116	72.5%	1	33.3%
無回答	95	13.2%	18	25.7%	6	6.7%	8	7.5%	9	6.8%	16	10.3%	36	22.5%	2	66.7%

F 大声でどなったり、傷つく言い方をされる

交際相手が大声でどなったり、傷つく言い方をされた経験については、「なかった」が70.0%と最も高く、次いで「時々あった」が11.3%、「あった」が6.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「あった」、「時々あった」が21.1%で、男の12.1%と比べてやや高くなっている。

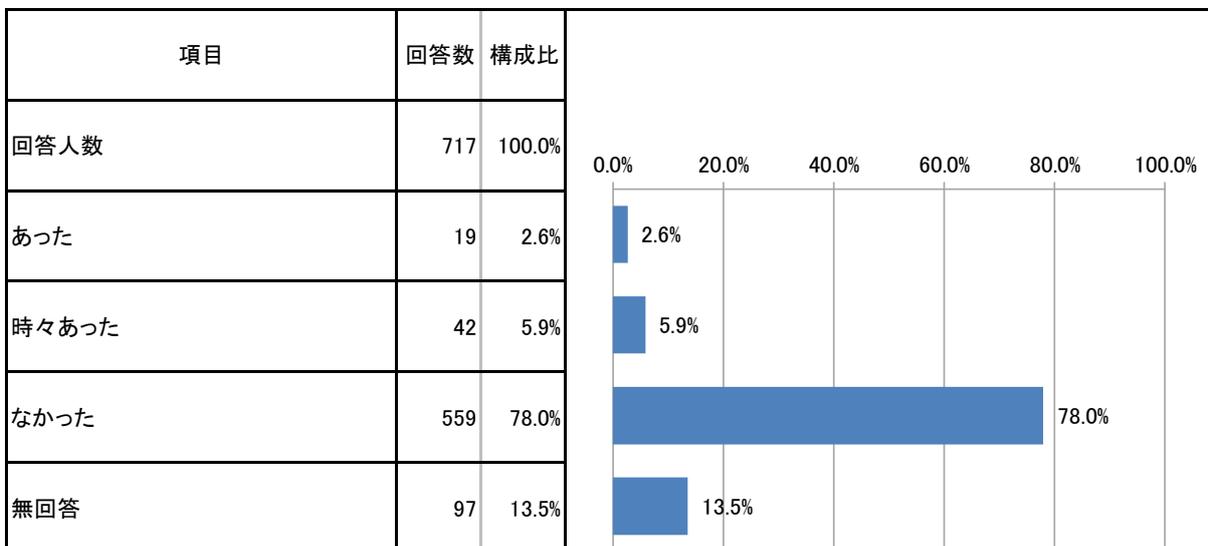
年代別では、「あった」、「時々あった」が40代で28.5%、30代で20.8%と他の年代に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	47	6.6%	8	3.1%	39	8.5%	0	0.0%
時々あった	81	11.3%	23	9.0%	58	12.6%	0	0.0%
なかった	502	70.0%	193	75.4%	309	67.2%	0	0.0%
無回答	87	12.1%	32	12.5%	54	11.7%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	47	6.6%	4	5.7%	3	3.4%	7	6.6%	14	10.5%	10	6.4%	9	5.6%	0	0.0%
時々あった	81	11.3%	0	0.0%	10	11.2%	15	14.2%	24	18.0%	14	9.0%	18	11.3%	0	0.0%
なかった	502	70.0%	48	68.6%	70	78.7%	77	72.6%	89	66.9%	117	75.0%	100	62.5%	1	33.3%
無回答	87	12.1%	18	25.7%	6	6.7%	7	6.6%	6	4.5%	15	9.6%	33	20.6%	2	66.7%

G イヤと言っているのに、性的行為を強要される

イヤと言っているのに、性的行為を強要された経験については、「なかった」が78.0%と最も高く、次いで「時々あった」が5.9%、「あった」が2.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「あった」「時々あった」が11.3%で、男の3.6%に比べてやや高くなっている。

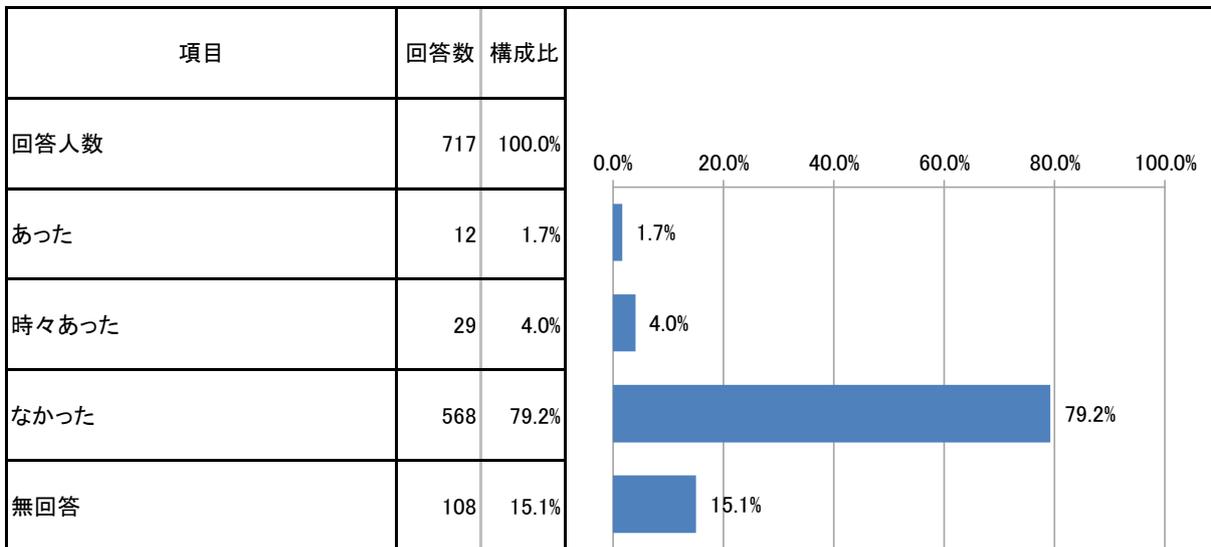
年代別では、40代の「あった」、「時々あった」が13.6%で、他の年代に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	19	2.6%	5	2.0%	14	3.0%	0	0.0%
時々あった	42	5.9%	4	1.6%	38	8.3%	0	0.0%
なかった	559	78.0%	214	83.6%	345	75.0%	0	0.0%
無回答	97	13.5%	33	12.9%	63	13.7%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	19	2.6%	2	2.9%	2	2.2%	3	2.8%	5	3.8%	3	1.9%	4	2.5%	0	0.0%
時々あった	42	5.9%	1	1.4%	6	6.7%	5	4.7%	13	9.8%	8	5.1%	9	5.6%	0	0.0%
なかった	559	78.0%	49	70.0%	75	84.3%	90	84.9%	106	79.7%	128	82.1%	110	68.8%	1	33.3%
無回答	97	13.5%	18	25.7%	6	6.7%	8	7.5%	9	6.8%	17	10.9%	37	23.1%	2	66.7%

H 避妊に協力してくれない

避妊に協力してくれないという経験については、「なかった」が79.2%と最も高く、次いで「時々あった」が4.0%、「あった」が1.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「あった」、「時々あった」が7.9%で、男の2.0%に比べてやや高くなっている。

年代別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
あった	12	1.7%	2	0.8%	10	2.2%	0	0.0%
時々あった	29	4.0%	3	1.2%	26	5.7%	0	0.0%
なかった	568	79.2%	214	83.6%	354	77.0%	0	0.0%
無回答	108	15.1%	37	14.5%	70	15.2%	1	100.0%

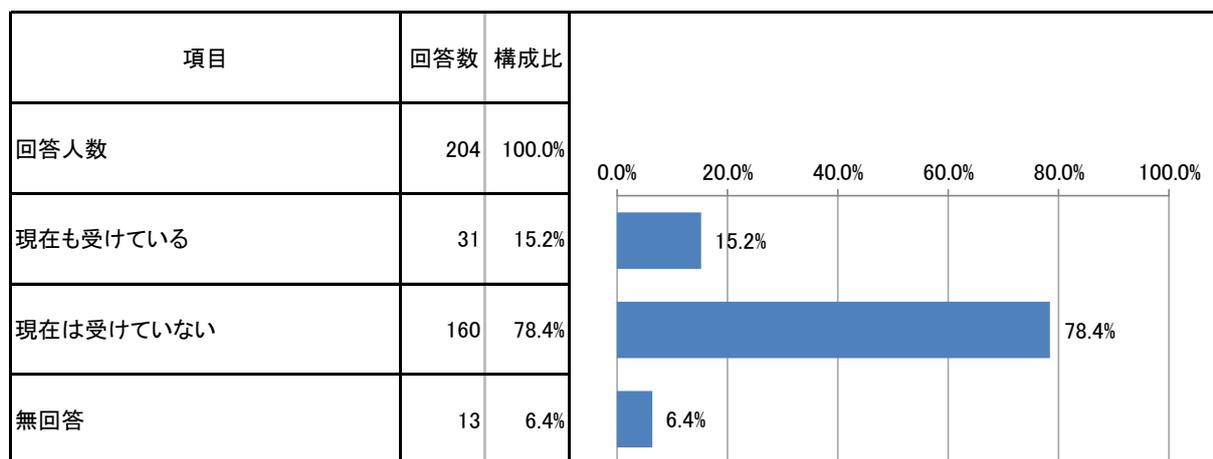
項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
あった	12	1.7%	1	1.4%	4	4.5%	3	2.8%	1	0.8%	1	0.6%	2	1.3%	0	0.0%
時々あった	29	4.0%	1	1.4%	4	4.5%	7	6.6%	10	7.5%	4	2.6%	3	1.9%	0	0.0%
なかった	568	79.2%	50	71.4%	74	83.1%	88	83.0%	112	84.2%	130	83.3%	113	70.6%	1	33.3%
無回答	108	15.1%	18	25.7%	7	7.9%	8	7.5%	10	7.5%	21	13.5%	42	26.3%	2	66.7%

【一般】

※問 17 で『①あった』『②時々あった』に 1 つでもご回答された方にお聞きします。
A から H のすべての項目において『③なかった』と回答された方は問 25 にお進み
ください。

問 18 問 17 のようなことを現在（過去 1 年以内を含む）も受けていますか。（ひとつ
に〇）

問 17 のようなことを現在（過去 1 年以内を含む）も受けているかについては、「現在も受
けている」が 15.2%、「現在は受けていない」が 78.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「現在も受けている」が 18.6%で、男の 6.8%に比べて高くなっている。
年代別では、10代で回答した 5 人のうち 2 人が「現在も受けている」と答えており、
20代でも 30 人のうち 5 人が「現在も受けている」と答えている。

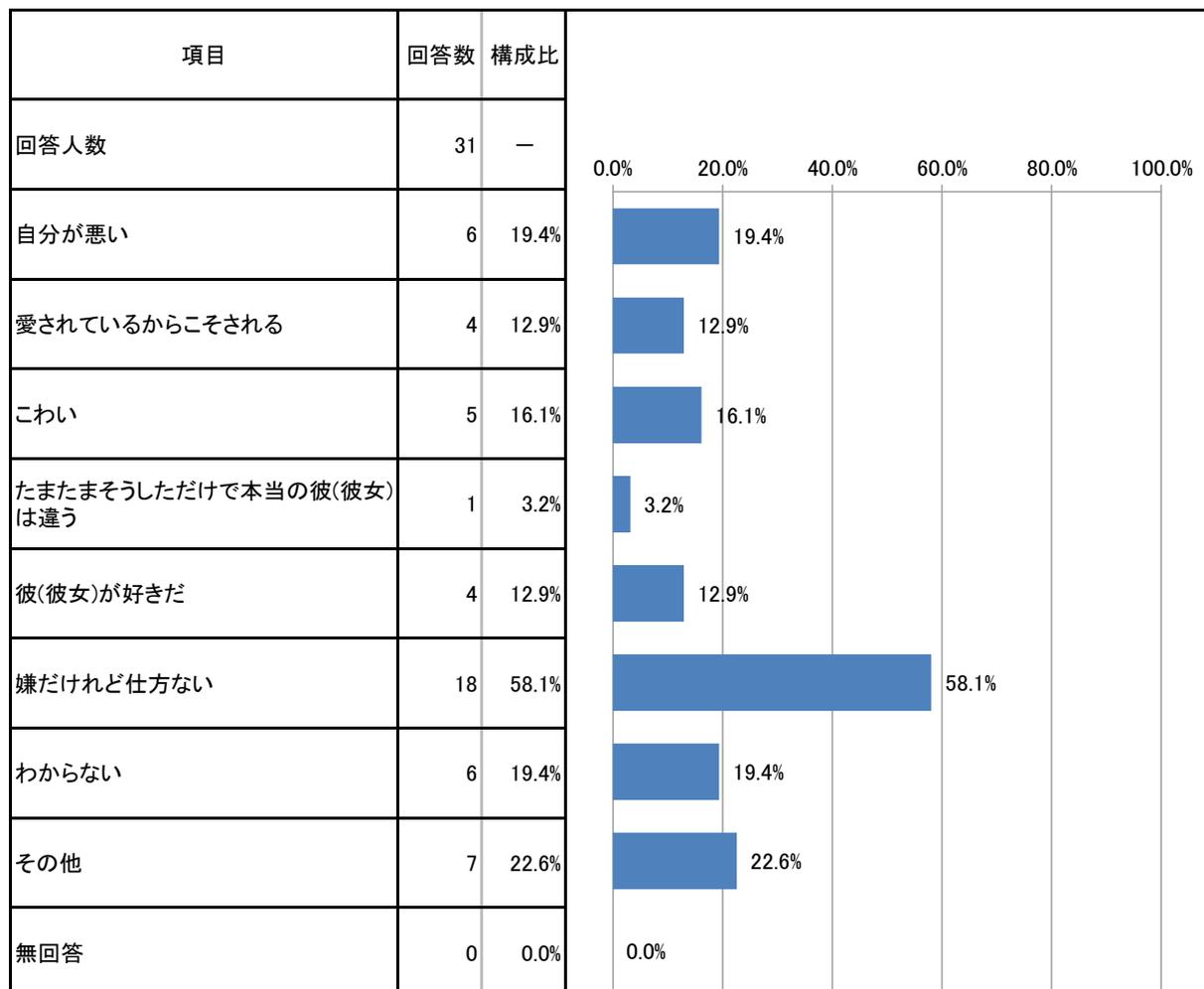
項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	100.0%	59	100.0%	145	100.0%	0	0.0%
現在も受けている	31	15.2%	4	6.8%	27	18.6%	0	—
現在は受けていない	160	78.4%	49	83.1%	111	76.6%	0	—
無回答	13	6.4%	6	10.2%	7	4.8%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
回答人数	204	100.0%	5	100.0%	30	100.0%	36	100.0%	50	100.0%	45	100.0%	38	100.0%	0	0.0%
現在も受けている	31	15.2%	2	40.0%	5	16.7%	4	11.1%	8	16.0%	7	15.6%	5	13.2%	0	—
現在は受けていない	160	78.4%	3	60.0%	23	76.7%	32	88.9%	39	78.0%	33	73.3%	30	78.9%	0	—
無回答	13	6.4%	0	0.0%	2	6.7%	0	0.0%	3	6.0%	5	11.1%	3	7.9%	0	—

※問 18 で『①現在も受けている』とご回答された方にお聞きします。

問 19 問 17 のようなことをされて、相手のことやその行為をどう感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

問 17 のようなことをされて、相手のことやその行為をどう感じるかについては、「嫌だけれど仕方ない」が 31 人中 18 人と最も多く、次いで「自分が悪い」「わからない」が、それぞれ 31 人中 6 人となっている。



【属性別特徴】

性別では、「嫌だけれど仕方ない」が、男で4人中4人、女で27人中14人と最も多くなっている。

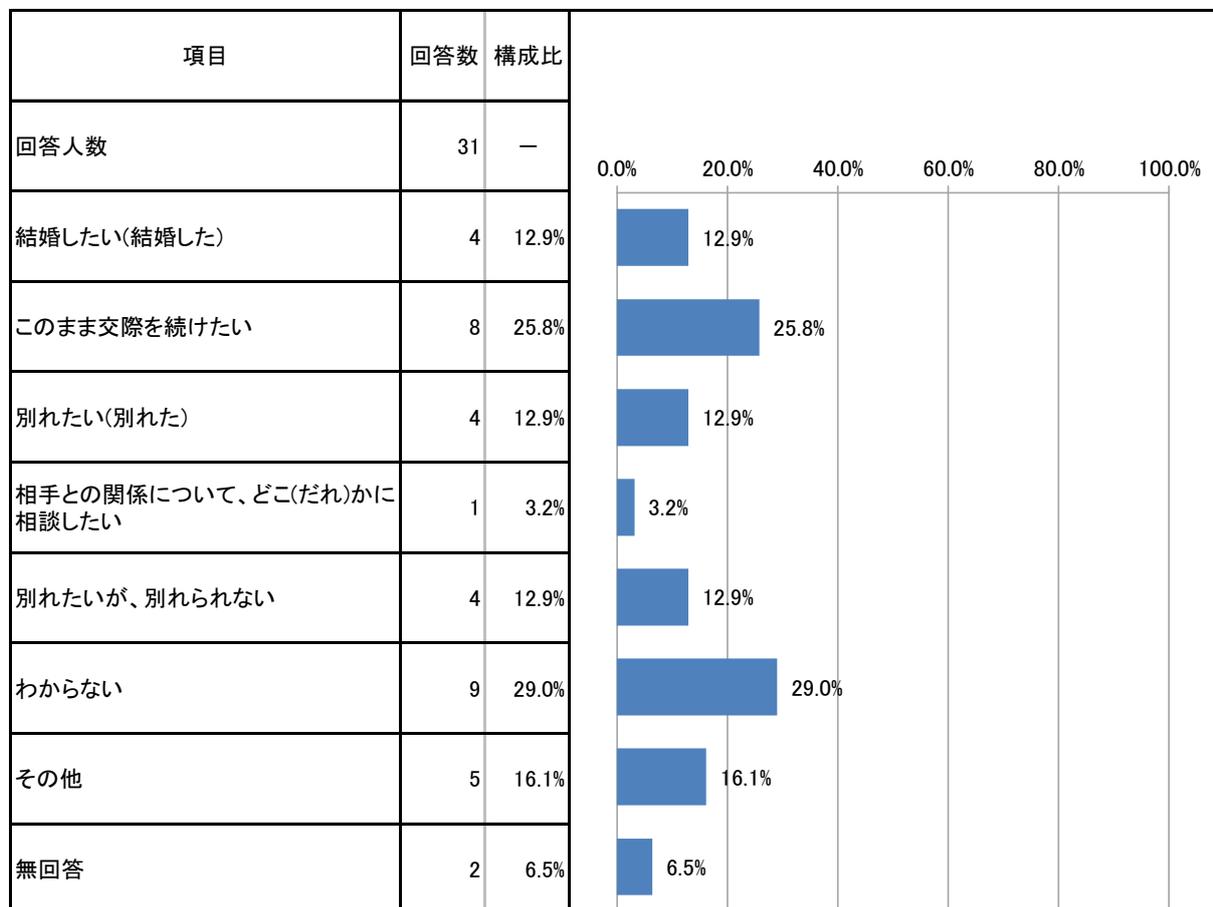
年代別では、10代で2人中2人が「愛されているからこそされる」、20代で5人中4人が「嫌だけれど仕方ない」と感じている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	31	—	4	—	27	—	0	—
自分が悪い	6	19.4%	2	50.0%	4	14.8%	0	—
愛されているからこそされる	4	12.9%	0	0.0%	4	14.8%	0	—
こわい	5	16.1%	0	0.0%	5	18.5%	0	—
たまたまそうしただけで本当の彼(彼女)は違う	1	3.2%	0	0.0%	1	3.7%	0	—
彼(彼女)が好きだ	4	12.9%	0	0.0%	4	14.8%	0	—
嫌だけれど仕方ない	18	58.1%	4	100.0%	14	51.9%	0	—
わからない	6	19.4%	0	0.0%	6	22.2%	0	—
その他	7	22.6%	1	25.0%	6	22.2%	0	—
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	31	—	2	—	5	—	4	—	8	—	7	—	5	—	0	—
自分が悪い	6	19.4%	1	50.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	14.3%	1	20.0%	0	—
愛されているからこそされる	4	12.9%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	14.3%	0	0.0%	0	—
こわい	5	16.1%	1	50.0%	1	20.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	14.3%	1	20.0%	0	—
たまたまそうしただけで本当の彼(彼女)は違う	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	—
彼(彼女)が好きだ	4	12.9%	1	50.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	—
嫌だけれど仕方ない	18	58.1%	1	50.0%	4	80.0%	2	50.0%	5	62.5%	4	57.1%	2	40.0%	0	—
わからない	6	19.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	2	25.0%	1	14.3%	2	40.0%	0	—
その他	7	22.6%	0	0.0%	1	20.0%	2	50.0%	1	12.5%	2	28.6%	1	20.0%	0	—
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

問 20 問 17 のような行為をする相手と、今後どうしたいと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

問 17 のような行為をする相手と、今後どうしたいと考えているかについては、「わからない」が 31 人中 9 人と最も多く、次いで「このまま交際を続けたい」が 31 人中 8 人となっている。



【属性別特徴】

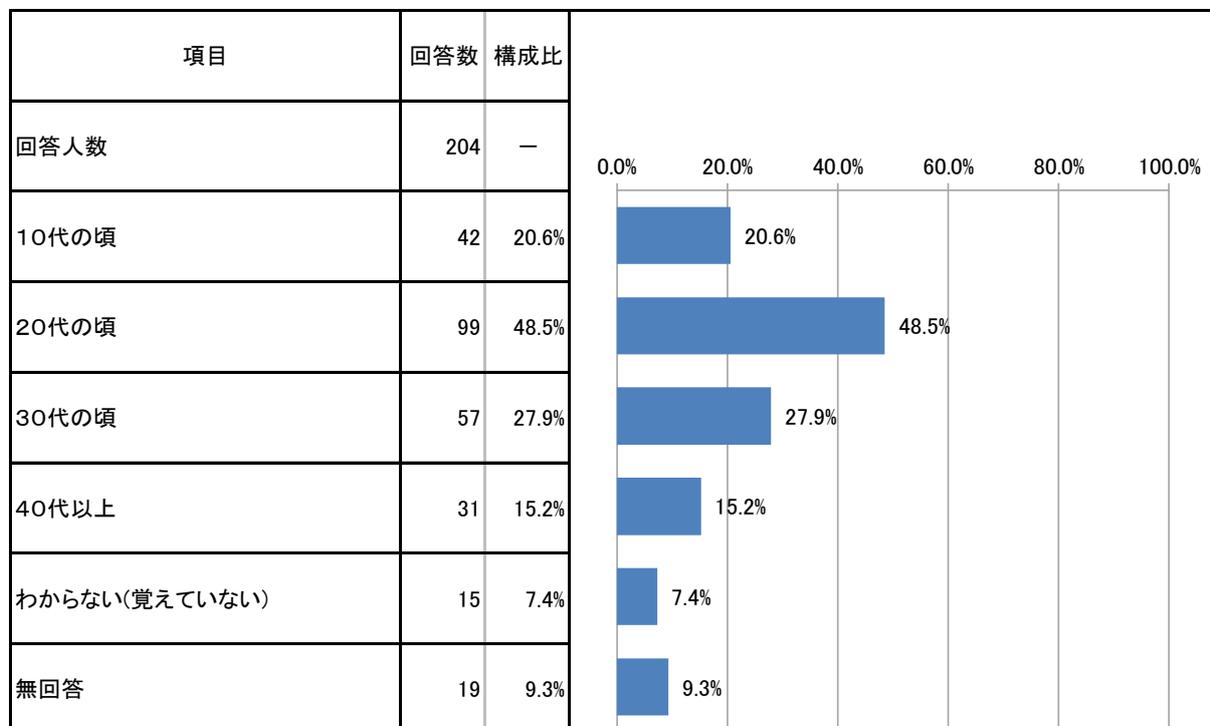
性別では、女の「わからない」が27人中9人で、男の0人に比べて高くなっている。
年代別では、20代で5人中3人が「このまま交際を続けたい」と考えている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	31	—	4	—	27	—	0	—
結婚したい(結婚した)	4	12.9%	1	25.0%	3	11.1%	0	—
このまま交際を続けたい	8	25.8%	1	25.0%	7	25.9%	0	—
別れたい(別れた)	4	12.9%	1	25.0%	3	11.1%	0	—
相手との関係について、どこ(だれ)かに相談したい	1	3.2%	0	0.0%	1	3.7%	0	—
別れたいが、別れられない	4	12.9%	1	25.0%	3	11.1%	0	—
わからない	9	29.0%	0	0.0%	9	33.3%	0	—
その他	5	16.1%	1	25.0%	4	14.8%	0	—
無回答	2	6.5%	0	0.0%	2	7.4%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	31	—	2	—	5	—	4	—	8	—	7	—	5	—	0	—
結婚したい(結婚した)	4	12.9%	0	0.0%	2	40.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	0	—
このまま交際を続けたい	8	25.8%	1	50.0%	3	60.0%	0	0.0%	2	25.0%	2	28.6%	0	0.0%	0	—
別れたい(別れた)	4	12.9%	1	50.0%	1	20.0%	1	25.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
相手との関係について、どこ(だれ)かに相談したい	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	—
別れたいが、別れられない	4	12.9%	1	50.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	14.3%	0	0.0%	0	—
わからない	9	29.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	4	50.0%	2	28.6%	1	20.0%	0	—
その他	5	16.1%	0	0.0%	1	20.0%	1	25.0%	1	12.5%	1	14.3%	1	20.0%	0	—
無回答	2	6.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	—

問 21 問 17 のようなことをされたのは、いつからですか。(あてはまるものすべてに○)

問 17 のようなことをされたのは、いつからかについては、「20代の頃」が 48.5%と最も高く、次いで「30代の頃」が 27.9%、「10代の頃」が 20.6%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「10代の頃」が25.5%で、男の8.5%に比べて高くなっている。

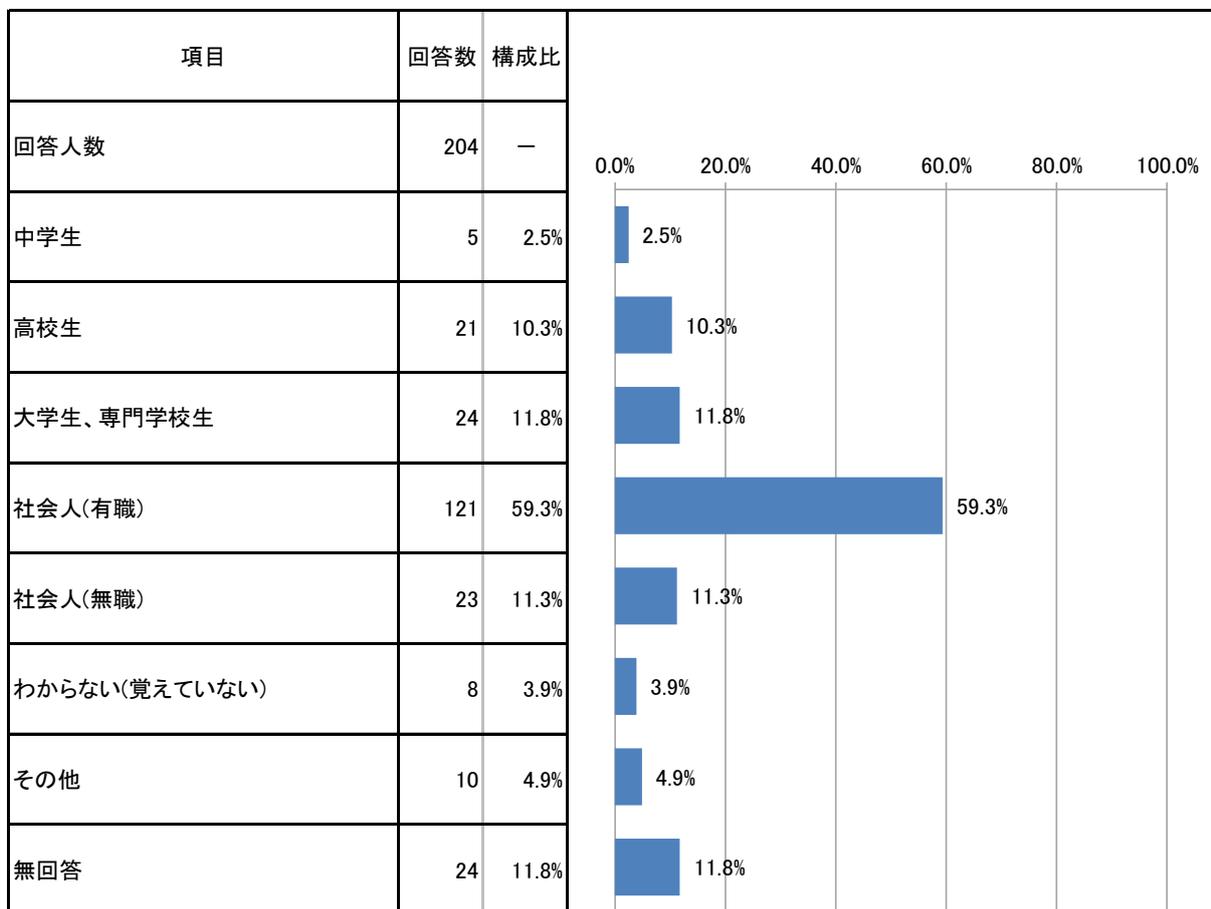
年代別では、20代の「10代の頃」が30人中20人と「20代の頃」より多いのに対し、30代、40代では「20代の頃」が「10代の頃」より多く、低年齢化が進んでいる。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	59	—	145	—	0	—
10代の頃	42	20.6%	5	8.5%	37	25.5%	0	—
20代の頃	99	48.5%	26	44.1%	73	50.3%	0	—
30代の頃	57	27.9%	15	25.4%	42	29.0%	0	—
40代以上	31	15.2%	5	8.5%	26	17.9%	0	—
わからない(覚えていない)	15	7.4%	8	13.6%	7	4.8%	0	—
無回答	19	9.3%	10	16.9%	9	6.2%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	5	—	30	—	36	—	50	—	45	—	38	—	0	—
10代の頃	42	20.6%	4	80.0%	20	66.7%	11	30.6%	5	10.0%	2	4.4%	0	0.0%	0	—
20代の頃	99	48.5%	1	20.0%	14	46.7%	27	75.0%	29	58.0%	14	31.1%	14	36.8%	0	—
30代の頃	57	27.9%	1	20.0%	0	0.0%	6	16.7%	22	44.0%	15	33.3%	13	34.2%	0	—
40代以上	31	15.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	16.0%	11	24.4%	12	31.6%	0	—
わからない(覚えていない)	15	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%	4	8.0%	5	11.1%	5	13.2%	0	—
無回答	19	9.3%	0	0.0%	1	3.3%	1	2.8%	2	4.0%	9	20.0%	6	15.8%	0	—

問 22 問 17 のようなことをされ始めた時、あなたは何をしていましたか。(あてはまるものすべてに○)

問 17 のようなことをされ始めた時、何をしていたかについては、「社会人(有職)」が 59.3%と最も高く、次いで「大学生、専門学校生」が 11.8%、「社会人(無職)」が 11.3%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「社会人（無職）」が13.8%で、男の5.1%に比べてやや高くなっている。

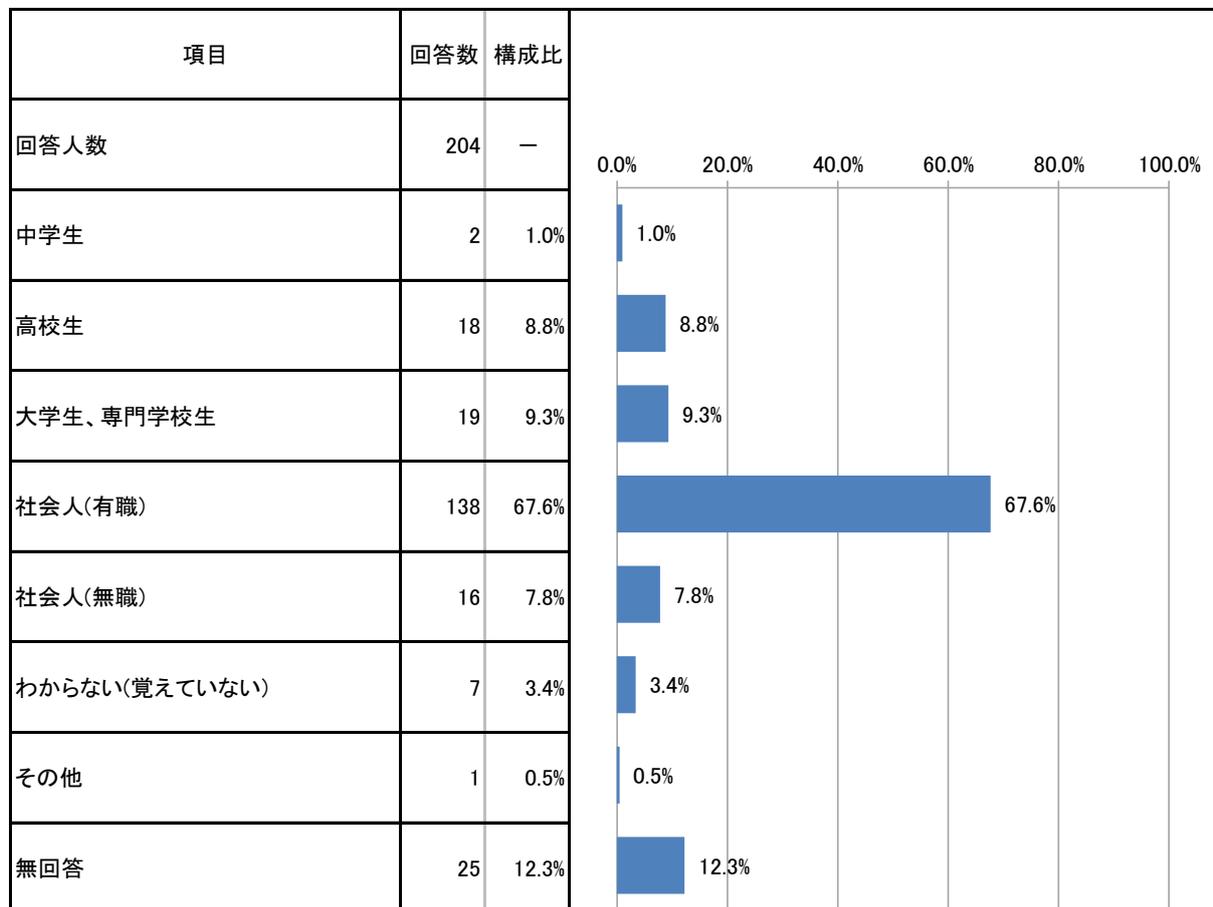
年代別では、10代で5人中4人が「高校生」、20代で30人中20人が「高校生」、「大学生、専門学校生」の時と回答したのに対し、30代で36人中26人、40代で50人中39人が「社会人（有職）」の時と回答しており、低年齢化が進んでいる。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	59	—	145	—	0	—
中学生	5	2.5%	3	5.1%	2	1.4%	0	—
高校生	21	10.3%	3	5.1%	18	12.4%	0	—
大学生、専門学校生	24	11.8%	7	11.9%	17	11.7%	0	—
社会人(有職)	121	59.3%	38	64.4%	83	57.2%	0	—
社会人(無職)	23	11.3%	3	5.1%	20	13.8%	0	—
わからない(覚えていない)	8	3.9%	2	3.4%	6	4.1%	0	—
その他	10	4.9%	0	0.0%	10	6.9%	0	—
無回答	24	11.8%	12	20.3%	12	8.3%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	5	—	30	—	36	—	50	—	45	—	38	—	0	—
中学生	5	2.5%	1	20.0%	2	6.7%	1	2.8%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
高校生	21	10.3%	4	80.0%	10	33.3%	4	11.1%	3	6.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
大学生、専門学校生	24	11.8%	1	20.0%	10	33.3%	11	30.6%	1	2.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	—
社会人(有職)	121	59.3%	1	20.0%	10	33.3%	26	72.2%	39	78.0%	25	55.6%	20	52.6%	0	—
社会人(無職)	23	11.3%	0	0.0%	3	10.0%	4	11.1%	8	16.0%	2	4.4%	6	15.8%	0	—
わからない(覚えていない)	8	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%	2	4.0%	3	6.7%	2	5.3%	0	—
その他	10	4.9%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	8.9%	5	13.2%	0	—
無回答	24	11.8%	0	0.0%	1	3.3%	1	2.8%	3	6.0%	11	24.4%	8	21.1%	0	—

問 23 問 17 のようなことをされ始めた時、交際相手は何をしていましたか。(あてはまるものすべてに○)

問 17 のようなことをされ始めた時、交際相手は何をしていたかについては、「社会人（有職）」が 67.6%と最も高く、次いで「大学生・専門学校生」が 9.3%、「高校生」が 8.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「社会人（有職）」が69.7%で、男の62.7%に比べてやや高くなっている。

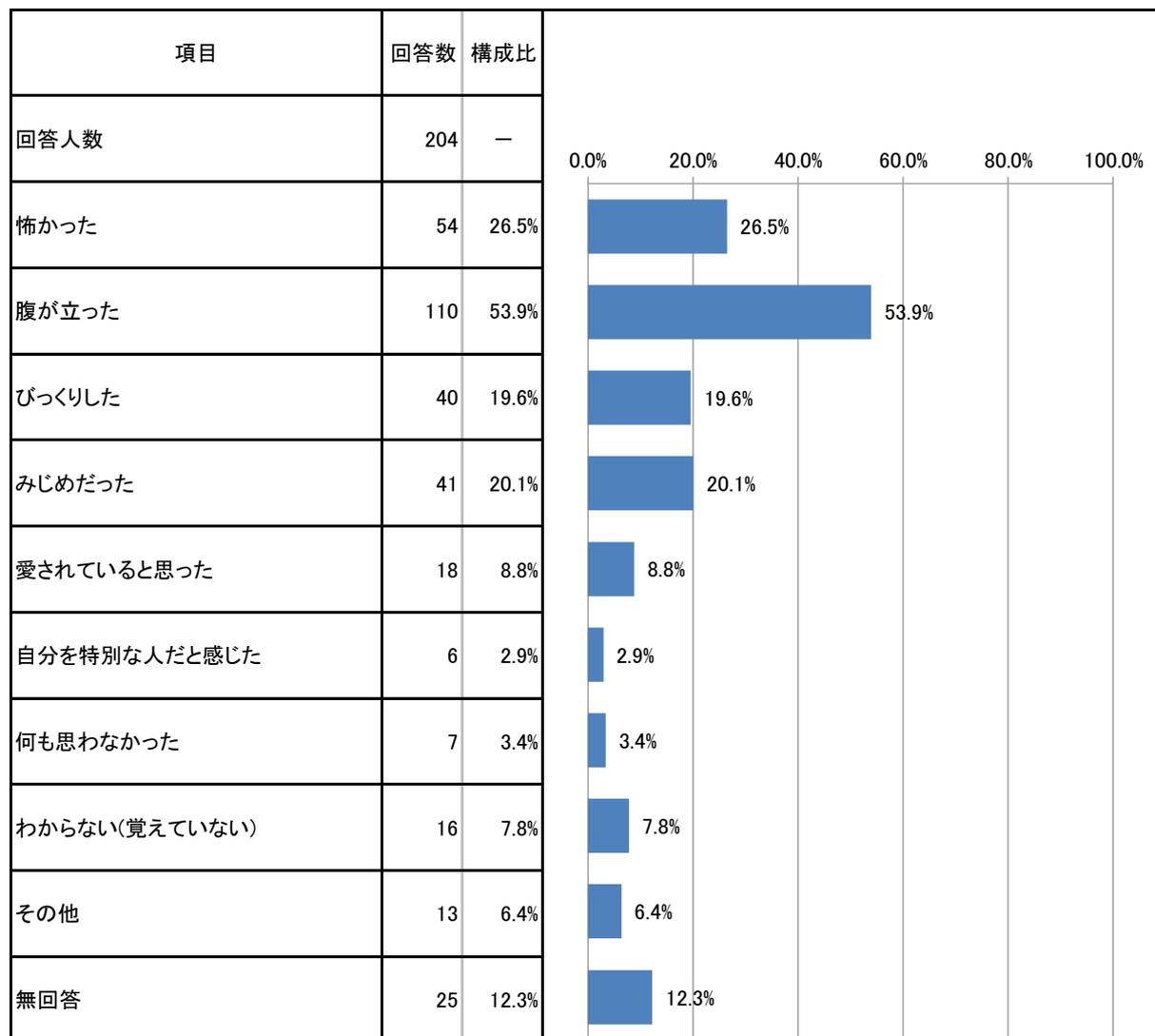
年代別では、10代で5人中3人が「高校生」と回答したのに対し、20代から60代は「社会人（有職）」が多くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	59	—	145	—	0	—
中学生	2	1.0%	1	1.7%	1	0.7%	0	—
高校生	18	8.8%	4	6.8%	14	9.7%	0	—
大学生、専門学校生	19	9.3%	4	6.8%	15	10.3%	0	—
社会人(有職)	138	67.6%	37	62.7%	101	69.7%	0	—
社会人(無職)	16	7.8%	6	10.2%	10	6.9%	0	—
わからない(覚えていない)	7	3.4%	3	5.1%	4	2.8%	0	—
その他	1	0.5%	0	0.0%	1	0.7%	0	—
無回答	25	12.3%	12	20.3%	13	9.0%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	5	—	30	—	36	—	50	—	45	—	38	—	0	—
中学生	2	1.0%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
高校生	18	8.8%	3	60.0%	8	26.7%	4	11.1%	3	6.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
大学生、専門学校生	19	9.3%	1	20.0%	8	26.7%	6	16.7%	3	6.0%	1	2.2%	0	0.0%	0	—
社会人(有職)	138	67.6%	2	40.0%	15	50.0%	28	77.8%	41	82.0%	28	62.2%	24	63.2%	0	—
社会人(無職)	16	7.8%	0	0.0%	2	6.7%	4	11.1%	3	6.0%	3	6.7%	4	10.5%	0	—
わからない(覚えていない)	7	3.4%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%	2	4.0%	4	8.9%	0	0.0%	0	—
その他	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	0	—
無回答	25	12.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%	3	6.0%	11	24.4%	10	26.3%	0	—

問 24 問 17 のようなことをされた時、どう感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

問 17 のようなことをされた時、どう感じたかについては、「腹が立った」が 53.9%と最も高く、次いで「怖かった」が 26.5%、「みじめだった」が 20.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「怖かった」が32.4%で、男の11.9%に比べて高くなっている。

年代別では、10代では5人中3人が「怖かった」と回答したのに対し、20代から60代では、「腹が立った」が最も多くなっている。

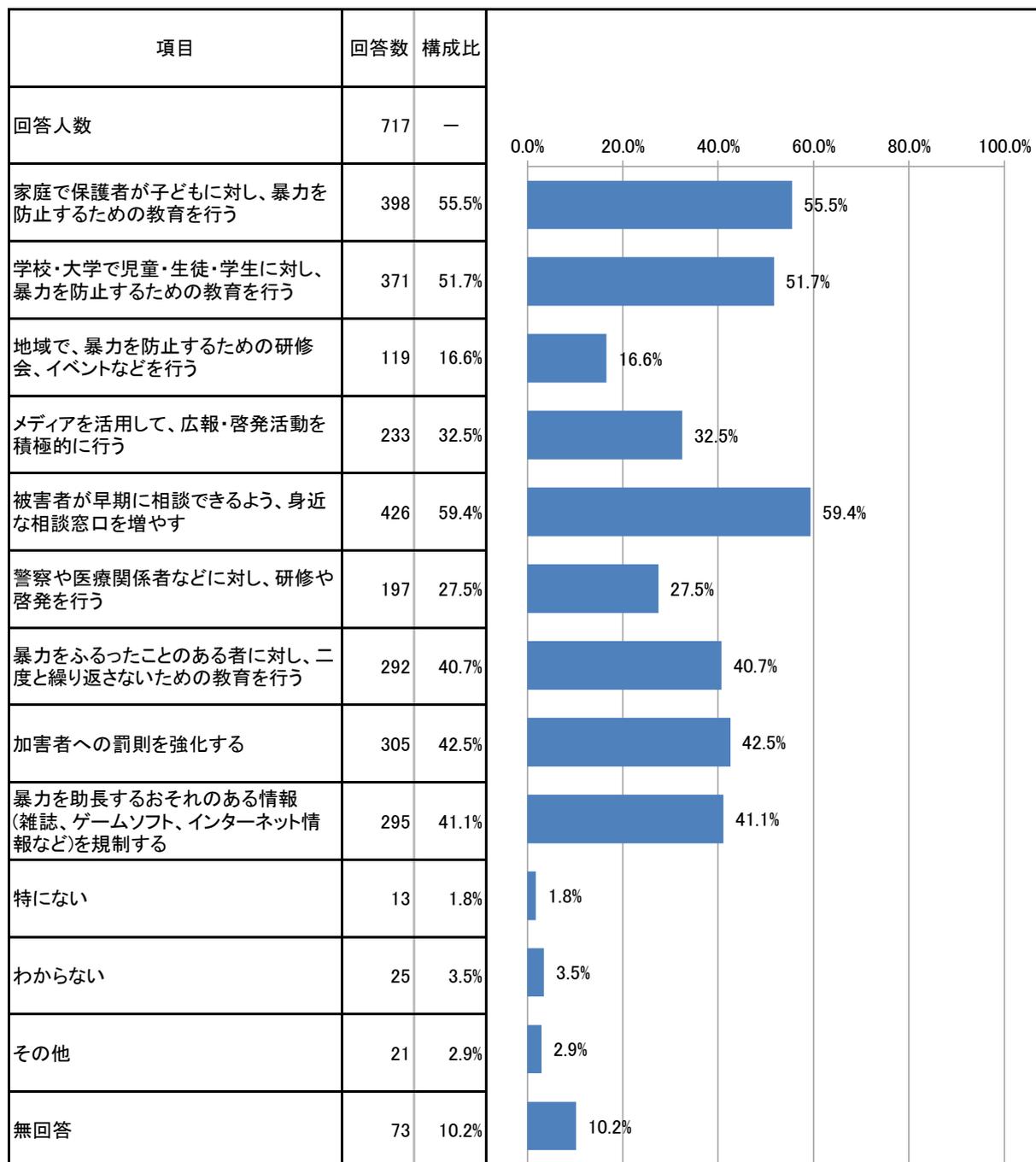
項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	59	—	145	—	0	—
怖かった	54	26.5%	7	11.9%	47	32.4%	0	—
腹が立った	110	53.9%	27	45.8%	83	57.2%	0	—
びっくりした	40	19.6%	7	11.9%	33	22.8%	0	—
みじめだった	41	20.1%	7	11.9%	34	23.4%	0	—
愛されていると思った	18	8.8%	5	8.5%	13	9.0%	0	—
自分を特別な人だと感じた	6	2.9%	3	5.1%	3	2.1%	0	—
何も思わなかった	7	3.4%	4	6.8%	3	2.1%	0	—
わからない(覚えていない)	16	7.8%	7	11.9%	9	6.2%	0	—
その他	13	6.4%	1	1.7%	12	8.3%	0	—
無回答	25	12.3%	12	20.3%	13	9.0%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	204	—	5	—	30	—	36	—	50	—	45	—	38	—	0	—
怖かった	54	26.5%	3	60.0%	7	23.3%	14	38.9%	12	24.0%	11	24.4%	7	18.4%	0	—
腹が立った	110	53.9%	2	40.0%	14	46.7%	21	58.3%	33	66.0%	19	42.2%	21	55.3%	0	—
びっくりした	40	19.6%	2	40.0%	6	20.0%	5	13.9%	8	16.0%	10	22.2%	9	23.7%	0	—
みじめだった	41	20.1%	2	40.0%	3	10.0%	5	13.9%	12	24.0%	11	24.4%	8	21.1%	0	—
愛されていると思った	18	8.8%	1	20.0%	3	10.0%	3	8.3%	4	8.0%	4	8.9%	3	7.9%	0	—
自分を特別な人だと感じた	6	2.9%	0	0.0%	1	3.3%	3	8.3%	0	0.0%	1	2.2%	1	2.6%	0	—
何も思わなかった	7	3.4%	0	0.0%	3	10.0%	2	5.6%	2	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
わからない(覚えていない)	16	7.8%	0	0.0%	3	10.0%	3	8.3%	6	12.0%	4	8.9%	0	0.0%	0	—
その他	13	6.4%	0	0.0%	2	6.7%	3	8.3%	3	6.0%	2	4.4%	3	7.9%	0	—
無回答	25	12.3%	1	20.0%	0	0.0%	2	5.6%	2	4.0%	11	24.4%	9	23.7%	0	—

問 25 親密な交際中における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけ、最も必要だと思うものに◎をつけてください。

(必要だと思うこと)

親密な交際中における暴力を防止するために必要だと思うことについては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 59.4%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 55.5%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 51.7%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、ゲームソフト、インターネット情報など）を規制する」が47.6%で、男の29.7%に比べて高くなっている。

また、女の「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が65.0%で、男の49.6%に比べて高くなっている。

年代別では、30代の「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が67.9%で、他の年代に比べて高くなっている。

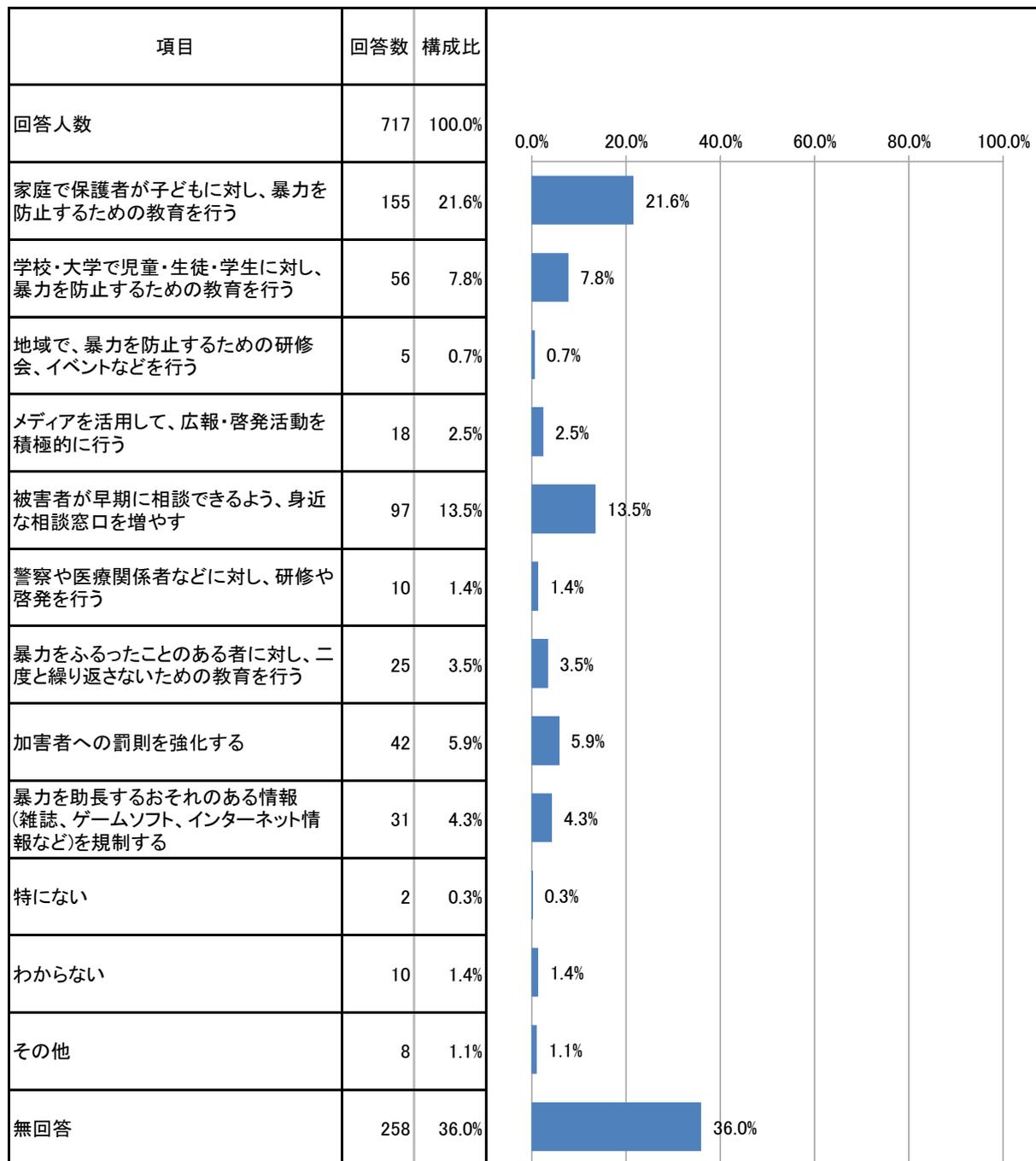
項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	—	256	—	460	—	1	—
家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	398	55.5%	134	52.3%	264	57.4%	0	0.0%
学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	371	51.7%	121	47.3%	250	54.3%	0	0.0%
地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	119	16.6%	33	12.9%	85	18.5%	1	100.0%
メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	233	32.5%	74	28.9%	159	34.6%	0	0.0%
被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	426	59.4%	127	49.6%	299	65.0%	0	0.0%
警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	197	27.5%	64	25.0%	133	28.9%	0	0.0%
暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	292	40.7%	88	34.4%	204	44.3%	0	0.0%
加害者への罰則を強化する	305	42.5%	96	37.5%	209	45.4%	0	0.0%
暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、ゲームソフト、インターネット情報など）を規制する	295	41.1%	76	29.7%	219	47.6%	0	0.0%
特にない	13	1.8%	8	3.1%	5	1.1%	0	0.0%
わからない	25	3.5%	11	4.3%	14	3.0%	0	0.0%
その他	21	2.9%	8	3.1%	13	2.8%	0	0.0%
無回答	73	10.2%	35	13.7%	38	8.3%	0	0.0%

【一般】

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	—	70	—	89	—	106	—	133	—	156	—	160	—	3	—
家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	398	55.5%	24	34.3%	42	47.2%	72	67.9%	77	57.9%	88	56.4%	94	58.8%	1	33.3%
学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	371	51.7%	30	42.9%	39	43.8%	59	55.7%	76	57.1%	78	50.0%	88	55.0%	1	33.3%
地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	119	16.6%	8	11.4%	12	13.5%	23	21.7%	23	17.3%	24	15.4%	27	16.9%	2	66.7%
メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	233	32.5%	22	31.4%	30	33.7%	29	27.4%	51	38.3%	49	31.4%	51	31.9%	1	33.3%
被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	426	59.4%	34	48.6%	58	65.2%	67	63.2%	84	63.2%	89	57.1%	93	58.1%	1	33.3%
警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	197	27.5%	12	17.1%	24	27.0%	38	35.8%	43	32.3%	38	24.4%	41	25.6%	1	33.3%
暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	292	40.7%	27	38.6%	35	39.3%	47	44.3%	62	46.6%	56	35.9%	64	40.0%	1	33.3%
加害者への罰則を強化する	305	42.5%	19	27.1%	42	47.2%	53	50.0%	68	51.1%	61	39.1%	61	38.1%	1	33.3%
暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、ゲームソフト、インターネット情報など)を規制する	295	41.1%	15	21.4%	28	31.5%	50	47.2%	47	35.3%	74	47.4%	80	50.0%	1	33.3%
特にない	13	1.8%	3	4.3%	0	0.0%	3	2.8%	3	2.3%	1	0.6%	3	1.9%	0	0.0%
わからない	25	3.5%	6	8.6%	4	4.5%	1	0.9%	7	5.3%	2	1.3%	5	3.1%	0	0.0%
その他	21	2.9%	3	4.3%	4	4.5%	4	3.8%	1	0.8%	4	2.6%	5	3.1%	0	0.0%
無回答	73	10.2%	9	12.9%	8	9.0%	5	4.7%	6	4.5%	18	11.5%	26	16.3%	1	33.3%

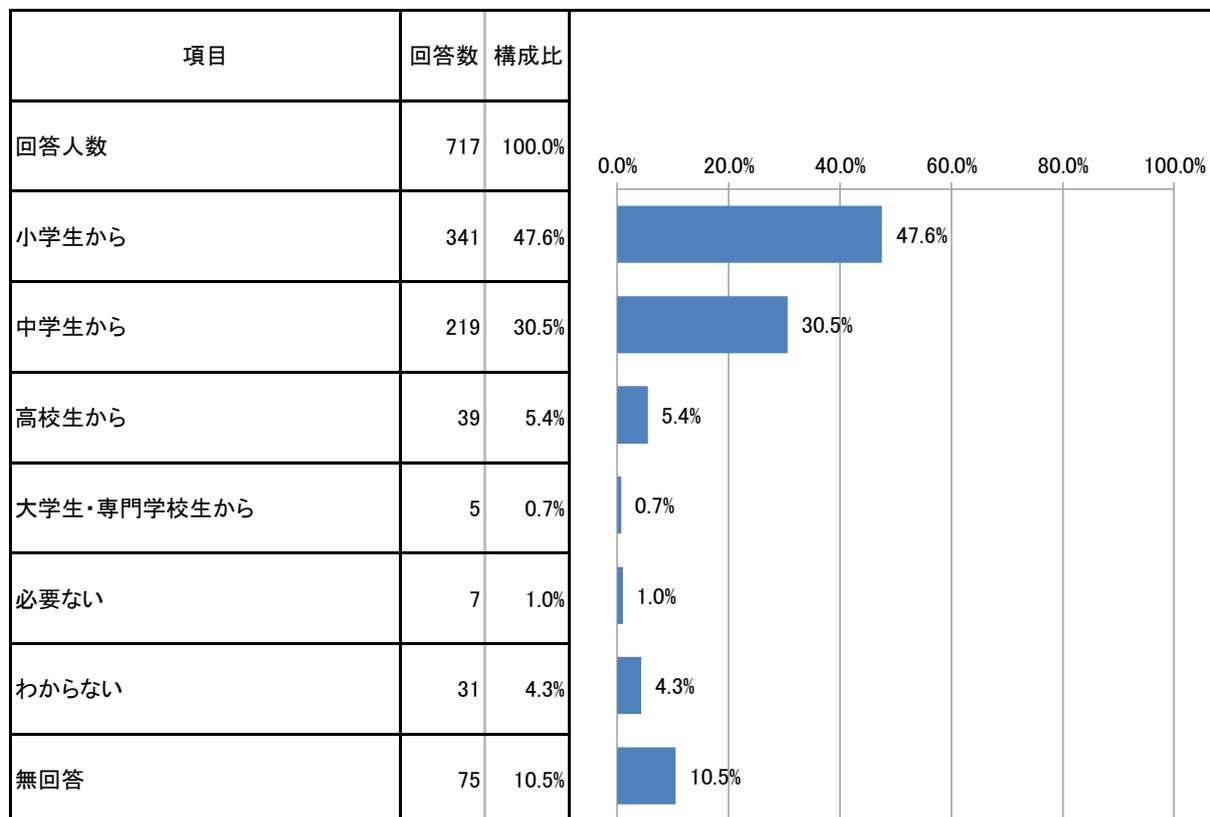
(最も必要だと思うこと)

親密な交際中における暴力を防止するために最も必要だと思うことについては、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 21.6%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 13.5%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 7.8%となっている。



問 26 親密な交際中における暴力を防止するための学校等での教育はいつからスタートするのが望ましいと思いますか。(ひとつに○)

親密な交際中における暴力を防止するための学校等での教育はいつからスタートするのが望ましいかについては、「小学生から」が47.6%と最も高く、次いで「中学生から」が30.5%、「高校生から」が5.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、大きな差異はみられない。

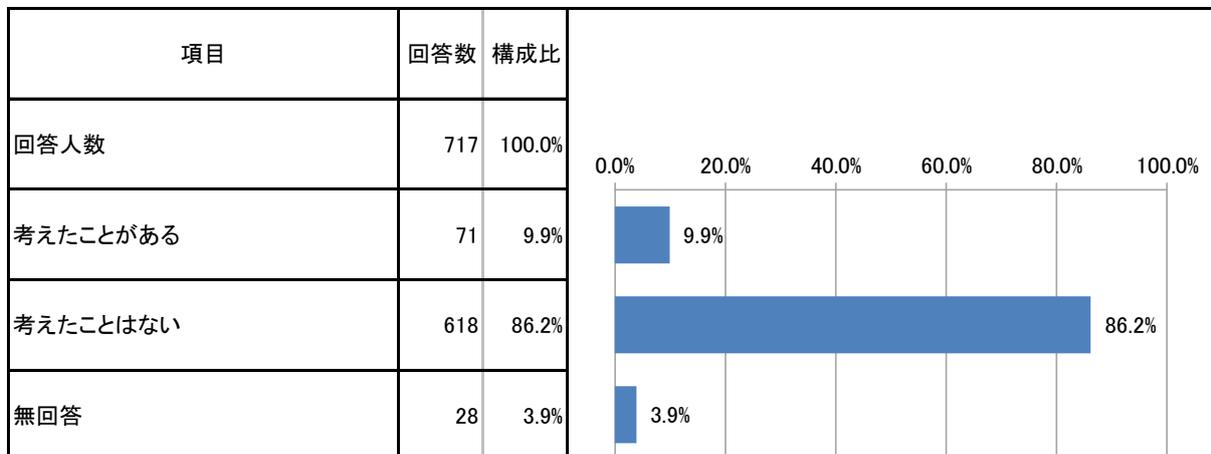
年代別では、10代で「中学生から」が40.0%と最も高くなっており、20代から60代では「小学生から」が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
小学生から	341	47.6%	124	48.4%	217	47.2%	0	0.0%
中学生から	219	30.5%	74	28.9%	145	31.5%	0	0.0%
高校生から	39	5.4%	12	4.7%	27	5.9%	0	0.0%
大学生・専門学校生から	5	0.7%	2	0.8%	3	0.7%	0	0.0%
必要ない	7	1.0%	1	0.4%	6	1.3%	0	0.0%
わからない	31	4.3%	10	3.9%	21	4.6%	0	0.0%
無回答	75	10.5%	33	12.9%	41	8.9%	1	100.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
小学生から	341	47.6%	18	25.7%	38	42.7%	55	51.9%	62	46.6%	87	55.8%	80	50.0%	1	33.3%
中学生から	219	30.5%	28	40.0%	30	33.7%	39	36.8%	41	30.8%	43	27.6%	38	23.8%	0	0.0%
高校生から	39	5.4%	6	8.6%	6	6.7%	2	1.9%	12	9.0%	8	5.1%	5	3.1%	0	0.0%
大学生・専門学校生から	5	0.7%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.5%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
必要ない	7	1.0%	2	2.9%	2	2.2%	1	0.9%	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	31	4.3%	4	5.7%	3	3.4%	5	4.7%	9	6.8%	1	0.6%	9	5.6%	0	0.0%
無回答	75	10.5%	10	14.3%	10	11.2%	4	3.8%	5	3.8%	16	10.3%	28	17.5%	2	66.7%

問27 あなたは、この1年間（平成25年10月から平成26年9月まで）で自殺したい（死にたい）と考えたことがありますか。（ひとつに○）

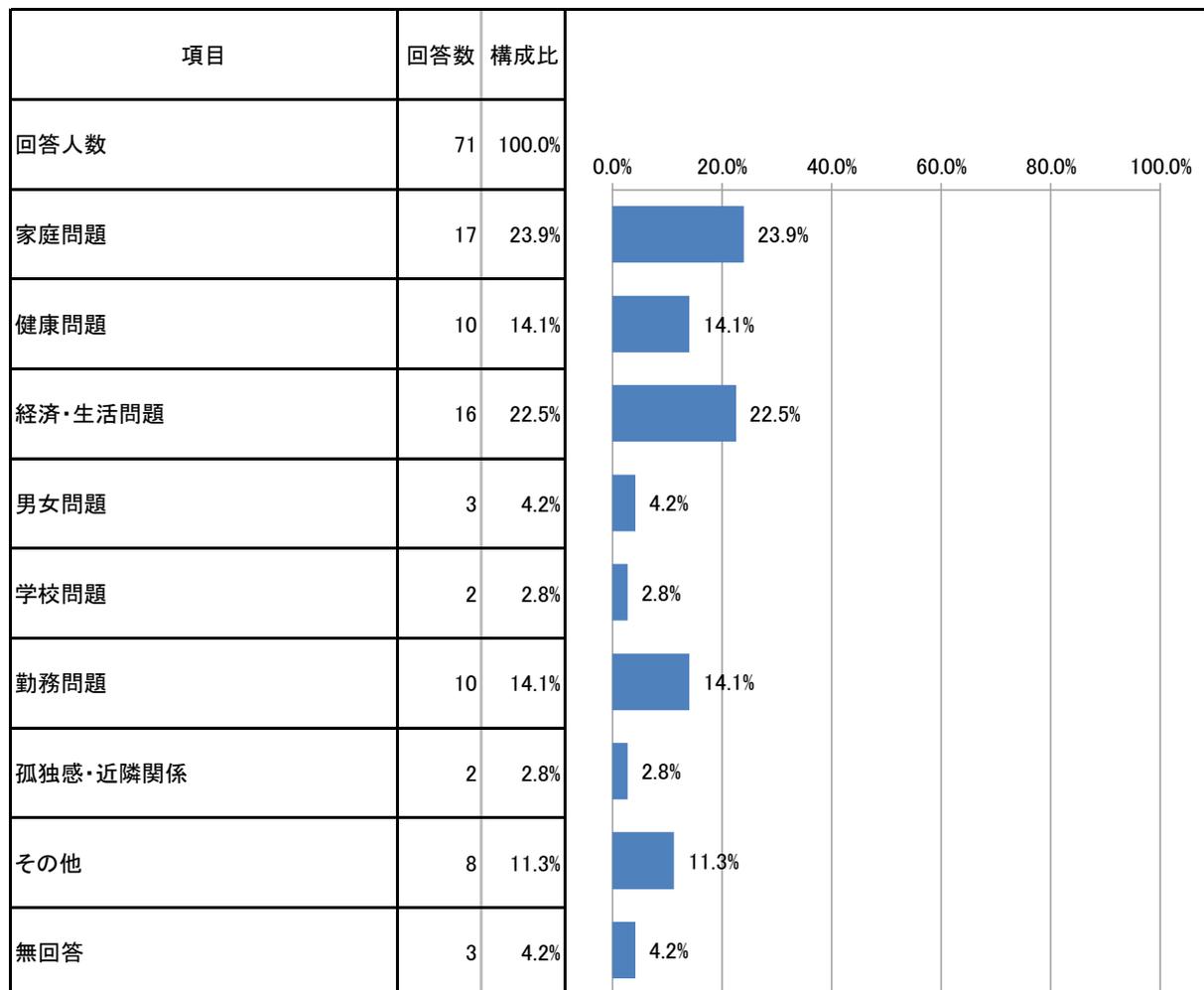
この1年間で自殺したい（死にたい）と考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が9.9%、「考えたことはない」が86.2%となっている。



※問 27 で『①考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 27-1 自殺を考えたときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

自殺を考えたときの一番の原因については、「家庭問題」が 23.9%と最も高く、次いで「経済・生活問題」が 22.5%、「健康問題」「勤務問題」が 14.1%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「勤務問題」が31.8%で、女の6.1%に比べて高くなっている。

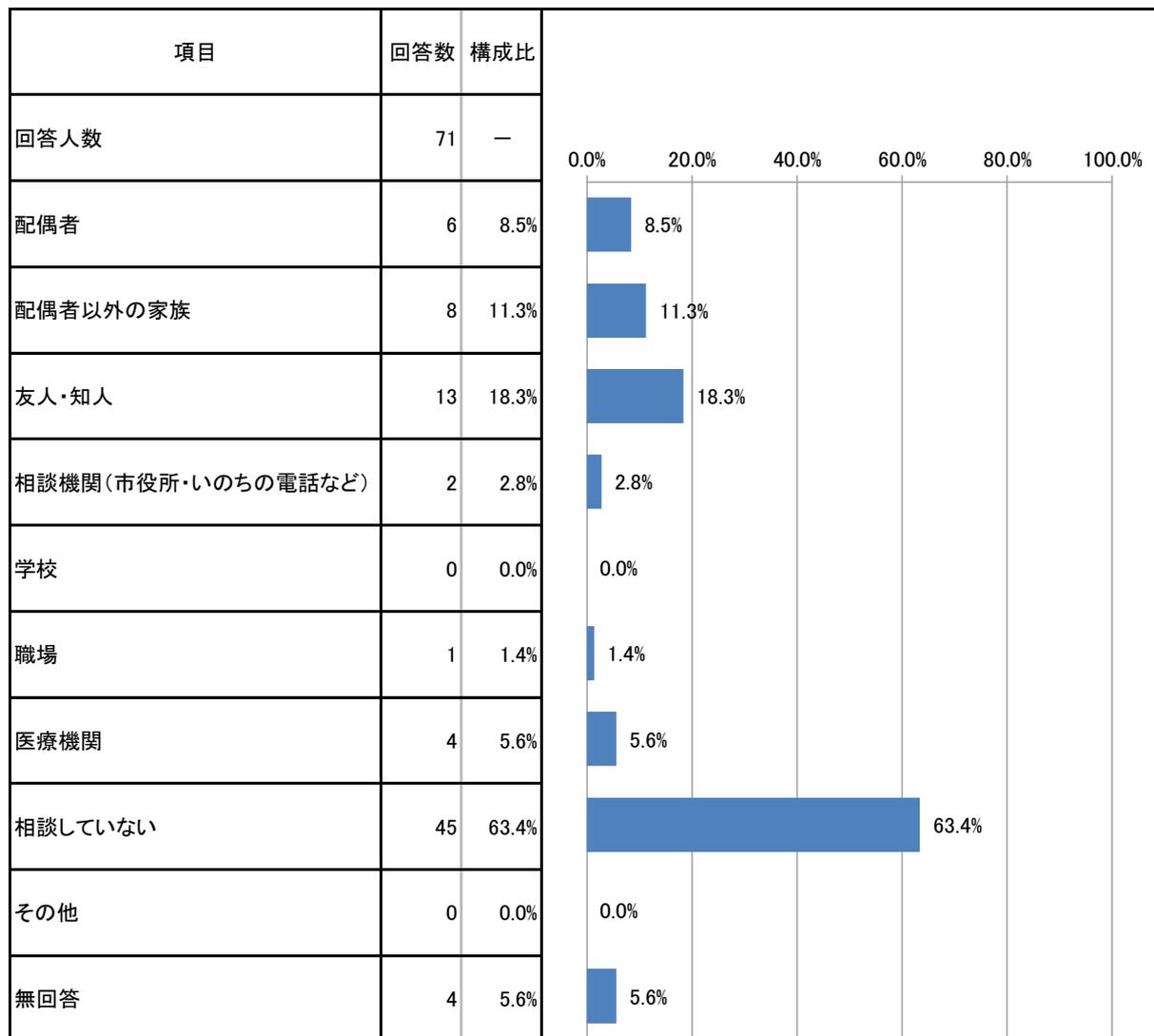
年代別では、10代で「学校問題」、20代で「家庭問題」と「勤務問題」、30代で「経済・生活問題」、40代、50代で「家庭問題」、60代で「健康問題」と「経済・生活問題」が最も高くなっており、年代により主な自殺原因がさまざまであることがわかる。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	100.0%	22	100.0%	49	100.0%	0	0.0%
家庭問題	17	23.9%	3	13.6%	14	28.6%	0	—
健康問題	10	14.1%	1	4.5%	9	18.4%	0	—
経済・生活問題	16	22.5%	8	36.4%	8	16.3%	0	—
男女問題	3	4.2%	1	4.5%	2	4.1%	0	—
学校問題	2	2.8%	1	4.5%	1	2.0%	0	—
勤務問題	10	14.1%	7	31.8%	3	6.1%	0	—
孤独感・近隣関係	2	2.8%	0	0.0%	2	4.1%	0	—
その他	8	11.3%	1	4.5%	7	14.3%	0	—
無回答	3	4.2%	0	0.0%	3	6.1%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	100.0%	7	100.0%	11	100.0%	9	100.0%	21	100.0%	13	100.0%	10	100.0%	0	0.0%
家庭問題	17	23.9%	1	14.3%	2	18.2%	2	22.2%	6	28.6%	5	38.5%	1	10.0%	0	—
健康問題	10	14.1%	1	14.3%	0	0.0%	1	11.1%	3	14.3%	2	15.4%	3	30.0%	0	—
経済・生活問題	16	22.5%	1	14.3%	1	9.1%	3	33.3%	5	23.8%	3	23.1%	3	30.0%	0	—
男女問題	3	4.2%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	1	10.0%	0	—
学校問題	2	2.8%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
勤務問題	10	14.1%	1	14.3%	2	18.2%	2	22.2%	5	23.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
孤独感・近隣関係	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	1	10.0%	0	—
その他	8	11.3%	1	14.3%	5	45.5%	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	1	10.0%	0	—
無回答	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	1	4.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	—

問 27-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれ（どこか）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

自殺をしたいと思ったときの相談先については、「相談していない」が63.4%と最も高く、次いで「友人・知人」が18.3%、「配偶者以外の家族」が11.3%となっている。



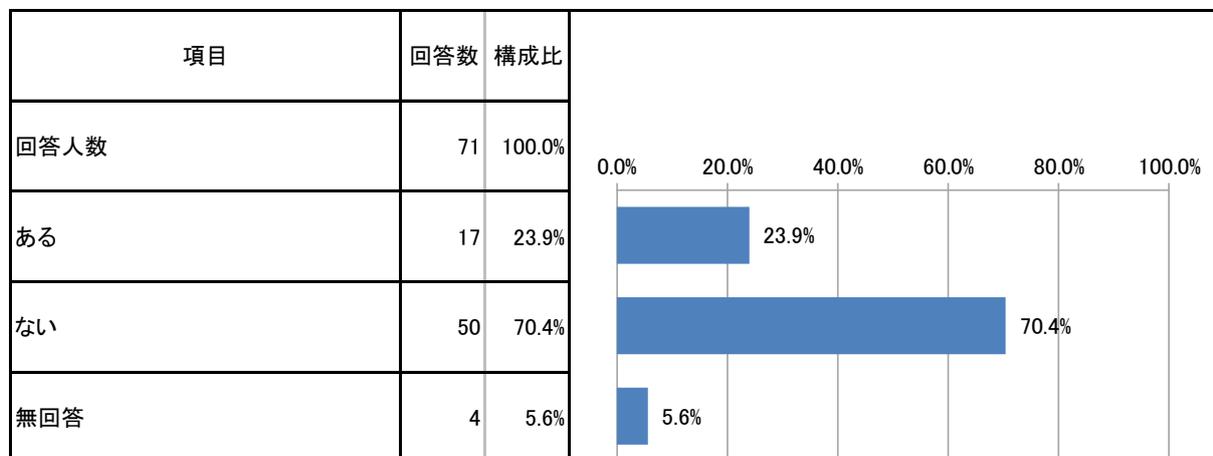
【属性別特徴】

性別では、男の「相談していない」が81.8%で、女の55.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	—	22	—	49	—	0	—
配偶者	6	8.5%	1	4.5%	5	10.2%	0	—
配偶者以外の家族	8	11.3%	1	4.5%	7	14.3%	0	—
友人・知人	13	18.3%	3	13.6%	10	20.4%	0	—
相談機関(市役所・いのちの電話など)	2	2.8%	0	0.0%	2	4.1%	0	—
学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
職場	1	1.4%	0	0.0%	1	2.0%	0	—
医療機関	4	5.6%	1	4.5%	3	6.1%	0	—
相談していない	45	63.4%	18	81.8%	27	55.1%	0	—
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
無回答	4	5.6%	1	4.5%	3	6.1%	0	—

問 27-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。(ひとつに○)

自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがあるかについては、「ある」が23.9%、「ない」が70.4%となっている。



【属性別特徴】

性別では、女の「ある」が28.6%で、男の13.6%に比べて高くなっている。

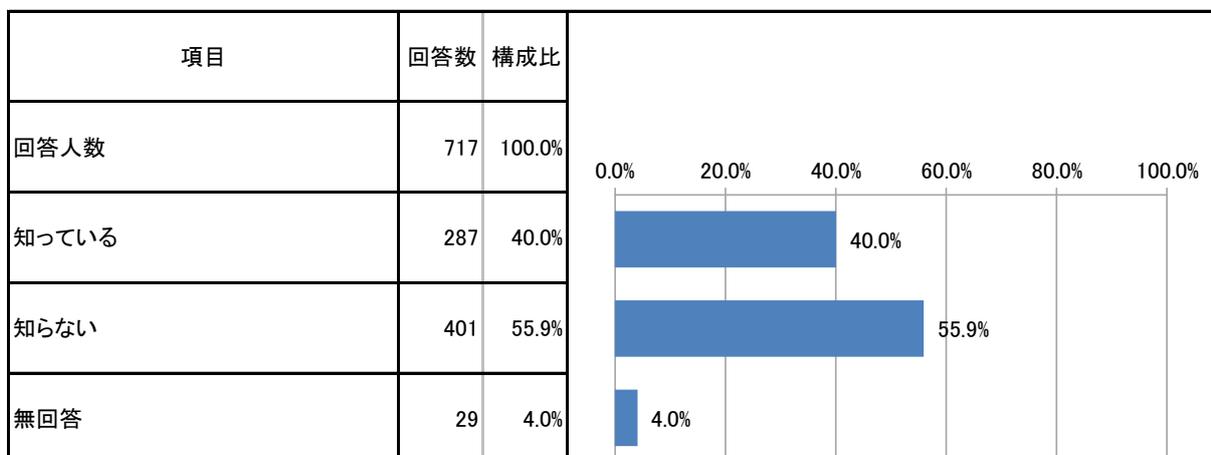
年代別では、10代の「ない」が85.7%で最も高く、40代が61.9%で最も低い。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	100.0%	22	100.0%	49	100.0%	0	0.0%
ある	17	23.9%	3	13.6%	14	28.6%	0	—
ない	50	70.4%	16	72.7%	34	69.4%	0	—
無回答	4	5.6%	3	13.6%	1	2.0%	0	—

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	71	100.0%	7	100.0%	11	100.0%	9	100.0%	21	100.0%	13	100.0%	10	100.0%	0	0.0%
ある	17	23.9%	1	14.3%	2	18.2%	2	22.2%	5	23.8%	4	30.8%	3	30.0%	0	—
ない	50	70.4%	6	85.7%	8	72.7%	7	77.8%	13	61.9%	9	69.2%	7	70.0%	0	—
無回答	4	5.6%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	3	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	—

問 28 自殺に関して相談ができる場所を知っていますか。(ひとつに○)

自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が 40.0%、「知らない」が 55.9%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「知らない」が 61.7%で、女の 52.8%に比べてやや高くなっている。

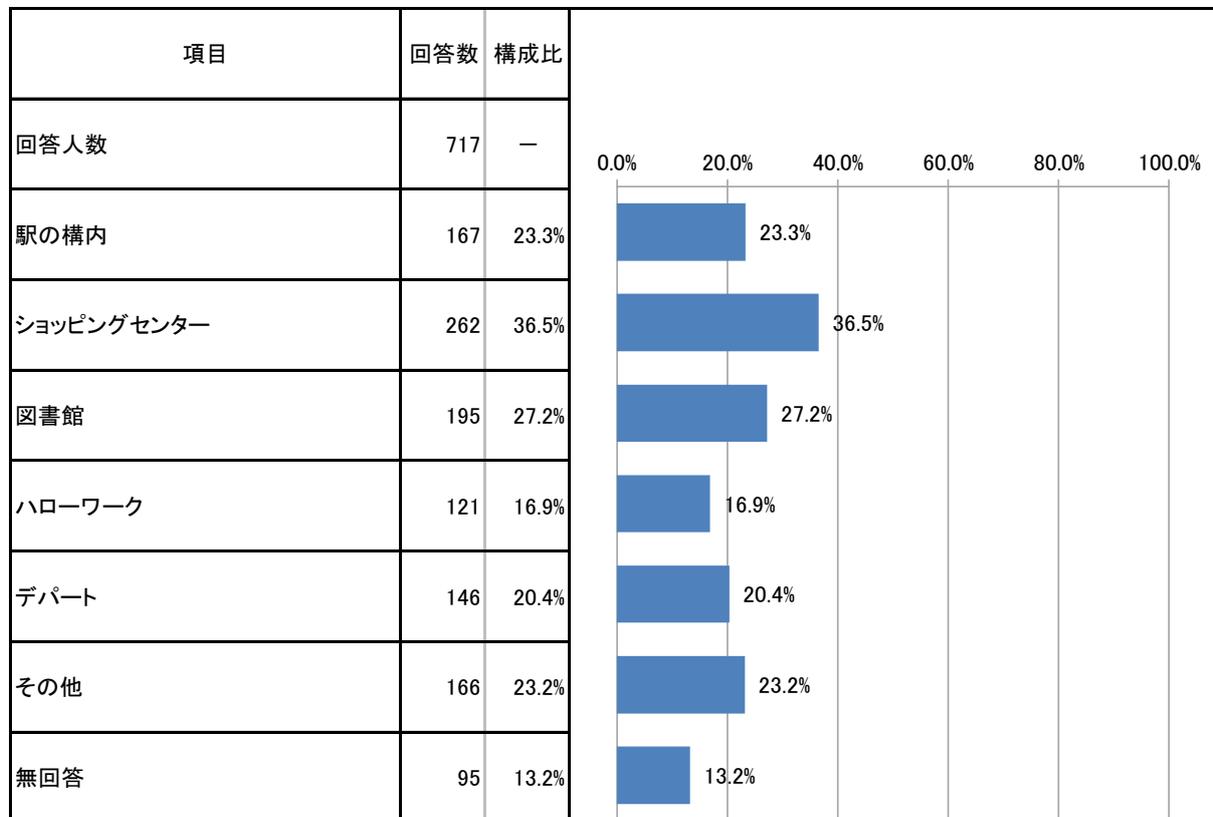
年代別では、10代の「知らない」が 67.1%で最も高く、60代が 44.4%で最も低い。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	256	100.0%	460	100.0%	1	100.0%
知っている	287	40.0%	89	34.8%	197	42.8%	1	100.0%
知らない	401	55.9%	158	61.7%	243	52.8%	0	0.0%
無回答	29	4.0%	9	3.5%	20	4.3%	0	0.0%

項目	回答人数		年代別													
			10代		20代		30代		40代		50代		60代		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	100.0%	70	100.0%	89	100.0%	106	100.0%	133	100.0%	156	100.0%	160	100.0%	3	100.0%
知っている	287	40.0%	22	31.4%	35	39.3%	37	34.9%	47	35.3%	66	42.3%	79	49.4%	1	33.3%
知らない	401	55.9%	47	67.1%	51	57.3%	67	63.2%	84	63.2%	80	51.3%	71	44.4%	1	33.3%
無回答	29	4.0%	1	1.4%	3	3.4%	2	1.9%	2	1.5%	10	6.4%	10	6.3%	1	33.3%

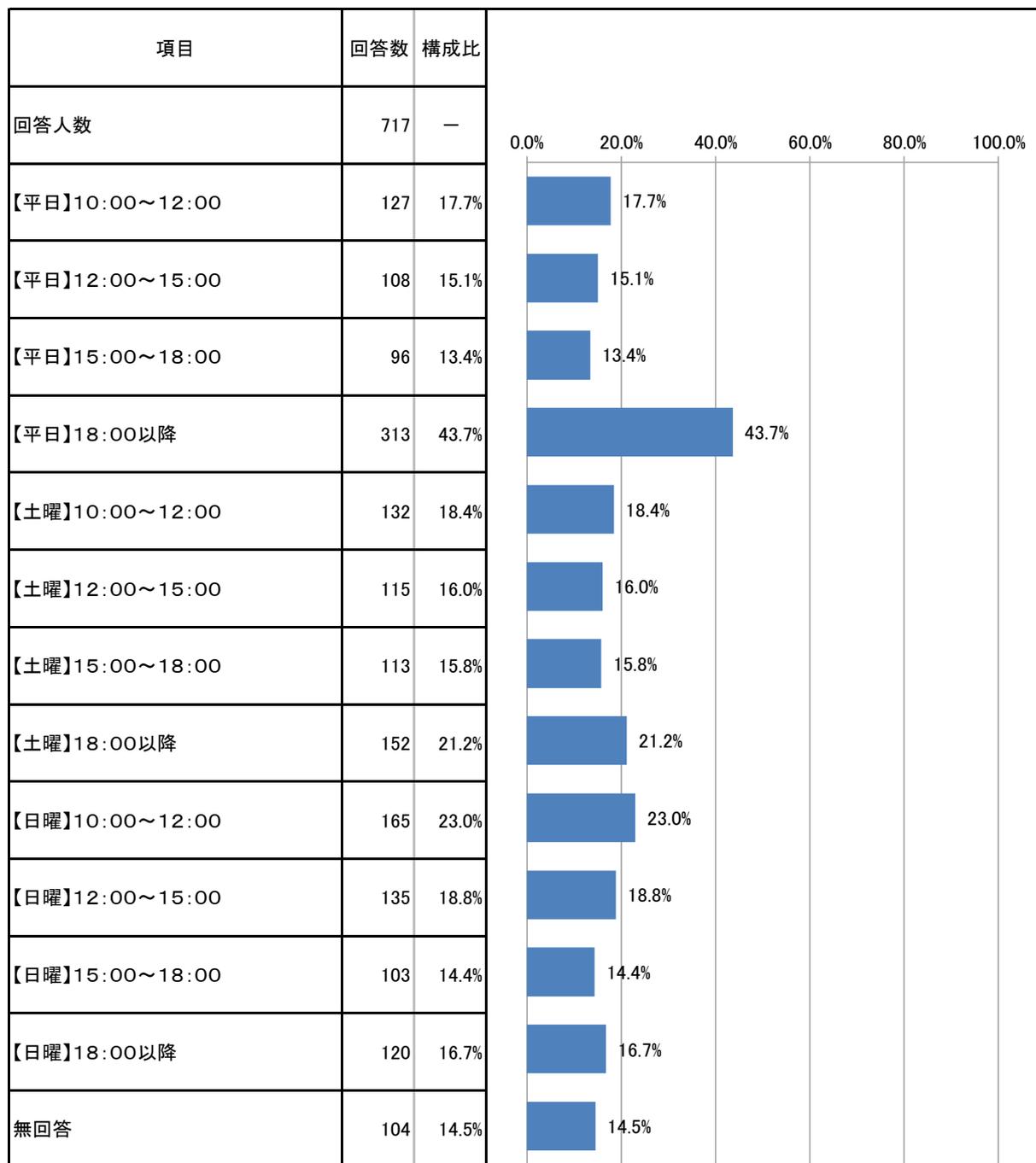
問 29 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談場所があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

自殺したいと思ったときの相談場所の希望については、「ショッピングセンター」が 36.5%と最も高く、次いで「図書館」が 27.2%、「駅の構内」が 23.3%となっている。



問 30 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。(最も希望するもの3つに○)

相談場所を利用しやすい時間帯については、「【平日】18:00以降」が43.7%と最も高く、次いで「【日曜】10:00～12:00」が23.0%、「【土曜】18:00以降」が21.2%となっている。



【一般】

【属性別特徴】

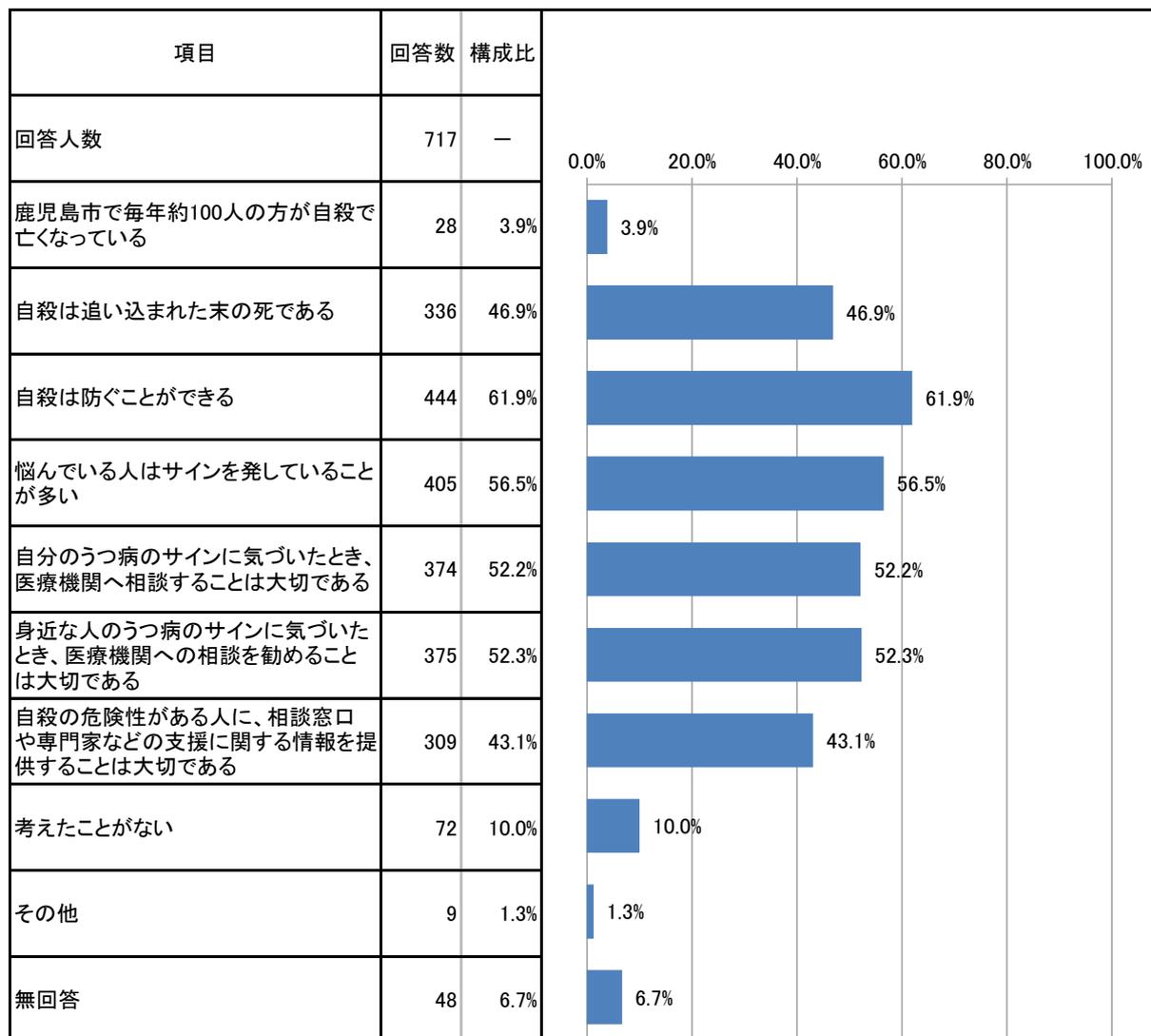
性別では、女の「【平日】10:00～12:00」が21.5%で、男の10.5%に比べて高くなっている。

就労状況別では、就労している人と学生の「【平日】18:00以降」がそれぞれ50.0%、62.8%と特に高くなっている。

項目	回答人数		性別						就労状況別									
			男		女		無回答		就労している		就労していない		学生		その他		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	717	—	256	—	460	—	1	—	420	—	169	—	86	—	30	—	12	—
【平日】10:00～12:00	127	17.7%	27	10.5%	99	21.5%	1	100.0%	53	12.6%	60	35.5%	3	3.5%	9	30.0%	2	16.7%
【平日】12:00～15:00	108	15.1%	30	11.7%	78	17.0%	0	0.0%	50	11.9%	45	26.6%	3	3.5%	9	30.0%	1	8.3%
【平日】15:00～18:00	96	13.4%	27	10.5%	69	15.0%	0	0.0%	47	11.2%	30	17.8%	11	12.8%	6	20.0%	2	16.7%
【平日】18:00以降	313	43.7%	127	49.6%	186	40.4%	0	0.0%	210	50.0%	40	23.7%	54	62.8%	6	20.0%	3	25.0%
【土曜】10:00～12:00	132	18.4%	41	16.0%	91	19.8%	0	0.0%	75	17.9%	36	21.3%	15	17.4%	5	16.7%	1	8.3%
【土曜】12:00～15:00	115	16.0%	40	15.6%	75	16.3%	0	0.0%	57	13.6%	35	20.7%	16	18.6%	4	13.3%	3	25.0%
【土曜】15:00～18:00	113	15.8%	37	14.5%	76	16.5%	0	0.0%	65	15.5%	17	10.1%	26	30.2%	5	16.7%	0	0.0%
【土曜】18:00以降	152	21.2%	72	28.1%	80	17.4%	0	0.0%	107	25.5%	17	10.1%	22	25.6%	3	10.0%	3	25.0%
【日曜】10:00～12:00	165	23.0%	59	23.0%	106	23.0%	0	0.0%	101	24.0%	37	21.9%	19	22.1%	4	13.3%	4	33.3%
【日曜】12:00～15:00	135	18.8%	50	19.5%	85	18.5%	0	0.0%	72	17.1%	44	26.0%	15	17.4%	2	6.7%	2	16.7%
【日曜】15:00～18:00	103	14.4%	32	12.5%	71	15.4%	0	0.0%	64	15.2%	16	9.5%	19	22.1%	4	13.3%	0	0.0%
【日曜】18:00以降	120	16.7%	53	20.7%	67	14.6%	0	0.0%	83	19.8%	14	8.3%	20	23.3%	1	3.3%	2	16.7%
無回答	104	14.5%	38	14.8%	66	14.3%	0	0.0%	62	14.8%	25	14.8%	7	8.1%	7	23.3%	3	25.0%

問 31 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

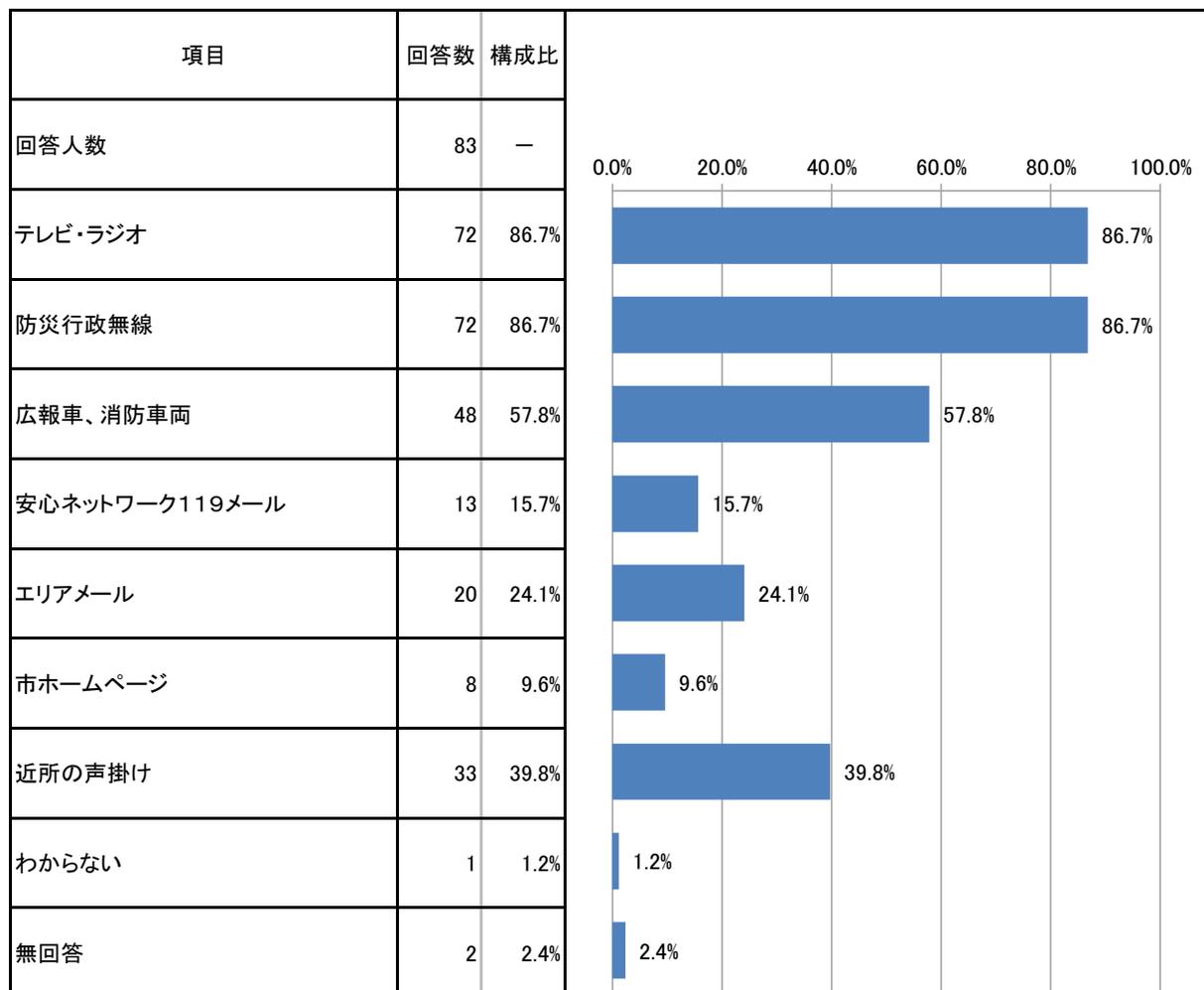
自殺について知っていることについては、「自殺は防ぐことができる」が61.9%と最も高く、次いで「悩んでいる人はサインを発していることが多い」が56.5%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が52.3%、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が52.2%となっている。



※問 32～34 は桜島にお住まいの方への質問です。

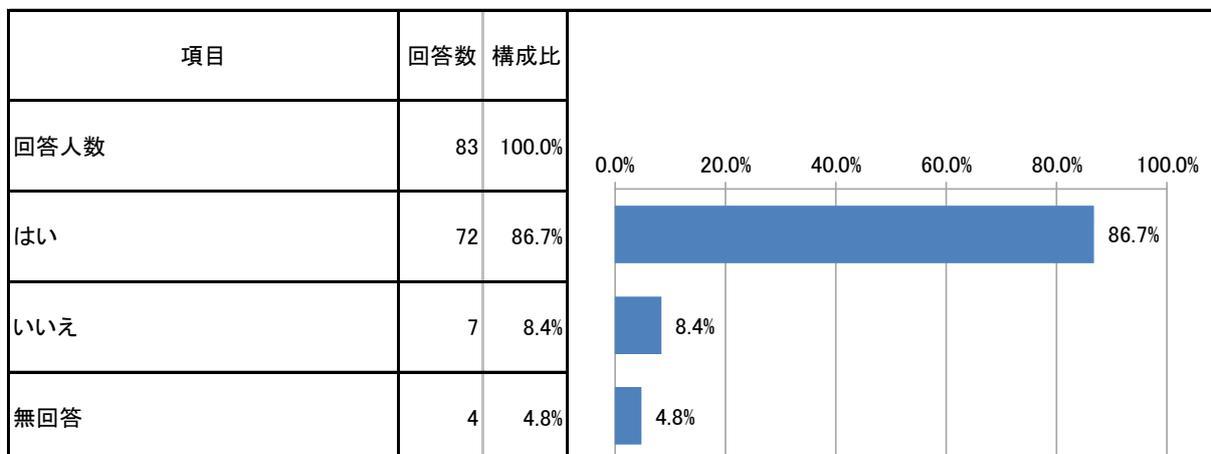
問 32 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。避難情報などの情報は何で収集しますか。(あてはまるものすべてに○)

避難情報などの情報収集方法については、「テレビ・ラジオ」「防災行政無線」が 86.7%と最も高く、次いで「広報車、消防車両」が 57.8%、「近所の声掛け」が 39.8%となっている。



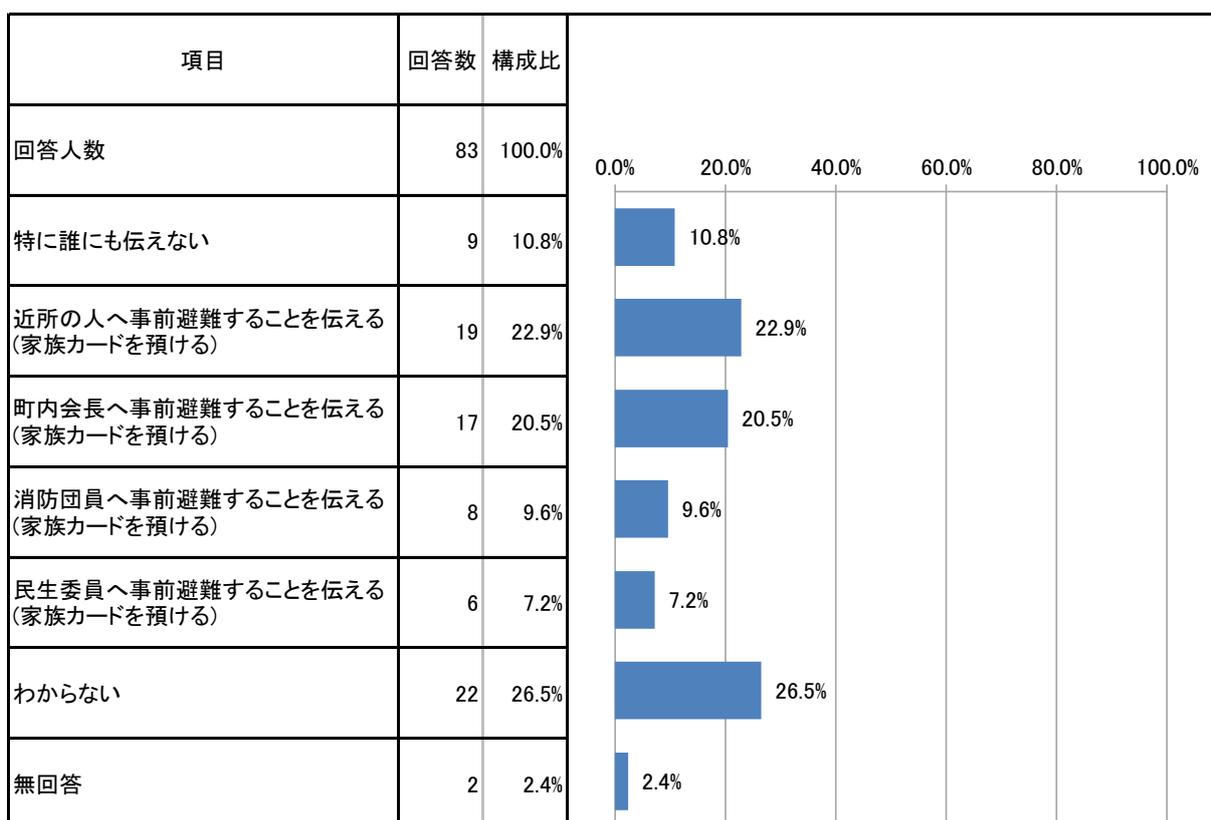
問 33 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール（安心ネットワーク119メール）を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。（ひとつに○）

携帯電話を持っているかについては、「はい」が86.7%、「いいえ」が8.4%となっている。



問 34 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することとなっていますが、「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことを地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。（ひとつに○）

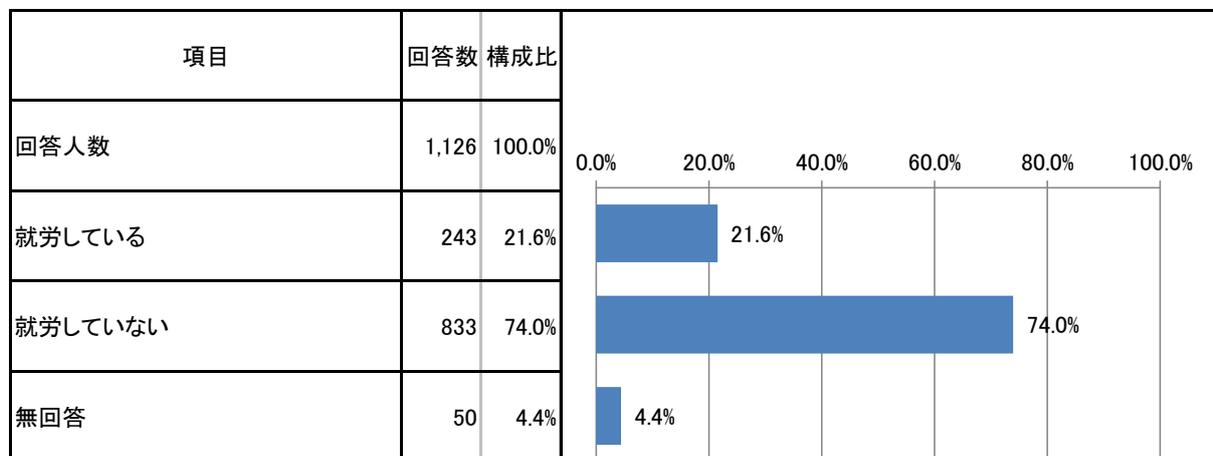
「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことの周囲への伝達方法については、「わからない」が26.5%と最も高く、次いで「近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」が22.9%、「町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」が20.5%となっている。



問1 あなたの性別や世帯構成などについてお聞きします。

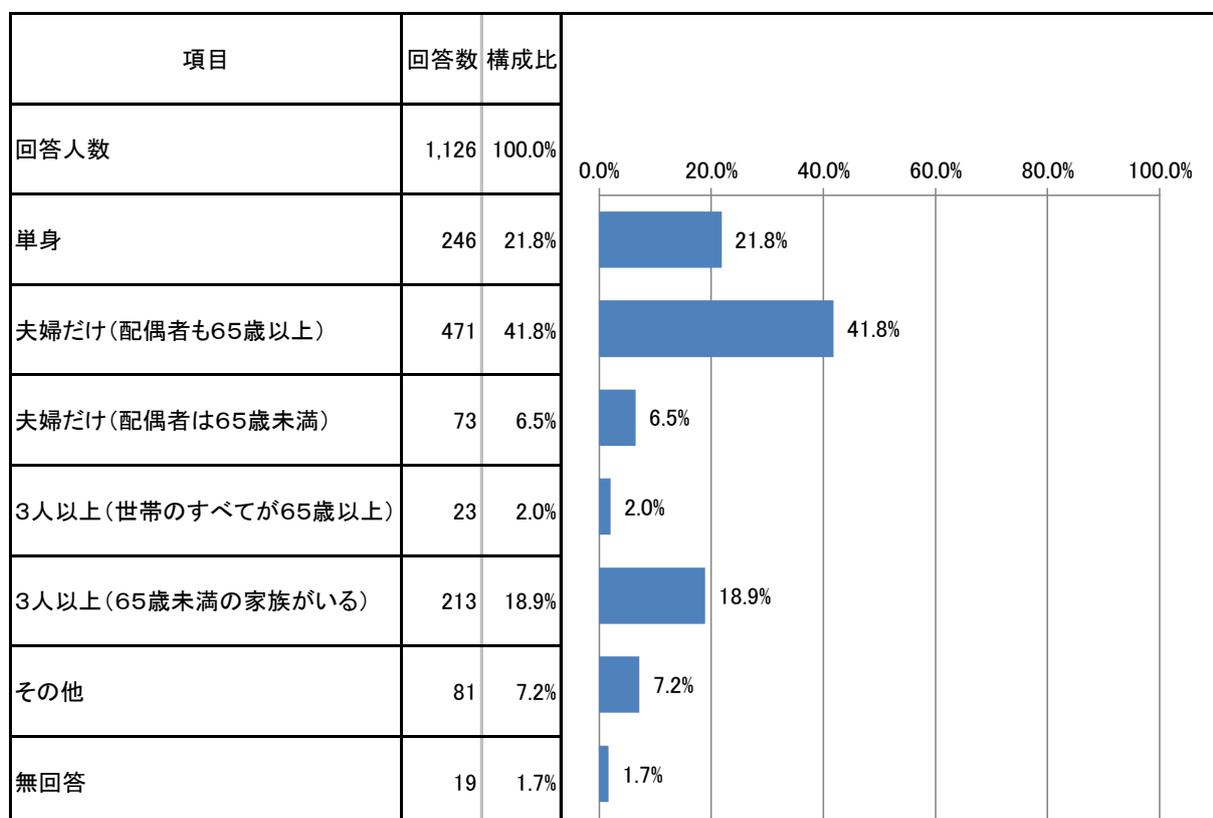
(2) 対象（封書の宛名）の方の就労状況（平成26年10月1日現在）

就労状況については、「就労している」が21.6%、「就労していない」が74.0%となっている。



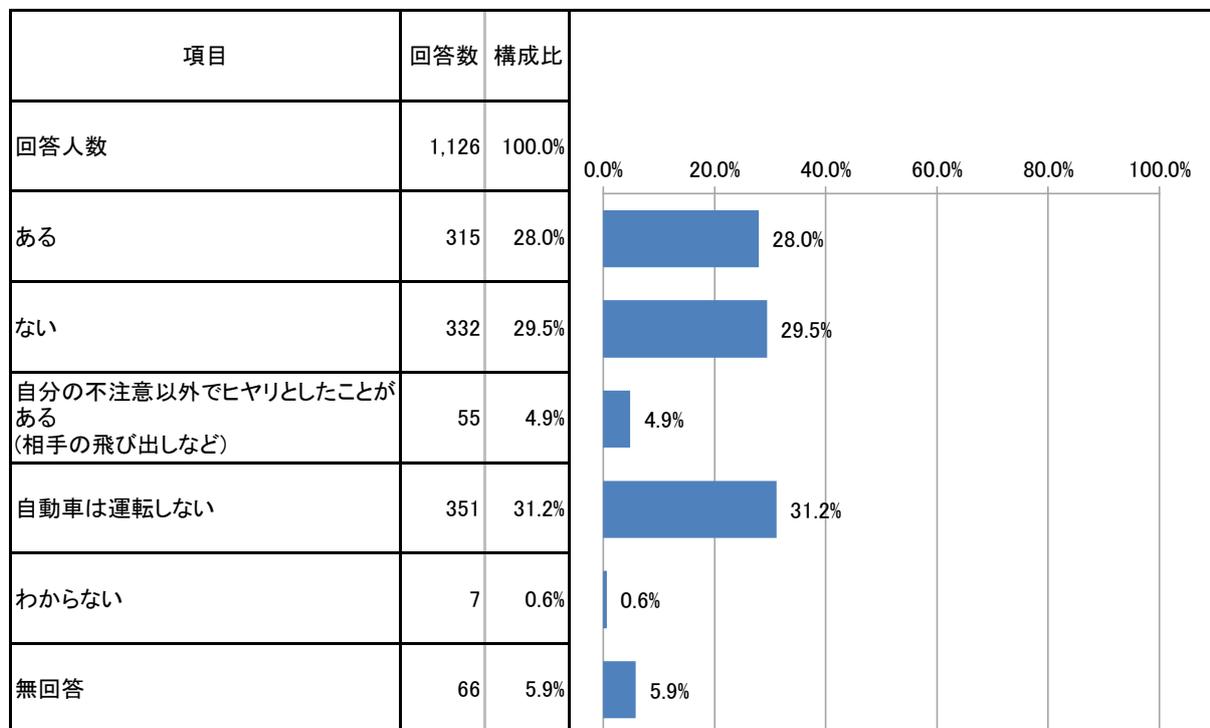
(3) 世帯構成

世帯構成については、「夫婦だけ（配偶者も65歳以上）」が41.8%と最も高く、次いで「単身」が21.8%、「3人以上（65歳未満の家族がいる）」が18.9%となっている。



問3 あなたは、自動車運転中、自分の不注意で事故に遭いそうになり、ヒヤリとしたことがありますか。(ひとつに○)

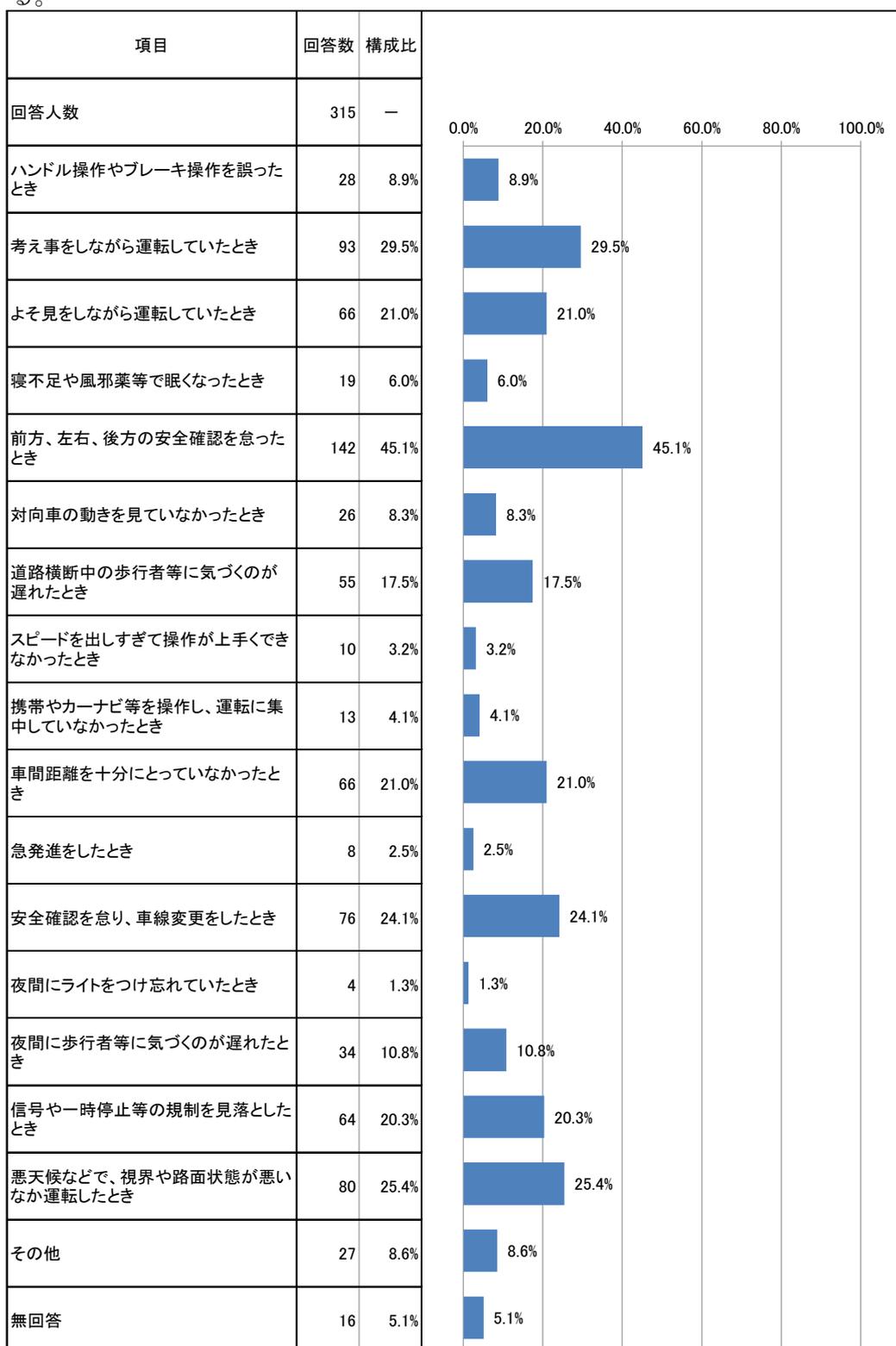
自動車運転中、自分の不注意で事故に遭いそうになり、ヒヤリとしたことがあるかについては、「自動車は運転しない」が31.2%と最も高く、次いで「ない」が29.5%、「ある」が28.0%となっている。



※問3で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問3-1 あなたは、どのようなときに交通事故に遭いそうになり、ヒヤリとしましたか。（あてはまるものすべてに○）

どのようなときに交通事故に遭いそうになり、ヒヤリとしたかについては、「前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき」が45.1%と最も高く、次いで「考え事をしながら運転していたとき」が29.5%、「悪天候などで、視界や路面状態が悪いなか運転したとき」が25.4%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

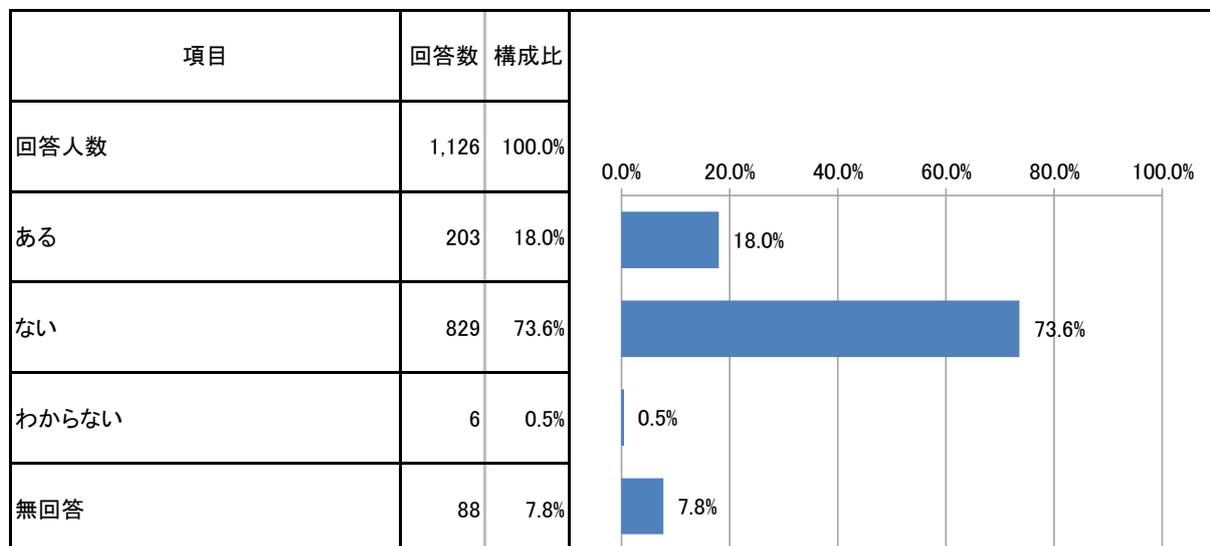
性別では、男の「よそ見をしながら運転していたとき」が26.4%で、女の10.3%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	315	—	208	—	107	—	0	—
ハンドル操作やブレーキ操作を誤ったとき	28	8.9%	17	8.2%	11	10.3%	0	—
考え事をしながら運転していたとき	93	29.5%	61	29.3%	32	29.9%	0	—
よそ見をしながら運転していたとき	66	21.0%	55	26.4%	11	10.3%	0	—
寝不足や風邪薬等で眠くなったとき	19	6.0%	12	5.8%	7	6.5%	0	—
前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき	142	45.1%	104	50.0%	38	35.5%	0	—
対向車の動きを見ていなかったとき	26	8.3%	18	8.7%	8	7.5%	0	—
道路横断中の歩行者等に気づくのが遅れたとき	55	17.5%	42	20.2%	13	12.1%	0	—
スピードを出しすぎて操作が上手くできなかったとき	10	3.2%	8	3.8%	2	1.9%	0	—
携帯やカーナビ等を操作し、運転に集中していなかったとき	13	4.1%	11	5.3%	2	1.9%	0	—
車間距離を十分にとっていなかったとき	66	21.0%	54	26.0%	12	11.2%	0	—
急発進をしたとき	8	2.5%	4	1.9%	4	3.7%	0	—
安全確認を怠り、車線変更をしたとき	76	24.1%	55	26.4%	21	19.6%	0	—
夜間にライトをつけ忘れていたとき	4	1.3%	2	1.0%	2	1.9%	0	—
夜間に歩行者等に気づくのが遅れたとき	34	10.8%	29	13.9%	5	4.7%	0	—
信号や一時停止等の規制を見落としたとき	64	20.3%	40	19.2%	24	22.4%	0	—
悪天候などで、視界や路面状態が悪くなか運転したとき	80	25.4%	49	23.6%	31	29.0%	0	—
その他	27	8.6%	14	6.7%	13	12.1%	0	—
無回答	16	5.1%	9	4.3%	7	6.5%	0	—

【高齢者】

問4 あなたは、この1年間（平成25年10月から平成26年9月まで）に交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがありますか。（ひとつに○）

この1年間の交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「ない」が73.6%と最も高く、次いで「ある」が18.0%で、「わからない」は0.5%とほとんどない。



【属性別特徴】

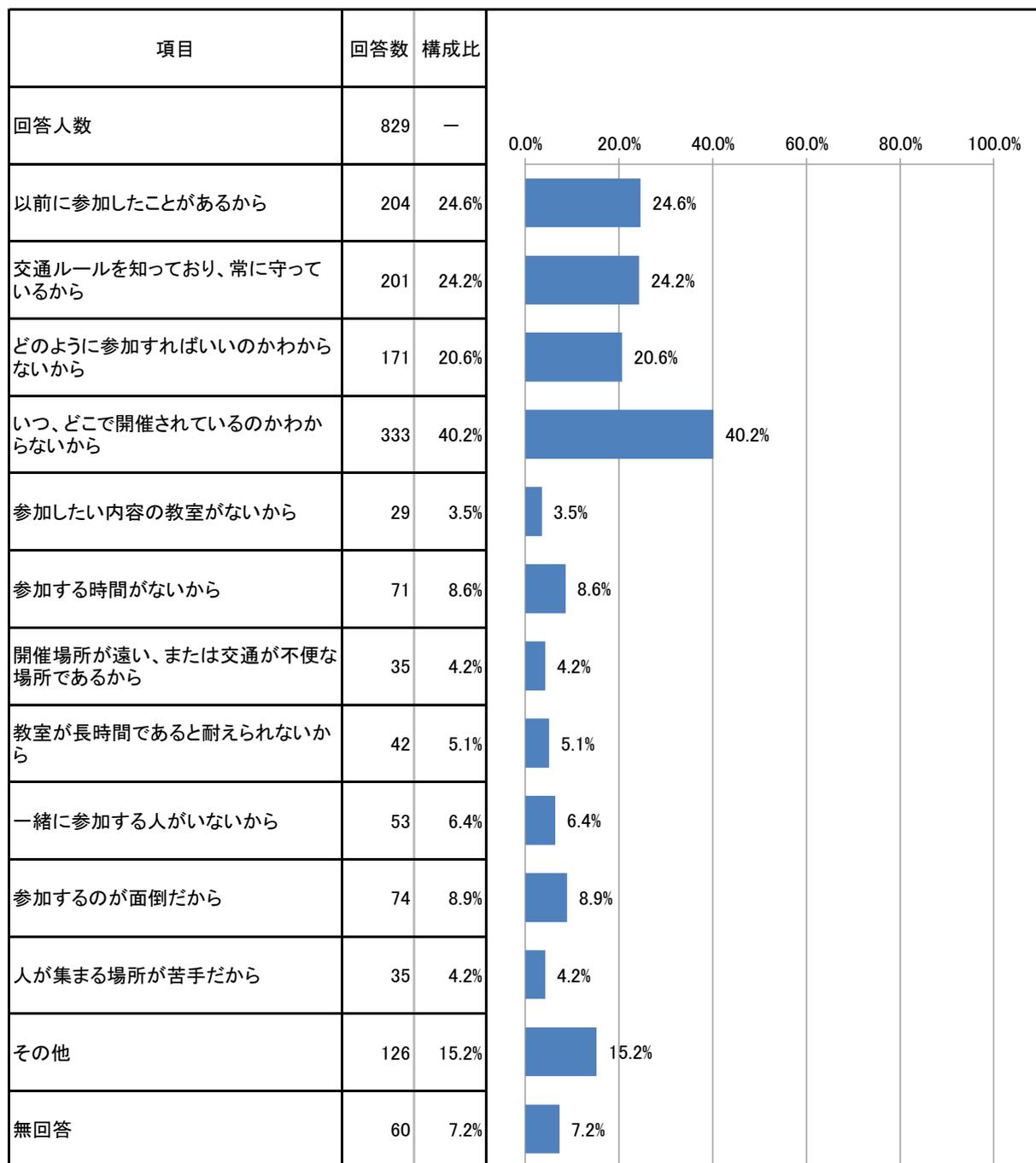
性別では、男の「ある」が28.6%で、女の9.4%に比べて高くなっており、参加状況に性差がみられた。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%
ある	203	18.0%	144	28.6%	58	9.4%	1	16.7%
ない	829	73.6%	338	67.2%	487	78.9%	4	66.7%
わからない	6	0.5%	1	0.2%	4	0.6%	1	16.7%
無回答	88	7.8%	20	4.0%	68	11.0%	0	0.0%

※問4で『②ない』とご回答された方にお聞きします。

問4-1 あなたが、交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加したことがない理由については、「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が40.2%と最も高く、次いで「以前に参加したことがあるから」が24.6%、「交通ルールを知っており、常に守っているから」が24.2%となっている。



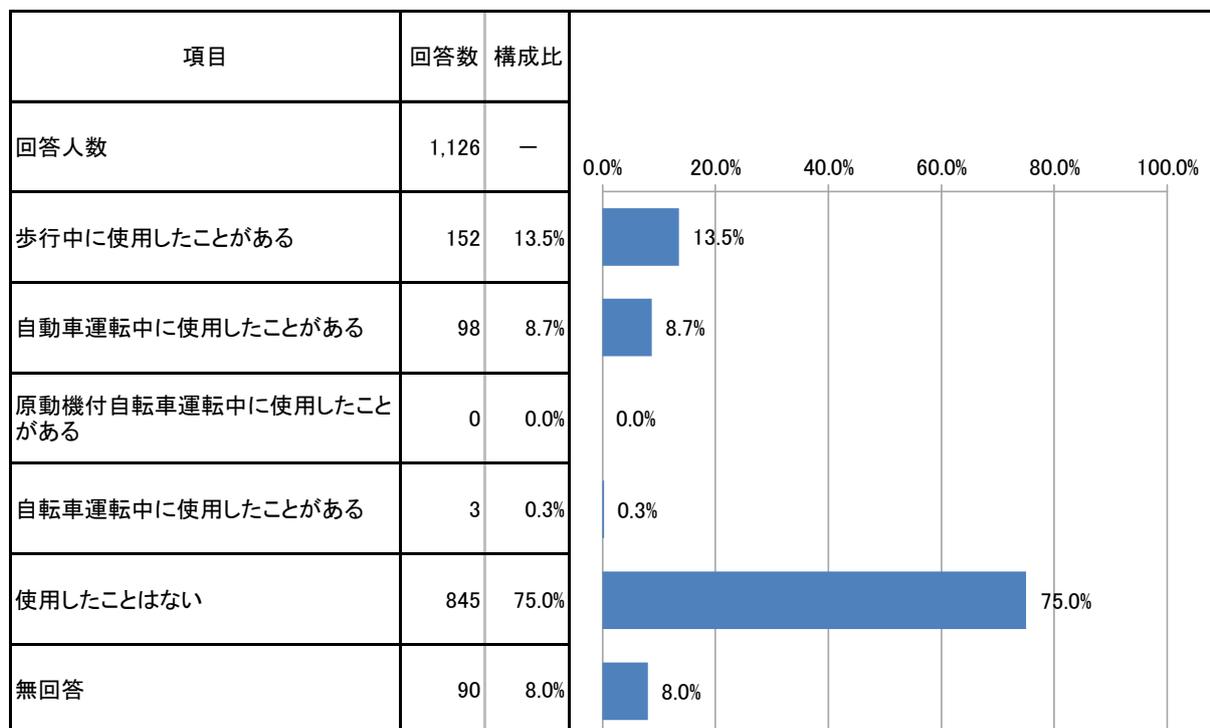
【属性別特徴】

性別では、男の「以前に参加したことがあるから」が34.6%で、女の17.9%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	829	—	338	—	487	—	4	—
以前に参加したことがあるから	204	24.6%	117	34.6%	87	17.9%	0	0.0%
交通ルールを知っており、常に守っているから	201	24.2%	93	27.5%	106	21.8%	2	50.0%
どのように参加すればいいのかわからないから	171	20.6%	67	19.8%	104	21.4%	0	0.0%
いつ、どこで開催されているのかわからないから	333	40.2%	140	41.4%	192	39.4%	1	25.0%
参加したい内容の教室がないから	29	3.5%	11	3.3%	18	3.7%	0	0.0%
参加する時間がないから	71	8.6%	30	8.9%	41	8.4%	0	0.0%
開催場所が遠い、または交通が不便な場所であるから	35	4.2%	10	3.0%	25	5.1%	0	0.0%
教室が長時間であると耐えられないから	42	5.1%	13	3.8%	29	6.0%	0	0.0%
一緒に参加する人がいないから	53	6.4%	6	1.8%	47	9.7%	0	0.0%
参加するのが面倒だから	74	8.9%	30	8.9%	44	9.0%	0	0.0%
人が集まる場所が苦手だから	35	4.2%	15	4.4%	20	4.1%	0	0.0%
その他	126	15.2%	36	10.7%	90	18.5%	0	0.0%
無回答	60	7.2%	15	4.4%	44	9.0%	1	25.0%

問5 近年、歩行中にスマートフォンを使用する、「歩きスマホ」が社会問題となつていますが、あなたは、歩行中や自動車等運転中に、携帯電話（スマートフォンを含む）を使用したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

歩行中や自動車等運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用については、「使用したことはない」が75.0%と最も高く、次いで「歩行中に使用したことがある」が13.5%、「自動車運転中に使用したことがある」が8.7%となっている。



【属性別特徴】

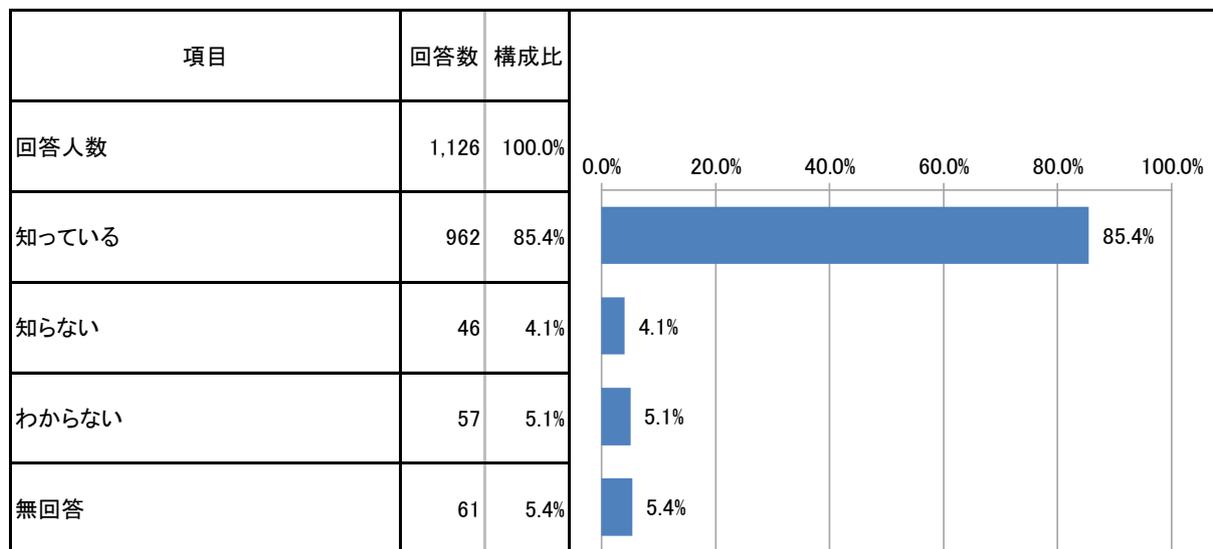
性別では、男の「自動車運転中に使用したことがある」が 13.5%で、女の 4.9%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	—	503	—	617	—	6	—
歩行中に使用したことがある	152	13.5%	88	17.5%	64	10.4%	0	0.0%
自動車運転中に使用したことがある	98	8.7%	68	13.5%	30	4.9%	0	0.0%
原動機付自転車運転中に使用したことがある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自転車運転中に使用したことがある	3	0.3%	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
使用したことはない	845	75.0%	363	72.2%	477	77.3%	5	83.3%
無回答	90	8.0%	25	5.0%	64	10.4%	1	16.7%

【高齢者】

問6 あなたは、自動車や原動機付自転車、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることを知っていますか。（ひとつに○）

自動車や原動機付自転車、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることの認知度については、「知っている」が 85.4%と最も高く、「わからない」「知らない」はほとんどない。



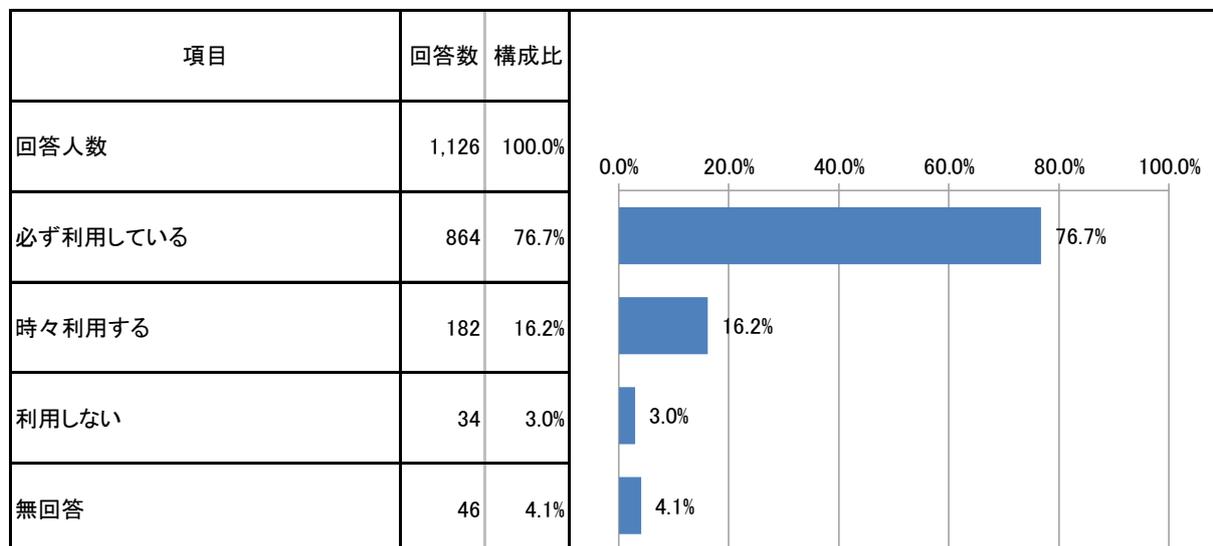
【属性別特徴】

性別では、男の「知っている」が 93.0%で、女の 79.4%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別					
			男		女		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%
知っている	962	85.4%	468	93.0%	490	79.4%	4	66.7%
知らない	46	4.1%	12	2.4%	32	5.2%	2	33.3%
わからない	57	5.1%	12	2.4%	45	7.3%	0	0.0%
無回答	61	5.4%	11	2.2%	50	8.1%	0	0.0%

問7 あなたは、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。(ひとつに○)

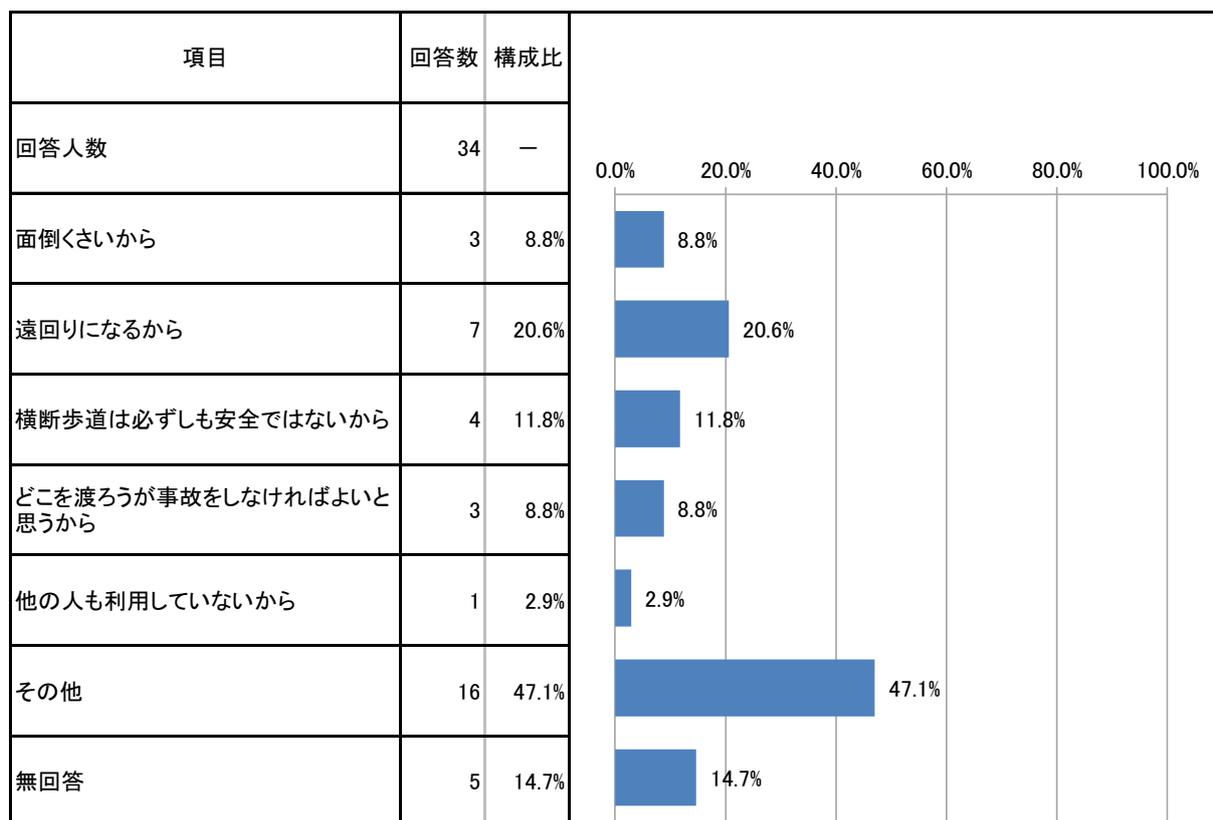
歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合の利用については、「必ず利用している」が76.7%と最も高く、次いで「時々利用する」が16.2%で、「利用しない」は3.0%とほとんどない。



※問7で『③利用しない』とご回答された方にお聞きします。

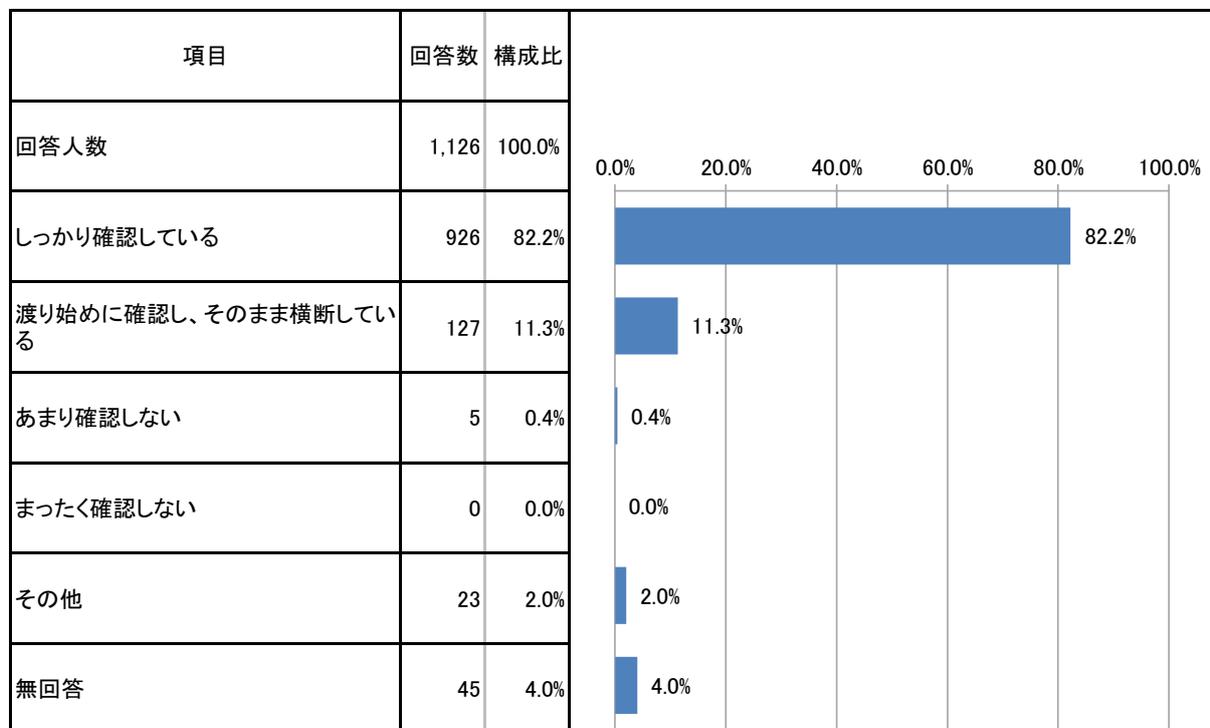
問7-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

横断歩道を利用しない理由については、「遠回りになるから」が20.6%と最も高く、次いで「横断歩道は必ずしも安全ではないから」が11.8%、「面倒くさいから」「どこを渡ろうが事故をしなければよいと思うから」が8.8%となっている。



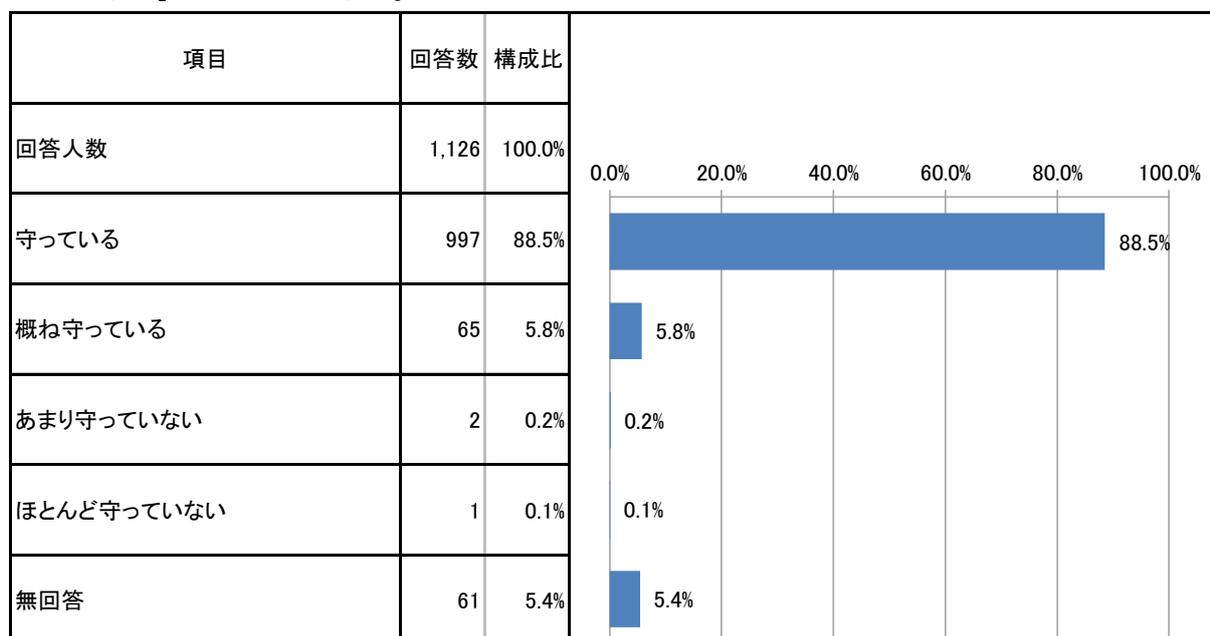
問8 あなたは、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。(ひとつに○)

歩行中に道路を横断する際の安全確認については、「しっかり確認している」が82.2%と最も高く、次いで「渡り始めに確認し、そのまま横断している」が11.3%で、「あまり確認しない」は0.4%とほとんどない。



問9 あなたは、歩行中に信号機をついた横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っていますか。(ひとつに○)

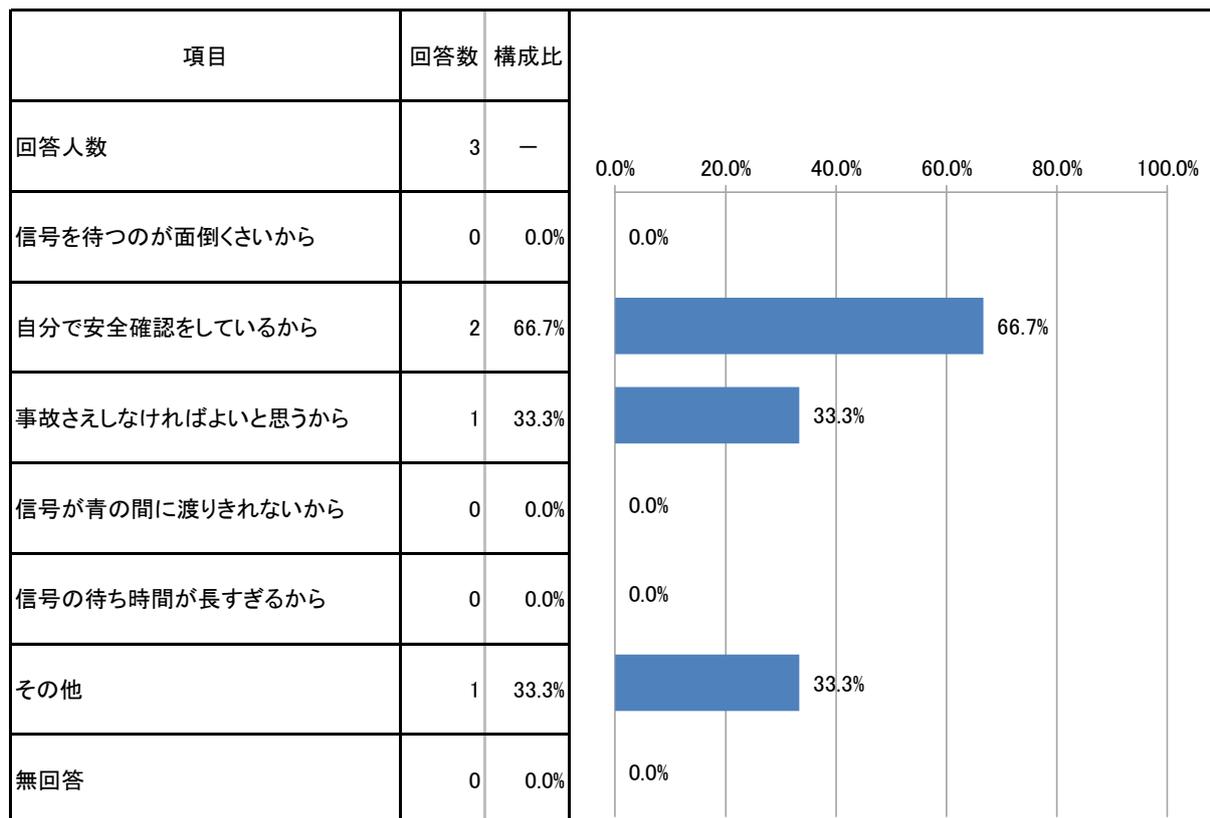
歩行中に信号機をついた横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っているかについては、「守っている」が88.5%と最も高く、「概ね守っている」「あまり守っていない」「ほとんど守っていない」はほとんどない。



※問9で『③あまり守っていない』『④ほとんど守っていない』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問9-1 ルール（信号）を守っていないことがある理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

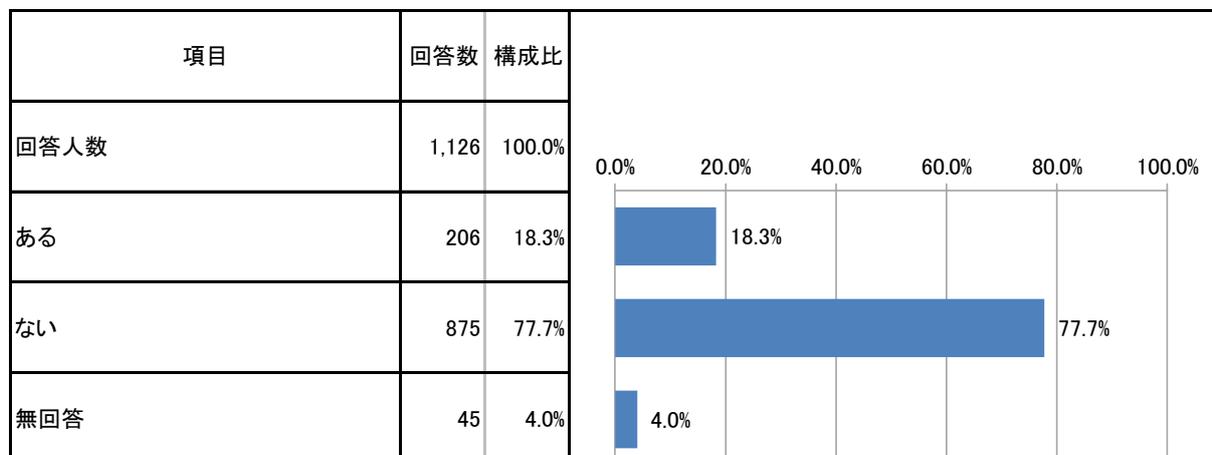
ルール（信号）を守っていないことがある理由については、「自分で安全確認をしているから」が66.7%と最も高く、次いで「事故さえしなければよいと思うから」が33.3%となっている。



【高齢者】

問10 この1年間（平成25年10月から平成26年9月まで）に転んだことがありますか。（ひとつに○）

この1年間の転倒経験については、「ある」が18.3%、「ない」が77.7%となっている。



【属性別特徴】

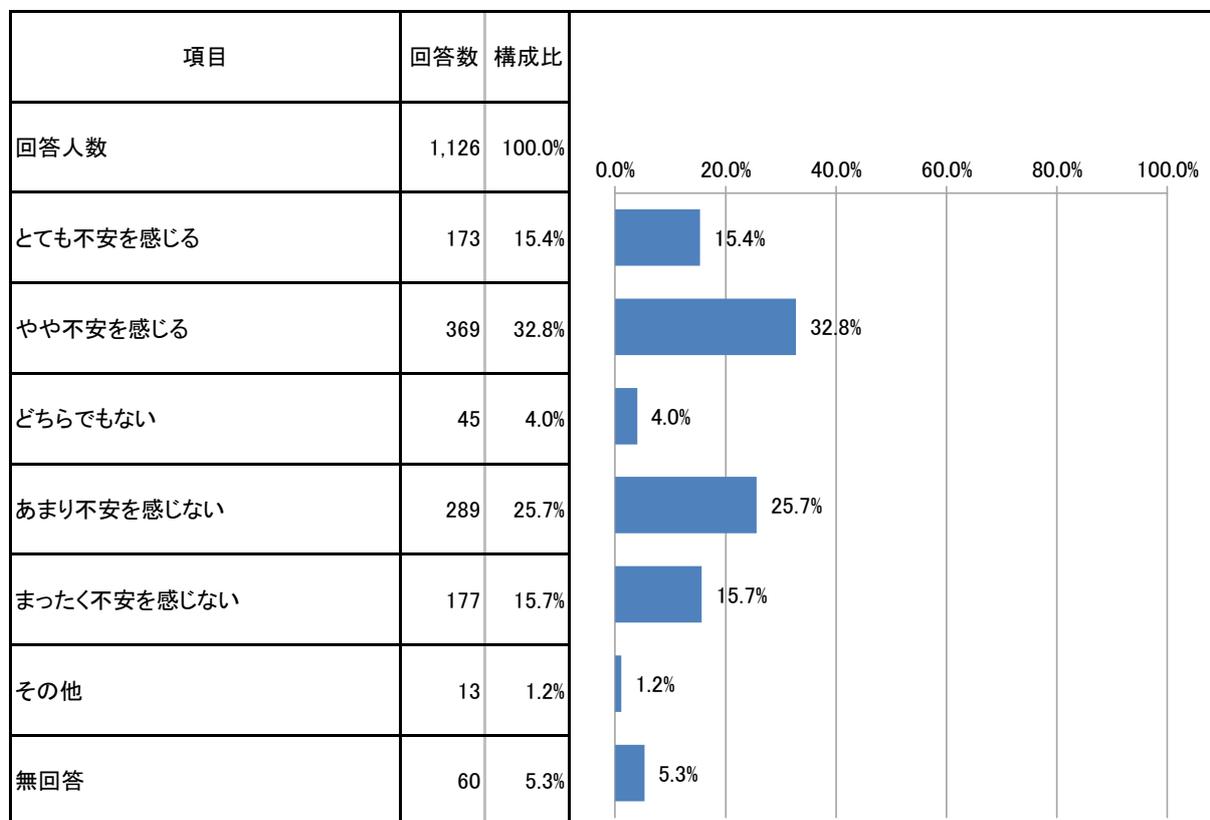
年齢別では、75歳以上の「ある」が24.6%で、65歳～74歳の13.5%に比べて高くなっている。

性別では、女の「ある」が20.9%で、男の15.3%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
ある	206	18.3%	77	15.3%	129	20.9%	0	0.0%	85	13.5%	118	24.6%	3	15.8%
ない	875	77.7%	412	81.9%	457	74.1%	6	100.0%	528	84.1%	332	69.3%	15	78.9%
無回答	45	4.0%	14	2.8%	31	5.0%	0	0.0%	15	2.4%	29	6.1%	1	5.3%

問 11 転倒に対する不安はありますか。(ひとつに○)

転倒に対する不安があるかについては、「やや不安を感じる」が32.8%と最も高く、次いで「あまり不安を感じない」が25.7%、「まったく不安を感じない」が15.7%、「とても不安を感じる」が15.4%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

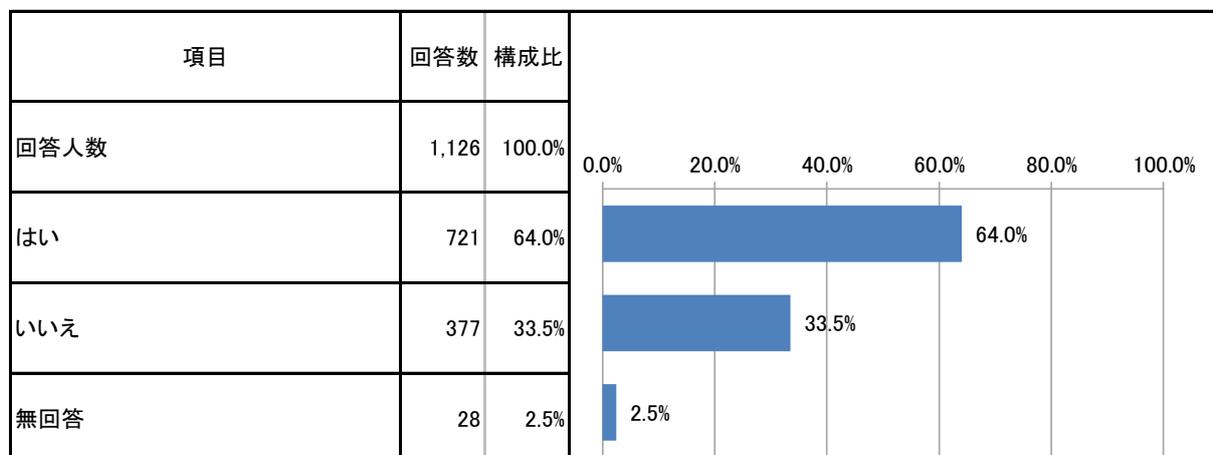
年齢別では、75歳以上の「やや不安を感じる」が38.2%で、65歳～74歳の28.7%に比べてやや高くなっている。

性別では、女の「やや不安を感じる」が37.1%で、男の27.6%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
とても不安を感じる	173	15.4%	47	9.3%	126	20.4%	0	0.0%	39	6.2%	129	26.9%	5	26.3%
やや不安を感じる	369	32.8%	139	27.6%	229	37.1%	1	16.7%	180	28.7%	183	38.2%	6	31.6%
どちらでもない	45	4.0%	22	4.4%	22	3.6%	1	16.7%	30	4.8%	12	2.5%	3	15.8%
あまり不安を感じない	289	25.7%	153	30.4%	134	21.7%	2	33.3%	219	34.9%	65	13.6%	5	26.3%
まったく不安を感じない	177	15.7%	119	23.7%	56	9.1%	2	33.3%	132	21.0%	45	9.4%	0	0.0%
その他	13	1.2%	2	0.4%	11	1.8%	0	0.0%	4	0.6%	9	1.9%	0	0.0%
無回答	60	5.3%	21	4.2%	39	6.3%	0	0.0%	24	3.8%	36	7.5%	0	0.0%

問 12 階段を手すりや壁をつたわずに昇り降りできますか。(ひとつに○)

階段を手すりや壁をつたわずに昇り降りできるかについては、「はい」が 64.0%、「いいえ」が 33.5%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、75歳以上の「いいえ」が 52.8%で、65歳～74歳の 18.5%に比べて高くなっている。

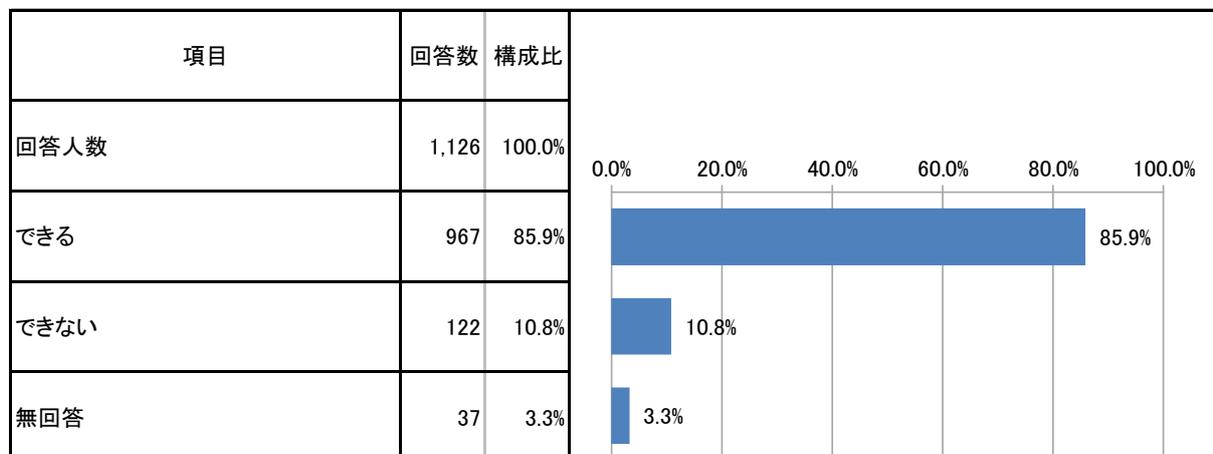
性別では、女の「いいえ」が 42.5%で、男の 22.5%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
はい	721	64.0%	382	75.9%	335	54.3%	4	66.7%	504	80.3%	206	43.0%	11	57.9%
いいえ	377	33.5%	113	22.5%	262	42.5%	2	33.3%	116	18.5%	253	52.8%	8	42.1%
無回答	28	2.5%	8	1.6%	20	3.2%	0	0.0%	8	1.3%	20	4.2%	0	0.0%

【高齢者】

問 13 15分程度（杖を使っても可）続けて歩くことができますか。（ひとつに○）

15分程度（杖を使っても可）続けて歩くことができるかについては、「できる」が85.9%、「できない」が10.8%となっている。



【属性別特徴】

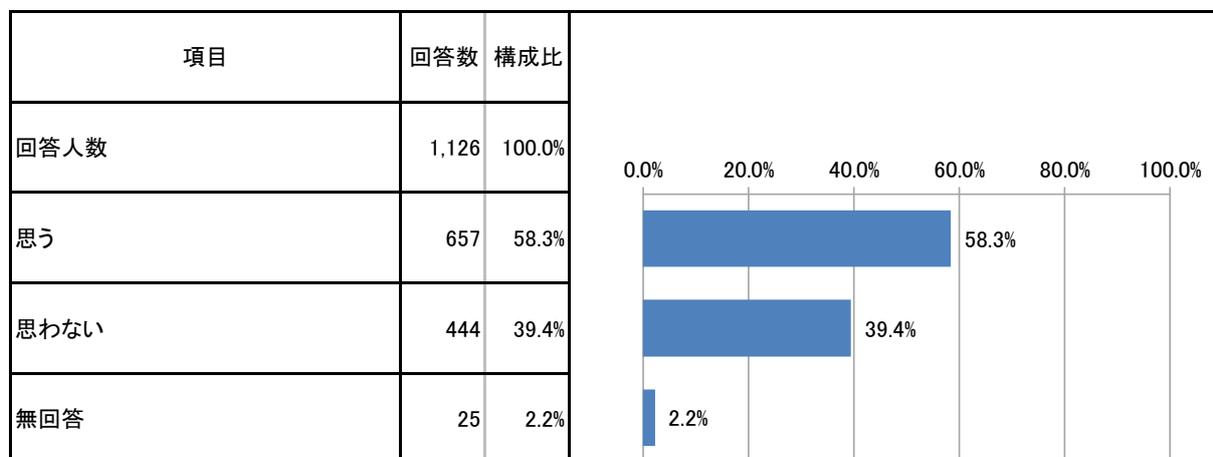
年齢別では、75歳以上の「できない」が20.9%で、65歳～74歳の3.0%に比べて高くなっている。

性別では、女の「できない」が14.3%で、男の6.8%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別						
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%	
できる	967	85.9%	457	90.9%	505	81.8%	5	83.3%	596	94.9%	356	74.3%	15	78.9%	
できない	122	10.8%	34	6.8%	88	14.3%	0	0.0%	19	3.0%	100	20.9%	3	15.8%	
無回答	37	3.3%	12	2.4%	24	3.9%	1	16.7%	13	2.1%	23	4.8%	1	5.3%	

問 14 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。(ひとつに○)

以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うかについては、「思う」が 58.3%、「思わない」が 39.4%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、75歳以上の「思う」が74.1%で、65歳～74歳の45.9%に比べて高くなっている。

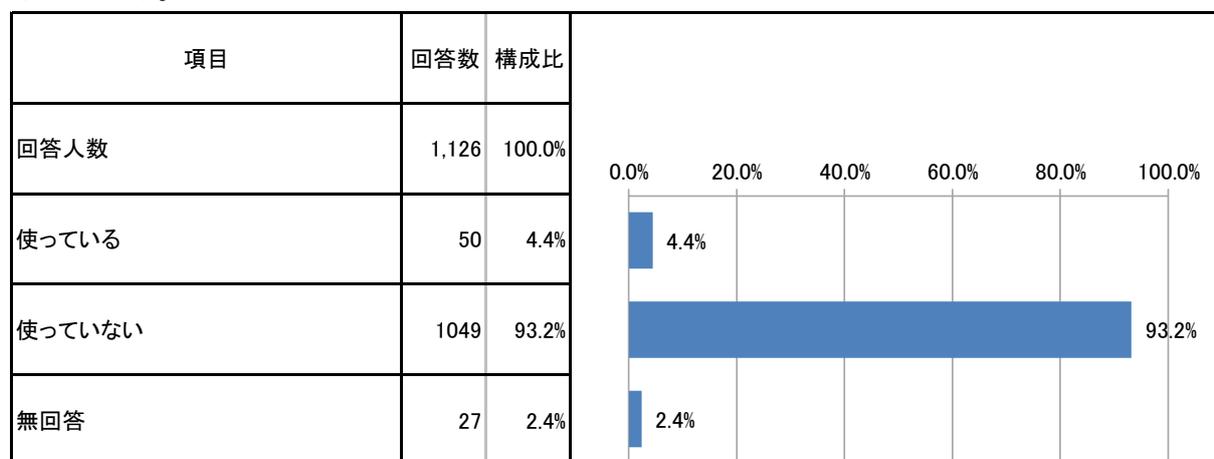
性別では、女の「思う」が60.3%で、男の56.1%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
思う	657	58.3%	282	56.1%	372	60.3%	3	50.0%	288	45.9%	355	74.1%	14	73.7%
思わない	444	39.4%	214	42.5%	227	36.8%	3	50.0%	333	53.0%	106	22.1%	5	26.3%
無回答	25	2.2%	7	1.4%	18	2.9%	0	0.0%	7	1.1%	18	3.8%	0	0.0%

【高齢者】

問 15 手押し車を使っていますか。(ひとつに○)

手押し車を使っているかについては、「使っている」が 4.4%、「使っていない」が 93.2%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、75歳以上の「使っている」が9.6%で、65歳～74歳の0.6%に比べてやや高くなっている。

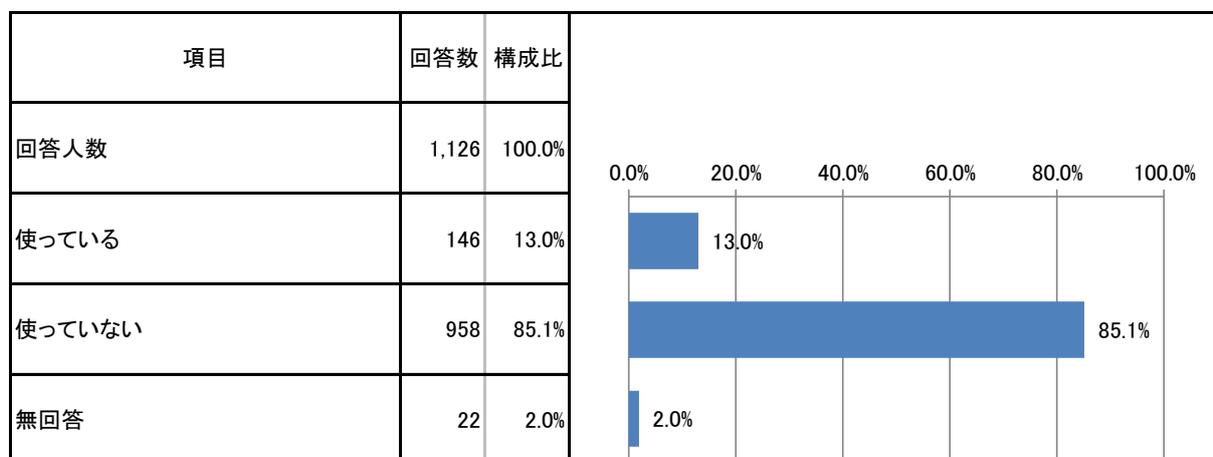
性別では、女の「使っている」が7.5%で、男の0.8%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
使っている	50	4.4%	4	0.8%	46	7.5%	0	0.0%	4	0.6%	46	9.6%	0	0.0%
使っていない	1,049	93.2%	490	97.4%	553	89.6%	6	100.0%	618	98.4%	413	86.2%	18	94.7%
無回答	27	2.4%	9	1.8%	18	2.9%	0	0.0%	6	1.0%	20	4.2%	1	5.3%

【高齢者】

問16 杖を使っていますか。(ひとつに○)

杖を使っているかについては、「使っている」が13.0%、「使っていない」が85.1%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、75歳以上の「使っている」が26.5%で、65歳～74歳の2.9%に比べて高くなっている。

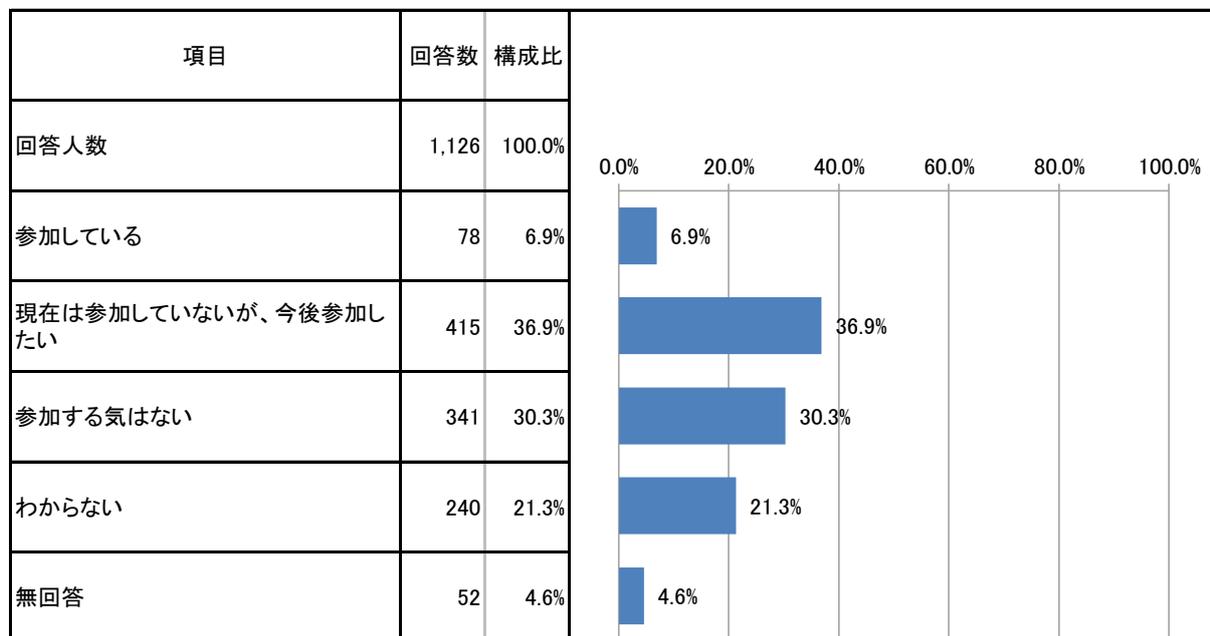
性別では、女の「使っている」が16.5%で、男の8.5%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
使っている	146	13.0%	43	8.5%	102	16.5%	1	16.7%	18	2.9%	127	26.5%	1	5.3%
使っていない	958	85.1%	454	90.3%	499	80.9%	5	83.3%	605	96.3%	335	69.9%	18	94.7%
無回答	22	2.0%	6	1.2%	16	2.6%	0	0.0%	5	0.8%	17	3.5%	0	0.0%

【高齢者】

問 17 介護予防のための教室等に参加したいと思いますか。(ひとつに○)

介護予防のための教室等への参加については、「現在は参加していないが、今後参加したい」が36.9%と最も高く、次いで「参加する気はない」が30.3%、「わからない」が21.3%、「参加している」が6.9%となっている。



【属性別特徴】

年齢別では、65歳～74歳の「現在は参加していないが、今後参加したい」が40.6%で、75歳以上の32.8%に比べてやや高くなっている。

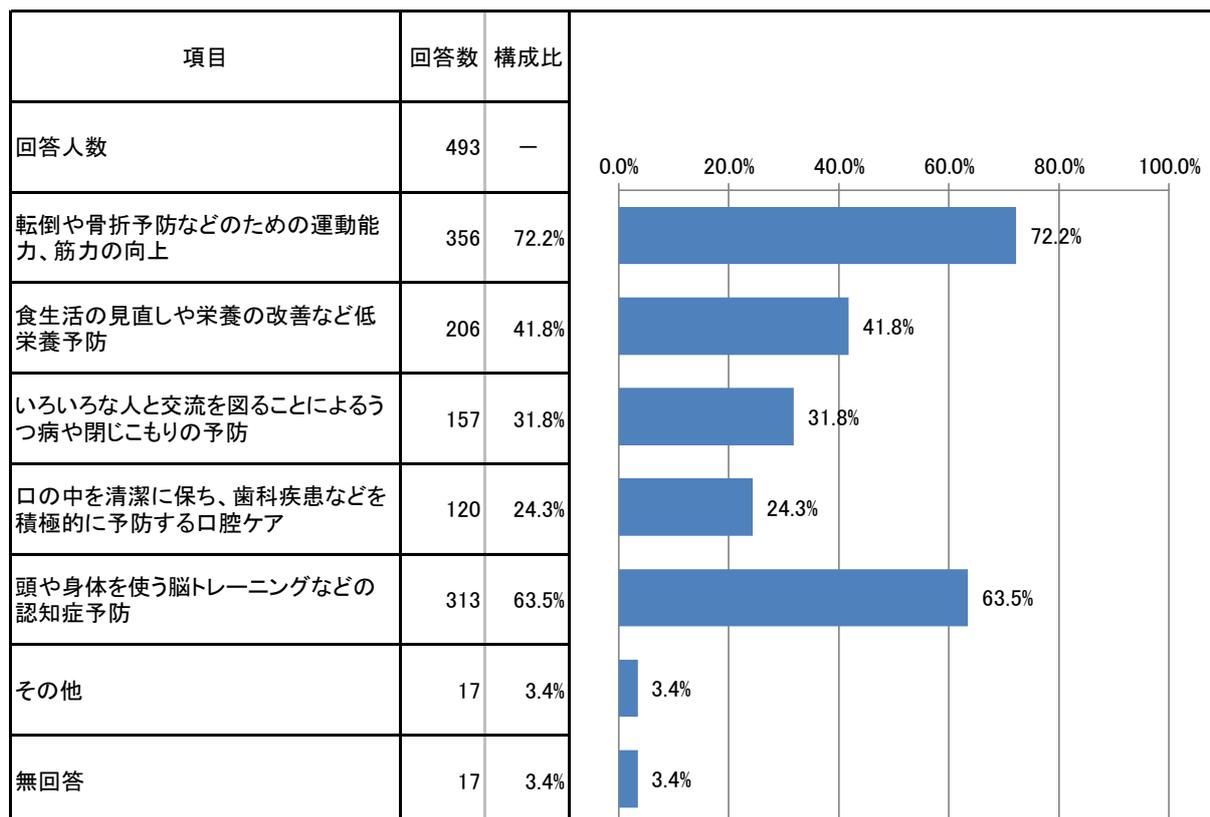
性別では、男の「参加する気はない」が39.4%で、女の22.7%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
参加している	78	6.9%	30	6.0%	48	7.8%	0	0.0%	27	4.3%	48	10.0%	3	15.8%
現在は参加していないが、今後参加したい	415	36.9%	188	37.4%	227	36.8%	0	0.0%	255	40.6%	157	32.8%	3	15.8%
参加する気はない	341	30.3%	198	39.4%	140	22.7%	3	50.0%	200	31.8%	136	28.4%	5	26.3%
わからない	240	21.3%	75	14.9%	163	26.4%	2	33.3%	128	20.4%	105	21.9%	7	36.8%
無回答	52	4.6%	12	2.4%	39	6.3%	1	16.7%	18	2.9%	33	6.9%	1	5.3%

※問 17 で『①参加している』『②現在は参加していないが、今後参加したい』のいずれかにご回答された方にお聞きします。

問 18 次あげる介護予防事業のうち、参加したいと思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

参加したいと思う介護予防事業については、「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」が 72.2%と最も高く、次いで「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」が 63.5%、「食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防」が 41.8%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

年齢別では、65歳～74歳の「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」が66.0%で、75歳以上の61.0%に比べてやや高くなっている。

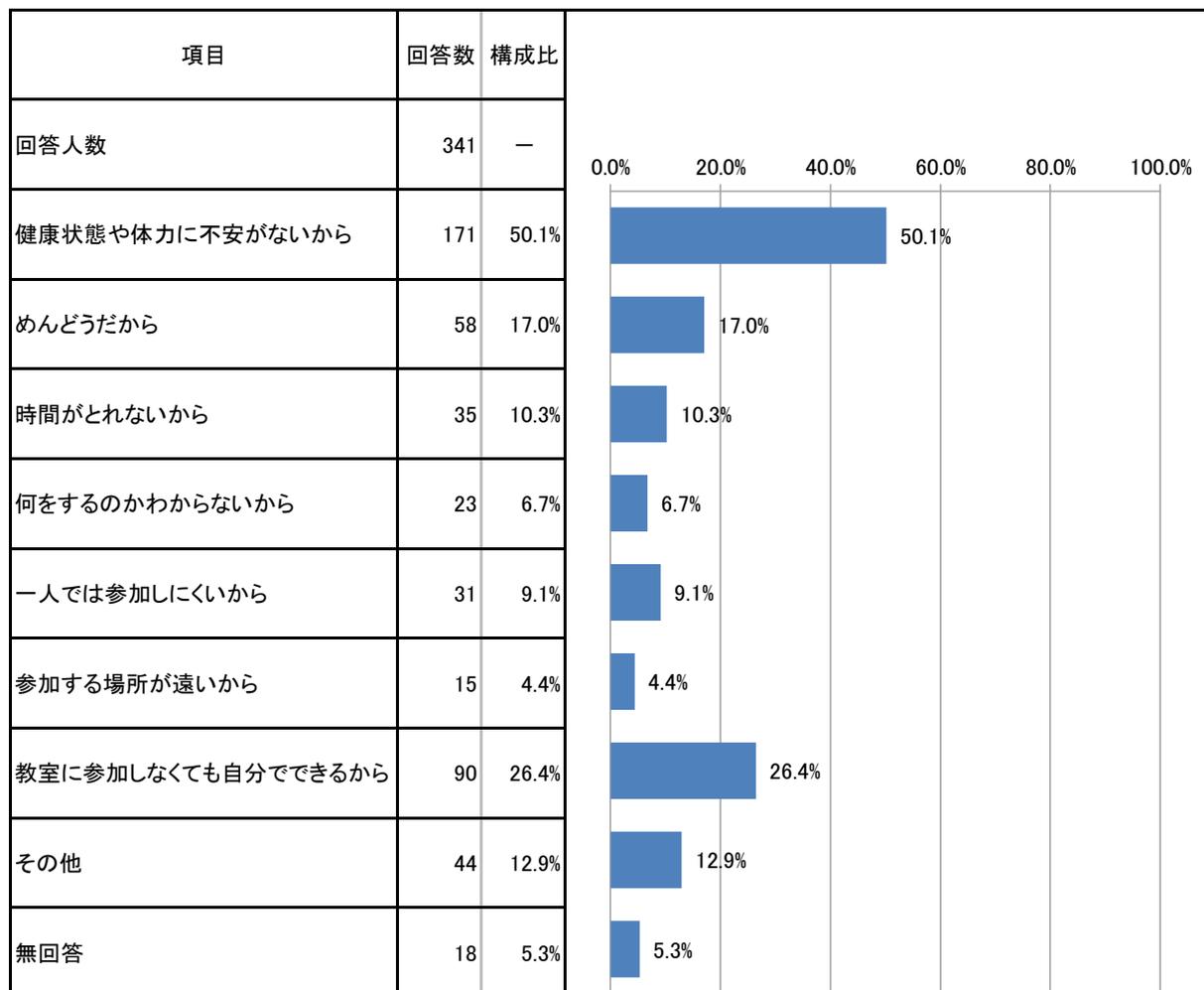
性別では、女の「いろいろな人と交流を図ることによるうつ病や閉じこもりの予防」が37.5%で、男の24.8%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	493	—	218	—	275	—	0	—	282	—	205	—	6	—
転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上	356	72.2%	155	71.1%	201	73.1%	0	—	198	70.2%	152	74.1%	6	100.0%
食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防	206	41.8%	83	38.1%	123	44.7%	0	—	124	44.0%	81	39.5%	1	16.7%
いろいろな人と交流を図ることによるうつ病や閉じこもりの予防	157	31.8%	54	24.8%	103	37.5%	0	—	90	31.9%	64	31.2%	3	50.0%
口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア	120	24.3%	44	20.2%	76	27.6%	0	—	73	25.9%	46	22.4%	1	16.7%
頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防	313	63.5%	126	57.8%	187	68.0%	0	—	186	66.0%	125	61.0%	2	33.3%
その他	17	3.4%	8	3.7%	9	3.3%	0	—	8	2.8%	9	4.4%	0	0.0%
無回答	17	3.4%	12	5.5%	5	1.8%	0	—	7	2.5%	10	4.9%	0	0.0%

※問 17 で『③参加する気はない』とご回答された方にお聞きします。

問 19 介護予防教室に参加する気がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防教室に参加する気がない理由については、「健康状態や体力に不安がないから」が 50.1%と最も高く、次いで「教室に参加しなくても自分でできるから」が 26.4%、「めんどうだから」が 17.0%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

年齢別では、65歳～74歳の「健康状態や体力に不安がないから」が61.0%で、75歳以上の34.6%に比べて高くなっている。

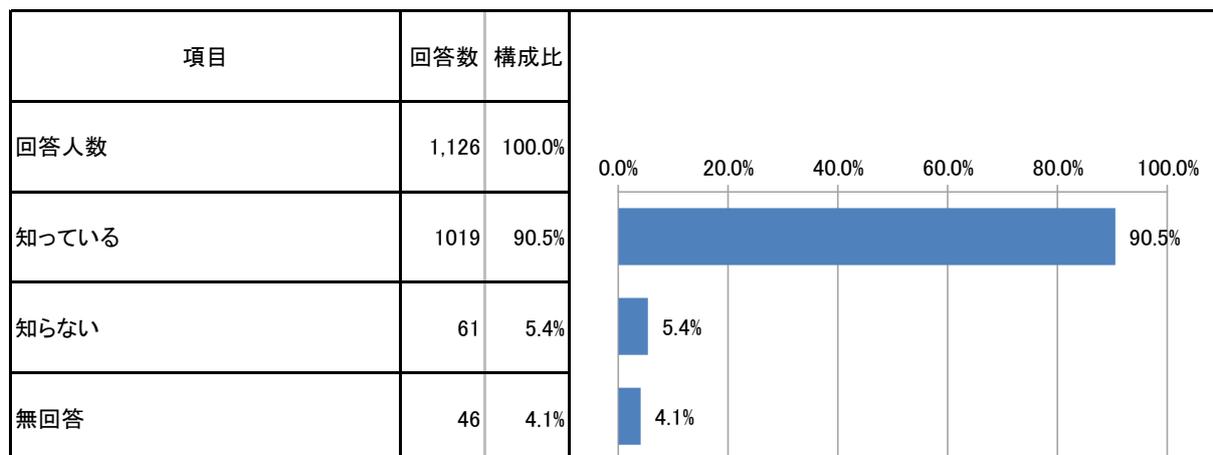
性別では、男の「健康状態や体力に不安がないから」が59.1%で、女の37.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	341	—	198	—	140	—	3	—	200	—	136	—	5	—
健康状態や体力に不安がないから	171	50.1%	117	59.1%	52	37.1%	2	66.7%	122	61.0%	47	34.6%	2	40.0%
めんどうだから	58	17.0%	32	16.2%	26	18.6%	0	0.0%	34	17.0%	23	16.9%	1	20.0%
時間がとれないから	35	10.3%	22	11.1%	13	9.3%	0	0.0%	24	12.0%	9	6.6%	2	40.0%
何をやるのかわからないから	23	6.7%	13	6.6%	10	7.1%	0	0.0%	15	7.5%	8	5.9%	0	0.0%
一人では参加しにくいから	31	9.1%	10	5.1%	21	15.0%	0	0.0%	10	5.0%	21	15.4%	0	0.0%
参加する場所が遠いから	15	4.4%	6	3.0%	9	6.4%	0	0.0%	6	3.0%	8	5.9%	1	20.0%
教室に参加しなくても自分のできるから	90	26.4%	54	27.3%	35	25.0%	1	33.3%	48	24.0%	41	30.1%	1	20.0%
その他	44	12.9%	18	9.1%	26	18.6%	0	0.0%	15	7.5%	29	21.3%	0	0.0%
無回答	18	5.3%	12	6.1%	6	4.3%	0	0.0%	10	5.0%	7	5.1%	1	20.0%

【高齢者】

問 20 あなたは認知症について知っていますか。(ひとつに○)

認知症の認知度については、「知っている」が90.5%、「知らない」が5.4%となっている。



【属性別特徴】

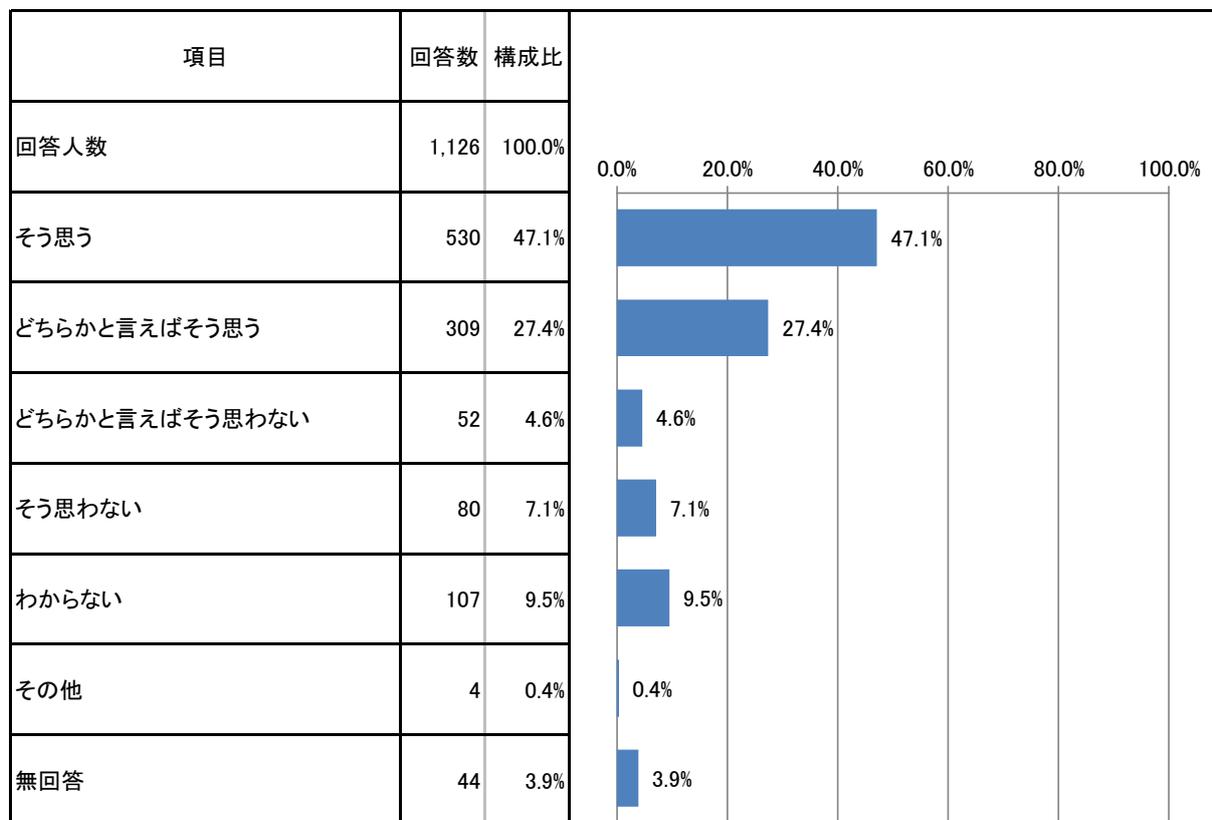
年齢別では、65歳～74歳の「知っている」が94.1%で、75歳以上の86.4%に比べてやや高くなっている。

性別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
知っている	1,019	90.5%	460	91.5%	557	90.3%	2	33.3%	591	94.1%	414	86.4%	14	73.7%
知らない	61	5.4%	31	6.2%	30	4.9%	0	0.0%	22	3.5%	36	7.5%	3	15.8%
無回答	46	4.1%	12	2.4%	30	4.9%	4	66.7%	15	2.4%	29	6.1%	2	10.5%

問 21 あなたは、認知症は病気だと思いますか。(ひとつに○)

認知症を病気だと思うかについては、「そう思う」が47.1%と最も高く、次いで「どちらかと言えばそう思う」が27.4%、「わからない」が9.5%、「そう思わない」が7.1%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

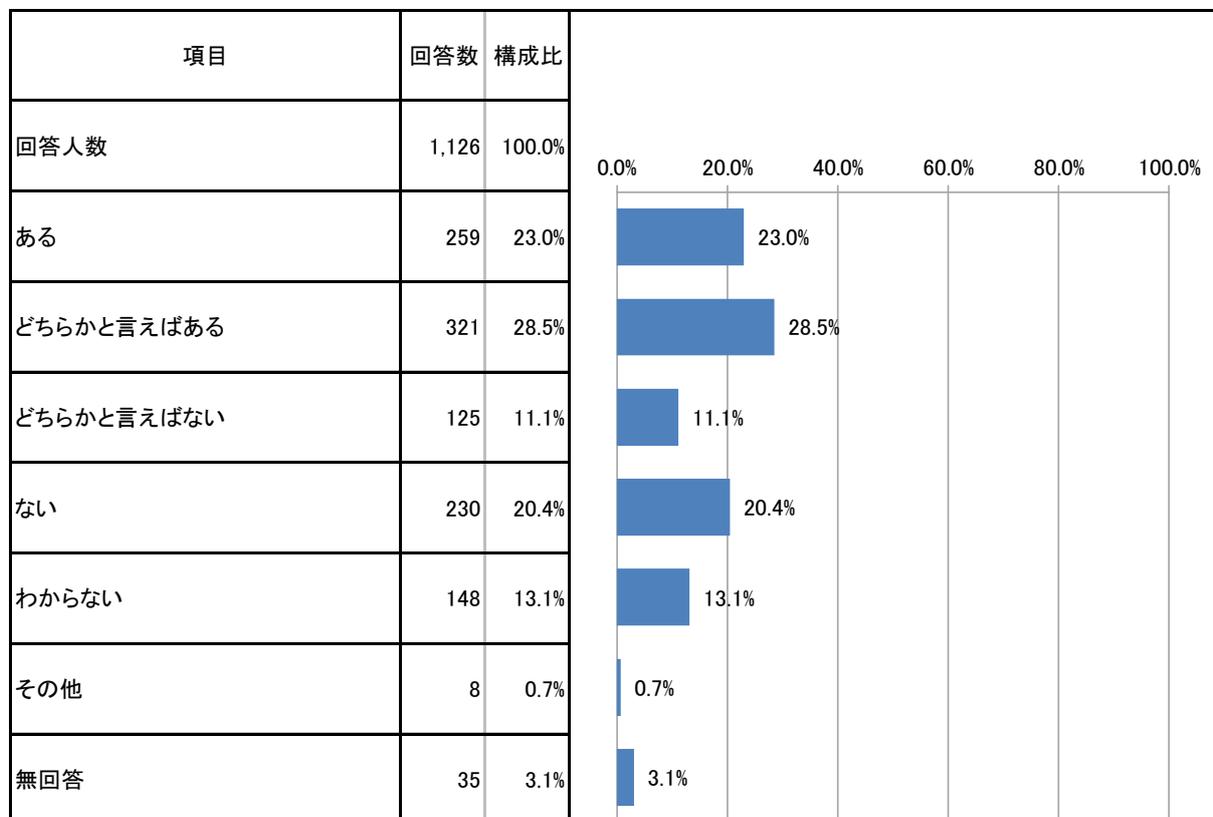
年齢別では、大きな差異はみられない。

性別では、男の「そう思う」が 50.5%で、女の 44.6%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
そう思う	530	47.1%	254	50.5%	275	44.6%	1	16.7%	297	47.3%	224	46.8%	9	47.4%
どちらかと言えばそう思う	309	27.4%	127	25.2%	181	29.3%	1	16.7%	185	29.5%	118	24.6%	6	31.6%
どちらかと言えばそう思わない	52	4.6%	29	5.8%	23	3.7%	0	0.0%	31	4.9%	20	4.2%	1	5.3%
そう思わない	80	7.1%	38	7.6%	41	6.6%	1	16.7%	48	7.6%	31	6.5%	1	5.3%
わからない	107	9.5%	40	8.0%	67	10.9%	0	0.0%	52	8.3%	54	11.3%	1	5.3%
その他	4	0.4%	1	0.2%	3	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.8%	0	0.0%
無回答	44	3.9%	14	2.8%	27	4.4%	3	50.0%	15	2.4%	28	5.8%	1	5.3%

問 22 あなたは、ご自身について、認知症に対する不安や心配がありますか。(ひとつに〇)

自身への認知症に対する不安や心配があるかについては、「どちらかと言えばある」が 28.5%と最も高く、次いで「ある」が 23.0%、「ない」が 20.4%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

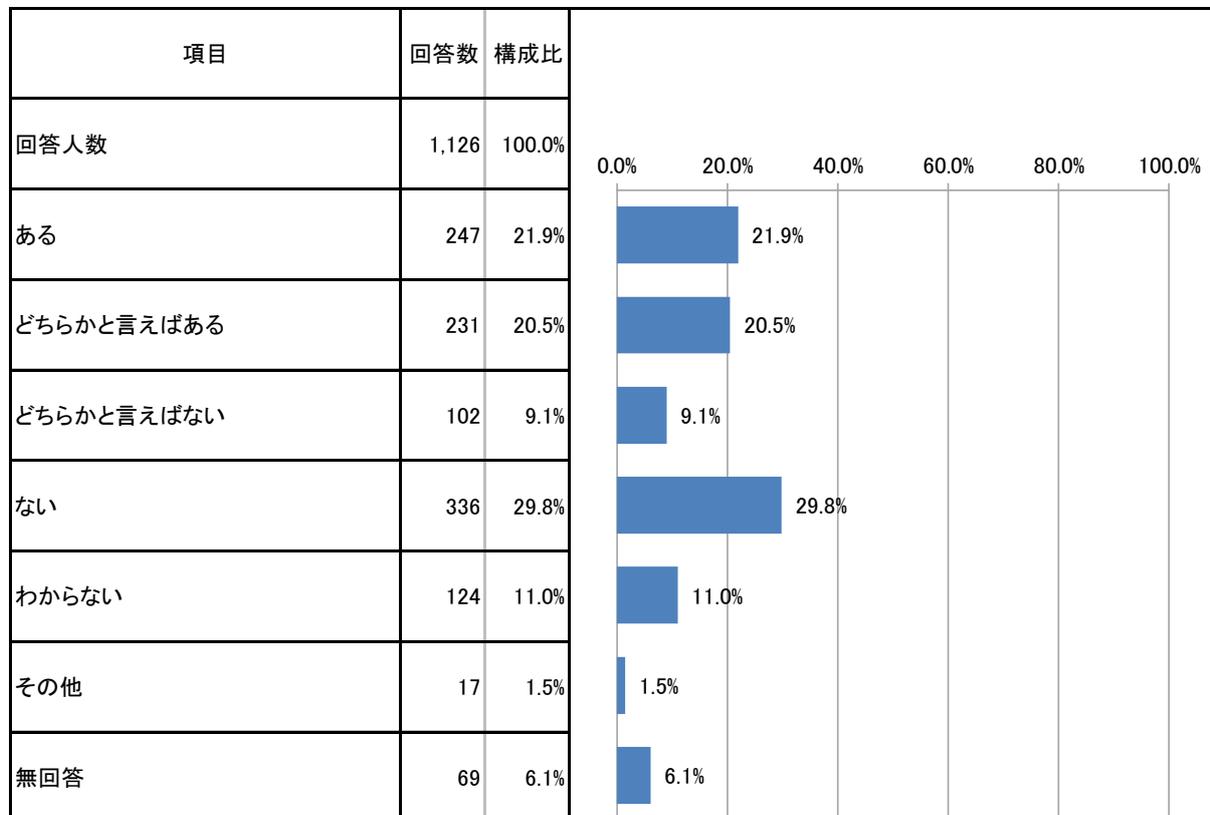
年齢別では、大きな差異はみられない。

性別では、女の「ある」が26.4%で、男の19.1%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
ある	259	23.0%	96	19.1%	163	26.4%	0	0.0%	134	21.3%	123	25.7%	2	10.5%
どちらかと言えばある	321	28.5%	146	29.0%	174	28.2%	1	16.7%	183	29.1%	132	27.6%	6	31.6%
どちらかと言えない	125	11.1%	60	11.9%	64	10.4%	1	16.7%	80	12.7%	42	8.8%	3	15.8%
ない	230	20.4%	130	25.8%	98	15.9%	2	33.3%	133	21.2%	94	19.6%	3	15.8%
わからない	148	13.1%	59	11.7%	89	14.4%	0	0.0%	86	13.7%	59	12.3%	3	15.8%
その他	8	0.7%	1	0.2%	7	1.1%	0	0.0%	4	0.6%	4	0.8%	0	0.0%
無回答	35	3.1%	11	2.2%	22	3.6%	2	33.3%	8	1.3%	25	5.2%	2	10.5%

問 23 あなたは、ご家族について、認知症に対する不安や心配がありますか。(ひとつに〇)

家族への認知症に対する不安や心配があるかについては、「ない」が29.8%と最も高く、次いで「ある」が21.9%、「どちらかと言えばある」が20.5%となっている。



【属性別特徴】

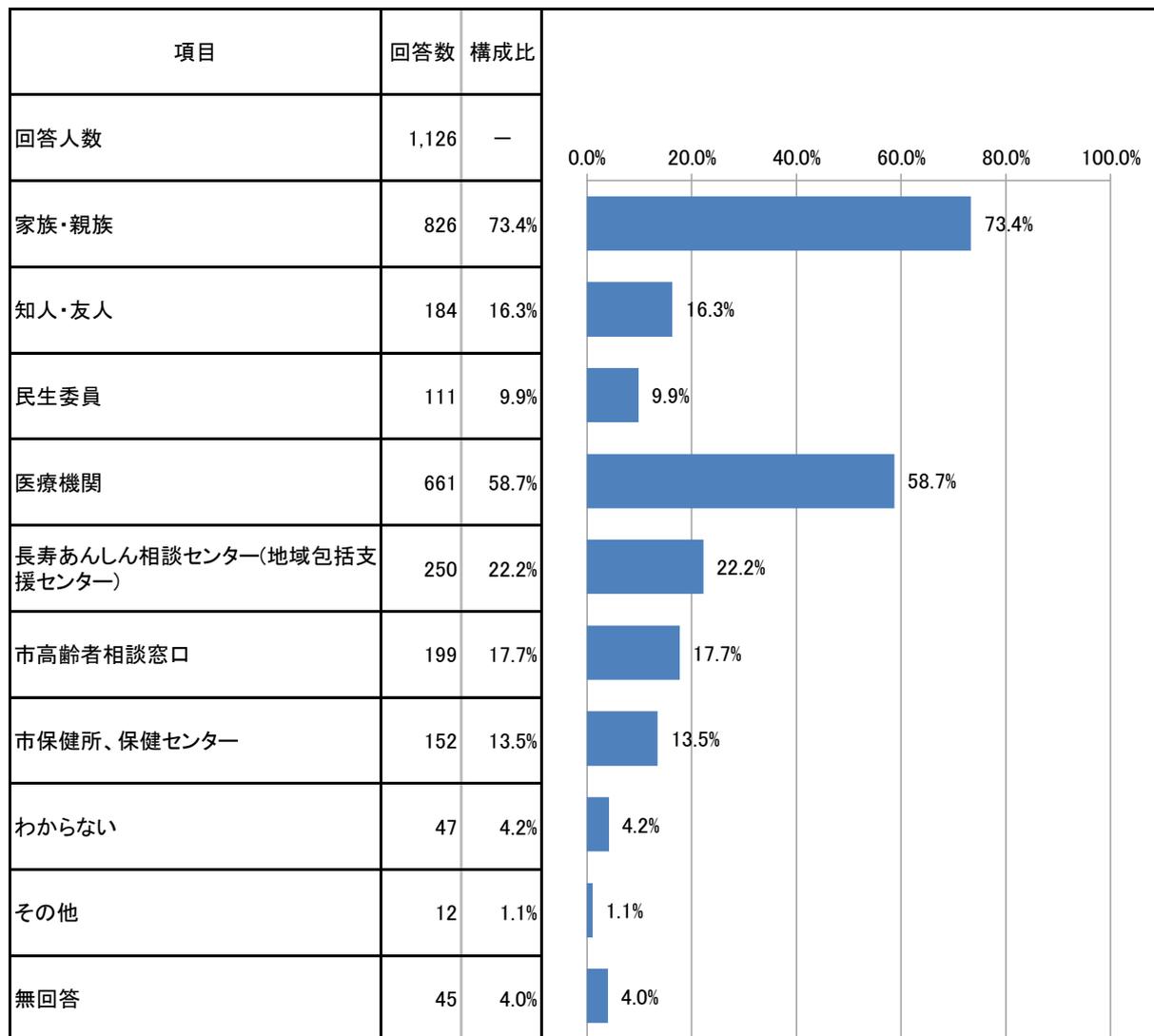
年齢別では、大きな差異はみられない。

性別では、男の「どちらかと言えばある」が23.5%で、女の18.3%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
ある	247	21.9%	109	21.7%	137	22.2%	1	16.7%	128	20.4%	114	23.8%	5	26.3%
どちらかと言えばある	231	20.5%	118	23.5%	113	18.3%	0	0.0%	143	22.8%	86	18.0%	2	10.5%
どちらかと言えばない	102	9.1%	64	12.7%	37	6.0%	1	16.7%	71	11.3%	30	6.3%	1	5.3%
ない	336	29.8%	144	28.6%	189	30.6%	3	50.0%	195	31.1%	136	28.4%	5	26.3%
わからない	124	11.0%	52	10.3%	72	11.7%	0	0.0%	62	9.9%	57	11.9%	5	26.3%
その他	17	1.5%	5	1.0%	12	1.9%	0	0.0%	6	1.0%	10	2.1%	1	5.3%
無回答	69	6.1%	11	2.2%	57	9.2%	1	16.7%	23	3.7%	46	9.6%	0	0.0%

問 24 あなたがご自身やご家族について認知症に関する不安をもったとき、相談したいと考えるのは誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

認知症の相談先については、「家族・親族」が 73.4%と最も高く、次いで「医療機関」が 58.7%、「長寿あんしん相談センター（地域包括支援センター）」が 22.2%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

年齢別では、65歳～74歳の「医療機関」が64.3%で、75歳以上の51.6%に比べて高くなっている。

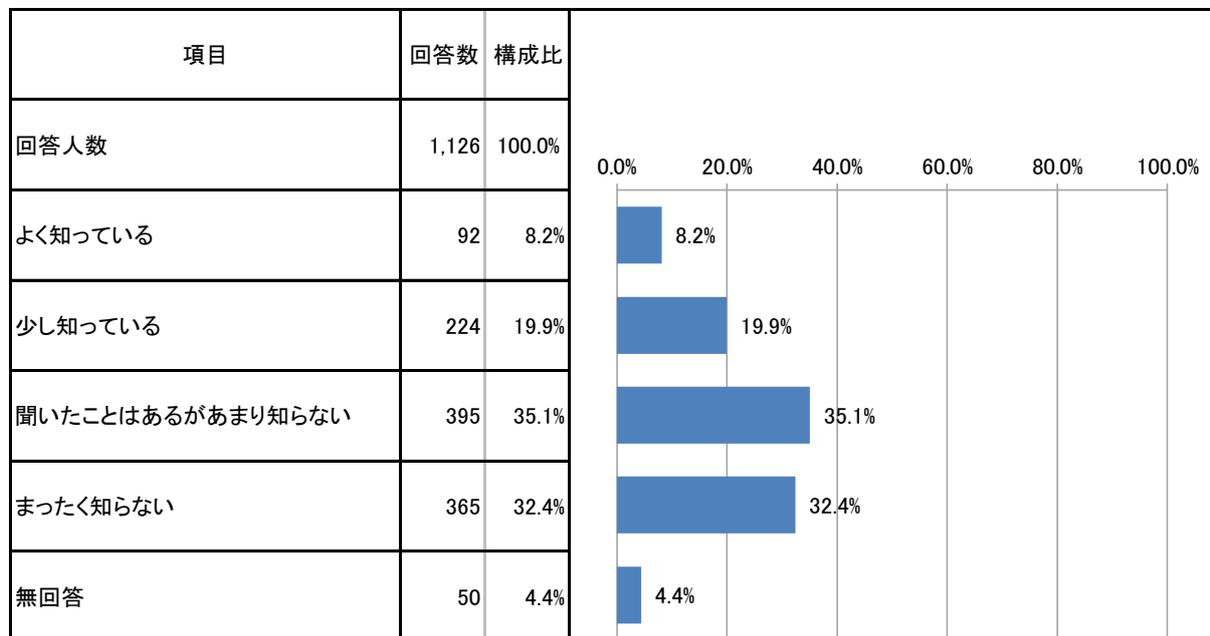
性別では、男の「医療機関」が65.0%で、女の54.1%に比べて高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	—	503	—	617	—	6	—	628	—	479	—	19	—
家族・親族	826	73.4%	355	70.6%	466	75.5%	5	83.3%	460	73.2%	352	73.5%	14	73.7%
知人・友人	184	16.3%	60	11.9%	124	20.1%	0	0.0%	133	21.2%	49	10.2%	2	10.5%
民生委員	111	9.9%	39	7.8%	72	11.7%	0	0.0%	40	6.4%	69	14.4%	2	10.5%
医療機関	661	58.7%	327	65.0%	334	54.1%	0	0.0%	404	64.3%	247	51.6%	10	52.6%
長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)	250	22.2%	103	20.5%	147	23.8%	0	0.0%	142	22.6%	102	21.3%	6	31.6%
市高齢者相談窓口	199	17.7%	90	17.9%	109	17.7%	0	0.0%	121	19.3%	75	15.7%	3	15.8%
市保健所、保健センター	152	13.5%	76	15.1%	76	12.3%	0	0.0%	91	14.5%	58	12.1%	3	15.8%
わからない	47	4.2%	24	4.8%	23	3.7%	0	0.0%	24	3.8%	23	4.8%	0	0.0%
その他	12	1.1%	4	0.8%	8	1.3%	0	0.0%	4	0.6%	8	1.7%	0	0.0%
無回答	45	4.0%	15	3.0%	29	4.7%	1	16.7%	14	2.2%	30	6.3%	1	5.3%

【高齢者】

問 25 認知症サポーター（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（ひとつに○）

認知症サポーターの認知度については、「聞いたことはあるがあまり知らない」が35.1%と最も高く、次いで「まったく知らない」が32.4%、「少し知っている」が19.9%となっている。



【属性別特徴】

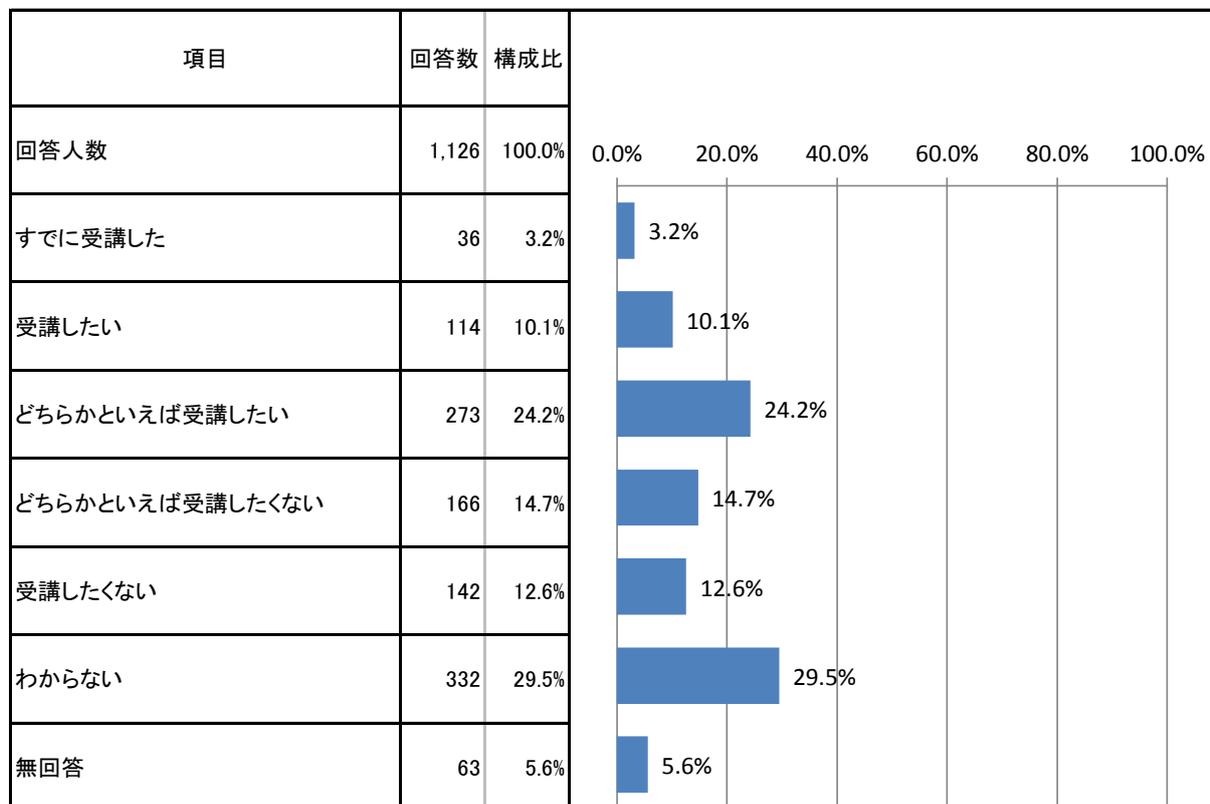
年齢別では、大きな差異はみられない。

性別では、男の「まったく知らない」が35.8%で、女の30.0%に比べてやや高くなっている。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
よく知っている	92	8.2%	47	9.3%	45	7.3%	0	0.0%	47	7.5%	44	9.2%	1	5.3%
少し知っている	224	19.9%	90	17.9%	130	21.1%	4	66.7%	128	20.4%	90	18.8%	6	31.6%
聞いたことはあるがあまり知らない	395	35.1%	177	35.2%	217	35.2%	1	16.7%	233	37.1%	154	32.2%	8	42.1%
まったく知らない	365	32.4%	180	35.8%	185	30.0%	0	0.0%	206	32.8%	156	32.6%	3	15.8%
無回答	50	4.4%	9	1.8%	40	6.5%	1	16.7%	14	2.2%	35	7.3%	1	5.3%

問 26 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講してみたいと思いますか。(ひとつに○)

「認知症サポーター養成講座」を受講してみたいかについては、「わからない」が29.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば受講したい」が24.2%、「どちらかといえば受講したくない」が14.7%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

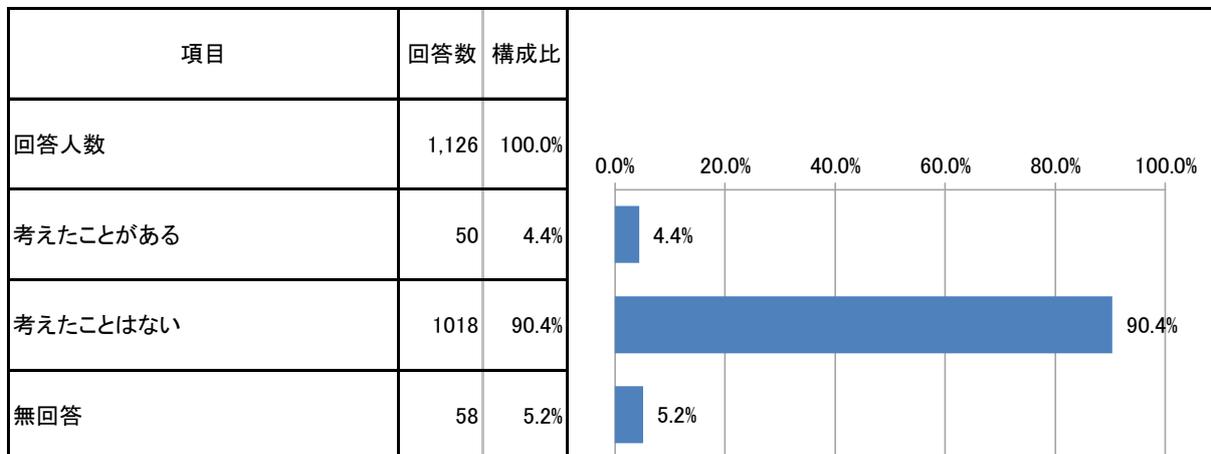
年齢別では、65歳～74歳の「どちらかといえば受講したい」が28.7%で、75歳以上の18.6%に比べて高くなっている。

性別では、大きな差異はみられない。

項目	回答人数		性別						年齢別					
			男		女		無回答		65歳～74歳		75歳以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	628	100.0%	479	100.0%	19	100.0%
すでに受講した	36	3.2%	15	3.0%	21	3.4%	0	0.0%	19	3.0%	17	3.5%	0	0.0%
受講したい	114	10.1%	49	9.7%	65	10.5%	0	0.0%	71	11.3%	42	8.8%	1	5.3%
どちらかといえば受講したい	273	24.2%	132	26.2%	140	22.7%	1	16.7%	180	28.7%	89	18.6%	4	21.1%
どちらかといえば受講したくない	166	14.7%	88	17.5%	77	12.5%	1	16.7%	104	16.6%	60	12.5%	2	10.5%
受講したくない	142	12.6%	75	14.9%	66	10.7%	1	16.7%	64	10.2%	74	15.4%	4	21.1%
わからない	332	29.5%	126	25.0%	204	33.1%	2	33.3%	171	27.2%	154	32.2%	7	36.8%
無回答	63	5.6%	18	3.6%	44	7.1%	1	16.7%	19	3.0%	43	9.0%	1	5.3%

問 27 あなたは、この1年間（平成25年10月から平成26年9月まで）で自殺したい（死にたい）と考えたことがありますか。（ひとつに○）

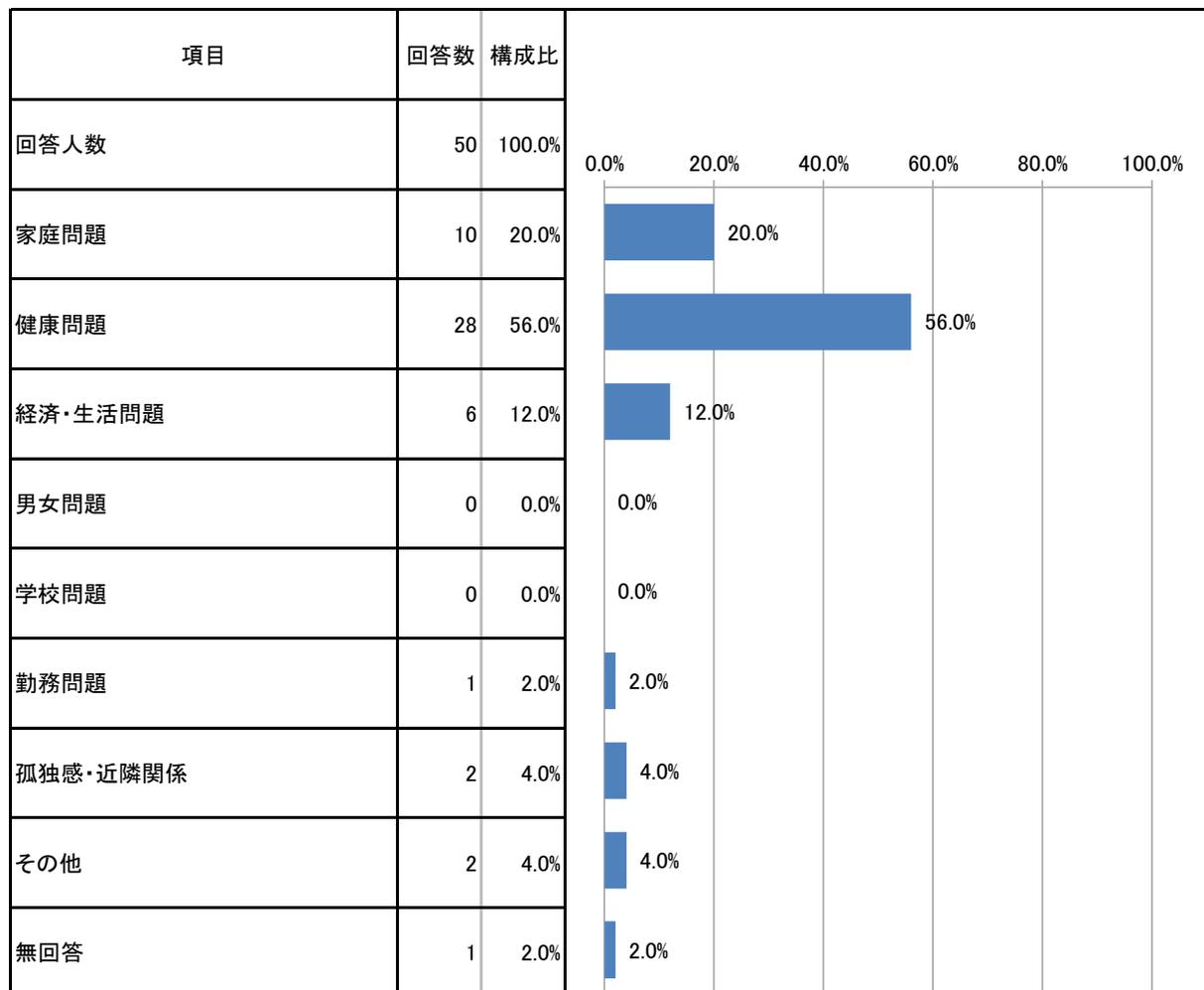
この1年間で自殺したい（死にたい）と考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が4.4%、「考えたことはない」が90.4%となっている。



※問 27 で『①考えたことがある』とご回答された方にお聞きします。

問 27-1 自殺を考えたときの一番の原因は何ですか。(ひとつに○)

自殺を考えたときの一番の原因については、「健康問題」が 56.0%と最も高く、次いで「家庭問題」が 20.0%、「経済・生活問題」が 12.0%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

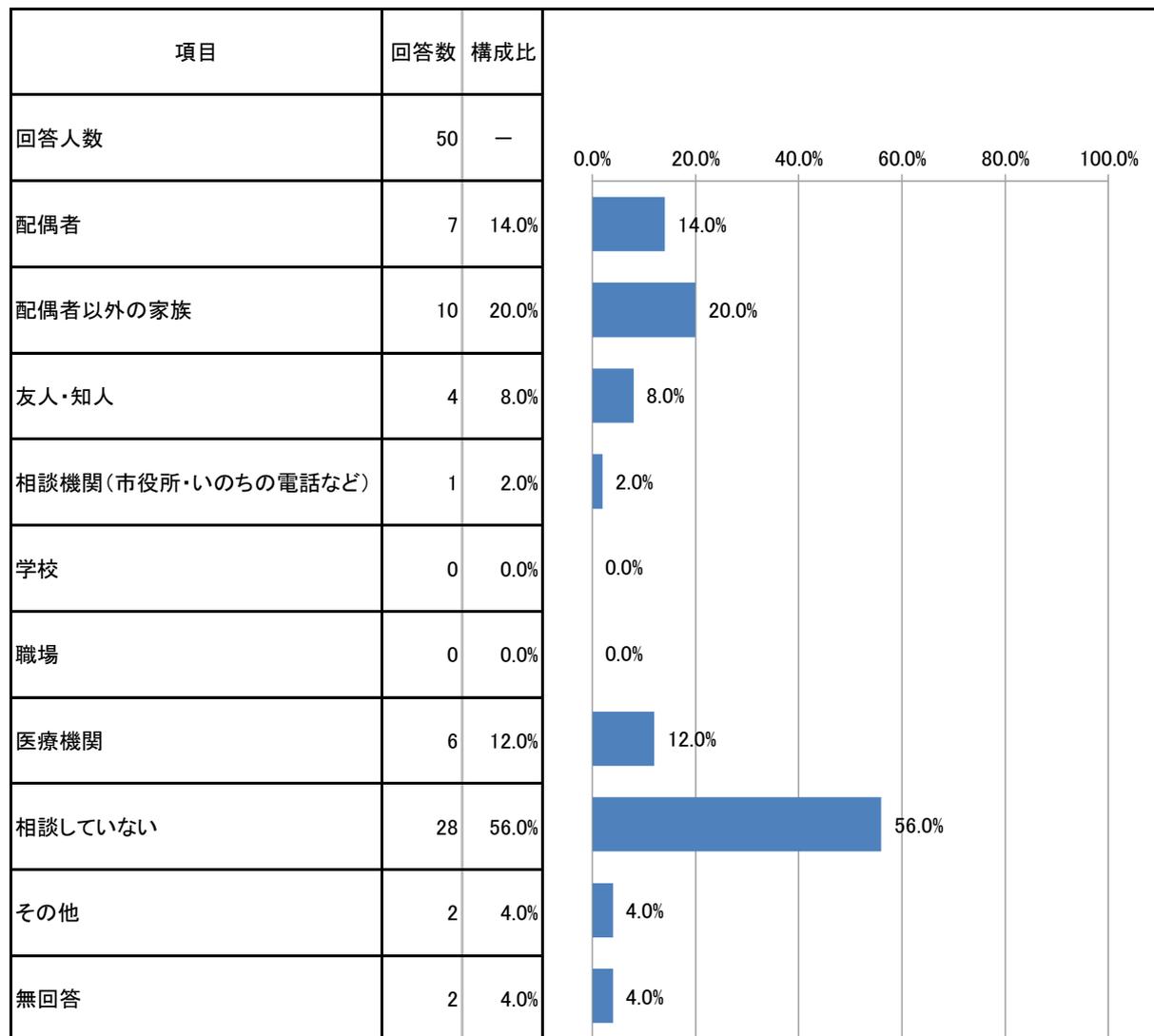
性別では、男の「経済・生活問題」が26.3%で、女の3.2%に比べて高くなっている。

年代別では、すべての年代で「健康問題」の割合が高く、80代以上が65.0%で最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						年代別							
			男		女		無回答		60代		70代		80代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	50	100.0%	19	100.0%	31	100.0%	0	0.0%	12	100.0%	18	100.0%	20	100.0%	0	0.0%
家庭問題	10	20.0%	3	15.8%	7	22.6%	0	—	3	25.0%	5	27.8%	2	10.0%	0	—
健康問題	28	56.0%	9	47.4%	19	61.3%	0	—	6	50.0%	9	50.0%	13	65.0%	0	—
経済・生活問題	6	12.0%	5	26.3%	1	3.2%	0	—	2	16.7%	3	16.7%	1	5.0%	0	—
男女問題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
学校問題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
勤務問題	1	2.0%	1	5.3%	0	0.0%	0	—	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
孤独感・近隣関係	2	4.0%	0	0.0%	2	6.5%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	—
その他	2	4.0%	1	5.3%	1	3.2%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	—
無回答	1	2.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	—	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0	—

問 27-2 あなたは、自殺をしたいと思ったときにだれ（どこか）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

自殺をしたいと思ったときの相談先については、「相談していない」が 56.0%と最も高く、次いで「配偶者以外の家族」が 20.0%、「配偶者」が 14.0%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

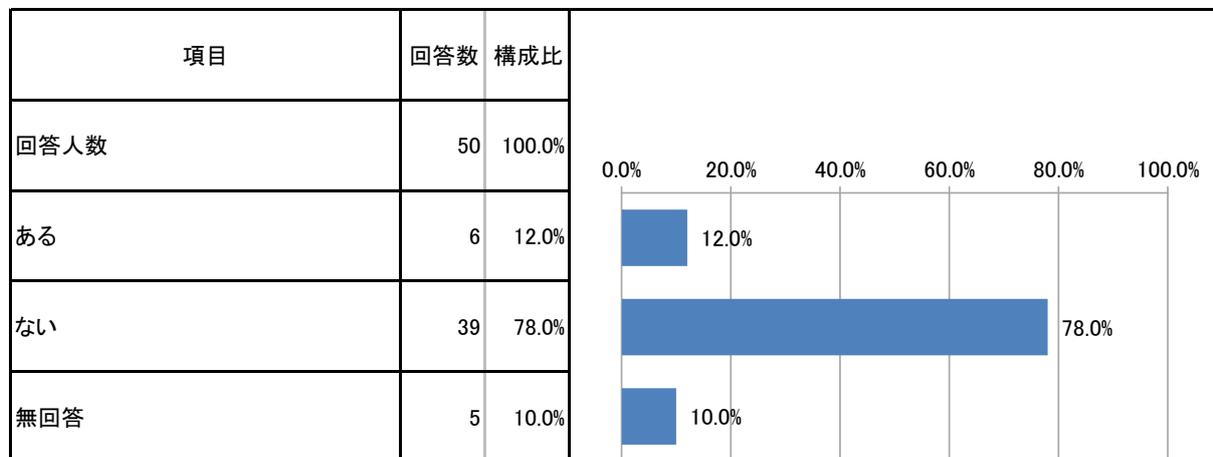
性別では、男の「配偶者」が31.6%で、女の3.2%に比べて高くなっている。

年代別では、「相談していない」を除く設問では、60代は「配偶者以外の家族」、「医療機関」が高く、70代は「配偶者」、「配偶者以外の家族」、80代では、「配偶者以外の家族」が高くなっている。

項目	回答人数		性別						年代別							
			男		女		無回答		60代		70代		80代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	50	—	19	—	31	—	0	—	12	—	18	—	20	—	0	—
配偶者	7	14.0%	6	31.6%	1	3.2%	0	—	1	8.3%	4	22.2%	2	10.0%	0	—
配偶者以外の家族	10	20.0%	1	5.3%	9	29.0%	0	—	2	16.7%	4	22.2%	4	20.0%	0	—
友人・知人	4	8.0%	0	0.0%	4	12.9%	0	—	1	8.3%	3	16.7%	0	0.0%	0	—
相談機関(市役所・いのちの電話など)	1	2.0%	0	0.0%	1	3.2%	0	—	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
職場	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	—
医療機関	6	12.0%	1	5.3%	5	16.1%	0	—	2	16.7%	2	11.1%	2	10.0%	0	—
相談していない	28	56.0%	13	68.4%	15	48.4%	0	—	5	41.7%	12	66.7%	11	55.0%	0	—
その他	2	4.0%	1	5.3%	1	3.2%	0	—	1	8.3%	0	0.0%	1	5.0%	0	—
無回答	2	4.0%	1	5.3%	1	3.2%	0	—	0	0.0%	0	0.0%	2	10.0%	0	—

問 27-3 あなたは、自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがありますか。(ひとつに○)

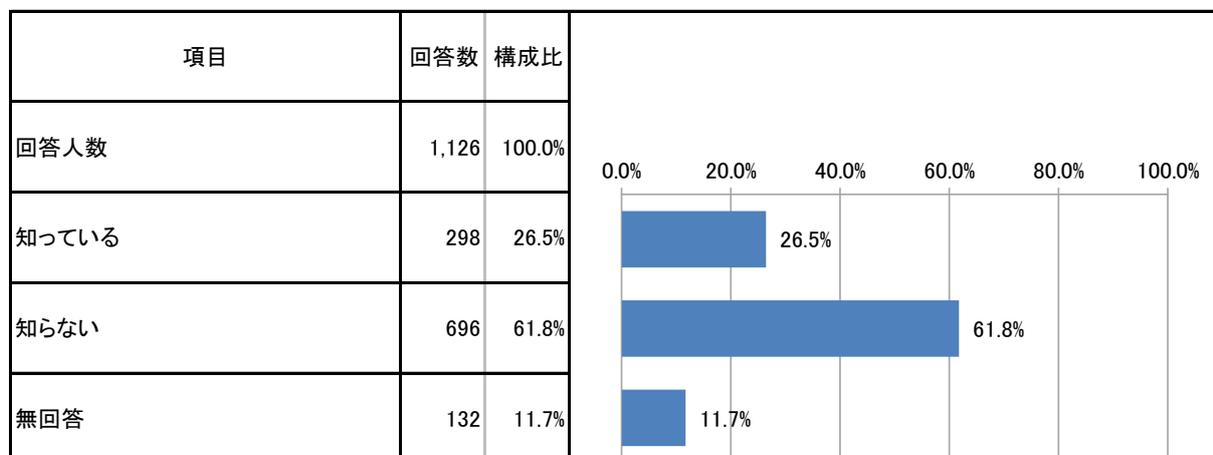
自殺したいと思った原因による精神的苦痛などのため、医療機関を受診したことがあるかについては、「ある」が12.0%、「ない」が78.0%となっている。



【高齢者】

問 28 自殺に関して相談ができるところを知っていますか。(ひとつに○)

自殺に関する相談先の認知度については、「知っている」が 26.5%、「知らない」が 61.8%となっている。



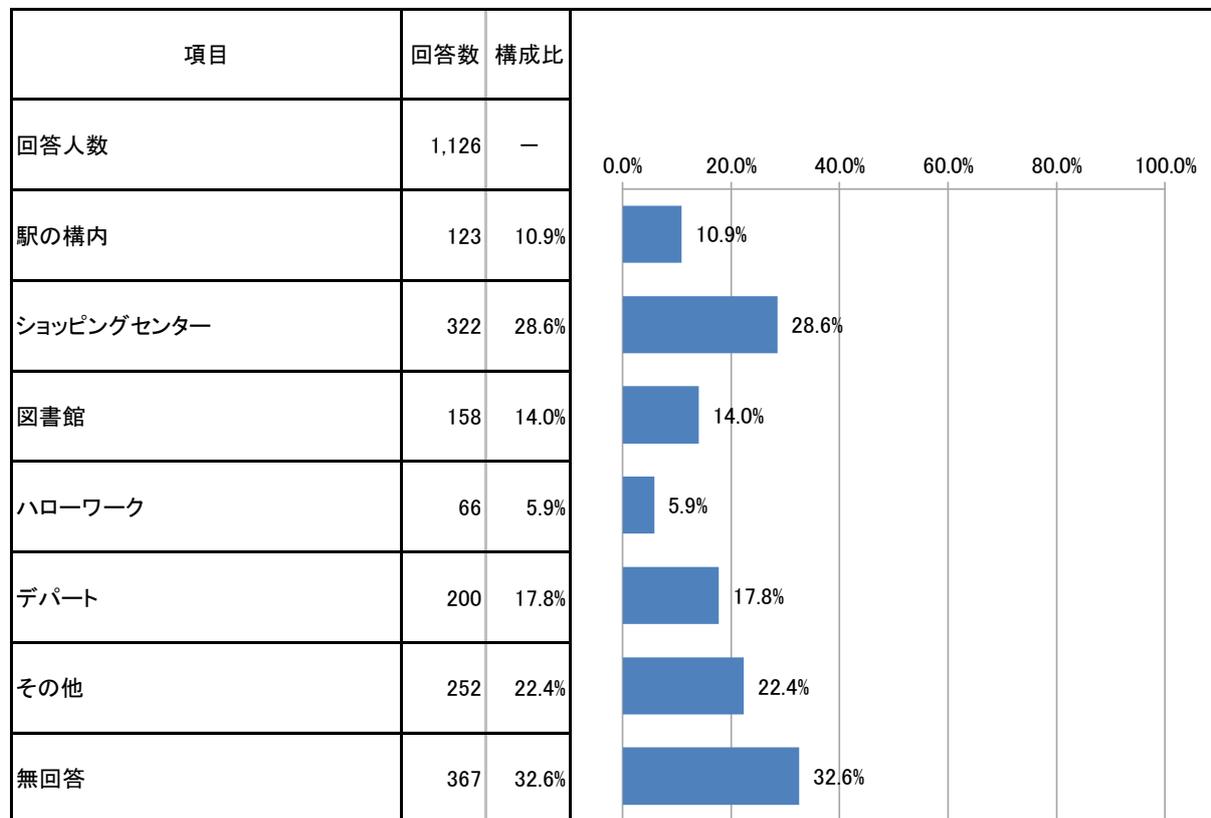
【属性別特徴】

性別では、男の「知らない」が 66.0%で、女の 58.7%に比べてやや高くなっている。
年代別では、「知っている」は、年代が上がるごとに低くなっている。

項目	回答人数		性別						年代別							
			男		女		無回答		60代		70代		80代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	100.0%	503	100.0%	617	100.0%	6	100.0%	340	100.0%	485	100.0%	282	100.0%	19	100.0%
知っている	298	26.5%	129	25.6%	168	27.2%	1	16.7%	115	33.8%	132	27.2%	47	16.7%	4	21.1%
知らない	696	61.8%	332	66.0%	362	58.7%	2	33.3%	208	61.2%	300	61.9%	178	63.1%	10	52.6%
無回答	132	11.7%	42	8.3%	87	14.1%	3	50.0%	17	5.0%	53	10.9%	57	20.2%	5	26.3%

問 29 あなたが相談したいと思ったとき、どのようなところに相談場所があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

自殺したいと思ったときの相談場所の希望については、「ショッピングセンター」が28.6%と最も高く、次いで「その他」が22.4%、「デパート」が17.8%、「図書館」が14.0%となっている。



【属性別特徴】

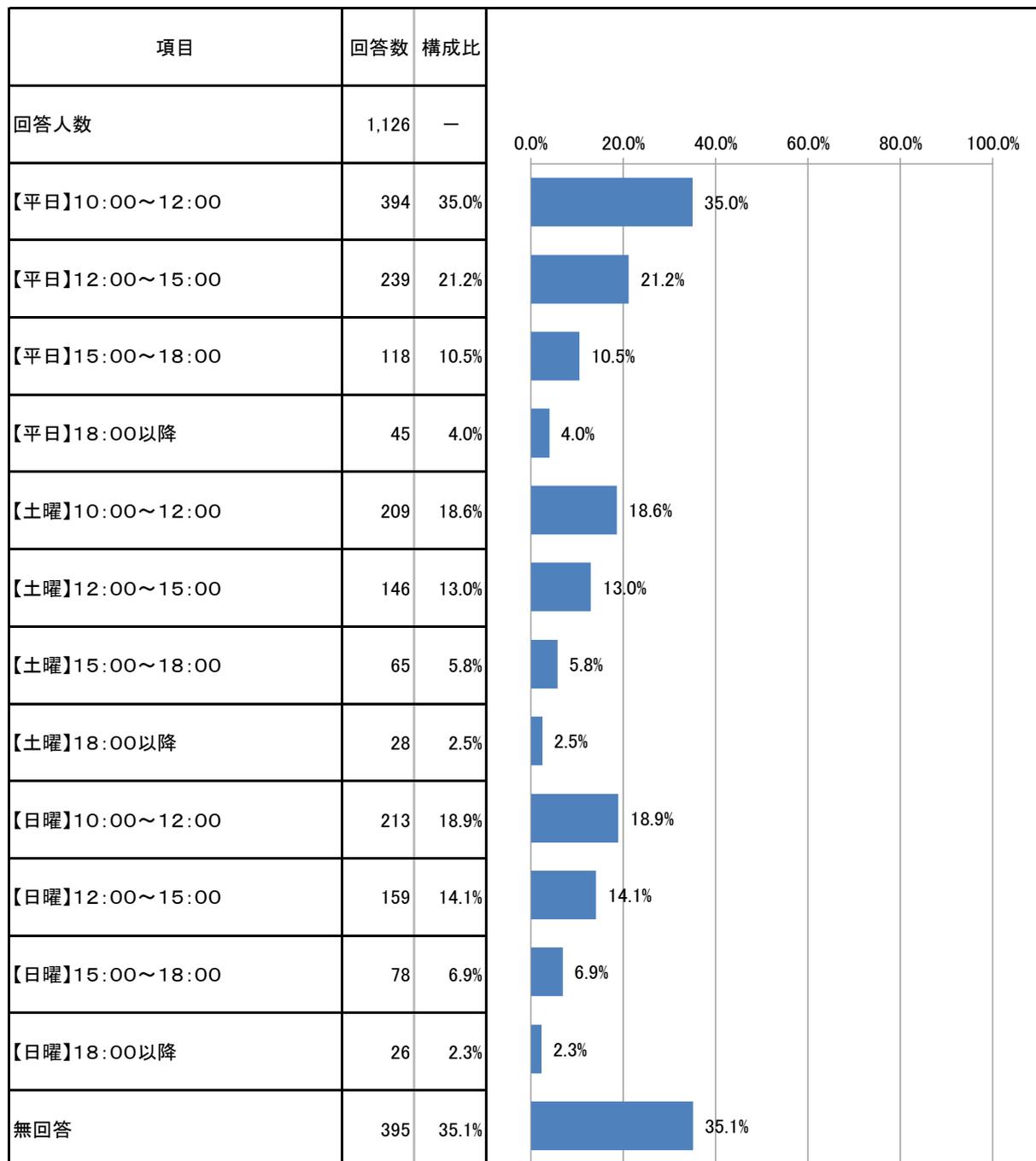
性別では、男の「ショッピングセンター」が32.2%で、女の25.9%に比べてやや高くなっている。

年代別では、60代は、「ショッピングセンター」「図書館」が高く、70代、80代以上は、「ショッピングセンター」「デパート」が高くなっている。

項目	回答人数		性別						年代別							
			男		女		無回答		60代		70代		80代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	—	503	—	617	—	6	—	340	—	485	—	282	—	19	—
駅の構内	123	10.9%	59	11.7%	64	10.4%	0	0.0%	46	13.5%	56	11.5%	20	7.1%	1	5.3%
ショッピングセンター	322	28.6%	162	32.2%	160	25.9%	0	0.0%	114	33.5%	148	30.5%	58	20.6%	2	10.5%
図書館	158	14.0%	75	14.9%	83	13.5%	0	0.0%	72	21.2%	58	12.0%	24	8.5%	4	21.1%
ハローワーク	66	5.9%	37	7.4%	27	4.4%	2	33.3%	21	6.2%	27	5.6%	16	5.7%	2	10.5%
デパート	200	17.8%	80	15.9%	120	19.4%	0	0.0%	50	14.7%	101	20.8%	46	16.3%	3	15.8%
その他	252	22.4%	132	26.2%	120	19.4%	0	0.0%	82	24.1%	109	22.5%	56	19.9%	5	26.3%
無回答	367	32.6%	143	28.4%	220	35.7%	4	66.7%	73	21.5%	151	31.1%	136	48.2%	7	36.8%

問 30 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。(最も希望するもの3つに○)

相談場所を利用しやすい時間帯については、「【平日】10:00～12:00」が35.0%と最も高く、次いで「【平日】12:00～15:00」が21.2%、「【日曜】10:00～12:00」が18.9%、「【土曜】10:00～12:00」が18.6%となっている。



【高齢者】

【属性別特徴】

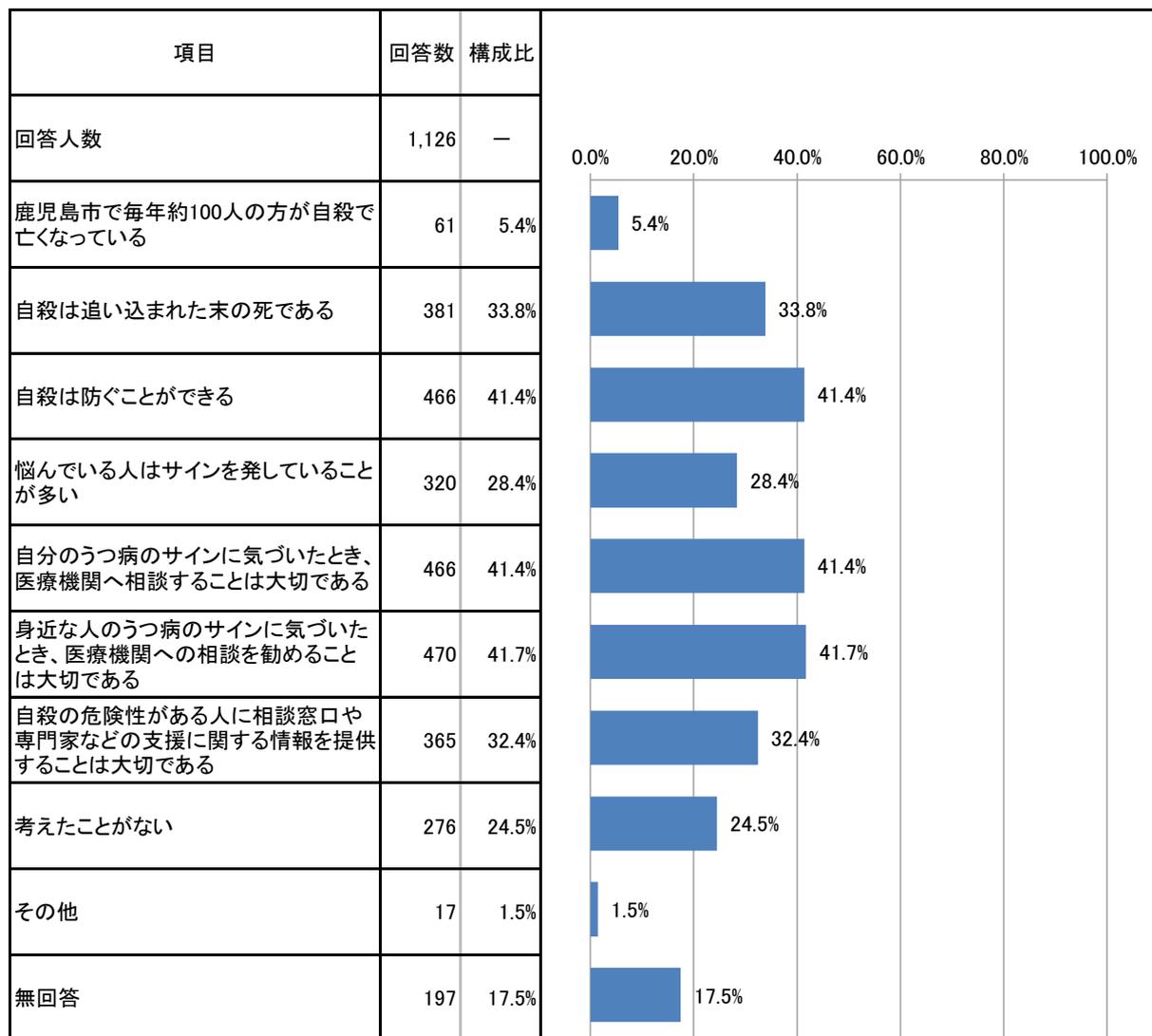
性別では、男の「【日曜】 10:00～12:00」が 22.9%で、女の 15.9%に比べてやや高くなっている。

就労状況別では、「就労している」「就労していない」ともに、「【平日】 10:00～12:00」が最も高くなっている。

項目	回答人数		性別						就労状況					
			男		女		無回答		就労している		就労していない		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	—	503	—	617	—	6	—	243	—	833	—	50	—
【平日】10:00～12:00	394	35.0%	174	34.6%	218	35.3%	2	33.3%	56	23.0%	325	39.0%	13	26.0%
【平日】12:00～15:00	239	21.2%	107	21.3%	131	21.2%	1	16.7%	32	13.2%	201	24.1%	6	12.0%
【平日】15:00～18:00	118	10.5%	52	10.3%	65	10.5%	1	16.7%	36	14.8%	79	9.5%	3	6.0%
【平日】18:00以降	45	4.0%	30	6.0%	15	2.4%	0	0.0%	25	10.3%	19	2.3%	1	2.0%
【土曜】10:00～12:00	209	18.6%	101	20.1%	108	17.5%	0	0.0%	39	16.0%	168	20.2%	2	4.0%
【土曜】12:00～15:00	146	13.0%	61	12.1%	85	13.8%	0	0.0%	31	12.8%	112	13.4%	3	6.0%
【土曜】15:00～18:00	65	5.8%	31	6.2%	34	5.5%	0	0.0%	22	9.1%	42	5.0%	1	2.0%
【土曜】18:00以降	28	2.5%	17	3.4%	11	1.8%	0	0.0%	13	5.3%	14	1.7%	1	2.0%
【日曜】10:00～12:00	213	18.9%	115	22.9%	98	15.9%	0	0.0%	51	21.0%	158	19.0%	4	8.0%
【日曜】12:00～15:00	159	14.1%	67	13.3%	92	14.9%	0	0.0%	48	19.8%	107	12.8%	4	8.0%
【日曜】15:00～18:00	78	6.9%	45	8.9%	33	5.3%	0	0.0%	31	12.8%	46	5.5%	1	2.0%
【日曜】18:00以降	26	2.3%	16	3.2%	10	1.6%	0	0.0%	12	4.9%	13	1.6%	1	2.0%
無回答	395	35.1%	154	30.6%	237	38.4%	4	66.7%	75	30.9%	291	34.9%	29	58.0%

問31 自殺について知っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自殺について知っていることについては、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が41.7%と最も高く、次いで「自殺は防ぐことができる」「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が41.4%、「自殺は追い込まれた末の死である」が33.8%となっている。



【属性別特徴】

性別では、男の「考えたことがない」が27.6%で、女の22.0%に比べてやや高くなっている。

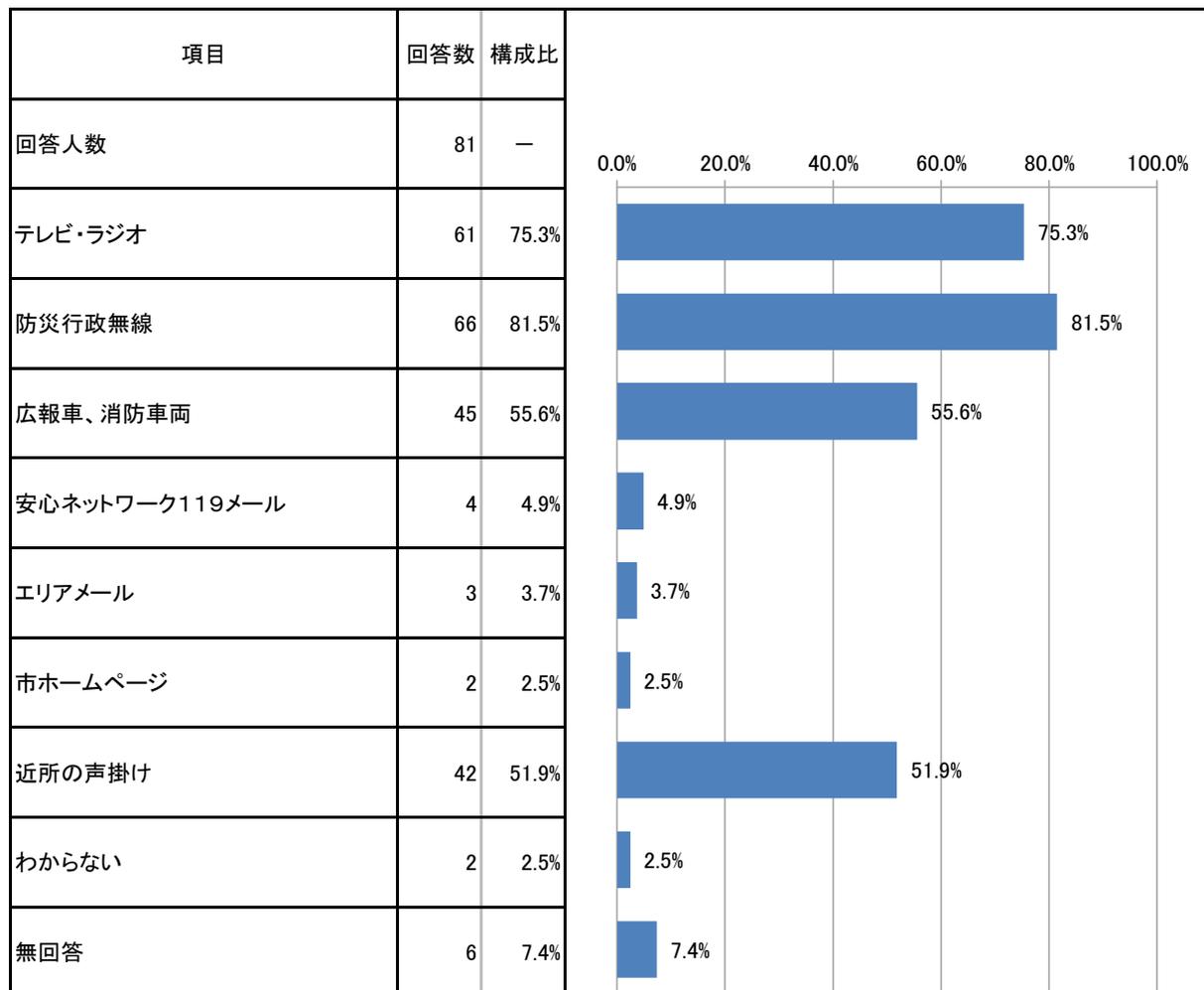
年代別では、「鹿児島市で毎年約100人の方が自殺でなくなっている」を除く設問で、年代が上がるごとに認知度が低くなっている。

項目	回答人数		性別						年代別							
			男		女		無回答		60代		70代		80代以上		無回答	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
回答人数	1,126	—	503	—	617	—	6	—	340	—	485	—	282	—	19	—
鹿児島市で毎年約100人の方が自殺でなくなっている	61	5.4%	31	6.2%	30	4.9%	0	0.0%	14	4.1%	29	6.0%	16	5.7%	2	10.5%
自殺は追い込まれた末の死である	381	33.8%	174	34.6%	207	33.5%	0	0.0%	136	40.0%	169	34.8%	70	24.8%	6	31.6%
自殺は防ぐことができる	466	41.4%	215	42.7%	250	40.5%	1	16.7%	177	52.1%	202	41.6%	77	27.3%	10	52.6%
悩んでいる人はサインを発していることが多い	320	28.4%	134	26.6%	186	30.1%	0	0.0%	137	40.3%	135	27.8%	42	14.9%	6	31.6%
自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	466	41.4%	205	40.8%	261	42.3%	0	0.0%	175	51.5%	202	41.6%	82	29.1%	7	36.8%
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	470	41.7%	206	41.0%	264	42.8%	0	0.0%	176	51.8%	203	41.9%	83	29.4%	8	42.1%
自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	365	32.4%	166	33.0%	199	32.3%	0	0.0%	137	40.3%	163	33.6%	60	21.3%	5	26.3%
考えたことがない	276	24.5%	139	27.6%	136	22.0%	1	16.7%	59	17.4%	122	25.2%	93	33.0%	2	10.5%
その他	17	1.5%	7	1.4%	10	1.6%	0	0.0%	4	1.2%	8	1.6%	5	1.8%	0	0.0%
無回答	197	17.5%	63	12.5%	130	21.1%	4	66.7%	36	10.6%	83	17.1%	73	25.9%	5	26.3%

※問 32～34 は桜島にお住まいの方への質問です。

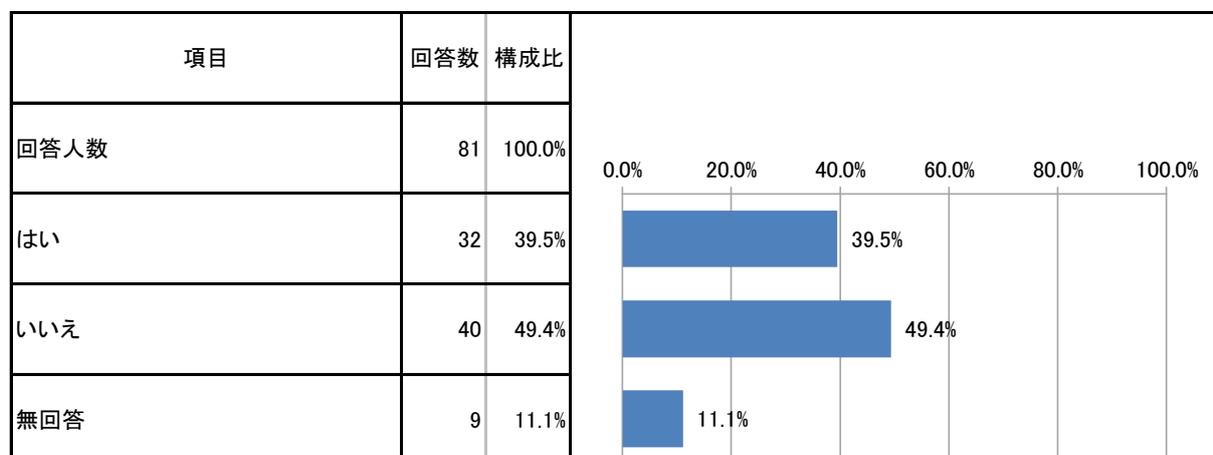
問 32 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。避難情報などの情報は何で収集しますか。(あてはまるものすべてに○)

避難情報などの情報収集方法については、「防災行政無線」が 81.5%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が 75.3%、「広報車、消防車両」が 55.6%、「近所の声掛け」が 51.9%となっている。



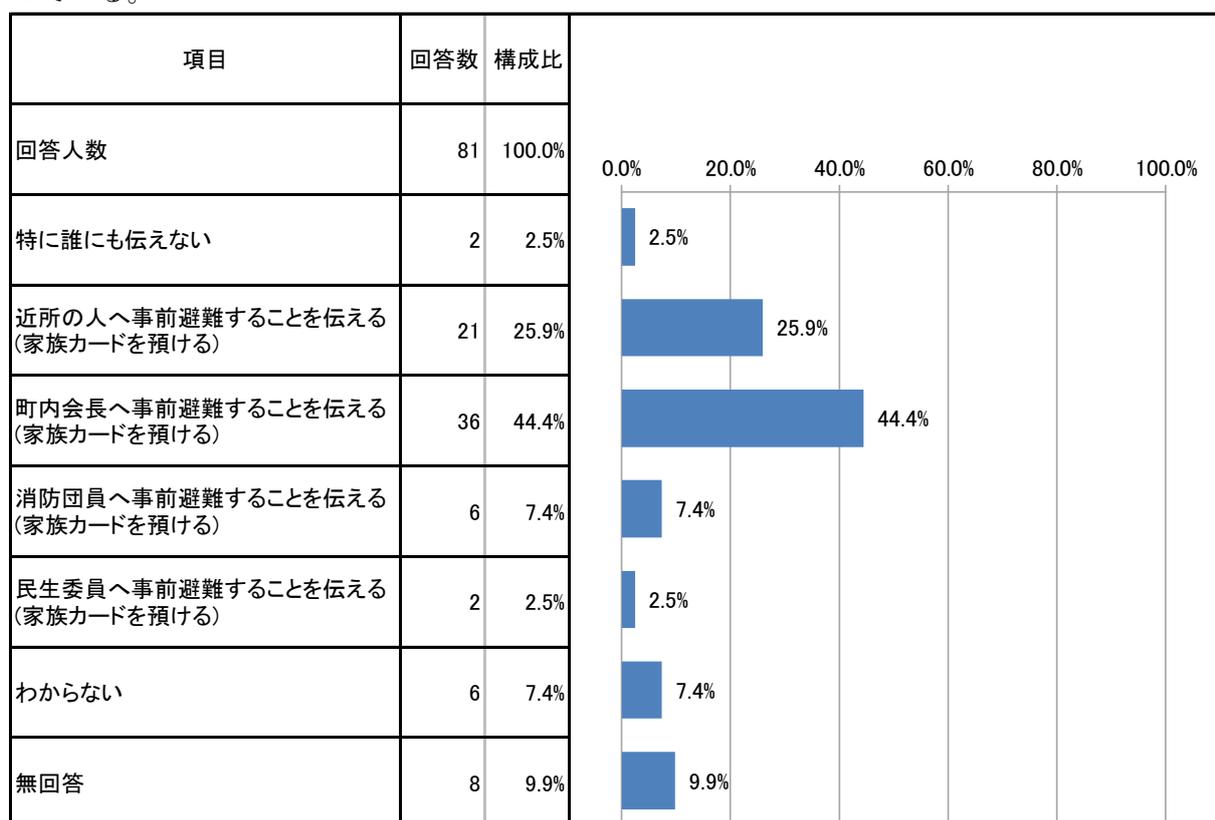
問 33 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール（安心ネットワーク119メール）を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。（ひとつに○）

携帯電話を持っているかについては、「はい」が39.5%、「いいえ」が49.4%となっている。



問 34 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することとなっていますが、「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことを地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。（ひとつに○）

「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことの周囲への伝達方法については、「町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」が44.4%と最も高く、次いで「近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」が25.9%、「消防団員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」「わからない」が7.4%となっている。



【共通項目】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

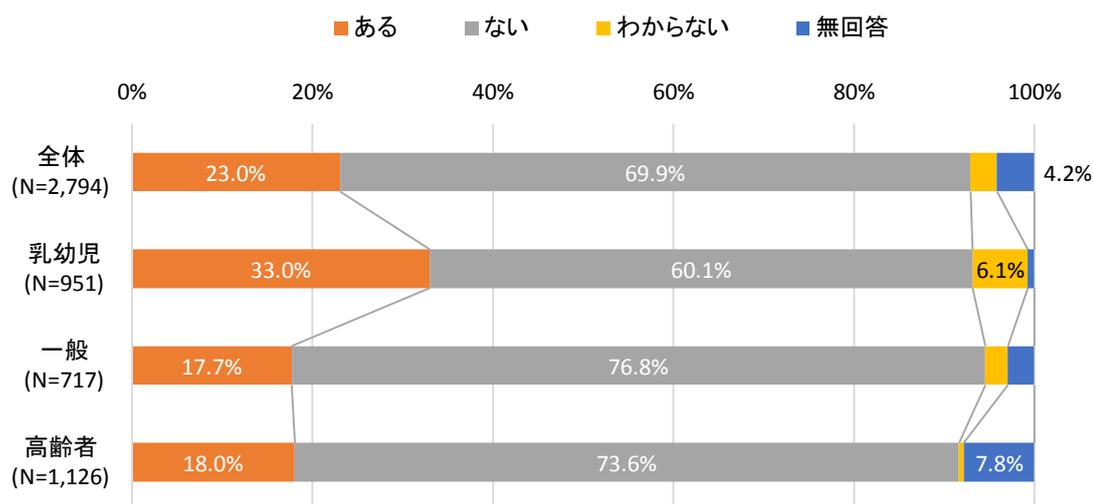
1 交通安全について

【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（乳幼児・一般・高齢者）

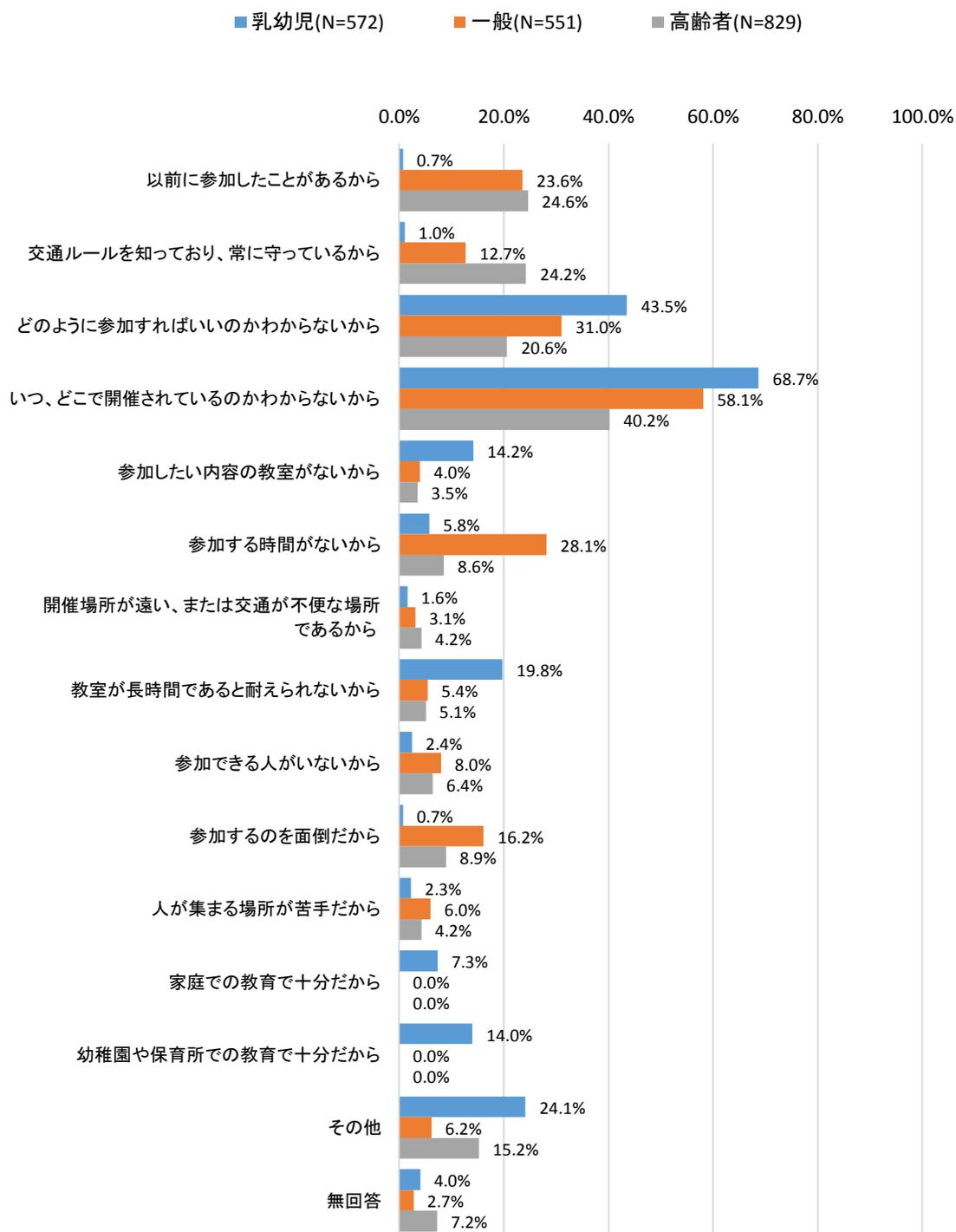
交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「ない」が、全体で69.9%、乳幼児が60.1%、一般が76.8%、高齢者が73.6%となっており、乳幼児に比べ、一般、高齢者の参加率が高くなっている。

交通安全教室に参加したことがない理由については、「いつ、どこで開催されているのかわからないから」が、乳幼児が68.7%、一般が58.1%、高齢者が40.2%と最も高くなっており、次いで「どのように参加すればいいのかわからないから」が高くなっており、交通安全教室の広報周知が不足していることがわかる。

（1年間（平成25.10～平成26.9）の交通安全教室参加状況）



(交通安全教室に参加したことがない理由)



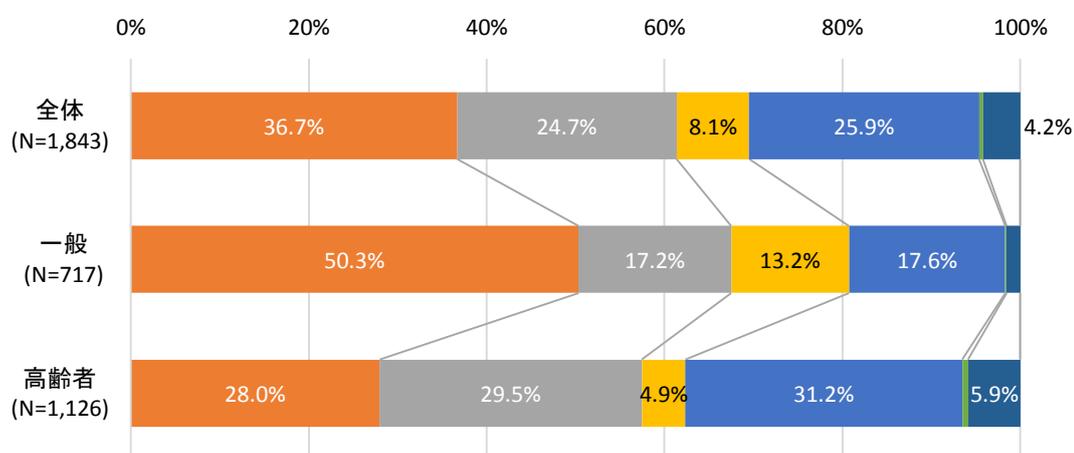
【自動車運転中のヒヤリとした経験について】（一般・高齢者）

自動車運転中に自分の不注意によってヒヤリとした経験の有無については、「ある」が、全体で 36.7%、一般が 50.3%、高齢者が 28.0%となっており、高齢運転者に比べ、一般運転者は不注意な運転が多いことがわかる。

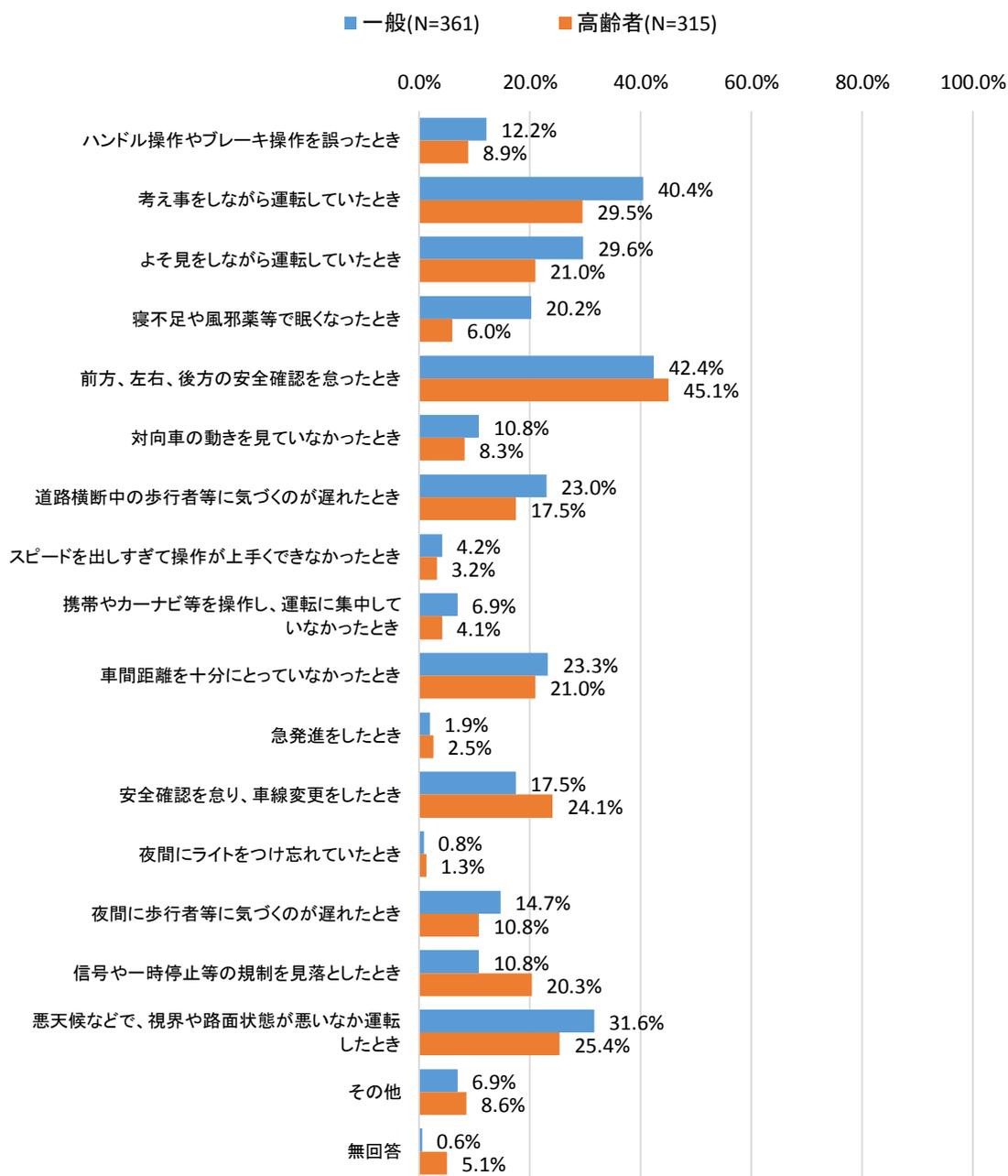
ヒヤリとしたときの状況については、一般については「考え事をしながら運転していたとき」、「前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき」が約 4 割、高齢者については「前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき」が約 5 割となっている。

（自動車運転中に自分の不注意によってヒヤリとした経験の有無）

■ ある
 ■ ない
 ■ 自分の不注意以外でヒヤリとしたことがある(相手の飛び出しなど)
 ■ 自動車は運転しない
 ■ わからない
 ■ 無回答



(ヒヤリとしたときの状況)

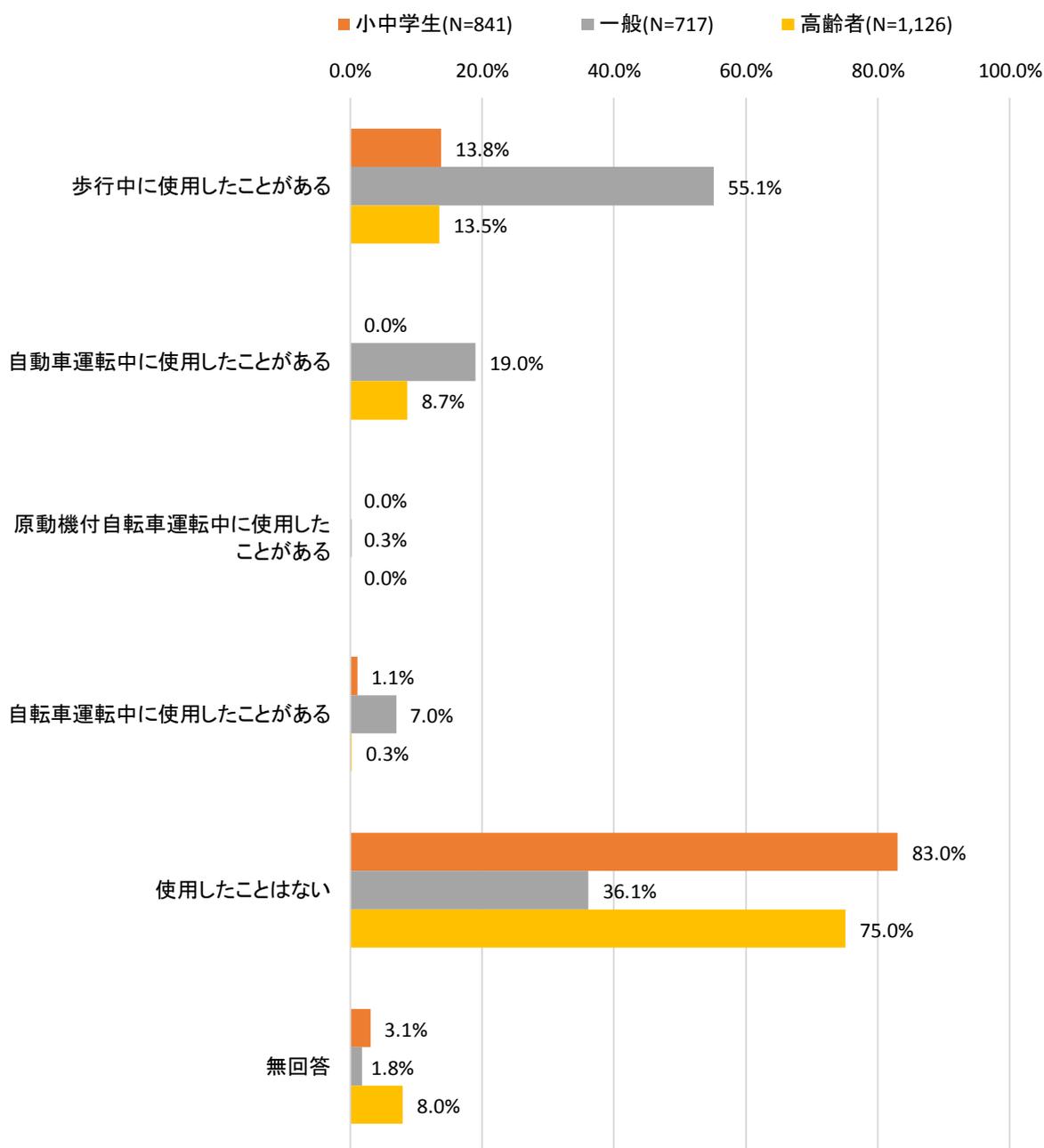


【歩行中や自転車・自動車等運転中の携帯電話使用について】（小中学生・一般・高齢者）

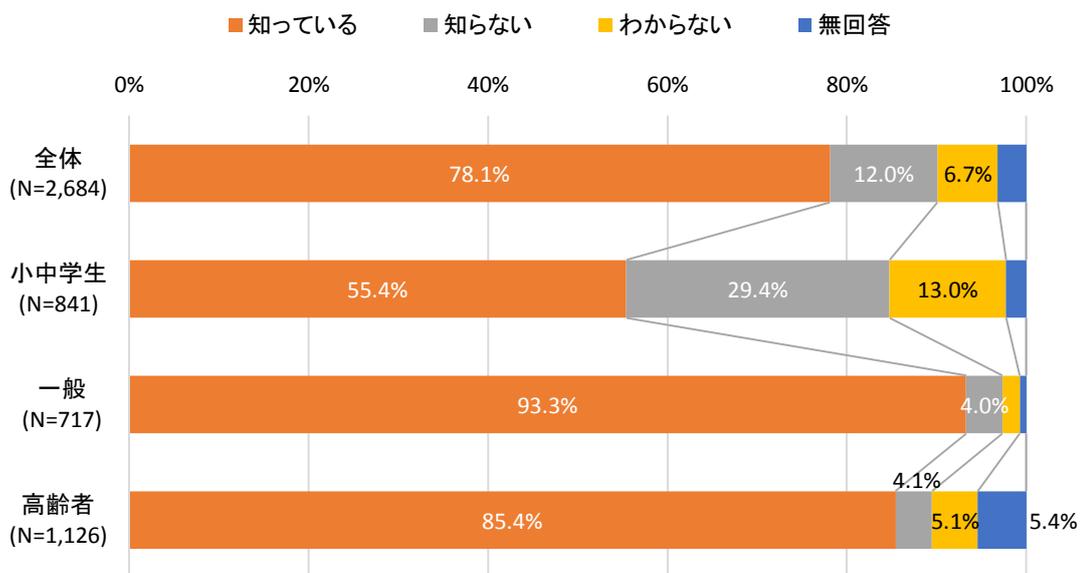
歩行中や自転車・自動車等運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用経験については、一般では「歩行中に使用したことがある」が約6割、小中学生・高齢者では、「使用したことがない」が約8割となっている。

自転車・自動車等運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律違反であることの認知度については、「知っている」が、全体で78.1%、小中学生が55.4%、一般が93.3%、高齢者が85.4%となっており、小中学生の認知度が特に低くなっていることがわかる。

（歩行中や自転車・自動車等運転中の携帯電話使用の有無）



(自転車・自動車等運転中の携帯電話使用が法律違反であることの認知度)



【道路横断時の行動について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合の利用については、「必ず利用している」が全体で 69.4%、乳幼児が 72.8%、小中学生が 60.0%、一般が 64.3%、高齢者が 76.7%となっており、全区分において高齢者が最も高くなっている。

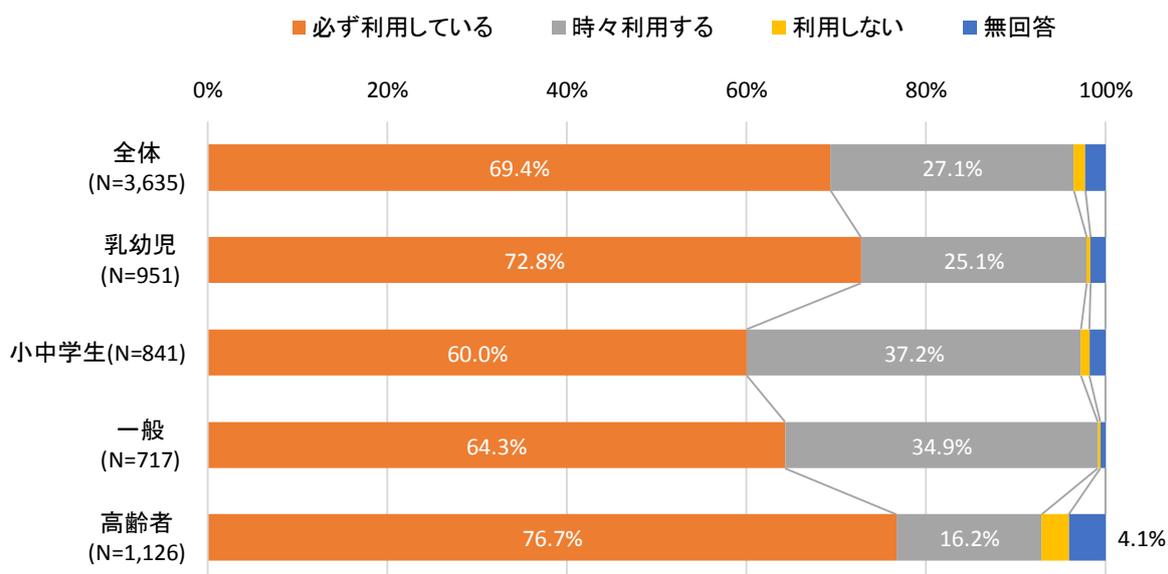
横断歩道を利用しない理由については、乳幼児の「面倒くさいから」、「遠回りになるから」が5割以上で、その他区分においては回答にばらつきがある。

道路を横断する際の安全確認については、「しっかり確認している」が、全体で 79.6%、乳幼児が 83.6%、小中学生が 75.6%、一般が 74.9%、高齢者が 82.2%となっている。

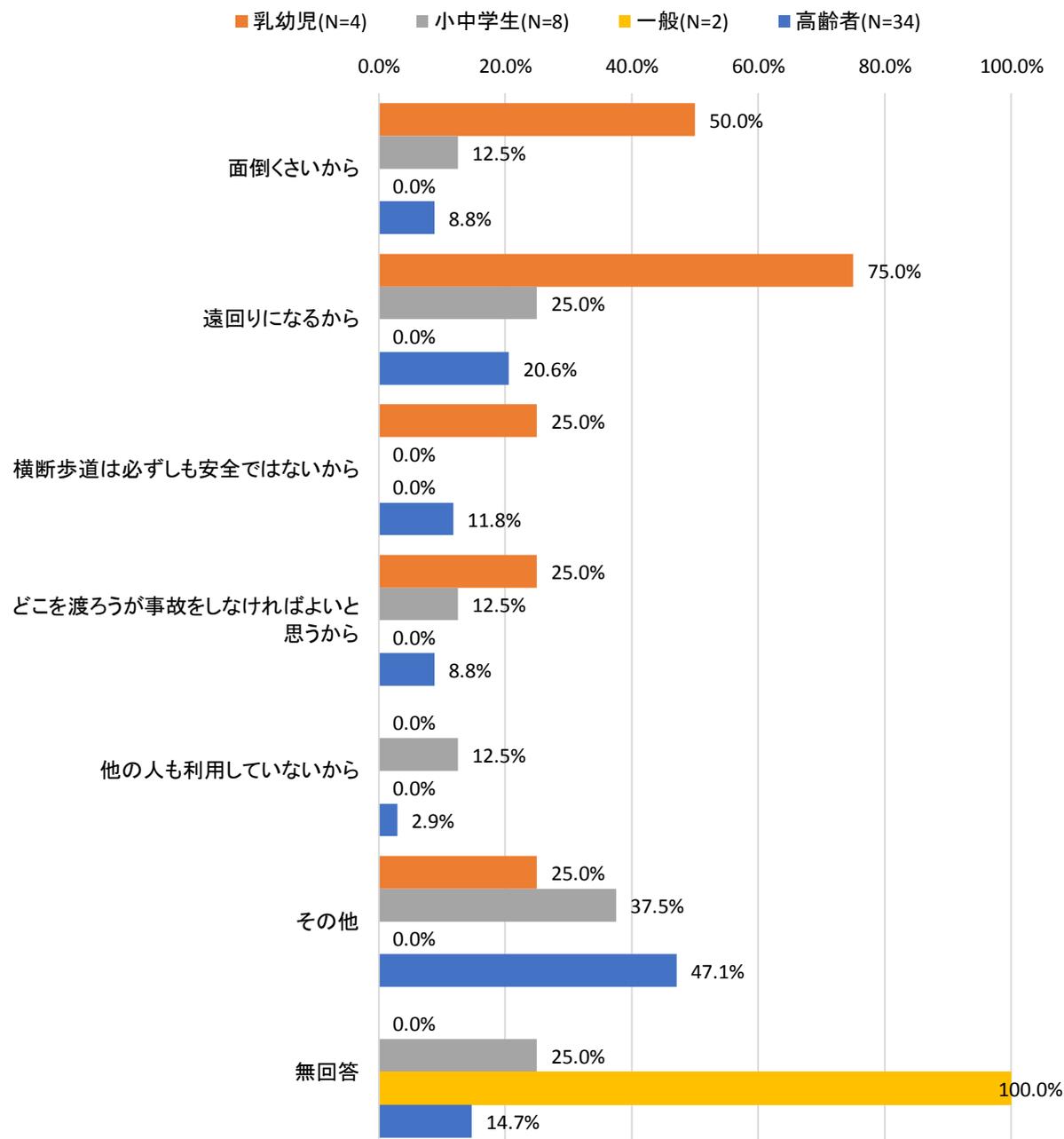
歩行中に信号機をついた横断歩道を渡る際、ルール（信号）を守っているかについては、「守っている」が、全体では 76.0%、乳幼児が 70.9%、小中学生が 70.5%、一般が 69.7%、高齢者が 88.5%となっており、全区分において高齢者が最も高くなっている。

ルール（信号）を守らないことがある理由については、乳幼児・小中学生では「信号を待つのが面倒くさいから」、「自分で安全確認をしているから」、一般・高齢者では「自分で安全確認をしているから」を上位に挙げている。

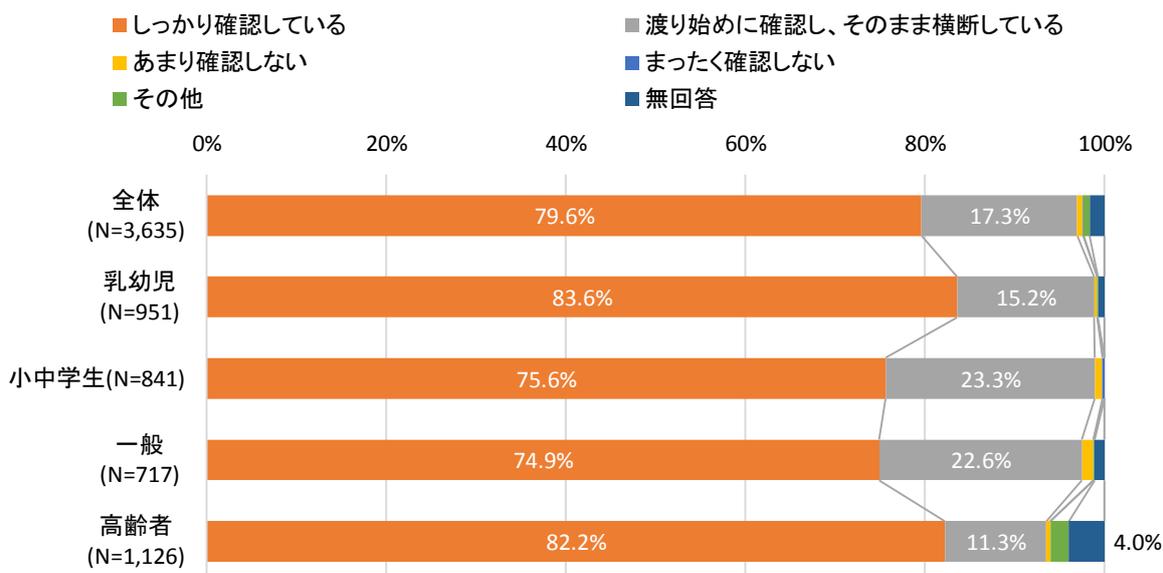
（横断歩道利用の有無）



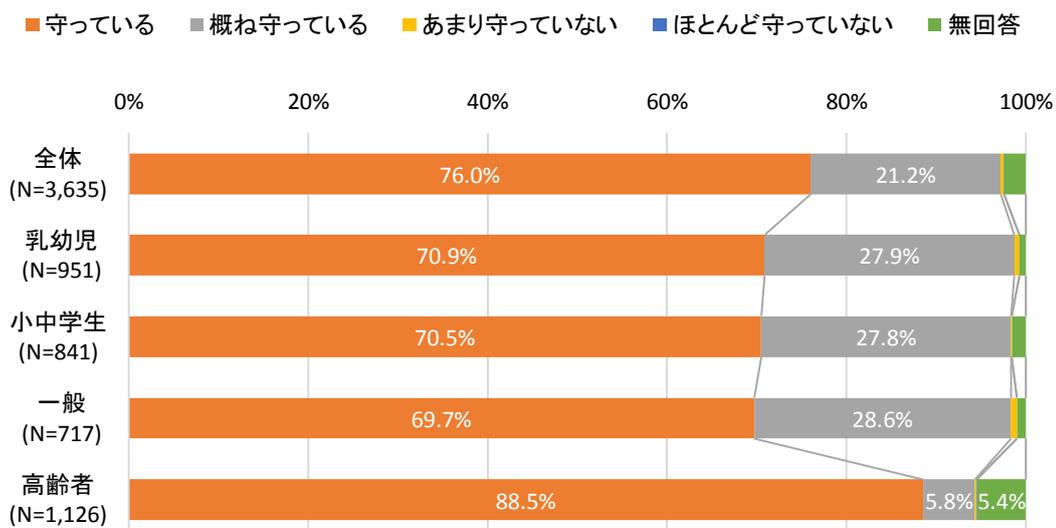
(横断歩道利用を利用しない理由)



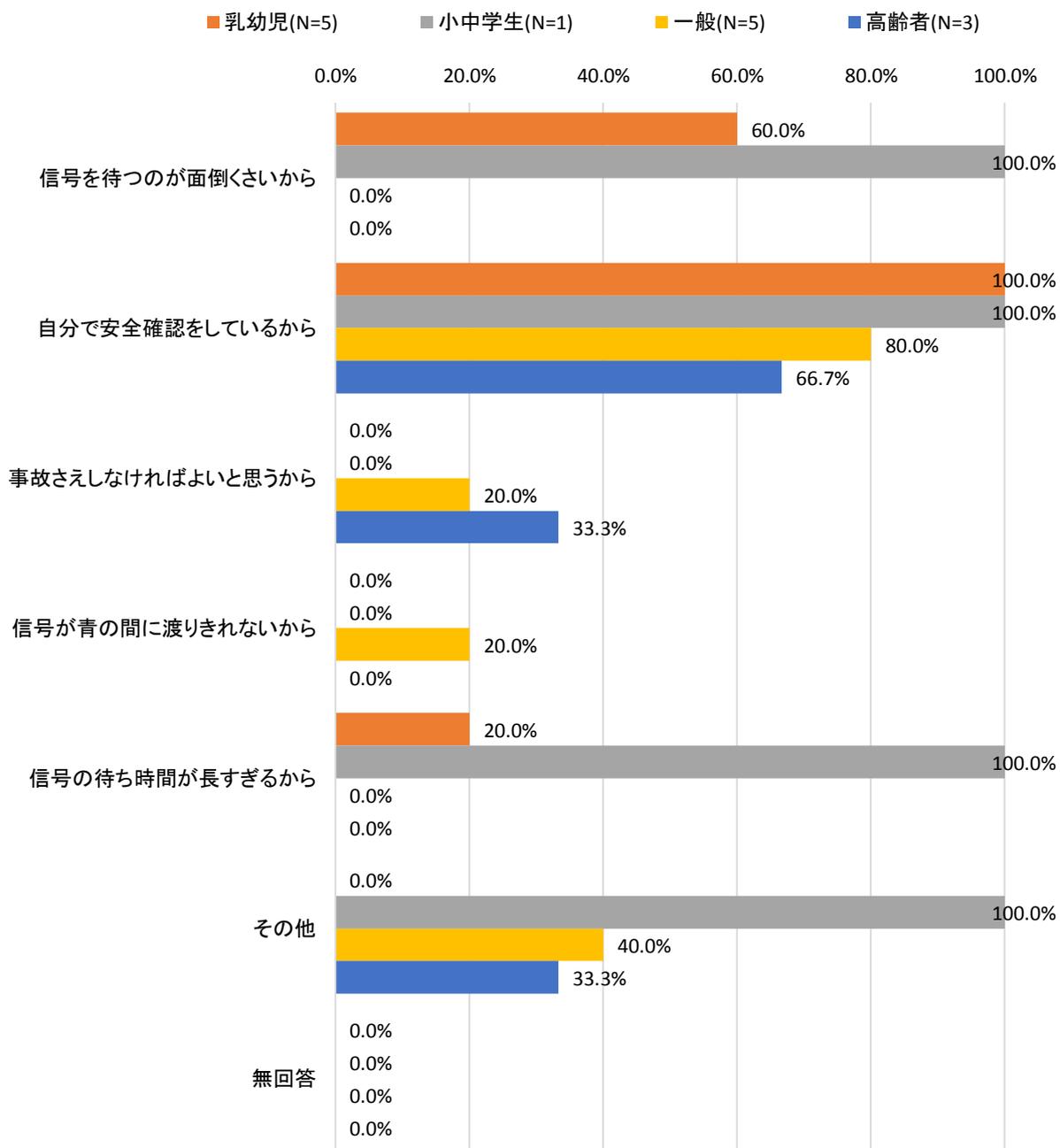
(道路を横断する際の安全確認の有無)



(横断歩道を渡る際にルール(信号)を守っているか)



(ルール (信号) を守らないことがある理由)



2 子どもの安全について

【子育てへの支援について】（乳幼児・小中学生・一般）

自分が親になる前に、妊娠や子どもを育てるということを考える機会について、「家庭で親・兄弟の妊娠・育児を通じて学び考えた」が、全体で28.6%、乳幼児が27.2%、小中学生が28.9%、一般が31.9%となっている。

保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話をしたくないと思うときがあるかについて、「ほとんどいつもそう思う」と「たまにそう思う」の合計が、全体で58.6%、乳幼児が61.0%、小中学生が59.7%、一般が47.8%となっている。

子育てで困ったときの相談先の有無については、「ある」が、全体で93.9%、乳幼児が96.3%、小中学生が93.3%、一般が87.8%となっている。

子育てで困ったときの具体的な相談先については、乳幼児・小中学生・一般ともに「夫婦で話し合いをする」、「親、兄弟姉妹や親戚に相談する」が約8割となっている。

子育ての支援者については、乳幼児・小中学生・一般ともに「配偶者」、「親・兄弟姉妹・親戚」が約8割以上になっている。

子どもの一時預かり施設などの利用状況については、各施設において以下の通りになっている。

Aファミリー・サポート・センターの利用については、「有」が、全体で4.5%、乳幼児では4.5%、小中学生が4.8%、一般が3.1%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で66.7%、乳幼児が69.8%、小中学生が62.5%、一般が71.4%となっている。

B保育園の利用については、「有」が、全体で20.9%、乳幼児が18.2%、小中学生が24.6%、一般が18.2%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で58.3%、乳幼児が56.6%、小中学生が60.9%、一般が52.4%となっている。

C幼稚園の利用については、「有」が、全体で36.3%、乳幼児が26.6%、小中学生が48.4%、一般が32.5%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で54.5%、乳幼児が49.4%、小中学生が58.7%、一般が49.4%となっている。

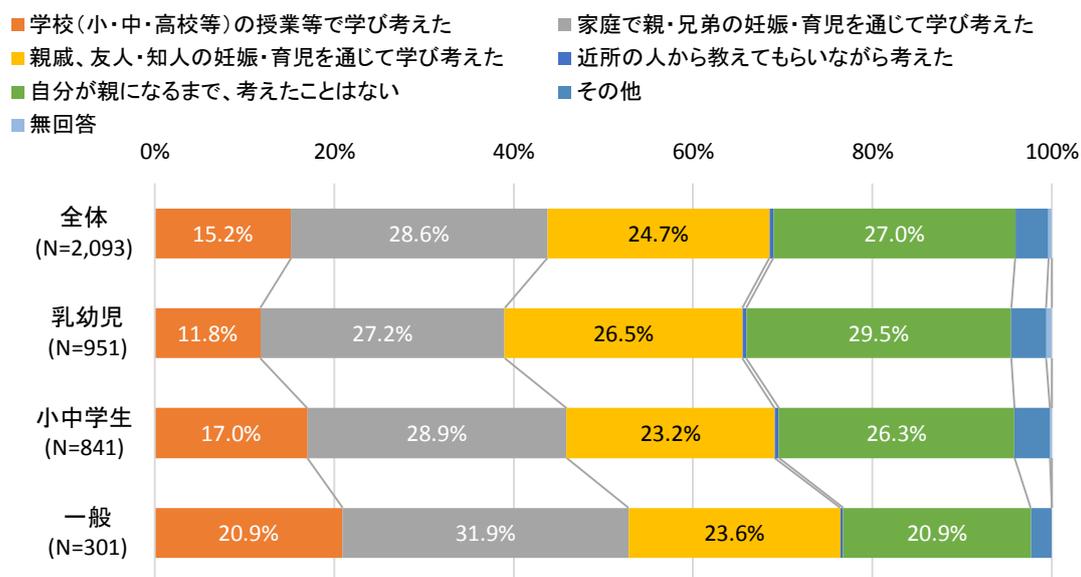
Dすこやか子育て交流館（りぼんかん）の利用については、「有」が、全体で4.3%、乳幼児が6.3%、小中学生が2.1%、一般が4.0%となっている。また、利用頻度は、「年、数回」が、全体で87.4%、乳幼児で88.3%、小中学生で88.9%、

一般で77.8%となっている。

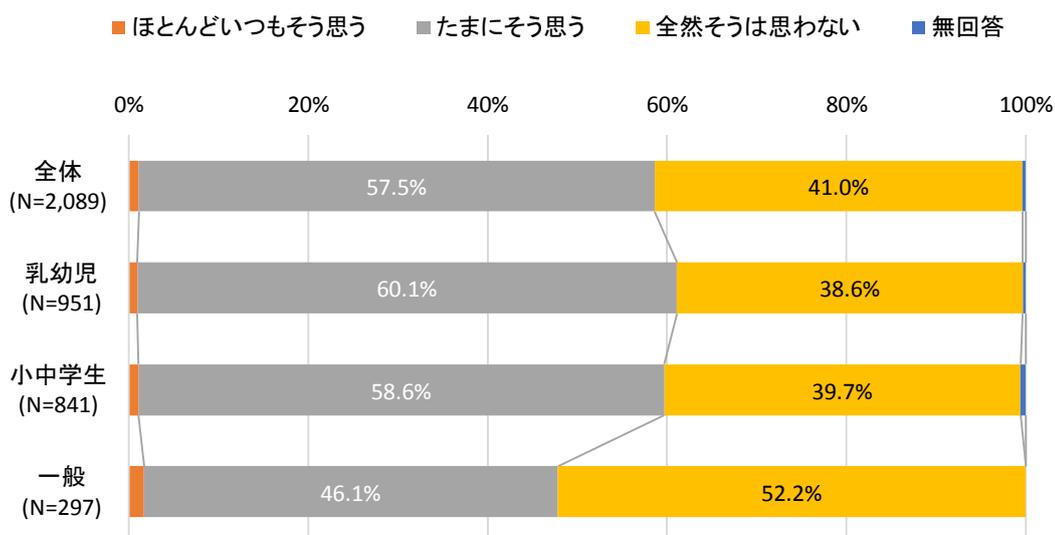
現在の子育て支援の活用状況については、乳幼児・小中学生・一般ともに「保育園や幼稚園への通園」を最も上位に挙げている。

充実して欲しい子育て支援については、乳幼児・小中学生・一般ともに「保育園や幼稚園への通園」、「子どもの発達相談や健診」、「地区ごとの子ども行事」が上位で、小中学生・一般では「保護者への心理相談」も上位に挙がっている。

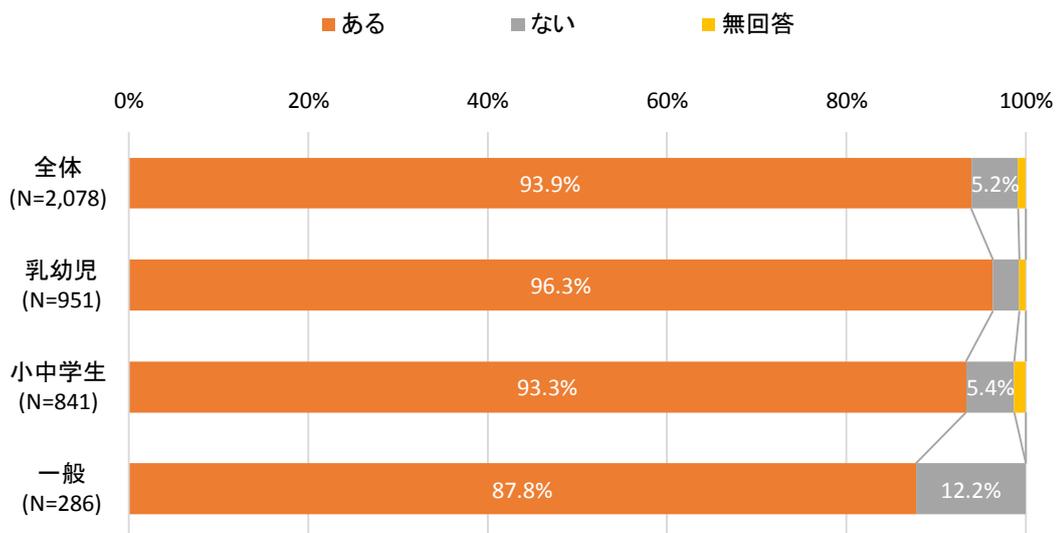
(親になる前に妊娠や子育てについて考える機会があったか)



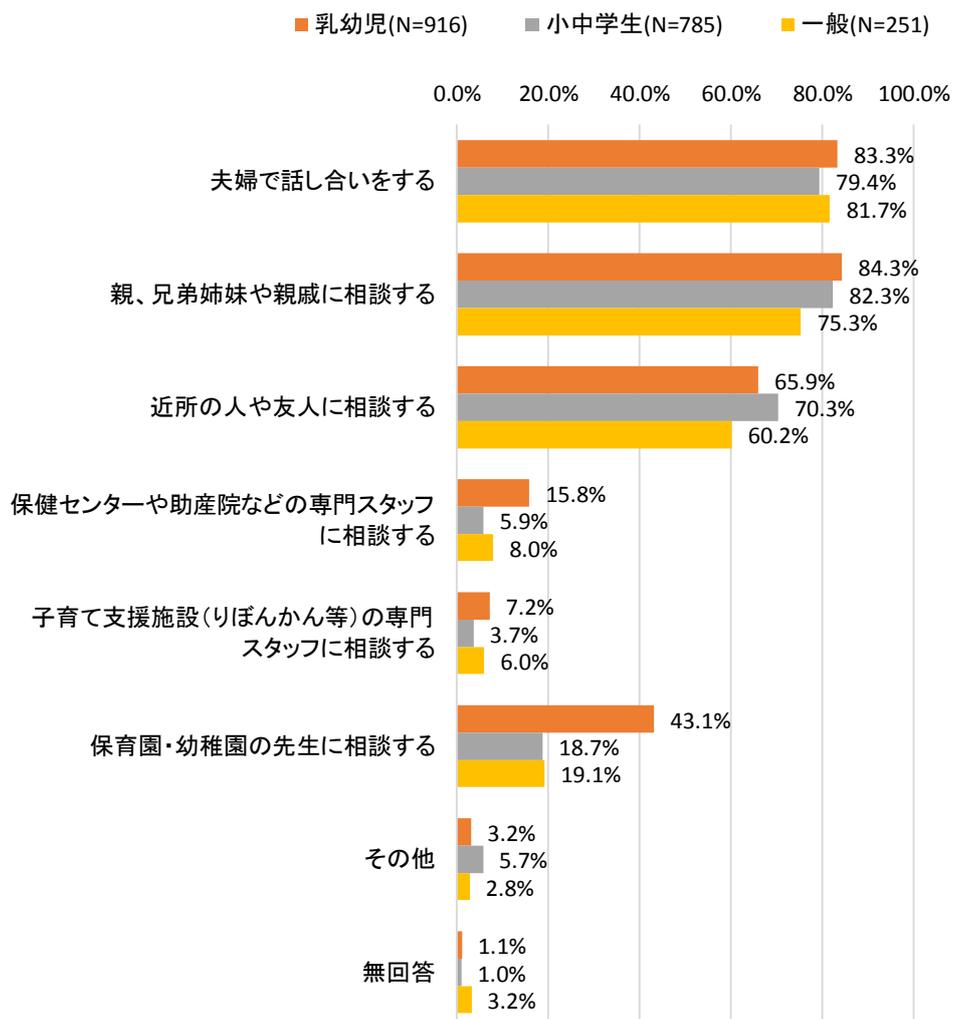
(子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うことがあるか)



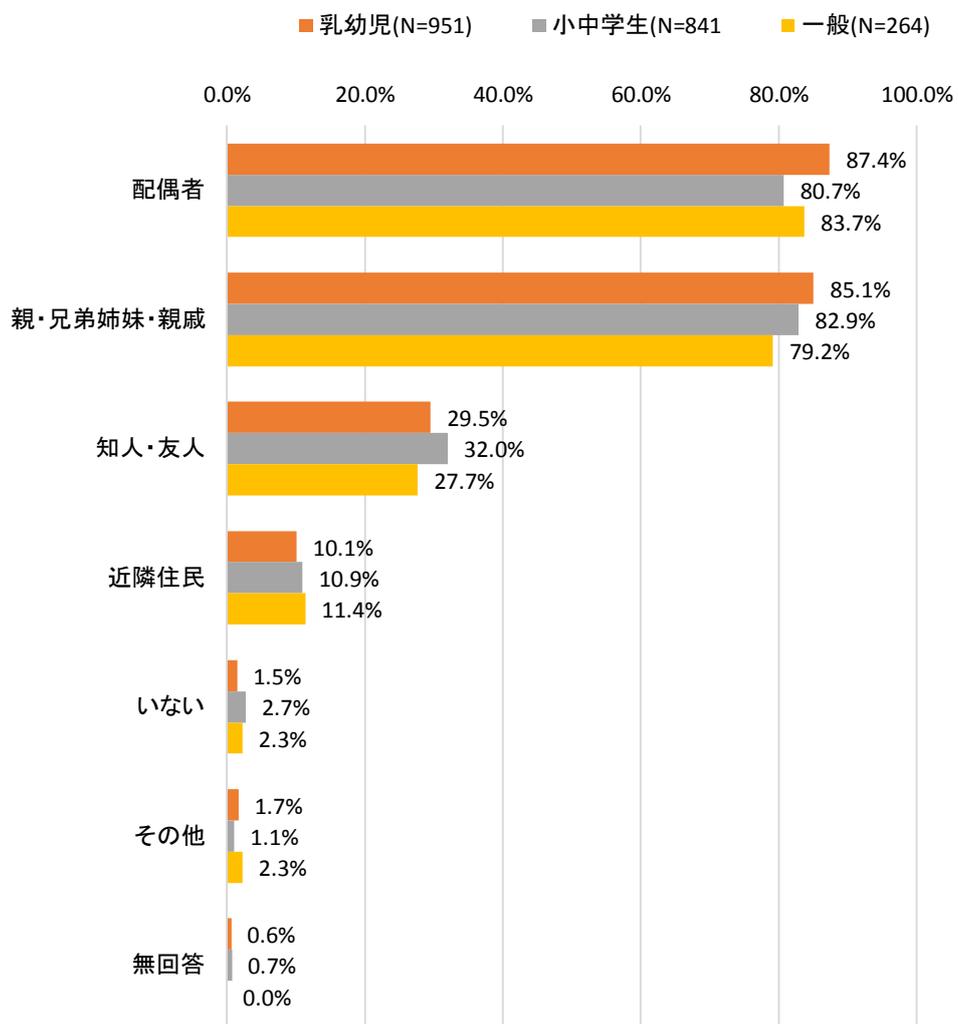
(子育てで困ったときの相談先の有無)



(子育てで困ったときの具体的な相談先)

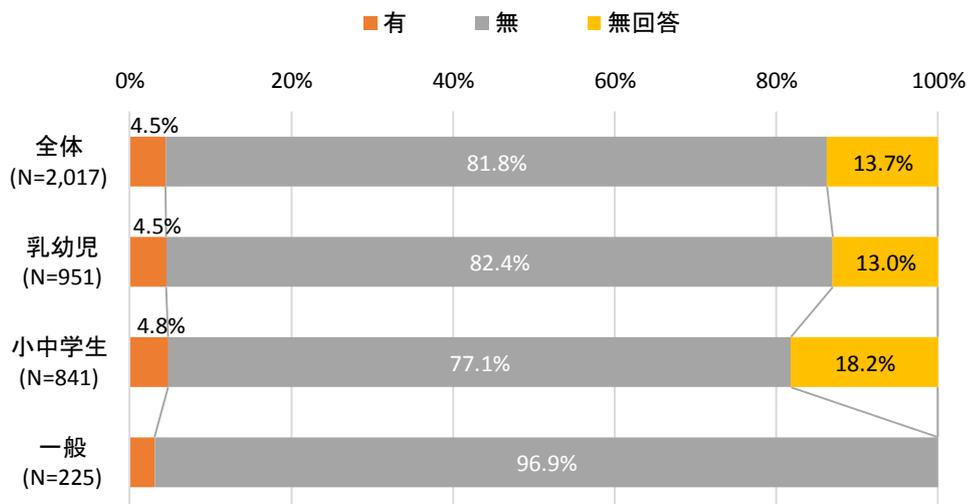


(子育ての支援者の有無)

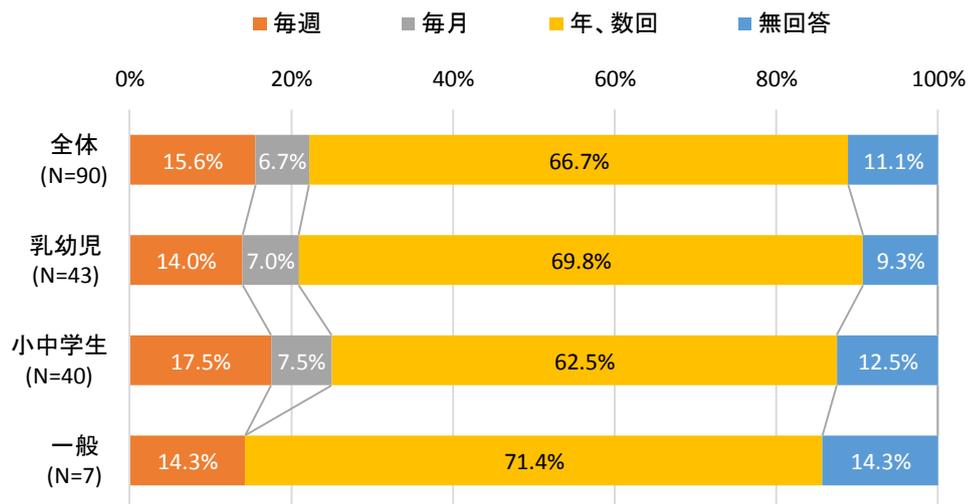


(子どもの一時預かりの施設等の利用状況)

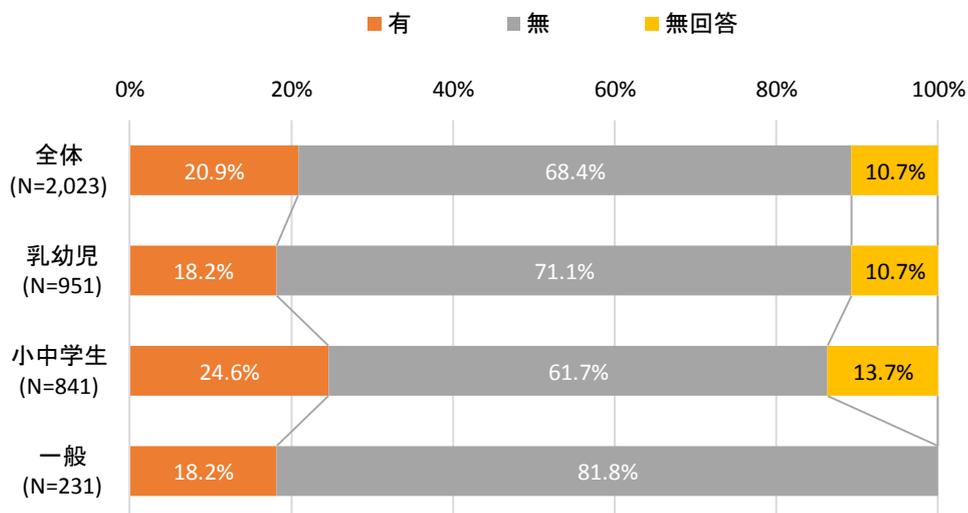
A.ファミリー・サポート・センターの育児支援(利用の有無)



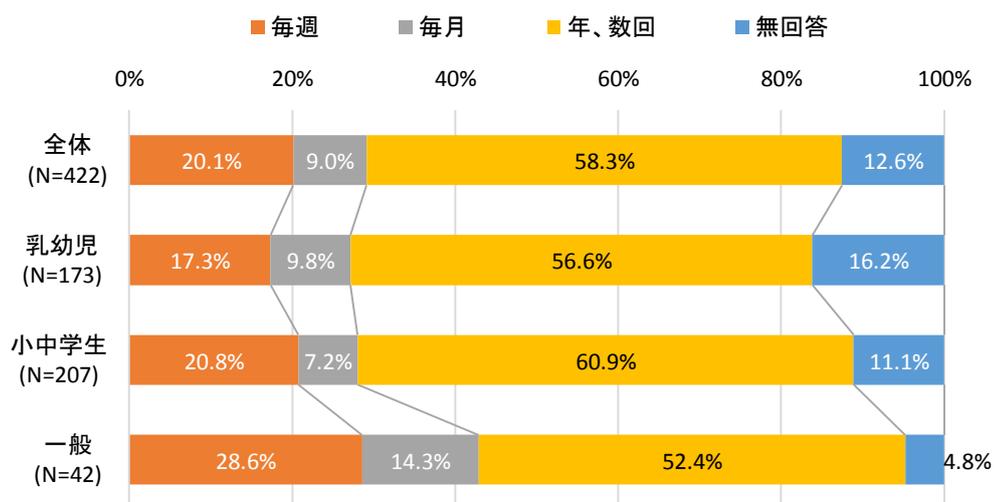
A.ファミリー・サポート・センターの育児支援(利用頻度)



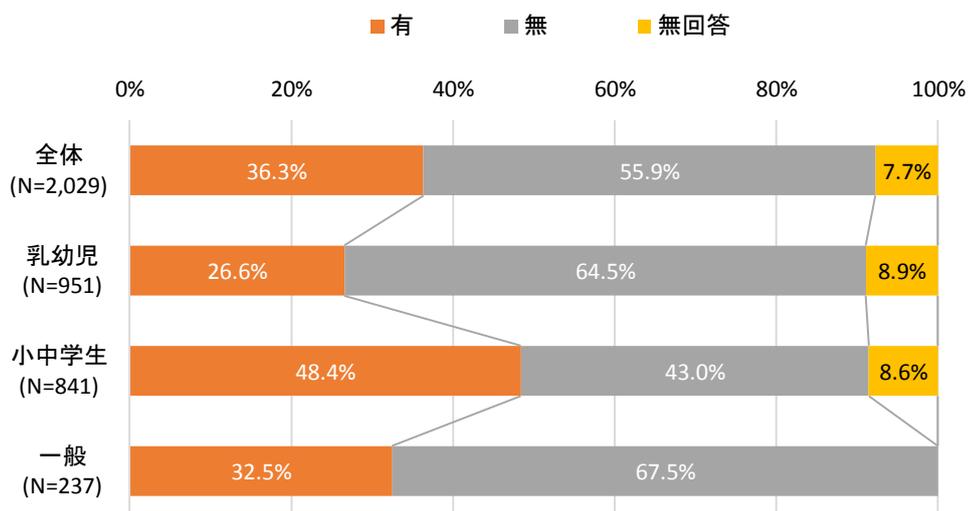
B 保育園の一時預かり(利用の有無)



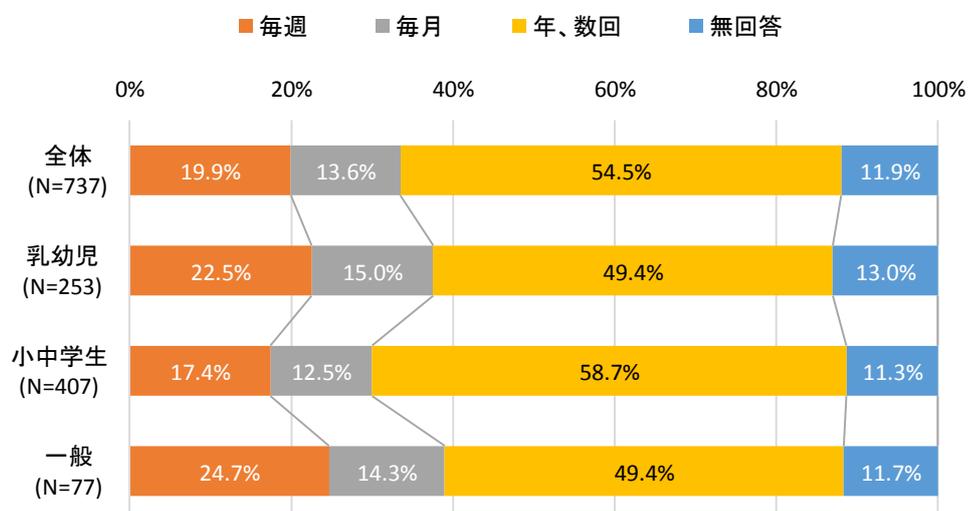
B. 保育園の一時預かり (利用頻度)



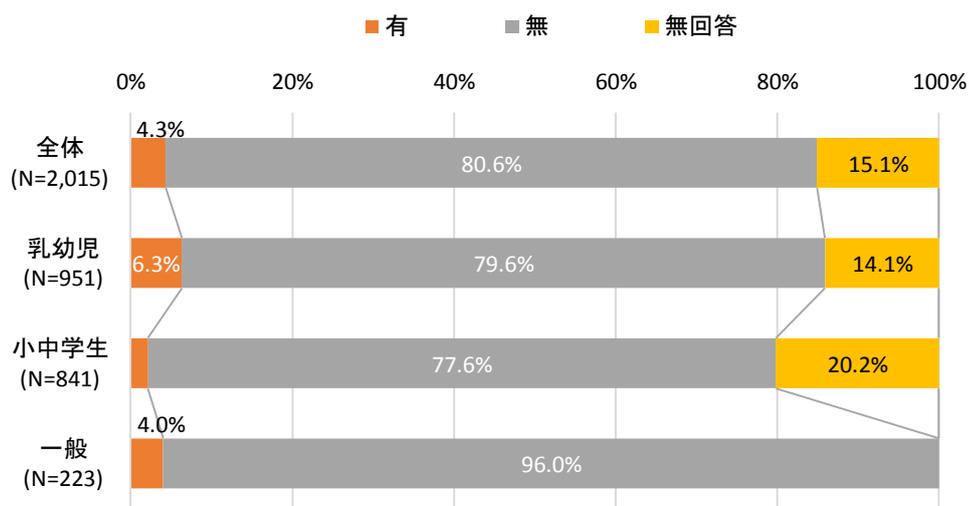
C. 幼稚園の預かり保育 (利用の有無)



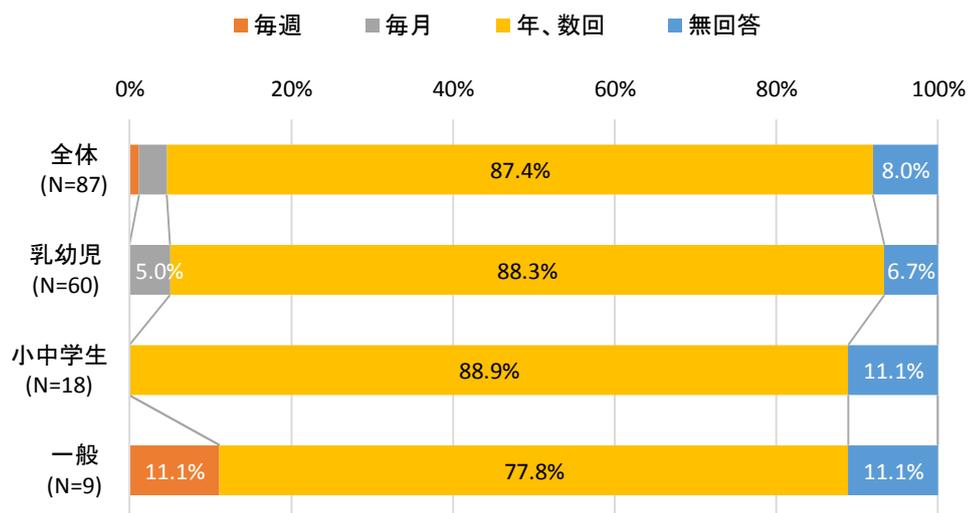
C. 幼稚園の預かり保育 (利用頻度)



D. すこやか子育て交流館(りぼんかん)の一時預かり(利用の有無)

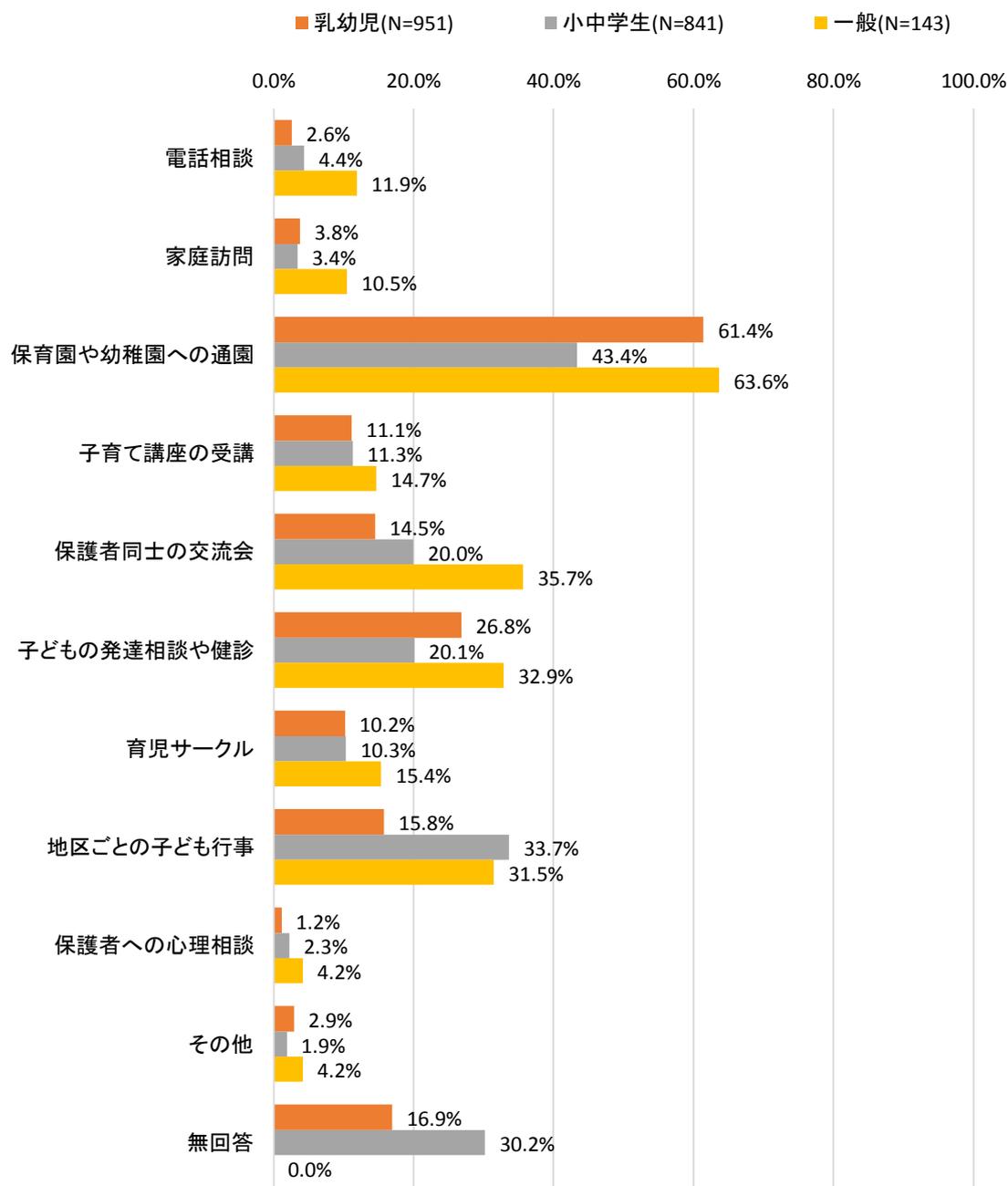


D. すこやか子育て交流館(りぼんかん)の一時預かり(利用頻度)

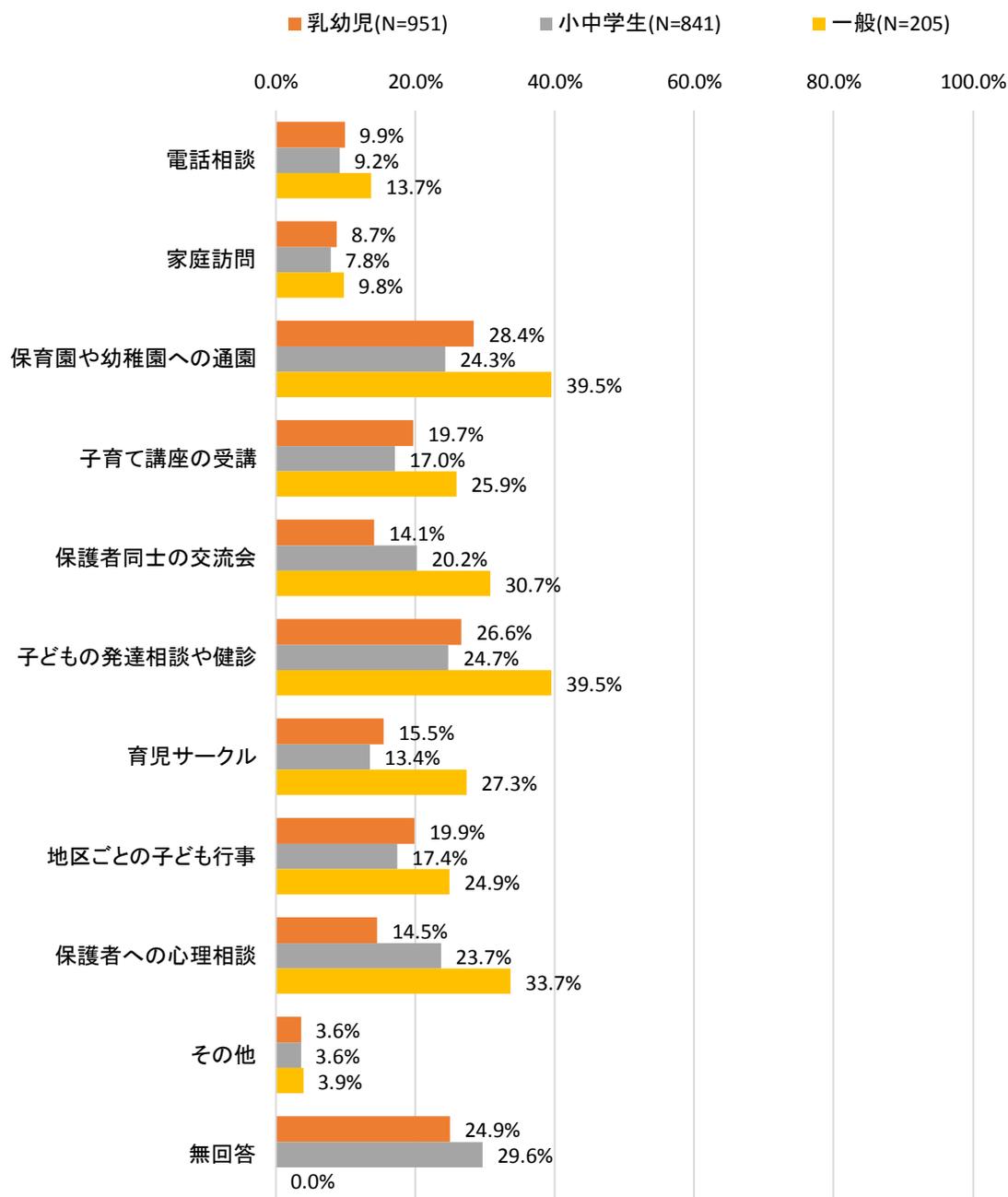


(子育て支援の活用状況、充実してほしい子育て支援)

【現在活用している】



【充実して欲しい】



3 自殺について（一般・高齢者）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が、全体で6.6%、一般が9.9%、高齢者が4.4%となっている。

なお、自殺を考えたときの一番の原因として、全体では「健康問題」、一般が「家庭問題」、高齢者が「健康問題」を最も上位に挙げている。

また、自殺したいと考えたときの相談については、半数以上がともに「相談していない」としている。

自殺したいと思った原因による、精神的苦痛などのための医療機関受診の有無については、「ある」が、全体で19.0%、一般で23.9%、高齢者で12.0%となっている。

自殺に関する相談場所の認知度については、「知っている」が、全体で31.7%、一般が40.0%、高齢者が26.5%となっている。

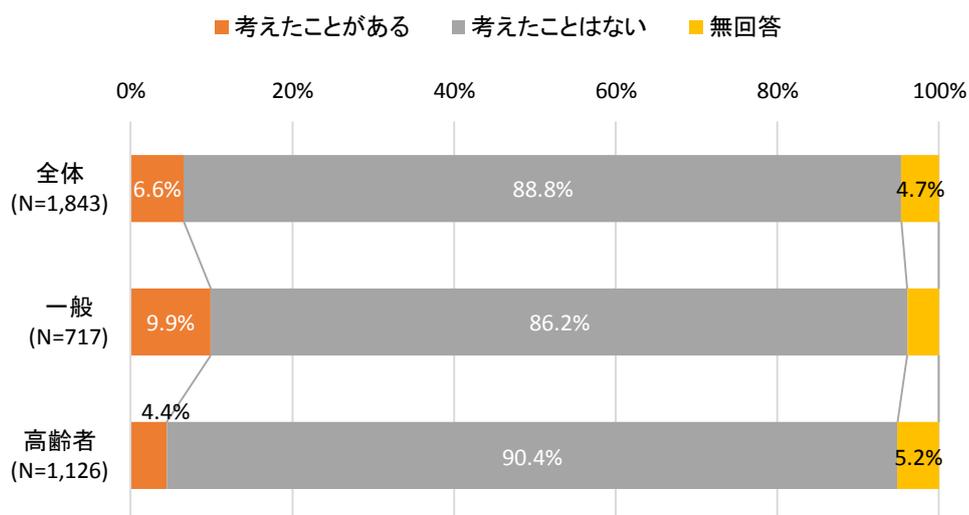
自殺の考えの有無と相談場所の認知度については、一般・高齢者ともに、自殺の考えの有無にかかわらず、相談場所を「知らない」が5割以上になっている。

あればよいと思う自殺に関する相談場所については、一般・高齢者ともに「ショッピングセンター」が最も上位で、一般は「図書館」、高齢者は「デパート」と続いている。

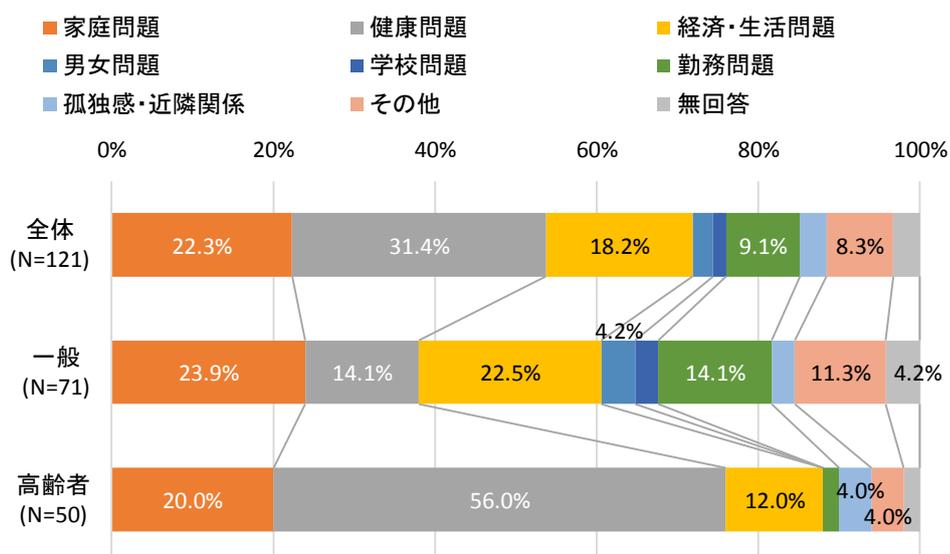
相談場所を利用しやすい時間帯については、一般では「【平日】18:00以降」(43.7%)、高齢者では「【平日】10:00～12:00」(35.0%)が上位になっている。

自殺に関する知識については、一般、高齢者ともに「自殺は防ぐことができる」、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が4割以上になっている。

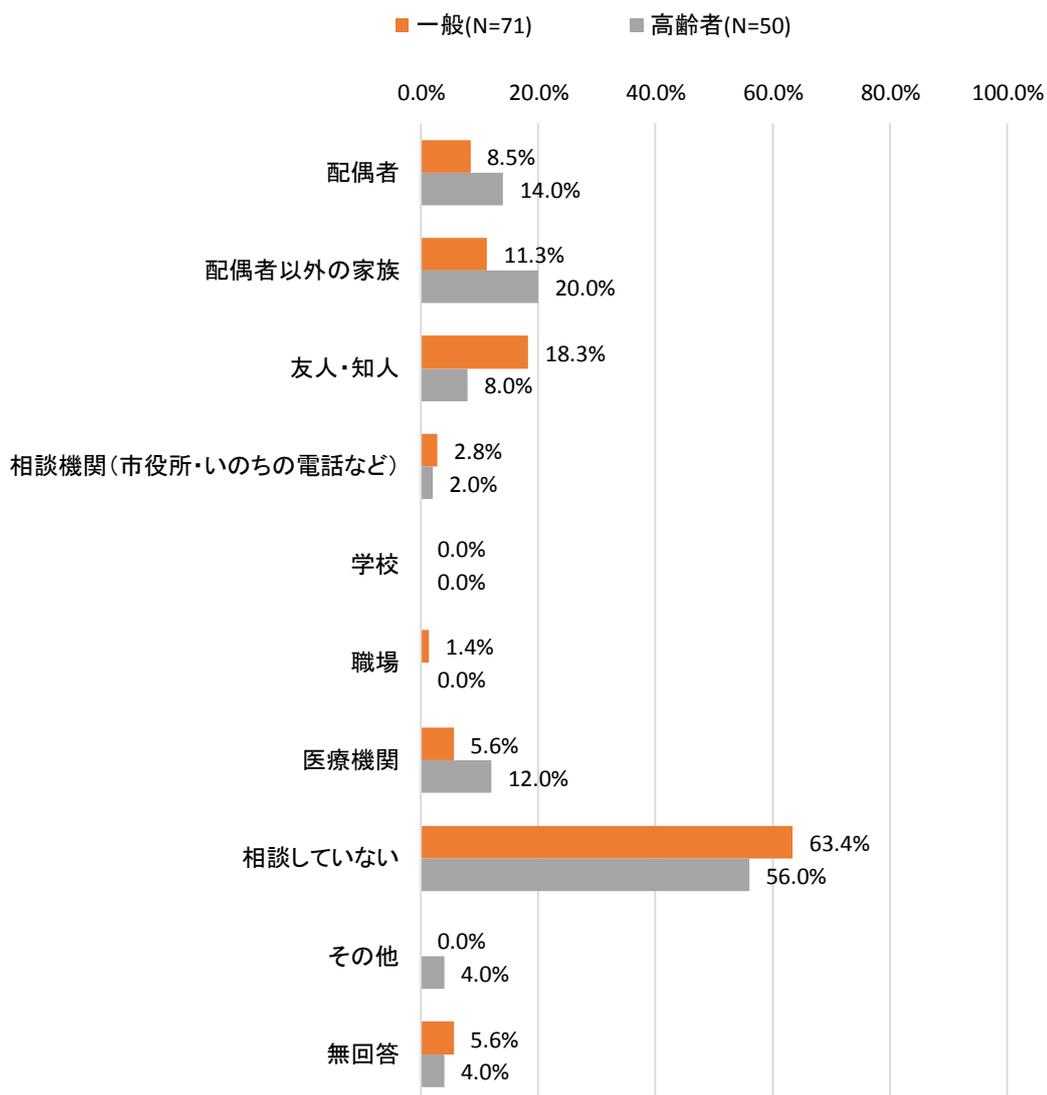
(自殺したいと考えたことがあるか)



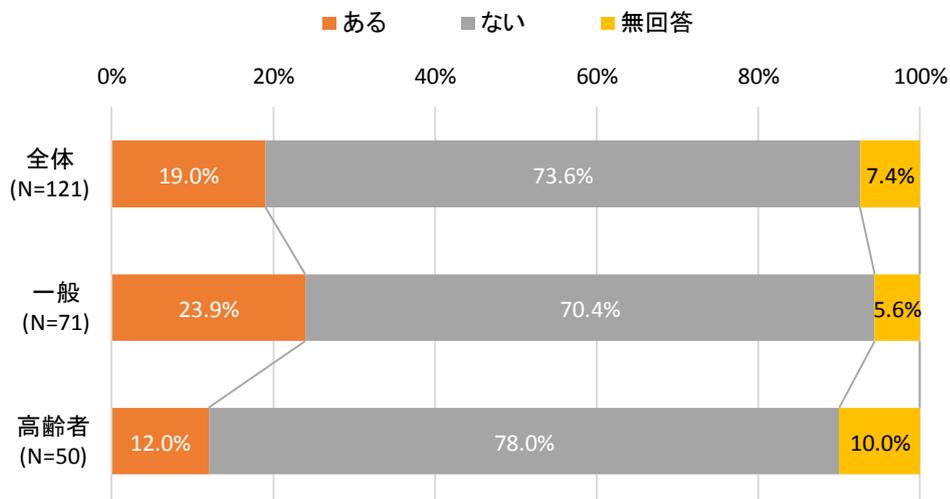
(自殺したいと考えたときの一番の原因)



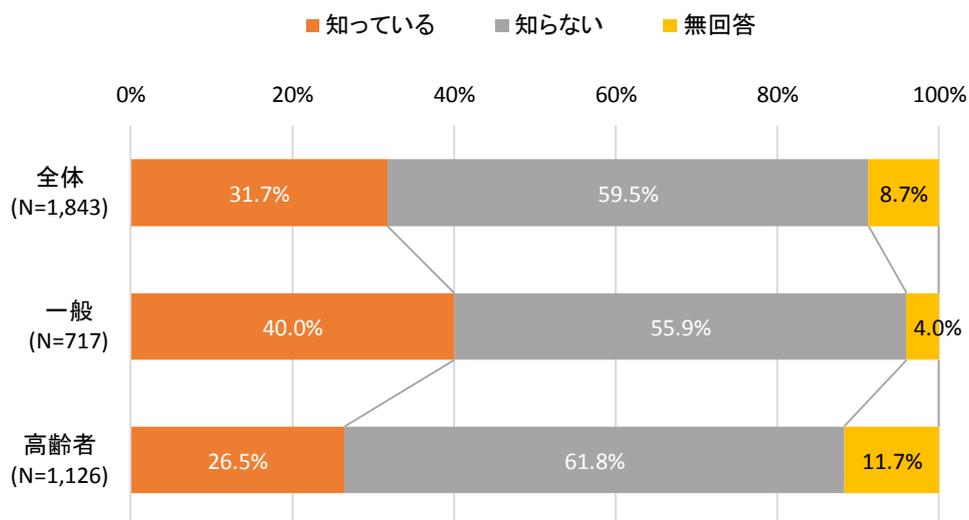
(相談の有無とその相談場所)



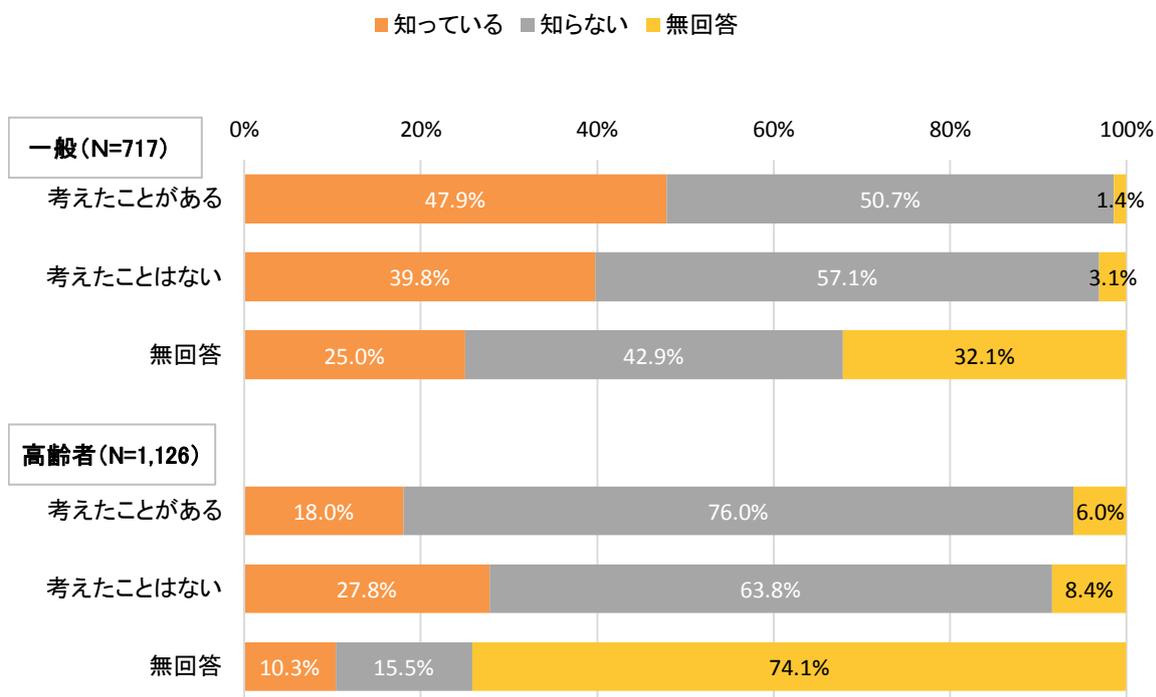
(医療機関受診の有無)



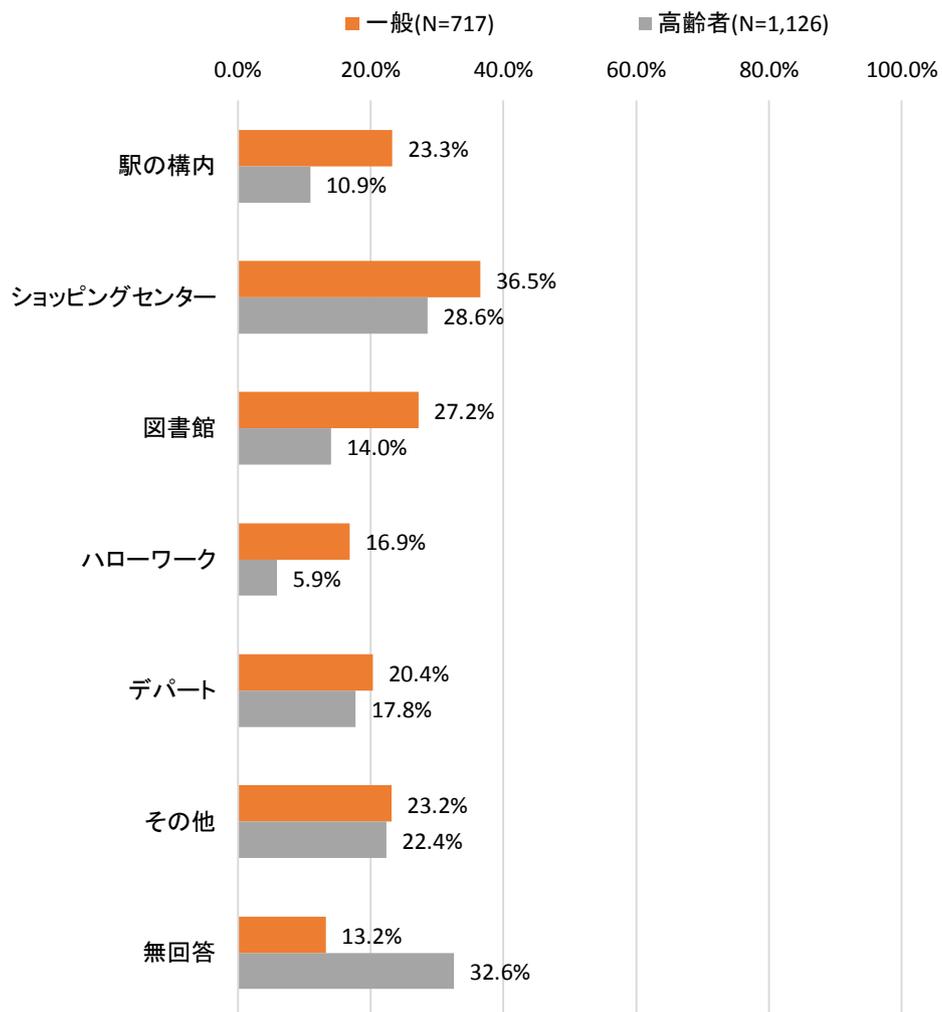
(自殺に関する相談場所の認知度)



(自殺の考えの有無と相談場所の認知度)

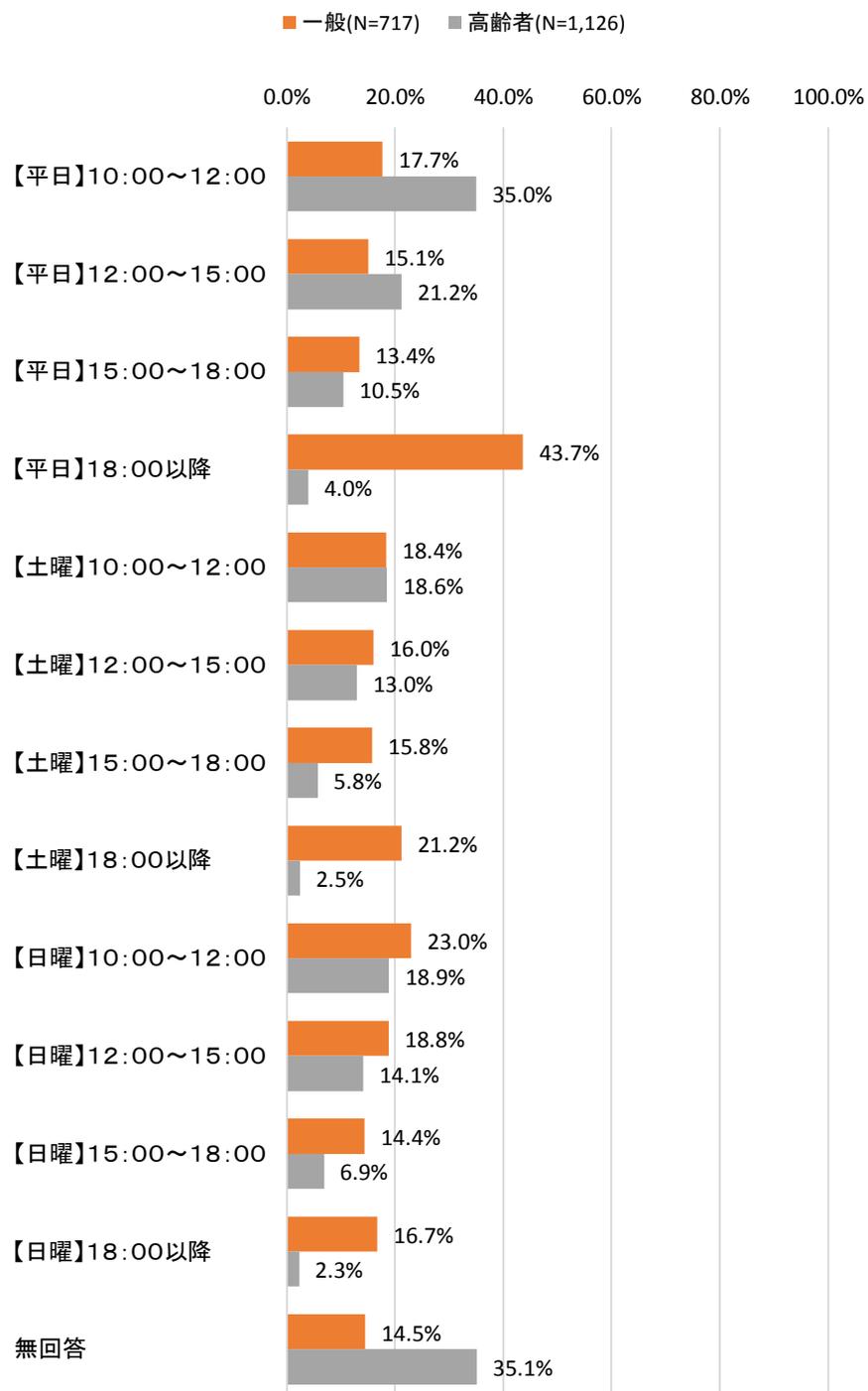


(あればよいと思う自殺に関する相談場所)

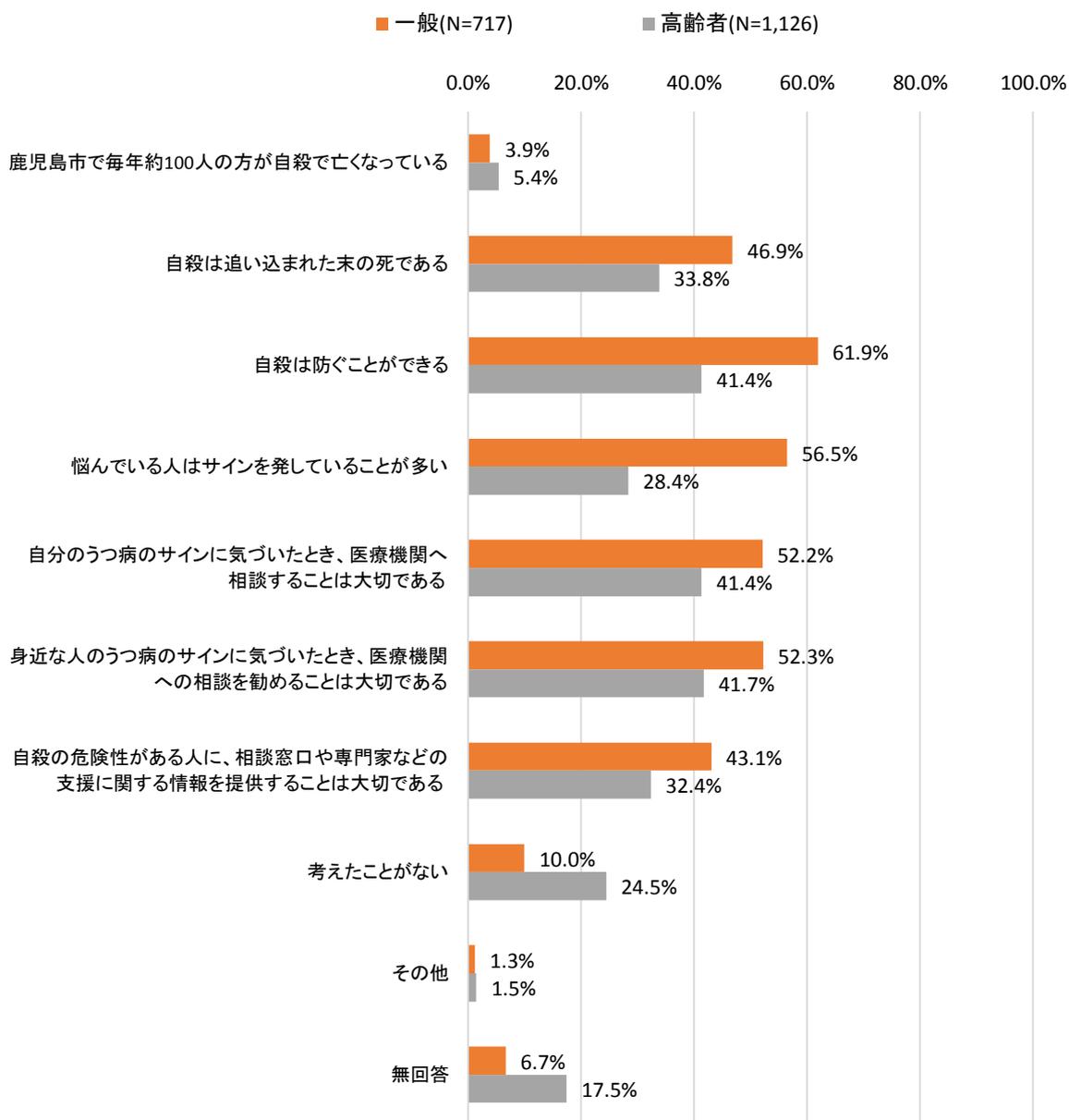


【総括】

(相談場所を利用しやすい時間帯)



(自殺に関する知識)



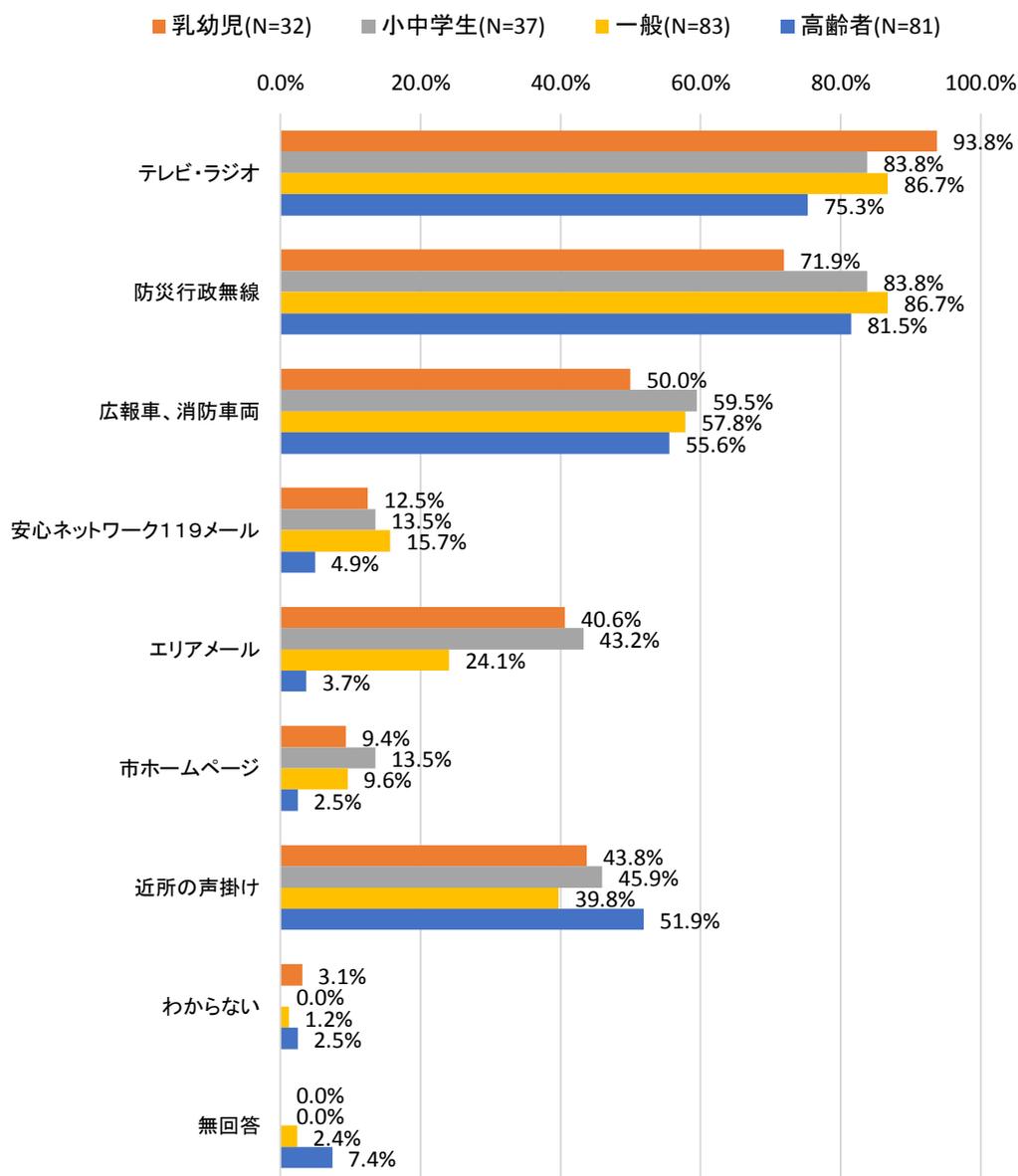
桜島にお住まいの方の防災対策について（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

桜島大噴火時の避難情報の収集方法については、各区分ともに「テレビ・ラジオ」、「防災行政無線」を上位に挙げている。

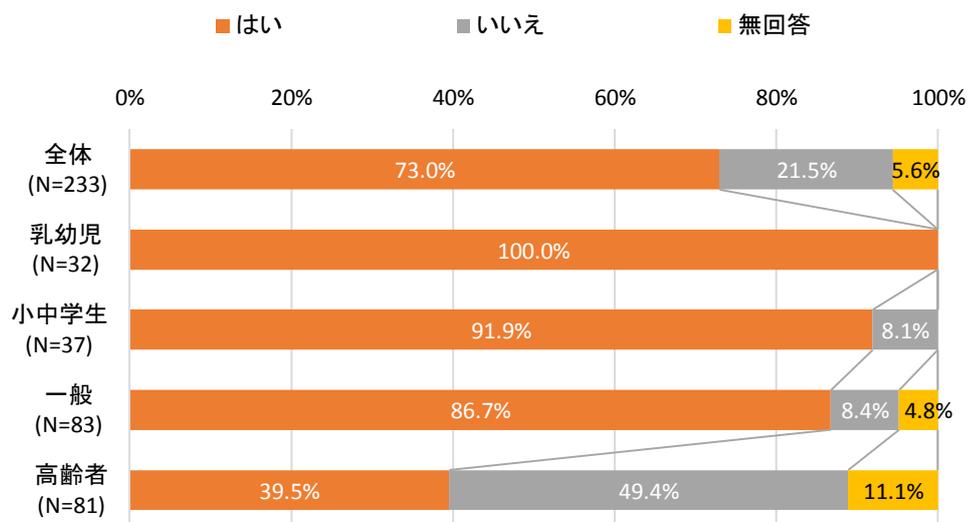
携帯電話を持っているかについては、「はい」が、全体で 73.0%、乳幼児が 100.0%、小中学生が 91.9%、一般が 86.7%、高齢者が 39.5%となっている。

「避難勧告」が出される前に、自主避難したことを周囲に伝える方法については、乳幼児・一般では「わからない」、小中学生では「近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」、高齢者では「町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）」が最も上位に挙がっている。

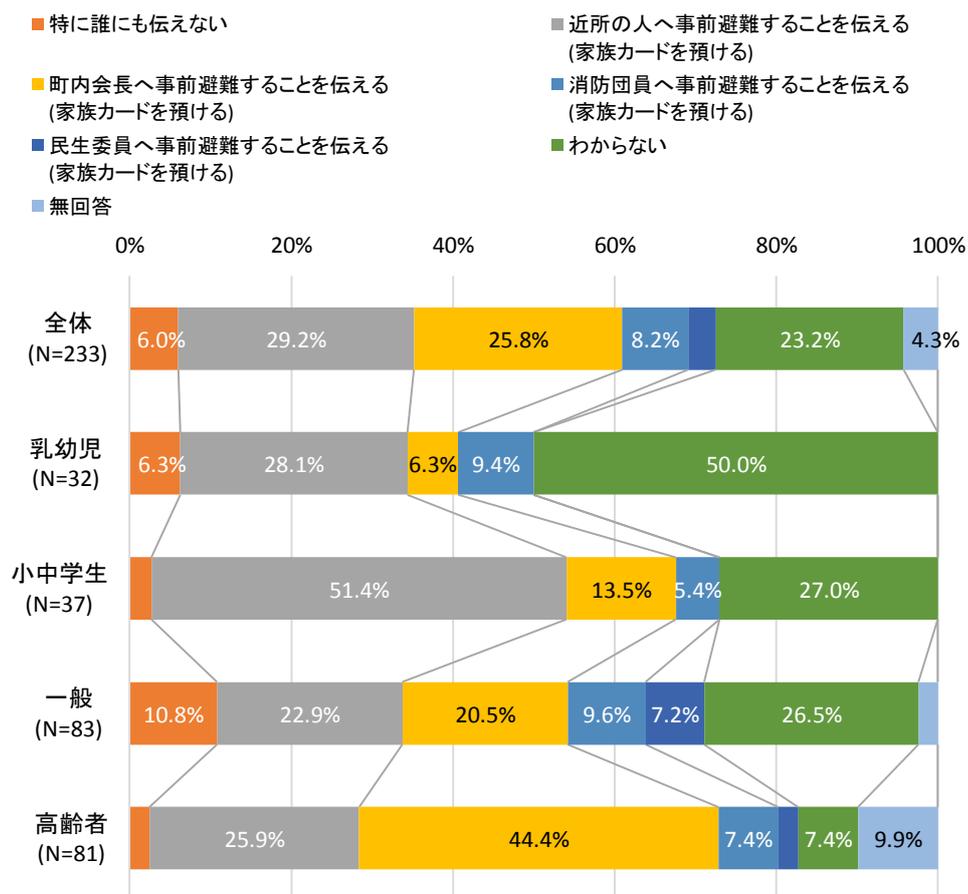
（桜島大噴火時の避難情報の収集方法）



(携帯電話保有の有無)



(自主避難したことを周囲に伝える方法)



乳幼児の事故やけがに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、平成24年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、乳幼児の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの乳幼児がいらっしゃる世帯の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 調査対象にしているお子さんの保護者の方がご回答ください。
- 2 特別の注意書きがない限り、平成26年10月1日（水）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが**平成26年11月18日（火）まで**に、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748

平成26年度事故やけがに関する調査（乳幼児）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 対象のお子さん（封書の宛名）のことやお住まいのことについて

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名） のお子さん ※26年10月1日現在	性別 ①男 ②女 年齢 () 歳 () か月
(2) 対象（封書の宛名） のお子さんの就園 ※26年10月1日現在	就園 ①未就園児 ②保育園児 ③幼稚園児
(3) 家族構成	①子どもと両親 ②子どもと母（又は父） ③子どもと両親と祖父母等 ④子どもと母（又は父）と祖父母等 ⑤その他

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	() 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① () 校区 ② 分からない



問4 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。（ひとつに○）

- ①必ず利用している } → 問5へ
 ②時々利用する }
 ③利用しない → 問4-1ご回答後、問5へ

問4で『③利用しない』にご回答された方にお聞きします。

問4-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①面倒くさいから	
②遠回りになるから	
③横断歩道は必ずしも安全ではないから	
④どこを渡ろうが事故をしなければよいと思うから	
⑤他の人も利用していないから	
⑥その他（ ）	

問5 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。（ひとつに○）

- ①しっかり確認している
 ②渡り始めに確認し、そのまま横断している
 ③あまり確認しない
 ④まったく確認しない
 ⑤その他（ ）

3 不慮の事故について

問7 不慮の事故とは、交通事故、転倒、転落、おぼれる、やけど、窒息、中毒などがありますが、対象のお子さんに対し、特に注意している不慮の事故は何ですか。
（3つまで○）

- ①交通事故 ②転倒 ③転落 ④おぼれる
⑤やけど ⑥窒息 ⑦中毒 ⑧その他（ ）

対象（封筒の宛名）のお子さんのこの1年間（平成25年10月～平成26年9月）の「事故やけが」の状況についてお聞きします。

この場合の「事故やけが」とは、不慮の事故によるけがなどを指します。

問8 対象のお子さんが、この1年間にもう少して「事故やけが」に遭いそうになりヒヤリとしたことはありますか。（ひとつに○）

- ①ある →問8-1、2ご回答後、問9へ
②ない →問9へ

問8で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問8-1 この1年間に対象のお子さんで、ヒヤリとしたことは、どのくらいの頻度でありますか。（一番近いものひとつに○）

- ①毎日5回以上 ②毎日5回未満 ③2、3日に数回
④1～2週間に数回 ⑤1か月に数回 ⑥年に数回
⑦その他（ ）

問8-2 この1年間に対象のお子さんで、一番多くヒヤリとした体験は何ですか。
（ひとつに○）

- ①交通事故 ②転倒 ③転落 ④おぼれる
⑤やけど ⑥窒息 ⑦中毒 ⑧その他（ ）

問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『③転落』とご回答された方にお聞きします。

（※問 10 で 1 件目と 2 件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『③転落』とご回答された場合は、1 件目のものについてご回答ください。）

問 10-2 転落の原因（ひとつに○）

- ①ベッド、椅子、ソファから落ちた
- ②階段から落ちた
- ③窓、ベランダ、屋上から落ちた
- ④抱き上げていて落としてしまった
- ⑤遊具（ジャングルジムなど）で遊んでいて落ちた
- ⑥その他（）

問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『④おぼれた』とご回答された方にお聞きします。

（※問 10 で 1 件目と 2 件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『④おぼれた』とご回答された場合は、1 件目のものについてご回答ください。）

問 10-3 おぼれた場所（ひとつに○）

- ①風呂場
- ②プール（子ども用プールを含む）
- ③海・川・湖・池
- ④その他（）

問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『⑤やけど』とご回答された方にお聞きします。

（※問 10 で 1 件目と 2 件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『⑤やけど』とご回答された場合は、1 件目のものについてご回答ください。）

問 10-4 やけどの原因（ひとつに○）

- ①お風呂の湯・シャワー
- ②やかん・ポット
- ③花火
- ④暖房機（ストーブなど）
- ⑤アイロン
- ⑥ホットプレート、炊飯器など（調理家電）
- ⑦食べ物・飲み物
- ⑧その他（）

問 10 の『イ 事故やけがの種類』で『⑥窒息』とご回答された方にお聞きします。

（※問 10 で 1 件目と 2 件目のどちらも『イ 事故やけがの種類』を『⑥窒息』とご回答された場合は、1 件目のものについてご回答ください。）

問 10-5 窒息の原因・状況（ひとつに○）

- ①食べ物を詰ませた
- ②手元にあったもの（おもちゃ、ボタンなど）を口に入れてしまい、詰ませた
- ③おう吐物が鼻・口をふさいだ
- ④うつぶせ寝
- ⑤ビニール袋等を頭にかぶった・かぶされた
- ⑥添い寝で、親の腕等が鼻・口をふさいだ
- ⑦紐（ブラインドの紐やベルトなど）が首にまきついた
- ⑧その他（）

問 11 お子さんの事故やけがの予防に関する情報は、なに（どこ）から得ていますか。
 また、お子さんの事故やけがの予防のために、より充実して欲しいと思うものは、
 なに（どこ）ですか。（3つまで○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在、得ている	充実して欲しい
①家族・親戚		/
②友人・知人		/
③テレビ・ラジオ・新聞		
④インターネット（SNSを含む）		
⑤病院		
⑥保育園・幼稚園		
⑦保健所、保健センター		
⑧子育てサークルなど		
⑨子育て教室・講座		
⑩育児雑誌		
⑪子育て支援施設（りぼんかん・なかまっちなど）		
⑫その他（ ）		

問 12 問 11 の情報を収集した後、事故やけがに関して、あなた（保護者）は対象のお子さんに対する考え方や行動の変化はありましたか。（ひとつに○）

A 考え方の変化	①あった	②なかった	③わからない
----------	------	-------	--------

考え方の変化の例

- （子どもを車内に残して車を離れることが危険だと思った。）
- （タバコや灰皿が子どもの手に届くところがあると危険だと思った。）
- （子どもがお箸や歯ブラシをくわえたまま歩き回ることは危険だと思った。）

B 行動の変化	①あった	②なかった	③わからない
---------	------	-------	--------

行動の変化の例

- （子どもを車内に残して車を離れなくなった。）
- （タバコや灰皿を子どもの手の届かないところにおくようになった。）
- （子どもがお箸や歯ブラシをくわえたまま歩き回らないよう注意するようになった。）

問 13 あなた（保護者）は、日頃からどのような子どもの安全対策をとっていますか。

過去にとった対策についても、○をつけてください。

	あてはまるものすべてに○
① 熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている	
② 箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している	
③ よく体をぶつけてしまいそうな家具などの角にカバーをしている	
④ たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している	
⑤ ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している	
⑥ 窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している	
⑦ 階段に転落防止柵を設置している（昇らないような防止柵も含む）	
⑧ ベッドに転落防止柵を設置している	
⑨ ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている	
⑩ トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている	
⑪ 浴槽ですべって溺れないようにすべり止めを設置している	
⑫ 浴槽の水は残さないようにしている	
⑬ ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている	
⑭ たばこを放置しない	
⑮ かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている	
⑯ その他（ ）	

問 16 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 17 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①夫婦で話し合いをする	
②親、兄弟姉妹や親戚に相談する	
③近所の人や友人に相談する	
④保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	
⑤子育て支援施設（りぼんかん等）の専門スタッフに相談する	
⑥保育園・幼稚園の先生に相談する	
⑦その他（ ）	

問 18 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 18-1 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①配偶者	
②親・兄弟姉妹・親戚	
③知人・友人	
④近隣住民	
⑤いない	
⑥その他（ ）	

問 18-2 あなた（保護者）は、子どもの一時的預かりの施設等を利用したことがありますか。（AからDの項目ごとにひとつに○）

項 目	利用の有無	利用頻度
A ファミリー・サポート・センターの育児支援	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
B 保育園の一時的預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
C 幼稚園の預かり保育	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時的預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回

問 19 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在活用している	充実して欲しい
①電話相談		
②家庭訪問		
③保育園や幼稚園への通園		
④子育て講座の受講		
⑤保護者同士の交流会		
⑥子どもの発達相談や健診		
⑦育児サークル		
⑧地区ごとの子ども行事		
⑨保護者への心理相談		
⑩その他（ ）		

5 防災について

※問 20～22 は桜島にお住まいの方（保護者）への質問です。

問 20 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。避難情報などの情報は何で収集しますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①テレビ・ラジオ	
②防災行政無線	
③広報車、消防車両	
④安心ネットワーク 119メール	
⑤エリアメール	
⑥市ホームページ	
⑦近所の声掛け	
⑧わからない	

問 21 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール（安心ネットワーク 119メール）を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。（ひとつに○）

①はい

②いいえ

問 22 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することと
なっていますが、「避難勧告」が出される前に自主的に避難する場合、避難したことを
地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。（ひとつに○）

- ①特に誰にも伝えない
- ②近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ③町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ④消防団員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ⑤民生委員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ⑥わからない

問 23 事故やけがの予防に関し、ご意見・ご感想などありましたらご記入ください。

[]

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）にこの調査票を入れ、

11月18日（火）までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

小学生・中学生の事故やけがに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、平成24年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、小学生・中学生の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの小学生・中学生がいらっしゃる世帯の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 調査対象にしているお子さんと一緒に保護者の方がご回答ください。
(問3、問4については、対象の小中学生ご本人がご回答ください。)
- 2 特別の注意書きがない限り、平成26年10月1日（水）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが**平成26年11月18日（火）まで**に、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748

平成26年度 事故やけがに関する調査（小中学生）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 対象（封書の宛名）のお子さんのお住まいのことについて

問1 対象のお子さんについてお聞きします。

(1) 対象（封書の宛名）のお子さん ※26年10月1日現在	性別 ①男 ②女 年齢 () 歳
(2) 対象（封書の宛名）のお子さんの学年	①小学1年生 ④小学4年生 ⑦中学1年生 ②小学2年生 ⑤小学5年生 ⑧中学2年生 ③小学3年生 ⑥小学6年生 ⑨中学3年生

問2 あなた（保護者）のお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	() 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① () 校区 ② 分からない



2 交通安全について

問3 近年、歩行中にスマートフォンを使用する「歩きスマホ」が社会問題となっていますが、対象のお子さんは、歩行中や自転車運転中に、携帯電話（スマートフォンを含む）を使用したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

※使用したことがない方、携帯電話（スマートフォンを含む）をお持ちでない方は、

③に○をつけてください。

	あてはまるもの すべてに○
①歩行中に使用したことがある	
②自転車運転中に使用したことがある	
③使用したことはない	

「歩きスマホ」とは、歩行中にスマートフォンを操作したり、画面に注視することです。

スマートフォンなどの携帯電話を歩行中に使用することは、周りが見えなくなり、大変危険です。立ち止まって安全な場所で使用するよう心がけましょう。

また、自動車や自転車運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用は法律で禁止されています。

重大な事故の原因ともなりますので、絶対に行わないようにしましょう。

問4 対象のお子さんは、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている ②知らない ③わからない

<鹿児島県道路交通法施行細則一部抜粋>

自転車を運転するときは、携帯電話用装置を手で保持して通話若しくは操作を行い、又は画像表示用装置に表示された画像を注視しないこと。

【罰則規定】

・ 5万円以下の罰金

問5 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。（ひとつに○）

- ①必ず利用している } → 問6へ
 ②時々利用する }
 ③利用しない → 問5-1ご回答後、問6へ

問5で『③利用しない』にご回答された方にお聞きします。

問5-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①面倒くさいから	
②遠回りになるから	
③横断歩道は必ずしも安全ではないから	
④どこを渡ろうが事故をしなければよいと思うから	
⑤他の人も利用していないから	
⑥その他（ ）	

問6 あなた（保護者）は、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。（ひとつに○）

- ①しっかり確認している
 ②渡り始めに確認し、そのまま横断している
 ③あまり確認しない
 ④まったく確認しない
 ⑤その他（ ）

<道路の安全な渡り方>

- ・ 右左右を見て、安全を確認して横断を始める。
さらに、道路中央付近でもう一度左右を確認する。
- ・ 車両の直前・直後の横断や、通行量の多い道路での無理な横断は危険なので、行わない。
- ・ 夜間、外出する際は、明るい色の服装に夜光反射材を着用する。

問 12 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 12-1 あなた（保護者）の子育てを手伝ってくれる人はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①配偶者	
②親・兄弟姉妹・親戚	
③知人・友人	
④近隣住民	
⑤いない	
⑥その他（ ）	

12-2 あなた（保護者）は、子どもの一時預かりの施設等を利用したことがありますか。
（AからDの項目ごとにひとつに○）

項 目	利用の有無	利用頻度
A ファミリー・サポート・センターの育児支援	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
B 保育園の一時預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
C 幼稚園の預かり保育	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の 一時預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回

問 13 あなた（保護者）は、どのような子育て支援を活用していますか。（または、活用したことがありますか。）また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。（最も希望するもの3つに○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在活用している	充実して欲しい
①電話相談		
②家庭訪問		
③保育園や幼稚園への通園		
④子育て講座の受講		
⑤保護者同士の交流会		
⑥子どもの発達相談や健診		
⑦育児サークル		
⑧地区ごとの子ども行事		
⑨保護者への心理相談		
⑩その他（ ）		

4 防災について

※問 14～16 は桜島にお住まいの方（保護者）への質問です。

問 14 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。避難情報などの情報は何で収集しますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①テレビ・ラジオ	
②防災行政無線	
③広報車、消防車両	
④安心ネットワーク 119メール	
⑤エリアメール	
⑥市ホームページ	
⑦近所の声掛け	
⑧わからない	

問 15 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール（安心ネットワーク 119メール）を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。（ひとつに○）

①はい

②いいえ

問 16 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することとなっていますが、「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難したことを地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。（ひとつに○）

①特に誰にも伝えない

②近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）

③町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）

④消防団員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）

⑤民生委員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）

⑥わからない

問 17 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[]

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）にこの調査票を入れ、

11月18日（火）までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

鹿児島市民の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、平成24年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、市民の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの16歳から64歳までの方の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 調査対象としている方がご回答ください。（ご本人様がご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 2 特別の注意書きがない限り、平成26年10月1日（水）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成26年11月18日（火）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問合せ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話216-1209 FAX226-0748

問3で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問3-1 あなたは、どのようなときに交通事故に遭いそうになり、ヒヤリとしましたか。
(あてはまるものすべてに○)

	あてはまるもの すべてに○
①ハンドル操作やブレーキ操作を誤ったとき	
②考え事をしながら運転していたとき	
③よそ見をしながら運転していたとき	
④寝不足や風邪薬等で眠くなったとき	
⑤前方、左右、後方の安全確認を怠ったとき	
⑥対向車の動きを見ていなかったとき	
⑦道路横断中の歩行者等に気づくのが遅れたとき	
⑧スピードを出しすぎて操作が上手くできなかったとき	
⑨携帯やカーナビ等を操作し、運転に集中していなかったとき	
⑩車間距離を十分にとっていなかったとき	
⑪急発進をしたとき	
⑫安全確認を怠り、車線変更をしたとき	
⑬夜間にライトをつけ忘れていたとき	
⑭夜間に歩行者等に気づくのが遅れたとき	
⑮信号や一時停止等の規制を見落としたとき	
⑯悪天候などで、視界や路面状態が悪いなか運転したとき	
⑰その他 ()	

問5 近年、歩行中にスマートフォンを使用する、「歩きスマホ」が社会問題となっていますが、あなたは、歩行中や自動車等運転中に、携帯電話（スマートフォンを含む）を使用したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

※使用したことがない方、携帯電話（スマートフォンを含む）をお持ちでない方は、⑤に○をつけてください。

	あてはまるもの すべてに○
①歩行中に使用したことがある	
②自動車運転中に使用したことがある	
③原動機付自転車運転中に使用したことがある	
④自転車運転中に使用したことがある	
⑤使用したことはない	

「歩きスマホ」とは、歩行中にスマートフォンを操作したり、画面に注視することです。
 スマートフォンなどの携帯電話を歩行中に使用することは、周りが見えなくなり、大変危険です。立ち止まって安全な場所で使用するよう心がけましょう。
 また、自動車や自転車運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用は法律で禁止されています。
 重大な事故の原因ともなりますので、絶対に行わないようにしましょう。

問6 あなたは、自動車や原動機付自転車、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている ②知らない ③わからない

<道路交通法一部抜粋>

自動車または原動機付自転車を運転するときは、停止しているときを除き、携帯電話用装置等を通話のために使用し、又は画像表示用装置に表示された画像を注視してはならない。

【罰則規定】

- ・ 5万円以下の罰金
- ・ 規定に違反して交通の危険を生じさせた場合、3月以下の懲役又は5万円以下の罰金

<鹿児島県道路交通法施行細則一部抜粋>

自転車を運転するときは、携帯電話用装置を手で保持して通話若しくは操作を行い、
 又は画像表示用装置に表示された画像を注視しないこと。

【罰則規定】

- ・ 5万円以下の罰金

問7 あなたは、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。(ひとつに○)

- ①必ず利用している
 - ②時々利用する
 - ③利用しない
- } → 問8へ
- 問7-1ご回答後、問8へ

問7で『③利用しない』にご回答された方にお聞きします。

問7-1 横断歩道を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

	あてはまるもの すべてに○
①面倒くさいから	
②遠回りになるから	
③横断歩道は必ずしも安全ではないから	
④どこを渡ろうが事故をしなければよいと思うから	
⑤他の人も利用していないから	
⑥その他 ()	

問8 あなたは、歩行中に道路を横断する際、安全確認をおこなっていますか。(ひとつに○)

- ①しっかり確認している
- ②渡り始めに確認し、そのまま横断している
- ③あまり確認しない
- ④まったく確認しない
- ⑤その他 ()

問 12 で『①ある』とご回答された方にお聞きします。

問 13 子育てで困ったとき、誰（又はどこ）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①夫婦で話し合いをする	
②親、兄弟姉妹や親戚に相談する	
③近所の人や友人に相談する	
④保健センターや助産院などの専門スタッフに相談する	
⑤子育て支援施設（りぼんかん等）の専門スタッフに相談する	
⑥保育園・幼稚園の先生に相談する	
⑦その他（ ）	

問 14 子育て中の親への支援についてお聞きします。

問 14-1 あなたの子育てを手伝ってくれる人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①配偶者	
②親・兄弟姉妹・親戚	
③知人・友人	
④近隣住民	
⑤いない	
⑥その他（ ）	

問 14-2 あなたは、子どもの一時預かりの施設等を利用したことがありますか。

（AからDの項目ごとにひとつに○）

項 目	利用の有無	利用頻度
A ファミリー・サポート・センターの育児支援	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
B 保育園の一時預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
C 幼稚園の預かり保育	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回
D すこやか子育て交流館（りぼんかん）の一時預かり	①有 ②無	①毎週 ②毎月 ③年、数回

問 15 あなたは、どのような子育て支援を活用していますか。（または、活用したことがありますか）また、どのような子育て支援があればいいと考えていますか。

（最も希望するもの3つに○）

項 目	3つまで○	3つまで○
	現在活用している	充実して欲しい
①電話相談		
②家庭訪問		
③保育園や幼稚園への通園		
④子育て講座の受講		
⑤保護者同士の交流会		
⑥子どもの発達相談や健診		
⑦育児サークル		
⑧地区ごとの子ども行事		
⑨保護者への心理相談		
⑩その他（ ）		

4 暴力（DV）について

下のDVについての説明を読んだうえで、お答えください。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

一般的には、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からふるわれる暴力をいい、身体的な暴力だけでなく、社会的地位や信用・経済力・腕力などの「力」を背景に、様々な暴力の形をとって、相手を支配しようとする行為であり、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。

（下記はDV事例の一部）

★身体的なもの

- ・なぐられる
- ・けられる
- ・たたかれる
- ・引きずりまわされる など

★精神的なもの

- ・怒鳴られる
- ・無視される
- ・子どもを盾に脅される
- ・交友関係を制限される など

★経済的なもの

- ・生活費を渡されない
- ・お金の使い道を細かく確認される など

★性的なもの

- ・性行為を強要される
- ・避妊に協力してもらえない など

問 16 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。（ひとつに○）

- ①賛成
- ②どちらかといえば賛成
- ③どちらかといえば反対
- ④反対

問 16-1 問 16 と答えられた理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから	
②家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	
③子どもの頃からそうした教育をされているから	
④女性は仕事を持ってても不利な条件におかれるから	
⑤男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから	
⑥社会全体にそうした風潮があるから	
⑦その他（具体的に： _____）	

問 17 あなたは現在又はこれまでに、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（AからHの項目ごとにひとつに○）

	項 目	① あった	② 時々あった	③ なかった
A	殴ったり、殴るふりをする			
B	携帯を勝手にチェックしたり、 異性のアドレスを消せと言う			
C	異性の話に不機嫌になったり、 異性と話すなど言う			
D	頻繁に電話をかけてきたり、メールを送っ てきて、すぐに返事をしないと怒る			
E	何事も交際相手を優先しないと 不機嫌になる			
F	大声でどなったり、傷つく言い方をされる			
G	イヤと言っているのに、性的行為を 強要される			
H	避妊に協力してくれない			

※問 17 で『①あった』『②時々あった』に1つでもご回答された方にお聞きします。
AからHのすべての項目において『③なかった』とご回答された方は問 25 にお進みくださ
い。

問 18 問 17 のようなことを現在（過去 1 年以内を含む）も受けていますか。（ひとつに○）

- ①現在も受けている → 問 19 から問 24 までご回答後、問 25 へ
 ②現在は受けていない → 問 21 へ

問 21 問 17 のようなことをされたのは、いつからですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
① 10代の頃	
② 20代の頃	
③ 30代の頃	
④ 40代以上	
⑤ わからない（覚えていない）	

問 22 問 17 のようなことをされ始めた時、あなたは何をしていましたか。
（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
① 中学生	
② 高校生	
③ 大学生、専門学校生	
④ 社会人（有職）	
⑤ 社会人（無職）	
⑥ わからない（覚えていない）	
⑦ その他（ ）	



問 25 親密な交際中における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけ、最も必要だと思うものに◎をつけてください。

	あてはまるもの すべてに○ (最も必要な ものに◎)
①家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	
②学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	
③地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	
④メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	
⑤被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	
⑥警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	
⑦暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	
⑧加害者への罰則を強化する	
⑨暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、ゲームソフト、インターネット情報など）を規制する	
⑩特にない	
⑪わからない	
⑫その他（ ）	

問 26 親密な交際中における暴力を防止するための学校等での教育はいつからスタートするのが望ましいと思いますか。(ひとつに○)

- | | |
|--------|--------------|
| ①小学生から | ②中学生から |
| ③高校生から | ④大学生・専門学校生から |
| ⑤必要ない | ⑥わからない |

問 30 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。（最も希望するもの3つに○）

	10：00～12：00	12：00～15：00	15：00～18：00	18：00以降
平 日				
土 曜				
日 曜				

問 31 自殺について知っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①鹿児島市で毎年約 100 人の方が自殺で亡くなっている	
②自殺は追い込まれた末の死である	
③自殺は防ぐことができる	
④悩んでいる人はサインを発していることが多い	
⑤自分のうつ病のサインに気づいたとき、 医療機関へ相談することは大切である	
⑥身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、 医療機関への相談を勧めることは大切である	
⑦自殺の危険性がある人に、相談窓口や専門家などの支援に関する 情報を提供することは大切である	
⑧考えたことがない	
⑨その他()	

6 防災について

※問 32～34 は桜島にお住まいの方への質問です。

問 32 桜島の大噴火時には、市役所から避難情報を広報します。
 避難情報などの情報は何で収集しますか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるもの すべてに○
①テレビ・ラジオ	
②防災行政無線	
③広報車、消防車両	
④安心ネットワーク 119メール	
⑤エリアメール	
⑥市ホームページ	
⑦近所の声掛け	
⑧わからない	

問 33 避難情報は、消防局等から携帯電話のメール（安心ネットワーク 119メール）を通じて広報しますが、携帯電話をお持ちですか。（ひとつに○）

①はい

②いいえ

問 34 「避難勧告」が出された場合、避難港へ避難して「家族カード」を提出することと
なっていますが、「避難勧告」が出される前に、自主的に避難する場合、避難した
ことを地域の方などにどのように伝えようと考えていますか。（ひとつに○）

- ①特に誰にも伝えない
- ②近所の人へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ③町内会長へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ④消防団員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ⑤民生委員へ事前避難することを伝える（家族カードを預ける）
- ⑥わからない

問 35 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[]

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ
11月18日（火）までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。

高齢者の事故やけがなどに関する調査へのご協力をお願い

かねてから、鹿児島市政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

本市では、今年度から、世界保健機関（WHO）が推進している「セーフコミュニティ」に取り組んでおります。

「セーフコミュニティ」とは、安心安全に生活できるまちづくりのために、市民、関係団体そして行政が協働して事故やけがの防止に取り組む活動を行っている自治体をWHO関連機関が認証する制度です。

今回の調査は、事故やけがの防止対策に役立てるために、市民の事故やけがの実態に関し調査するもので、本市にお住まいの65歳以上の方の中から2,000人の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

※ この調査結果は、セーフコミュニティの推進に関する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、お願いします。

● 調査票の記入について

- 1 調査対象としている方がご回答ください。（ご本人様にご回答できない場合は、ご家族の方などが、可能な範囲で聞き取り等を行いご回答ください。）
- 2 特別の注意書きがない限り、平成26年10月1日（水）現在でご回答ください。
- 3 特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲んでください。また、かっこ内には適切な言葉をご記入ください。
- 4 ご回答後の調査票は、お手数ですが平成26年11月18日（火）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。
- 5 本調査に関してご不明な点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

お問い合わせ先

〒892-8677

鹿児島市山下町11-1 鹿児島市 市民局 危機管理部 安心安全課

電話 216-1209 FAX 226-0748

平成26年度事故やけがに関する調査（高齢者）

あてはまる番号に○をつけてください。カッコ内には適切な言葉をご記入ください。

1 あなたのことや住まいについて

問1 あなたの性別や世帯構成などについてお聞きします。

(1) 対象(封書の宛名)の方 ※26年10月1日現在	性別 ①男 ②女 年齢 () 歳
(2) 対象(封書の宛名)の方の就労状況 ※26年10月1日現在	就労状況 ①就労している ②就労していない
(3) 世帯構成	①単身 ②夫婦だけ（配偶者も65歳以上） ③夫婦だけ（配偶者は65歳未満） ④3人以上（世帯のすべてが65歳以上） ⑤3人以上（65歳未満の家族がいる） ⑥その他

問2 あなたのお住まいについてお聞きします。

(1) 現住所地	() 例) 山下町、谷山中央4丁目
(2) 小学校区	① () 校区 ② 分からない



問5 近年、歩行中にスマートフォンを使用する、「歩きスマホ」が社会問題となっていますが、あなたは、歩行中や自動車等運転中に、携帯電話（スマートフォンを含む）を使用したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

※使用したことがない方、携帯電話（スマートフォンを含む）をお持ちでない方は、⑤に○をつけてください。

	あてはまるもの すべてに○
①歩行中に使用したことがある	
②自動車運転中に使用したことがある	
③原動機付自転車運転中に使用したことがある	
④自転車運転中に使用したことがある	
⑤使用したことはない	

「歩きスマホ」とは、歩行中にスマートフォンを操作したり、画面に注視することです。
 スマートフォンなどの携帯電話を歩行中に使用することは、周りが見えなくなり、大変危険です。立ち止まって安全な場所で使用するよう心がけましょう。
 また、自動車や自転車運転中の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用は法律で禁止されています。重大な事故の原因ともなりますので、絶対に行わないようにしましょう。

問6 あなたは、自動車や原動機付自転車、自転車の運転中、携帯電話（スマートフォンを含む）の使用が法律で禁止されていることを知っていますか。（ひとつに○）

- ①知っている
- ②知らない
- ③わからない

<道路交通法一部抜粋>

自動車または原動機付自転車を運転するときは、停止しているときを除き、携帯電話用装置等を通話のために使用し、又は画像表示用装置に表示された画像を注視してはならない。

【罰則規定】

- ・ 5万円以下の罰金
- ・ 規定に違反して交通の危険を生じさせた場合、3月以下の懲役又は5万円以下の罰金

<鹿児島県道路交通法施行細則一部抜粋>

自転車を運転するときは、携帯電話用装置を手で保持して通話若しくは操作を行い、又は画像表示用装置に表示された画像を注視しないこと。

【罰則規定】

- ・ 5万円以下の罰金

問7 あなたは、歩行中に道路を横断する際、近辺に横断歩道がある場合は利用していますか。（ひとつに○）

- ①必ず利用している
 - ②時々利用する
 - ③利用しない
- } → 問8へ
- 問7-1ご回答後、問8へ

問 30 相談場所を利用しやすい時間帯はいつですか。（最も希望するもの3つに○）

	10：00～12：00	12：00～15：00	15：00～18：00	18：00以降
平日				
土曜				
日曜				

問 31 自殺について知っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	あてはまるものすべてに○
①鹿児島市で毎年約 100 人の方が自殺で亡くなっている	
②自殺は追い込まれた末の死である	
③自殺は防ぐことができる	
④悩んでいる人はサインを発していることが多い	
⑤自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である	
⑥身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である	
⑦自殺の危険性がある人に相談窓口や専門家などの支援に関する情報を提供することは大切である	
⑧考えたことがない	
⑨その他（ ）	

問 35 事故やけがの予防に関しご意見、ご感想などありましたらご記入ください。

[Empty response box for question 35]

質問は以上です。最後までご協力頂きましてありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）に、この調査票を入れ **11月18日（火）**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。